

多賀城市文化財調査報告書第75集

# 市川橋遺跡

— 城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書III —

第三分冊



平成16年3月

多賀城市教育委員会  
多賀城市城南土地区画整理組合

# 目 次

(第三分冊)

附章 1 宮城県多賀城市市川橋遺跡出土木製品の樹種	1
附章 2 多賀城市市川橋遺跡における自然科学分析	39
I 市川橋遺跡の花粉分析・寄生虫卵分析	39
II 市川橋遺跡の珪藻分析	44
III 市川橋遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）分析	48
附章 3 市川橋遺跡出土人骨	58
(右綴)	
附章 4 市川橋遺跡出土の文字資料について	1
一 木簡について	2
二 漆紙文書について	65
三 墨書・刻書土器について遺物図版	105

# 附章 1 宮城県多賀城市市川橋遺跡出土木製品の樹種

東北大学理学研究科付属植物園

大山幹成・小川とみ・鈴木三男

宮城県多賀城市的多賀城政府址の南面の低地に展開する市川橋遺跡から出土した奈良・平安時代の木製品515点の樹種を調べた。調査した木製品は曲物、皿、椀などの容器類を中心に、蒼串、形代などの祭祀具、櫛、檜扇、下駄などの生活用具、建物の柱材や橋桁材、編み具の木錘、丸木弓、刀柄、など多岐にわたる。これらの大部分は多賀城市埋蔵文化財センターの収蔵庫で遺物から直接剃刀刃を用いて切片を作成したが、一部については東北大学付属植物園に運んで切片を作成し、また、小指先大の試料を切りだしたものから切片を作成した。切片はガムクロラールで封入し、MYG-5001～5515の番号を付して整理され、東北大学付属植物園に保管されている。

光学顕微鏡による観察の結果、一部詳細な同定が出来なかつたものがあったものの、以下に記載する36の樹種が認められた。

## 同定された樹種

### 1 モミ属 *Abies* sp. マツ科

写真図版1：1a-c (MYG-5301)

仮道管と放射柔細胞からなる針葉樹材。ときに垂直方向の傷害樹脂道が出現する。早材から晩材への移行は緩やかかやや急で、晩材部は狭いかやや狭い。放射組織は、単列でしばしば背がかなり高くなり、垂直壁は数珠状を呈する。分野壁孔は小型のスギ型で1分野2～4個。以上の形質からモミ属の材と同定した。

モミ属には幾つかの種があるが、分布や木材利用の実態などから見てここに同定されたものはモミである可能性が高いと言える。出土材は曲物、蒼串、人形、刀形、馬形などが大部分を占めるものの、さら、下駄、井戸の側板、柱材など多岐にわたる。檜扇の使用例が1例あり、これはヒノキの代用品としての利用と思われ、山王遺跡でも出土例がある。

### 2 トウヒ属 *Picea* sp. マツ科

写真図版1：2a-c (MYG-5360)

仮道管、放射柔組織、放射仮道管および水平・垂直樹脂道の周囲をとりまくエビセリウム細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部はやや広い。放射組織は単列と樹脂道を含む紡錘形のものがあり、放射仮道管の有縁壁孔対は孔口が狭く、しばしば孔口縁に突起が見受けられる。放射柔細胞の垂直壁は数珠状を呈する。分野壁孔は小さなヒノキ型で1分野に2～4個存在する。

トウヒ属には北海道から本州中部まで、幾つかの種があるが、多賀城市付近に天然分布する樹種はない。出土材は鞘の1例のみで、他地域から製品として持ちこまれたものであろう。

### 3 アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc. マツ科

写真図版 1 : 3a - c (MYG-5306)

仮道管、放射柔組織、放射仮道管および水平・垂直樹脂道の周囲をとりまくエビセリウム細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、晩材幅は広い。放射組織は単列と樹脂道を含む紡錘形のものがある。分野壁孔は大型の窓状で 1 個。放射仮道管の水平壁には鋸歯状の突起が多数ある。以上の形質からアカマツの材と同定した。同じグループのクロマツの材とは放射仮道管の鋸歯状突起が鋭いことによって区別される。

アカマツと同定されたものは 8 点あり、橋脚材が 3 点、鎌の柄が 2 点、その他、へら、農具の柄、木鍤である。

### 3' マツ属 *Pinus* sp. マツ科

基本構造はアカマツに一致するが、細胞壁が劣化しているため放射仮道管の壁の肥厚状況が観察できないため、マツ属との同定レベルに留めた。アカマツの細胞壁が劣化したものである可能性が高い。同定されたものは木鍤が 1 点である。

### 4 スギ *Cryptomeria japonica* D. Don スギ科

写真図版 2 : 4a - c (MYG-5001)

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在し、水平壁は平滑である。放射組織は単列で、背はかなり高くなる。分野壁孔は大型のスギ型で、1 分野に普通 2 個。以上の形質によりスギと同定した。

スギは 42 点が同定され、曲物と斎串がほとんどで、他にはへら、箸、田下駄、箱ものなどで、建築材としての利用はない。これはスギが多賀城付近に生育していて木材利用がなされたのではなく、他地域から製品として持ちこまれたものであると推察できる。

### 5 ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Sieb. et Zucc. ヒノキ科

写真図版 2 : 5a - c (MYG-5085)

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は少ない。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、水平壁は数珠状を呈する。放射組織は単列で背は低い。分野壁孔は中型のトウヒ型～ヒノキ型で、開口部は垂直に近く開く。1 分野当たり普通 2 個存在する。以上の形質からヒノキの材と同定した。

ヒノキはケヤキに次いで多く、73点が同定された。用途は斎串、人形などの祭祀具と曲物がほとんどで、他にはへら、箸、檜扇など、生活用小物が多い。これもスギ同様、多賀城付近に生育してそれを用いたのではなく他地域から製品として持ちこまれたものであると考えられる。

## 6 サワラ *Chamaecyparis pisifera* Sieb. et Zucc. Endl. ヒノキ科

写真図版 2 : 6a - c (MYG-5061)

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は少ない。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、水平壁は数珠状を呈する。分野壁孔は中型のヒノキ型～スギ型で、ヒノキよりもやや孔口が大きく、開口部は水平に近く開く。1分野当たり普通2個存在する。以上の形質からサワラの材と同定した。

サワラは23点が同定され、その用途はヒノキと全く同じであり、ヒノキとサワラが格別区別されず利用されていたのか、或いはサワラの方が材質が劣るので、ヒノキの代用品として利用されていたことを示しているのだろう。もちろんサワラの遺跡付近での生育は考えられない。

## 6' ヒノキ属 *Chamaecyparis* sp. ヒノキ科

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は少ない。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、水平壁は数珠状を呈する。放射組織は単列で柔細胞よりなるが、分野壁孔が確認できないか、もしくはヒノキ型でヒノキかサワラか区別できないもので、これをヒノキ属の材と同定した。ヒノキ属としたものは曲物と箆状木製品4点で、ヒノキ、サワラの用途と一致する。

## 7 ネズコ *Thuja standishii* Gord. Carriere ヒノキ科

写真図版 3 : 7a - c (MYG-5064)

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で晩材部は少ない。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、年輪により量に極端な違いがある。樹脂細胞の水平壁は数珠状を呈する。分野壁孔は小さく、孔口が大きく開いたスギ型で丸く、開孔部の長軸方向は斜めから水平に近くなり、1分野に2～3個存在する。時に放射仮道管が出現することがある。以上の形質からネズコ（別名クロベ）の材と同定した。

ネズコは曲物と祭祀具で、これもヒノキ、サワラと同じ用途である。

## 8 アスナロ *Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc. ヒノキ科

写真図版 3 : 8a - c (MYG-5190)

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はヒノキ属より緩やか。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、水平壁は数珠状を呈する。放射組織は単列で比較的背が低く、放射柔細胞には一般に着色物質が詰まっている。分野壁孔は小型のトウヒ～ヒノキ型で、開孔部の長軸方向は立ち上った斜めで、1分野あたり1～4個存在する。以上の形質からアスナロの材と同定した。

アスナロは東北地方以南の山地に分布し、北海道道南地方から東北、北陸にかけては変種のヒノキアスナロ（いわゆるヒバ）が分布している。双方とも有用木材として古くから利用されており、出土材が何れか、或いは両方が混ざっているのかは分からぬ。当遺跡からは13点が出土し、他のヒノキ

科樹木同様、曲物と祭祀具の用途が主である。

#### 8' ヒノキ科

本遺跡からはヒノキ科の樹種はヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロの4種が同定されているが、それらの主な区別点は分野壁孔にある。細胞壁が劣化してこれらの何れかであるか判断できなかったものをヒノキ科とした。出土材は曲物底板1点である。

#### 9 イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch イヌガヤ科

写真図版3：9a-c (MYG-5025)

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管と放射柔細胞および樹脂細胞からなる針葉樹材。仮道管は厚壁で丸く、晩材部はごくわずかで、早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は年輪内に均一に散在し、水平壁は数珠状を呈する。仮道管の内壁には顕著ならせん肥厚がある。放射組織は単列で背は低い。分野壁孔は小型のトウヒ型で、1分野あたり1～3個である。以上の形質からイヌガヤの材と同定した。

イヌガヤは主に暖地に生える低木～亜高木で、本州日本海側及び北海道の多雪地帯には変種のハイイヌガヤがあり、何れも丸木弓、手綱枠などに使用される。本遺跡からは丸木弓3点で、縄文時代以来継続した木材利用である。

#### 10 カヤ *Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. イチイ科

写真図版4：10a-c (MYG-5073)

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管と放射柔細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部は狭い。仮道管の内壁には2-3本がまとった顕著ならせん肥厚がある。放射組織は単列で背はあまり高くない。分野壁孔は小型のヒノキ型で、一分野に2-4個ある。以上の形質からカヤの材と同定した。

本遺跡からは7点の出土があり、曲物の蓋或いは底板が4点、人形が1点、へら状木器が1点、それに紡織具のおさが1点である。

#### 11 オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura クルミ科

写真図版4：11a-c (MYG-5055)

中型の丸い管孔がまばらに散在する散孔材。管孔は普通単独だが、ときに2-3個複合する。管孔の直径は年輪界に向けて緩やかに減少する。木部柔組織は接線状で特に晩材部で著しい。道管穿孔は單一で、チロースが多く、道管相互の壁孔は交互状で密に分布する。放射組織は同性で3-5細胞幅ぐらいである。以上の形質よりオニグルミの材と同定した。

当遺跡出土材は用途不明品1点のみである。

## 12 ヤナギ属 *Salix* sp. ヤナギ科

写真図版 4 : 12a - c (MYG-5076)

単独あるいは放射方向に 2 ~ 3 個複合した管孔が均一に年輪内に分布する散孔材で、年輪界に向けてその直径は緩やかに減少する。道管の穿孔は單一、道管相互の壁孔は比較的大きな多角形で、交互状に密に分布する。放射組織は単列異性で、道管 - 放射組織間壁孔はやや大型の多角形で、蜂の巣状を呈する。以上の形質からヤナギ属と同定した。ヤナギ属は日本に 2 亜属 34 種があり、材の形質で種を識別するのは困難である。

当遺跡出土材 5 点のうち、木鍤が 2 点、それに梯子、紡錘車、用途不明品である。もくすい、紡錘車は傾ける利用だが、梯子への使用は材質から考えてあまり納得できない。建物の出入り口など頻繁で恒常的な利用とは違った用途だったのかも知れない。

## 13 カバノキ属 *Betula* sp. カバノキ科

写真図版 5 : 13a - c (MYG-5484)

小型で丸い管孔が単独あるいは放射方向に数個複合してまばらに散在する散孔材。道管穿孔は階段状で、横棒の数は 10 数本 - 20 数本。道管相互壁孔は極めて小さく、密に配列する。放射組織は同性で 3 細胞幅くらい。道管との壁孔は極めて小さく密である。以上の形質よりカバノキ属の材と同定した。

本遺跡出土材は横櫛が 1 点である。カバノキ属にはオノオレカンバのように極めて堅い材質の種類もあり、ミズメ、シラカンバなども櫛材に利用されるが、遺跡出土例は聞かない。

## 14 アサダ *Ostrya japonica* Sarg. カバノキ科

写真図版 5 : 14a - c (MYG-5072)

単独あるいは数個が放射方向に複合した丸い管孔が均一に分布する散孔材。管孔は年輪界付近に向けて径を減じ、密度も低くなる。道管の穿孔は單一、内壁にはらせん肥厚がある。木部柔組織は短接線状。放射組織は 1 ~ 3 細胞幅の同性で、時に単列の翼部が高くなる。これらの形質からアサダの材と同定した。

出土材は 5 点で、鍔の柄と本体、横櫛と馬櫛、刀柄である。何れも緻密な材質をよく利用している。

## 15 クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科

写真図版 5 : 15a - c (MYG-5325)

年輪のはじめに大型で丸い管孔が 1 ~ 2 列に並び、そこから孔圏外へ向けて徐々に径を減じた薄壁で多角形の小管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は單一で道管内部にはチロースが存在する。木部柔組織は短接線状。放射組織は単列同性で道管との壁孔は対列状あるいは柵状。以上の形質からクリの材と同定した。

本遺跡からは 39 点の出土があり、大部分は柱材、橋脚材であるが、その他、下駄、木鍤、鍔の柄、丸木弓、壺蓋など、多様な目的に使用されている。

## 16 ブナ属 *Fagus* sp. ブナ科

写真図版 6 : 16a - c (MYG-5057)

小型で丸い管孔が単独または複合して密に分布する散孔材で、管孔の大きさは年輪界に向かって緩やかに減少する。道管の穿孔は單一、または横棒の少ない階段状。木部柔組織は短接線状で晩材部で著しい。放射組織は 1 ~ 数細胞幅の狭くて背の低いものと非常に大型で広いものとが混在し、ほぼ同性である。以上の形質からブナ属の材と同定した。

出土した 4 点は何れも漆塗りの椀で、ブナ材の挽物の漆椀がブナ林の地域で生産され、都市部に流通し始めたのが古代であることを物語っていると言える。

## 17 コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科

写真図版 6 : 17a - c (MYG-5326)

年輪のはじめに大型で丸い管孔が 1 ~ 2 列に並び、晩材部では中・小型で厚壁の丸い管孔が放射方向に配列する環孔材。道管の穿孔は單一、道管内部にチロースが存在する。木部柔組織は、1 ~ 3 列ほどの短接線～帯状。放射組織は単列同性と極めて大型の複合組織が混在する。道管 - 放射組織間壁孔は対列状～柵状。以上の形質からコナラ属クヌギ節の材と同定した。

当遺跡出土材は杭、斧の柄、用途不明品の 3 点で特段の利用は認められない。

## 18 コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科

写真図版 6 : 18a - c (MYG-5310)

年輪のはじめに大型で丸い管孔が 1 ~ 2 列に並び、晩材部では小型で薄壁の角張った管孔が幅の狭い火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は單一、道管内部にチロースが存在する。木部柔組織は、接線状。放射組織は単列同性と極めて大型の複合組織が混在する。道管 - 放射組織間壁孔は対列状～柵状。以上の形質からコナラ属コナラ節の材と同定した。

当遺跡出土材は木鍤 7 点、それに橋脚材、杭、鉢、丸木弓、鎌の柄が 1 点で合計 12 点である。木鍤の利用は身近にあった木を用いたものと思われる。

## 19 エノキ属 *Celtis* sp. ニレ科

写真図版 7 : 19a - c (MYG-5238)

年輪のはじめに大型で丸い管孔が 1 ~ 2 列に並び、そこから急に径を減じた薄壁多角形の小管孔が多数斜め～接線方向に集合して配列する環孔材。道管の穿孔は單一、小道管内壁にはらせん肥厚がある。木部柔組織は周囲状で晩材では連合翼状。放射組織は 1 ~ 8 細胞幅の異性で、翼部が 2 ~ 数個の直立細胞からなり、時に結晶を含む。普通、精細胞を持つ。以上の形質からエノキ属の材と同定した。

当遺跡からは下駄が 2 点でいる。木目が多少キリに似るので、キリの代用品としての利用かと思われる。

## 20 ニレ属 *Ulmus* ニレ科

写真図版 7 : 20a - c (MYG-5439)

年輪の始めに大管孔があり、それ以外は薄壁多角形の小管孔が多数集まって塊状をなす環孔材で、道管の穿孔は単一、小道管の内壁には顕著ならせん肥厚がある。これらの形質はケヤキ、エノキ属と良く一致するが、放射組織は3 - 6細胞幅くらいの紡錘形で同性であることにより区別される。

当遺跡出土材は一本下駄1点のみである。

## 21 ケヤキ *Zelkova serrata* Thunb. ニレ科

写真図版 7 : 21a - c (MYG-5103)

年輪のはじめに大型で丸い管孔が1(～2)列に並び、そこから急に径を減じた薄壁多角形の小管孔が多数斜め～接線方向に集合して配列する環孔材。道管の穿孔は単一、小道管内壁にはらせん肥厚がある。木部柔組織は周囲状、晚材部で帯状。放射組織は1～8細胞幅位で、上下端のみ直立細胞からなる異性。時に上下端や多列部の縁に大型の結晶が見られる。

当遺跡で最も出土数が多く、162点あるが、その161点までは挽物の皿(126点)、椀(20点)、曲物の底板や蓋、鉢、槽、瓶などの容器類で、それ以外の用途はへらが1点のみであり、容器類に大量にケヤキが使われるものの、建築材、建具、道具類、様々な生活用具、農具などの出土がほとんど無いことは注目に値する。

## 22 モクレン属 *Magnolia* sp. モクレン科

写真図版 8 : 22a - c (MYG-5077)

小型で薄壁の管孔が単独あるいは放射方向に数個複合して均一に分布する散孔材。年輪界に向けて管孔径は小さくなり、管孔密度はやや減少する。道管の穿孔は単一、ときに階段状。道管相互壁孔は階段状、らせん肥厚ではなく、薄壁のチローシスはしばしば見られる。放射組織は2 - 3列で、上下端のみときに直立細胞からなる異性である。以上の形質からモクレン属の材と同定した。

当遺跡出土材は高台付きの皿と鉢が2点づつである。モクレン属にはホオノキ、コブシなどがあり、材構造で種の特定は出来ていないが、用途から見てホオノキである可能性が高い。

## 23 モッコク *Ternstroemia gymnanthera* (Wight et Arn.) Sprague ツバキ科

写真図版 8 : 23a - c (MYG-5515)

微細な管孔がほぼ単独で均一に分布する散孔材で、道管の穿孔は多数の繊細な横棒からなる階段状。木部柔組織は散在状であまり目立たない。放射組織は典型的な異性で、1～4細胞幅程度、多列部は平伏細胞からなり單列部と單列放射組織は背の高い直立細胞からなる。これらの形質によりモッコクの材と同定した。

モッコクは材質がきめ細かく、緻密で櫛材に利用されるが、当遺跡出土材5点も何れも横櫛である。

24 イスノキ *Distylium racemosum* Sieb. et Zucc. マンサク科

写真図版 8 : 24a - c (MYG-5487)

小型で多角形の管孔が均一に分布する散孔材で、管孔径は年輪内でほとんど変化しない。道管の穿孔は階段状で、横棒は10本くらいと少ない。木部柔組織は短接線状でしばしば黒褐色物質を含み、目立ち、時に結晶を持つ。放射組織は2-3細胞幅の平伏細胞からなる多列部と直立細胞からなる単列の翼部からなる異性。これらの形質からイスノキの材と同定した。

イスノキはモッコク同様材質が堅く緻密で櫛材に利用される。当遺跡出土材12点はすべて横櫛である。

25 サクラ属 *Prunus* sp. バラ科

写真図版 9 : 25a - c (MYG-5342)

小型で梢円形の管孔が単独あるいは数個放射方向に複合して、散在する散孔材。管孔の径は年輪界に向けて緩やかに減少する。道管の穿孔は單一で、内壁にはらせん肥厚が認められる。木部柔組織は散在状、ときに接線状。放射組織は同性に近い異性で1-5細胞幅くらい。以上の形質からサクラ属の材と同定した。

サクラ属には多数の種があり、当遺跡出土材（鎌の柄1点）がどの種であるかは特定できなかった。

26 ナシ亜科 *Pomoideae* バラ科

写真図版 9 : 26a - c (MYG-5513)

微細な管孔がほぼ単独で均一に分布する散孔材。道管の穿孔は單一。木部柔組織は散在状あるいは短接線状で黒褐色物質を含み、特に年輪の外半分で目立つ。放射組織は1-3細胞幅程度で背が低く、ほぼ同性あるいは異性。これらの形質からバラ科のうち、ナシ属、リンゴ属などが含まれるナシ亜科の材と同定した。

当遺跡出土材は横櫛1点と木鍤1点である。ナシ亜科の材は一般に緻密で、ナシ属のヤマナシなどは櫛材としての用途がある。

27 コクサギ *Orixa japonica* Thunb. ミカン科

写真図版 9 : 27a - c (MYG-5485)

小型でやや角張った薄壁の管孔が多数集合し、木部柔組織と共に斜め方向に不規則な帯をなす紋様孔材。管孔の帯は年輪界をこえて連続する。管孔の径は年輪界に向けて緩やかに減少する。道管の穿孔は單一で内壁にらせん肥厚が認められる。放射組織は同性に近い異性で1-2細胞幅。以上の形質からコクサギの材と同定した。

当遺跡出土材は木鍤1点で、手近にあった木を利用したものであろう。

28 カエデ属 *Acer* sp. カエデ科

写真図版10 : 28a - c (MYG-5359)

小型の丸い管孔が単独もしくは数個複合して年輪内に散在する散孔材。道管の穿孔は単一、内壁にらせん肥厚が認められる。放射組織は同性で1-5細胞幅くらいである。以上の形質からカエデ属の材と同定した。

出土材は木錐3点と刀柄1点であり、カエデ属には多くの種があり、種を特定することは出来ない。

29 トチノキ *Aesculus trabinata* Blume トチノキ科

写真図版10 : 29a - c (MYG-5110)

小型で丸い管孔が単独あるいは放射方向に数個複合して分布する散孔材。管孔の直径は年輪に向けてやや減少し、密度は年輪のはじめと終わりで低い。穿孔は単一、内壁にらせん肥厚がある。放射組織は単列同性で層階状にならぶ。道管との壁孔は小型で密に分布し、ヤナギ属のように蜂の巣状にはならない。これらの形質からトチノキの材と同定した。

当遺跡出土材は挽物の皿6点と容器の蓋1点である。

30 ニシキギ属 *Euonymus* sp. ニシキギ科

写真図版10 : 30a - b (MYG-5361)

小型で丸い管孔がほぼ単独で、均一に散在する散孔材。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚が認められる。管孔の直径は、年輪界付近でやや急に径を減じる。放射組織は単列で同性。以上の形質により、ニシキギ属の材と同定した。

当遺跡出土材は丸木の弓1点である。縄文時代のニシキギ属のいわゆる「真弓」は太い材の芯を避けた部分からの削りだしで、多くは漆塗りや桜皮などでの装飾が施されたものであり、丸木の白木弓として使われる例は希である。

31 ツゲ *Buxus microphylla* Sieb. et Zucc. var. *japonica* (Muell. Arg. ex Miq.) Rehder et Wils. ツゲ科

写真図版11 : 31a - c (MYG-5456)

極めて小型で丸い厚壁の管孔が、単独でややまばらに分布する散孔材。道管穿孔は階段状で横棒は少ない。木部柔組織は短接線状。放射組織は異性で1-2細胞幅。以上の形質によりツゲの材と同定した。

当遺跡出土材は横櫛1点で、横櫛へのツゲの利用は古代からであることの例である。

32 キブシ *Stachyurus praecox* Sieb. et Zucc. キブシ科

写真図版11 : 32a - c (MYG-5050)

小型で角張った管孔が単独あるいは放射方向に2個複合して均一に散在する散孔材。管孔の径は年輪界付近でやや減少する。道管穿孔は階段状で、横棒は30-40本。木部柔組織は散在状。放射組織は異性で2-3細胞幅。単列部は直立細胞からなり、通常、多列部の倍以上ある。以上の形質よりキブ

シの材と同定した。

当遺跡出土材は木錐と丸木弓 1 点である。手近にあった材の利用と考えられ、丸木弓が実用性を持っていたかは疑問である。

### 33 タラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seemann ウコギ科

写真図版11 : 33a - c (MYG-5027)

年輪の始めに中～大型の梢円形の管孔が並び、少しづつ径を減じて数層に並び、晩材部では薄壁多角形の小管孔が集まって斜面上の紋をなす環孔材。道管の穿孔は單一、らせん肥厚はない。放射組織は 2 - 5 細胞幅程度の異性で背は比較的低く、鞘細胞を持つ。これらの形質からタラノキと同定した。

当遺跡出土材は浮木 1 点で、タラノキの軽軟な材にあった利用である。

### 34 ハリギリ *Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai ウコギ科

写真図版12 : 34a - c (MYG-5181)

大型で丸い管孔が年輪に沿って一列に並び、晩材部では小型で薄壁の管孔が斜め接線状～接線状に配列する環孔材。道管の穿孔は單一で、道管内部にはチロースが見られる。放射組織は上下端の 1 細胞が直立細胞からなる異性で 5 細胞幅くらいである。以上の形質よりハリギリの材と同定した。

当遺跡出土材は橋 1 点で、大材となり、材が柔らかく切削が容易である性質を利用していると言える。

### 35 エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科

写真図版12 : 35a - c (MYG-5251)

薄壁でやや角張った梢円形の小管孔が放射方向に数個複合したものが年輪始めに多めに分布する散孔材で、晩材部では管孔径は小さくなり、目立たなくなる。道管の穿孔は横棒が10本程度の階段状、らせん肥厚はない。木部柔組織は散在及び 1 細胞幅の接線状で晩材部で目立つ。放射組織は 1 - 5 細胞幅の異性で単列の翼部が伸びる。これらの形質からエゴノキ属の材と同定した。

当遺跡出土材は下駄 2 点で、エゴノキの材は堅く弾性があり、下駄としての利用は類例を聞かない。

### 36 トネリコ属 *Fraxinus* sp. モクセイ科

写真図版12 : 36a - c (MYG-5303)

年輪のはじめに単独あるいは 2 個放射方向に複合した大型の管孔が 1 - 3 列並び、晩材部では厚壁で小型の管孔が単独あるいは数個に複合して散在する環孔材。道管の穿孔は單一。放射組織は 1 - 3 細胞幅の同性。これらの形質からトネリコ属の材と同定した。

当遺跡出土材は橋脚材 1 点である。

## 市川橋遺跡出土木製品の樹種組成

以上記載したように36樹種が認められたが、表1に示すように、最も多かったのはケヤキの161点で、全体の3割を占める。ついでヒノキ(71点)、スギ(51点)、モミ属(42点)があり、そのほかサワラ(23点)、アスナロ(13点)、アカマツ(8点)、ネズコ(8点)など、針葉樹は全体の46%と多い。広葉樹ではケヤキの他、クリ(39点)がやや多いものの、イスノキ(12点)、コナラ節(11点)、トチノキ(7点)と続き、他の樹種はたいへん少なく1、2点である。広葉樹が全体に占める割合は半分を超えるものの、そのほとんどはケヤキであり、それ以外の広葉樹材の割合はたいへん少なく、針葉樹中心の木材利用といえるだろう。

現在の仙台平野の植生及び近隣遺跡における花粉分析等から推察して、当時の多賀城周辺に自生していたと考えられる針葉樹はモミ、アカマツ、カヤ、イヌガヤの4樹種である。スギ、ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、トウヒ属の6樹種の自生は考えにくい。何れもが曲物や祭祀具など比較的持ち運びが容易なサイズのものであることから他地域からの持ち込みを考えるのが妥当だろう。それらの産地を推定すると、スギは東北地方の日本海側或いは関東地方以西、ヒノキ、サワラも関東地方以西が考えられ、これに対してアスナロ、ネズコは東北地方の脊梁山脈地域及び日本海側が考えられる。広葉樹について同様に見ると、ケヤキは仙台平野で最もポピュラーな広葉樹であり、挽物容器へのケヤキの利用は豊富なケヤキ材を、材質に良くあった用途として活用したことが窺われる。これに対して櫛材に専ら使われているイスノキ、モッコク、ツゲなどは、それらが常緑広葉樹で照葉樹林の中でも南の地方に自生するものであることから、やはり遺跡周辺での自生は全く考えられず、他地域、それも照葉樹林が普通に存在する東海地方より南の地域で生産されたものが持ち込まれたは明らかである。これと対照的に挽物櫛に専ら用いられているブナ属(ブナと考えている)の自生は仙台地方の丘陵地よりも標高の高い脊梁山脈側に普通に存在し、多賀城付近には分布していなかったと考えられる。これらも製品として持ちこまれたと考えるのが妥当だろう。

以上、木製品に使用された樹種とその分布について見ると、針葉樹ではモミ、アカマツ、イヌガヤ、カヤなど、広葉樹ではケヤキ、クリ、ナラ類、トチノキ、アサダなど、いわば「在地」の木材を利用すると共に、ヒノキ、スギ、イスノキなど南或いは西の地域からもたらされたもの、ブナ、アスナロ、ネズコなどむしろ北の地域からもたらされたと考えられるものなど、わが国の広い地域からもたらされた木材利用が見て取れ、活発な流通を裏付けていると言える。

## 用途別に見た樹種選択

表1では全515点を、その製品の用途等から、大まかに、容器、祭祀具、生活具、建築材、農具、武具、その他、の7つのカテゴリーに分けたものである。

表2に詳しく集計したように、「容器」としたものには、皿、曲物、椀、はち、柄杓など様々なものがある。曲物には円形のもの、方形のもの(折敷)、楕円形のものなど様々で、大きさも多様である。全99点の樹種組成を見るとスギとヒノキが26点づつ、ついでモミ属が16点、サワラ、ネズコが6点、アスナロ、カヤ、などとなっている。柄杓、桶なども曲物同様ヒノキ、サワラなど針葉樹である。曲物の品質から言えばヒノキが格段に良いのは自明だが、ここに同定された樹種の何れも普通に曲物類に利用されるも

のである。これに対して挽物（一部削物）の皿、椀、鉢、槽等に使用される木材は広葉樹が中心である。皿は一部トチノキ（6点）、モクレン属（ホオノキと考えられる）（2点）があるものの、ほとんど（127点）がケヤキである。ケヤキは椀（20点）、鉢など広く用いられ、その他の樹種では椀のブナ属（ブナと考えられる）（4点）、鉢のモクレン属（2点）、エゴノキ属（1点）、ハリギリ（1点）があるに過ぎない。ケヤキへの極端な集中はケヤキ挽物の生産が当遺跡周辺で行われていた可能性を示唆する。表3にはこれら容器のうち、漆塗りが明確に認められたものを集計したものである。漆は黒、朱の両方があり、容器内外面が同じ色のもの、内外で塗り分けられているもの、紋様のあるものなど多彩である。漆椀はケヤキが10点に対しブナ属は4点で、これはケヤキ椀の半分が漆塗りであるのに対し、ブナ属椀はすべてが漆塗りであることを示す。その他、漆塗皿などもあるが出土量は容器の数に比べて少ないと見える。

表4は農工具類などをまとめたものである。木鍤が多く出土したが、それらにはナラ類（コナラ節）、カエデ属、クリ、ヤナギ属など、手近にある木をなんでも使っているように見える。鎌、鋤、斧などの農工具の柄にはアカマツ、アサダ、クリ、クヌギ節（クヌギと考えられる）、サクラ属などやはり雑多な樹種が使われている。そのほかは出土数が少なく傾向というものは読みとれない。

表5は祭祀具の組成を見たものである。斎串が比較的多く出土したので樹種により木取りに違いがあるかを見たが、板目ではヒノキが多く、スギ、サワラ、モミ属の順であり、柾目ではスギ、サワラ、ヒノキ、モミ属となって、ヒノキが柾目よりも板目で使われることが多い傾向が少し見て取れたが、データが少ないので確定的には言えない。人形、刀形など他のものも斎串とほとんど同じ樹種組成といえる。曲物ではスギとヒノキの使用量がほぼ拮抗していたが、祭祀具ではヒノキが一番使用されている傾向がはっきり出たと言える。

表6にはそのほかの目立った木製品についてまとめたものである。櫛（すべて横櫛）は21点出土し、12点がイスノキ、5点がモッコク、あとはアサダ、カバノキ属、ツゲ、ナシ亜科が1点づつである。何れの材も堅く緻密で粘りがある特性を活かした樹種選択が働いていると見なすことが出来るが、イスノキ、モッコクともツゲの代用品として古代から利用されてきたもので、おそらくは近畿地方或いはその南西地域での生産品であろう。これら遠隔地から流通してきた櫛に対し、アサダ、カバノキ属、ナシ亜科と同定されたものは在地での生産品である可能性が強いと言える。下駄は10点同定され、多くは一木造りで、クリ、エノキ属、それにヒノキ、モミ属、ニレ属が使われている。ヒノキを除いて在地の木材を利用したものである。そのほか、へら、箸などはやはり針葉樹が使われている。檜扇は5点のうち、4点がヒノキでその名の通りの利用だが、1点はモミ属で、これは代用品と思われる。

そのほか、建築材（土木用材をふくむ）としては表1に示すようにクリがほとんどで、そのほかアカマツ、モミ属、ナラ類など当時の遺跡周辺に優占していた高木を用いていたと考えることが出来る。武具をまとめたものの中身は丸木弓や刀の鞘などで、イヌガヤの丸木弓などである。用途不明品等はその他としたが、これには特段の傾向はない。

以上、市川橋遺跡から出土した木製品の樹種とその用途に概観したが、皿、曲物、斎串などが多くを占めるなど、調べられた木製品の組成自体に大きな偏りがあって、当時の木材利用の全体像を把握することは出来なかったが、多賀城という、東北地方にあってみやこと直結した古代の都市での木と人々の暮らしの関係の一端を明らかに出来たものと思う。

表1 市川橋遺跡出土木製品の樹種組成

樹種	容器	祭祀具	生活具	建築材	農具	武具	その他	合計
ケヤキ	161		1				4	162
ヒノキ	28	31	9			1	4	73
スギ	28	14	3		1		5	51
モミ属	20	8	6	2	2		4	42
クリ			5	28	3	2	1	39
サワラ	8	12	1				2	23
アスナロ	5	6					2	13
イスノキ			12					12
コナラ属				2	8	1		11
アカマツ			1	3	4			8
ネズコ	6	2						8
カヤ	4	1	1		1			7
トチノキ	7							7
アサダ			1		3	1		5
モッコク			5					5
ヤナギ属	1			1	2		1	5
ヒノキ属	3		1					4
カエデ属					3	1		4
ブナ属	4							4
モクレン属	4							4
イヌガヤ						3		3
クヌギ節				1	1		1	3
針葉樹	2							2
エノキ属			2					2
キブシ					1	1		2
ナシ亞科			1		1			2
トウヒ属						1		1
ヒノキ科	1							1
マツ属					1			1
ニレ属			1					1
エゴノキ属	1							1
オニグルミ							1	1
カバノキ属			1					1
コクサギ					1			1
サクラ属					1			1
タラノキ					1			1
ツゲ			1					1
トネリコ属					1			1
ハリギリ		1						1
ニシキギ属						1		1
合計	284	74	52	38	34	12	21	515

表2 容器に用いられた木材の樹種

樹種	皿	曲物	桶	鉢	柄杓	槽	箱	桶	瓶	合子	蒸器	容器	合計
ケヤキ	127	3	20	2		1			1	1	6	161	
スギ		26					1				1	28	
ヒノキ		26			2							28	
モミ属		18							1		1	20	
サワラ		6			1				1			8	
トチノキ	6										1	7	
ネズコ		6										6	
アスナロ		4						1				5	
カヤ		4										4	
ブナ属			4									4	
モクレン属	2			2								4	
ヒノキ属		3										3	
エゴノキ属			1						1			1	
ハリギリ							1					1	
ヒノキ科		1										1	
針葉樹		2										2	
合計	135	99	25	4	3	2	2	2	2	1	1	8	283

表3 漆器容器の樹種

樹種	桶	皿	桶	箱	鉢	曲物	容器	合計
ケヤキ	10	5			1	2		18
ブナ属		4						4
カヤ					1			1
スギ				1				1
モミ属			1					1
合計	14	5	1	1	1	1	2	25

表4 農工具等の樹種

樹種	木鉤	鎌柄	簾本体	鋸柄	斧柄	柄	田下駄	馬櫛	浮木	おさ	織物 部材	筋糸車	合計
コナラ節	7		1										8
アカマツ	1	2				1							4
アサダ			1	1						1			3
カエデ属	3												3
クリ	2	1											3
ヤナギ属	2										1		3
モミ属	1										1		2
カヤ										1			1
キブシ	1												1
クスギ節						1							1
コクサギ	1												1
サクラ属			1										1
スギ							1						1
タラノキ									1				1
ナシ亞科	1												1
マツ属	1												1
合計	20	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	35

表5 祭祀具の樹種

樹種	斎串 板目	斎串 柾目	斎串 その他・ 不明	斎串計	人形	刀形	馬形	絵馬	形代	おしら さま	合計
ヒノキ	13	3	7	23	4	2	1	1			31
スギ	6	7		13	1						14
サワラ	4	4	2	10	1				1		12
モミ属	3	2		5	1	1	1				8
アスナロ	1	1	1	3		1		1		1	6
ネズコ			1	1	1						2
カヤ					1						1
合計	27	18	10	55	9	4	2	2	1	1	74

表6 各種木器の樹種

樹種	櫛	下駄	ヘラ ヘラ状木製品	箸 箸状製品	櫛削	ささら	合計
イスノキ		12					12
ヒノキ			1	2	2	4	9
モミ属			1	1	1	1	6
クリ			5				5
モッコク		5					5
スギ				2	1		3
エノキ属			2				2
アカマツ				1			1
アサダ		1					1
カバノキ属		1					1
カヤ				1			1
ケヤキ				1			1
サワラ					1		1
ツゲ		1					1
ナシ亞科		1					1
ニレ属			1				1
ヒノキ属				1			1
合計		21	10	9	5	5	52

付表 市川橋遺跡出土木製品の樹種

登録番号	樹種	製品の種類	木取り	注記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5001	スギ	曲物	底板	柾目	A	01101100	104	容器
MYG-5002	ケヤキ	皿		柾目	A	06609300	143	容器
MYG-5003	クヌギ節	笄柄			A	01101100	100	農具
MYG-5004	スギ	曲物	底板	柾目	A	01101100	106	容器
MYG-5005	ケヤキ	皿		柾目	A	00400900	44	容器
MYG-5006	ケヤキ	椀		柾目	A	00901700	78	容器
MYG-5007	ケヤキ	皿		柾目	A	04205400	112	容器
MYG-5008	ヒノキ	祭祀具	柾串		A	04410000	121	祭祀具
MYG-5009	ケヤキ	曲物	蓋板	方形	A	00901700	90	容器
MYG-5010	ヒノキ	曲物	側板	板目	A	001xxxxx	224	容器
MYG-5011	ヒノキ	曲物	蓋板	板目	A	001xxxxx	224	容器
MYG-5012	ケヤキ	皿		柾目 漆塗 黒	A	00901700	74	容器
MYG-5013	ヒノキ	祭祀具	柾串	板目	A	00901700	73	祭祀具
MYG-5014	コナラ節	弓	丸木	心待ち	A	00801900	62	武具
MYG-5015	アカマツ	木鍤			A	04400305	122	農具
MYG-5016	コナラ節	木鍤		芯持ち	A	01101100	99	農具
MYG-5017	スギ	曲物	底板		A	06600300	169	容器
MYG-5018	クヌギ節	用途不明品	柄物	削りだし	A	00420200	41	用途不明品
MYG-5019	ヒノキ	ヘラ状木製品		柾目	A	04410000	119	生活具
MYG-5020	モミ属	祭祀具	人形	斜目	A	04410000	129	祭祀具
MYG-5021	スギ	曲物	底板	板目	A	06600300	166	容器
MYG-5022	ケヤキ	椀		柾目 漆塗 黒	A	06600003	157	容器
MYG-5023	スギ	曲物	底板	柾目	A	00900300	87	容器
MYG-5024	カエデ属	木鍤		芯持ち	A	04400203	32	農具
MYG-5025	イヌガヤ	弓	丸木		A	04410000	120	武具
MYG-5026	スギ	祭祀具	柾串	板目	A	04400203	31	祭祀具
MYG-5027	タラノキ	浮木			A	00900900	67	農具
MYG-5028	スギ	祭祀具	柾串	板目	A	00900300	70	祭祀具
MYG-5029	スギ	曲物	底板	斜目	A	04410000	126	容器
MYG-5030	ヒノキ	用途不明品		柾目	A	04410000	124	用途不明品
MYG-5031	モミ属	曲物	底板	柾目	A	00900200	83	容器
MYG-5032	スギ	用途不明品			A	00900200	84	用途不明品
MYG-5033	モミ属	ささら		柾目	A	06600003	24	生活具
MYG-5034	ヒノキ	祭祀具	刀形		A	065p103s	135	祭祀具
MYG-5035	モミ属	祭祀具	柾串	板目	A	00901700	72	祭祀具
MYG-5036	サワラ	祭祀具	柾串		A	01101100	97	祭祀具
MYG-5037	スギ	祭祀具	柾串	柾目	A	00800200	58	祭祀具
MYG-5038	ケヤキ	皿		柾目	A	06607900	147	容器
MYG-5039	ケヤキ	皿	高台付	柾目	A	01100100	102	容器
MYG-5040	スギ	曲物	蓋板	板目 長方形	A	00900300	92	容器
MYG-5041	ヒノキ	曲物	底板	板目	A	06600300	163	容器
MYG-5042	スギ	曲物	底板	板目	A	04400305	213	容器
MYG-5043	ヒノキ	曲物	蓋板	板目	A	009106xx	89	容器
MYG-5044	クリ	下駄		板目	A	00901700	75	生活具
MYG-5045	スギ	曲物	底板	柾目	A	00402600	48	容器
MYG-5046	ケヤキ	皿	高台付	柾目	A	065p101c	132	容器

## 市川橋木製品樹種

MYG番号	樹種	製品の種類	木取り	注記	地区	出土地	登録番号	製品類別	
MYG-5047	ネズコ	曲物	側板	柾目	A	00801900	18	容器	
MYG-5048	ケヤキ	曲物	底板	板目	A	00801900	18	容器	
MYG-5049	ケヤキ	鉢	斜目	挽物	A	06609300	144	容器	
MYG-5050	キブシ	弓	丸木	心持ち	A	06601000	142	武具	
MYG-5051	モミ属	祭祀具	蓋串	板目	A	04410000	118	祭祀具	
MYG-5052	ケヤキ	皿	高台付	柾目	A	04205500	111	容器	
MYG-5053	イスノキ	櫛	横櫛	板目	A	01100600	101	生活具	
MYG-5054	クリ	下駄			A	00900200	68	生活具	
MYG-5055	オニグルミ	用途不明品		板目	A	06609300	211	用途不明品	
MYG-5056	ヒノキ	曲物	蓋板		A	06601000	164	容器	
MYG-5057	ブナ属	椀		柾目	A	04200400	219	容器	
MYG-5058	ヒノキ	祭祀具	蓋串	板目	A	04400203	203	祭祀具	
MYG-5059	ヒノキ	祭祀具	蓋串	板目	A	04400203	28	祭祀具	
MYG-5060	スギ	祭祀具	蓋串	板目	A	04400203	202	祭祀具	
MYG-5061	サワラ	曲物	蓋板	板目	A		225	容器	
MYG-5062	ヒノキ属	曲物	側板	柾目	A		225	容器	
MYG-5063	モミ属	容器	蓋	板目	A		226	容器	
MYG-5064	ネズコ	曲物		柾目	A		228	容器	
MYG-5065	スギ	曲物		柾目	A		227	容器	
MYG-5066	スギ	田下駄		板目	D	10204700	96	農具	
MYG-5067	ケヤキ	椀		柾目	D	10605600	202	容器	
MYG-5068	ケヤキ	皿		柾目	C	C110TX1	939	容器	
MYG-5069	ヒノキ	曲物	蓋板	板目	D	10206900	99	容器	
MYG-5070	ヒノキ属	曲物	側板	柾目	D		99	容器	
MYG-5071	アザダ	鏡	本体	板目	C	C78TE52	626	農具	
MYG-5072	アザダ	鏡	柄		C	C78TE52	626	農具	
MYG-5073	カヤ	おさ			C	C110TX1	775	農具	
MYG-5074	モミ属	曲物	底板	板目	焦げ	D	10300201	111	容器
MYG-5075	ケヤキ	柾		板目	D	10510500	478	容器	
MYG-5076	ヤナギ属	梯子		心持ち	D	09101403	261	建築材	
MYG-5077	モクレン属	鉢		板目	挽物	D	10300105	112	容器
MYG-5078	モミ属	祭祀具	蓋串	板目	D	10006100	340	祭祀具	
MYG-5079	ヤナギ属	用途不明品		心持ち	D	10200100	108	用途不明品	
MYG-5080	コナラ節	鏡		柾目	D	03005700	86	農具	
MYG-5081	カヤ	曲物	蓋板	板目	D	09101200	256	容器	
MYG-5082	スギ	曲物	蓋板	板目	D	09101100	237	容器	
MYG-5083	スギ	用途不明品		柾目	D	10510402	474	用途不明品	
MYG-5084	モミ属	部材	部材	柾目	D	10006500	472	部材	
MYG-5085	ヒノキ	曲物	蓋板	板目	長方形	D	10009900	473	容器
MYG-5086	ヒノキ	曲物	蓋板	柾目	方形	D	02701300	133	容器
MYG-5087	モミ属	曲物	蓋板	斜目	D	10010700	403	容器	
MYG-5088	モミ属	曲物	側板	柾目	D	10010700	403	容器	
MYG-5089	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	10006000	446	容器	
MYG-5090	モミ属	祭祀具	刀形	板目	D	10009900	463	祭祀具	
MYG-5091	ケヤキ	皿		柾目	D	10001400	442	容器	
MYG-5092	スギ	曲物	底板	柾目	D	10006600	391	容器	
MYG-5093	ヒノキ	梳眉		板目	D	10010600	401	生活具	
MYG-5094	ヒノキ	曲物	蓋板	板目	D	10005700	339	容器	

### 市川橋木製品樹種

MYG 標号	樹 種	製 品 の 種 類	木 取 り	注 記	地 区	出 土 地	登録番号	製品類別
MYG-5095	ヒノキ	曲物	斜目		D	10605600	199	容器
MYG-5096	ケヤキ	楕	柾目		D	10605600	200	容器
MYG-5097	ケヤキ	皿	柾目		D	10200001	100	容器
MYG-5098	ネズコ	曲物	底板	板目	D	02700100	123	容器
MYG-5099	ケヤキ	皿	柾目	漆塗	D	08302000	156	容器
MYG-5100	コナラ筋	木鍤	芯持ち		D	02700100	119	農具
MYG-5101	ケヤキ	皿	柾目		D	08304500	165	容器
MYG-5102	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	10011100	413	容器
MYG-5103	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	10001400	441	容器
MYG-5104	ヒノキ	祭祀具	斎串		D	10009900	461	祭祀具
MYG-5105	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	10005600	486	容器
MYG-5106	スギ	曲物	底板	板目	D	09101100	248	容器
MYG-5107	モミ属	曲物	底板	板目	D	09101100	247	容器
MYG-5108	ケヤキ	楕	柾目	漆塗	D	09100400	278	容器
MYG-5109	ケヤキ	瓶	柾目	挽物	D	02704500	140	容器
MYG-5110	トチノキ	皿	高台付	柾目	D	09100200	279	容器
MYG-5111	ヒノキ	柄杓	側板	柾目	D	10008000	452	容器
MYG-5112	ヒノキ	柄杓	側板	柾目	D	10008000	452	容器
MYG-5113	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	09101200	254	容器
MYG-5114	ケヤキ	皿	柾目		D	10005700	337	容器
MYG-5115	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	02700100	116	容器
MYG-5116	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	10605600	205	容器
MYG-5117	ケヤキ	鉢	柾目	漆塗	D	10605600	291	容器
MYG-5118	モミ属	曲物	蓋板	方形	A	00901700	91	容器
MYG-5119	カヤ	ヘラ状木製品			A	066xxxxx	149	生活具
MYG-5120	ケヤキ	皿			C	C20TD97	37	容器
MYG-5121	ケヤキ	皿	高台付		C	C41TX20	55	容器
MYG-5122	ケヤキ	皿	高台付		C	C78TX24	59	容器
MYG-5123	ケヤキ	皿			C	C78TD22	61	容器
MYG-5124	ケヤキ	楕			C	C78TD22	129	容器
MYG-5125	ケヤキ	皿	高台付		C	C78TP98	422	容器
MYG-5126	ケヤキ	皿			C	C20TD97	424	容器
MYG-5127	ケヤキ	皿	高台付		C	C20TD97	438	容器
MYG-5128	ケヤキ	皿			C	C78TD22	464	容器
MYG-5129	ケヤキ	皿			C	C115TD1	853	容器
MYG-5130	ケヤキ	皿			C	C115TD9	882	容器
MYG-5131	ケヤキ	皿	高台付		C	C115TD13	890	容器
MYG-5132	ケヤキ	皿	高台付		C	C78TD22	427	容器
MYG-5133	ケヤキ	皿	高台付		C	C78TD22	435	容器
MYG-5134	ケヤキ	皿		刻書	C	C78TX24	463	容器
MYG-5135	ケヤキ	皿	高台付		C	C110TX1	696	容器
MYG-5136	ケヤキ	皿			C	C110TX1	700	容器
MYG-5137	ケヤキ	皿			C	C110TX1	701	容器
MYG-5138	ケヤキ	皿	高台付		C	C110TX1	708	容器
MYG-5139	ケヤキ	皿			C	C110TX1	709	容器
MYG-5140	ケヤキ	皿			C	C110TX1	710	容器
MYG-5141	ケヤキ	容器	蓋	挽物	C	C110TX1	715	容器
MYG-5142	カエデ属	木鍤			C	C110TX1	722	農具

市川橋木製品樹種

MYG番号	樹種	製品の種類	木取り	注記	地区	出土地	登録番号	製品別類
MYG-5143	針葉樹	曲物	底板		D	03000800	77	容器
MYG-5144	モミ属	曲物	底板		D	03000900	88	容器
MYG-5145	ケヤキ	皿			D	02700100	115	容器
MYG-5146	ケヤキ	曲物	底板		D	02700100	126	容器
MYG-5147	ヒノキ属	ヘラ状木製品			D	02701400	129	生活具
MYG-5148	ブナ属	椀		漆塗	D	01702600	132	容器
MYG-5149	ケヤキ	皿			D	02703300	138	容器
MYG-5150	モミ属	曲物	底板		D	08303906	149	容器
MYG-5151	ケヤキ	皿	高台付		D	08303907	150	容器
MYG-5152	カヤ	曲物	蓋板		D	08305500	151	容器
MYG-5153	トチノキ	皿	高台付		D	08303400	161	容器
MYG-5154	ヒノキ	曲物	蓋板		D	08303400	162	容器
MYG-5155	ヒノキ	曲物	底板		D	08304500	163	容器
MYG-5156	ケヤキ	皿			D	08304500	164	容器
MYG-5157	ケヤキ	皿	高台付		D	08306800	169	容器
MYG-5158	ヒノキ属	曲物	蓋板		D	083xxxxx	173	容器
MYG-5159	エノキ属	下駄			D	0880020n	180	生活具
MYG-5160	ケヤキ	皿	高台付		D	092p0230	183	容器
MYG-5161	トチノキ	皿			D	09101000	207	容器
MYG-5162	ケヤキ	皿?			D	09101000	209	容器
MYG-5163	ケヤキ	皿	高台付		D	09101000	212	容器
MYG-5164	ケヤキ	皿	高台付		D	09101000	219	容器
MYG-5165	ケヤキ	皿	高台付		D	09101000	220	容器
MYG-5166	ケヤキ	皿	高台付		D	09101100	240	容器
MYG-5167	ケヤキ	容器		漆塗	D	09101100	241	容器
MYG-5168	ケヤキ	皿	高台付		D	09101200	252	容器
MYG-5169	ネズコ	曲物	蓋板		D	09101200	255	容器
MYG-5170	ケヤキ	皿	高台付		D	09101300	259	容器
MYG-5171	ヒノキ	曲物	底板		D	09101300	260	容器
MYG-5172	ヒノキ	曲物	蓋板		D	09101000	263	容器
MYG-5173	ケヤキ	皿			D	09101100	265	容器
MYG-5174	ネズコ	曲物	底板		D		275	容器
MYG-5175	スギ	曲物	蓋板		D		276	容器
MYG-5176	ケヤキ	椀		漆塗	D	09100400	277	容器
MYG-5177	ケヤキ	椀			D	09100200	280	容器
MYG-5178	モミ属	曲物	底板		D	10005700	338	容器
MYG-5179	ケヤキ	皿			D	10001300	429	容器
MYG-5180	ケヤキ	皿	高台付		D	11300200	485	容器
MYG-5181	ハリギリ	槽			D	10012000	505	容器
MYG-5182	ケヤキ	皿	高台付		C	C78TD22	420	容器
MYG-5183	トチノキ	皿		柾目	C	C115TD1	826	容器
MYG-5184	アカマツ	謙	柄		C	C20TD97	669	農具
MYG-5185	ヒノキ	堆脂		板目	C	C115TD3	935	生活具
MYG-5186	ケヤキ	皿	高台付	柾目	C	C78TD22	415	容器
MYG-5187	ケヤキ	椀		柾目 漆塗 黒	C	C20TD97	430	容器
MYG-5188	スギ	ヘラ		板目	C	C20TX71	496	生活具
MYG-5189	ケヤキ	皿		柾目	C	C115TD13	889	容器
MYG-5190	アヌラ	曲物	底板	板目	C	C115TD1	825	容器

市川橋木製品樹種

MYG番号	樹種	製品の種類	木取り	注記	地区	出土地	登録番号	製品別
MYG-5191	ヤナギ属	木鍤	芯持ち	C	C115TD13		897	農具
MYG-5192	ヒノキ	ヘラ	板目	C	C20TD97		662	生活具
MYG-5193	ケヤキ	皿	高台付	柾目	C	C115TD9	873	容器
MYG-5194	ケヤキ	皿	高台付	柾目	C	C115TD9	875	容器
MYG-5195	ケヤキ	皿	高台付	柾目	C	C115TD1	824	容器
MYG-5196	ケヤキ	皿	高台付	柾目	C	C115TD1	837	容器
MYG-5197	ケヤキ	皿	高台付	柾目	C	C115TD1	841	容器
MYG-5198	モミ属	用途不明品	有頭棒	削りだし	C	C20TD97	497	用途不明品
MYG-5199	スギ	曲物	底板	柾目	C		876	容器
MYG-5200	モミ属	曲物	底板	柾目	C		874	容器
MYG-5201	ケヤキ	皿		柾目	C	C115TD1	842	容器
MYG-5202	ケヤキ	皿		柾目	C	C41TE44	54	容器
MYG-5203	コナラ属	木鍤	芯持ち	C	C20TD97		668	農具
MYG-5204	ケヤキ	皿	板目	C	C115TX8		922	容器
MYG-5205	スギ	曲物	底板	柾目	C		820	容器
MYG-5206	スギ	曲物	底板	柾目	C		869	容器
MYG-5207	モミ属	曲物	底板	柾目	C		919	容器
MYG-5208	スギ	蒸器	底板	柾目	C		912	容器
MYG-5209	ケヤキ	皿	高台付	柾目	C	C78TX24	16	容器
MYG-5210	サワラ	曲物	底板	柾目	C		879	容器
MYG-5211	ヒノキ	祭紀具	绘馬	柾目	C	C78TD22	168	祭紀具
MYG-5212	スギ	曲物	底板	柾目	C		908	容器
MYG-5213	ケヤキ	皿		柾目	C	C20TD97	414	容器
MYG-5214	ケヤキ	皿		柾目	C	C20TD97	408	容器
MYG-5215	ケヤキ	皿		柾目	C	C20TD97	410	容器
MYG-5216	ケヤキ	皿		柾目	C	C20TD97	411	容器
MYG-5217	ヤナギ属	木鍤	芯持ち	C	C110TX1		722	農具
MYG-5218	ケヤキ	皿	高台付	柾目	C	C110TX1	708	容器
MYG-5219	ケヤキ	皿	高台付		C	C78TD22	435	容器
MYG-5220	ヒノキ	曲物	底板		D	09101300	260	容器
MYG-5221	スギ	曲物	底板	柾目	D		888	容器
MYG-5222	ケヤキ	桶			D	09100200	280	容器
MYG-5223	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	09101000	212	容器
MYG-5224	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	09101200	252	容器
MYG-5225	ブナ属	桶			D	01702600	132	容器
MYG-5226	ヒノキ	曲物	蓋板	柾目	D	09101000	263	容器
MYG-5227	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	08303907	150	容器
MYG-5228	ヒノキ	曲物	底板	柾目	D	08304500	163	容器
MYG-5229	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	08306800	169	容器
MYG-5230	ケヤキ	皿	高台付	柾目	C	C78TD22	67	容器
MYG-5231	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	09101100	240	容器
MYG-5232	ヒノキ	曲物	蓋板		D		276	容器
MYG-5233	針葉樹	曲物	底板		D	03000800	77	容器
MYG-5234	ケヤキ	皿		柾目	D	10001300	429	容器
MYG-5235	ケヤキ	容器		柾目	D	09101100	241	容器
MYG-5236	ケヤキ	皿			D	02703300	138	容器
MYG-5237	カヤ	曲物	蓋板	柾目	D	09101200	255	容器
MYG-5238	エノキ属	下駄		柾目	D	0880020a	180	生活具

市川橋木製品樹種

MYG番号	樹種	製品の種類	本取り	注記	地区	出土地	登録番号	製品別類	
MYG-5239	トチノキ	皿	高台付	板目	D	08303400	161	容器	
MYG-5240	サワラ	曲物	蓋板		D	083xxxxx	173	容器	
MYG-5241	モミ属	曲物	底板	板目	D	10005700	338	容器	
MYG-5242	ケヤキ	皿		柾目	D	08304500	164	容器	
MYG-5243	アスナロ	祭祀具	蓋串		D	10510500	482	祭祀具	
MYG-5244	クリ	下駄	一本	柾目	D	10008400	400	生活具	
MYG-5245	スギ	祭祀具	蓋串	板目	D	03000800	76	祭祀具	
MYG-5246	ヒノキ	祭祀具	人形	板目	D	10006600	390	祭祀具	
MYG-5247	ケヤキ	皿		柾目	D	10008400	397	容器	
MYG-5248	サワラ	祭祀具	蓋串	板目	D	10001300	491	祭祀具	
MYG-5249	ネズコ	曲物	蓋板	柾目	D	09101100	246	容器	
MYG-5250	モミ属	桶	蓋板	柾目	漆塗	D	09101000	211	容器
MYG-5251	エゴノキ属	椀		方向なし	D	10006500	387	容器	
MYG-5252	ヒノキ	曲物	底板	柾目	D	0880020a	177	容器	
MYG-5253	スギ	曲物	底板	板目	D	10006500	376	容器	
MYG-5254	ケヤキ	容器	蓋	縮木取り	挽物	D	10009900	464	容器
MYG-5255	アスナロ	祭祀具	刀形	板目	D	09101000	223	祭祀具	
MYG-5256	ケヤキ	椀		柾目	漆塗 黒	D	09100400	277	容器
MYG-5257	クリ	下駄	一本	板目		D	09101000	213	生活具
MYG-5258	スギ	用途不明品	組み物		D	10005600	298	用途不明品	
MYG-5259	スギ	曲物	底板	柾目	D	09300100	189	容器	
MYG-5260	ケヤキ	皿		柾目	D	10005600	304	容器	
MYG-5261	モミ属	箸			D	10005700	345	生活具	
MYG-5262	ケヤキ	皿		柾目	挽物	D	09101000	209	容器
MYG-5263	トチノキ	皿	高台付	板目	挽物	D	09101000	207	容器
MYG-5264	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	10005600	301	容器	
MYG-5265	ケヤキ	皿	高台付	板目	D	09101300	259	容器	
MYG-5266	ヒノキ	曲物	底板	板目	D	02700100	118	容器	
MYG-5267	ケヤキ	椀		漆塗 黒	D	10005600	292	容器	
MYG-5268	ケヤキ	皿		柾目	挽物	D	09101100	265	容器
MYG-5269	ケヤキ	皿	高台付	柾目	挽物	D	09101000	219	容器
MYG-5270	トチノキ	容器	蓋	縮木取り	挽物	D	10009900	504	容器
MYG-5271	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	11300200	485	容器	
MYG-5272	ヒノキ	曲物	底板	柾目	D	08302000	154	容器	
MYG-5273	ケヤキ	皿	高台付	柾目	D	09101000	220	容器	
MYG-5274	スギ	曲物	底板		D	09101100	243	容器	
MYG-5275	モミ属	曲物	側板	板目	D	10001900	409	容器	
MYG-5276	カヤ	曲物	底板	板目	漆塗 円面黒	D	10001300	423	容器
MYG-5277	ケヤキ	椀		柾目	D	10005500	287	容器	
MYG-5278	ケヤキ	皿		柾目	D	10005600	305	容器	
MYG-5279	モミ属	曲物	底板	板目	D	10006400	359	容器	
MYG-5280	コナラ節	木綿		芯持ち	D	02700100	120	農具	
MYG-5281	キブシ	木綿		芯持ち	D	083xxxxx	172	農具	
MYG-5282	ケヤキ	皿		柾目	D	09101100	266	容器	
MYG-5283	ヒノキ	祭祀具	刀形?	板目	D	09101300	257	祭祀具	
MYG-5284	アスナロ	曲物	底板	板目	D	02701400	128	容器	
MYG-5285	サワラ	曲物	底板	柾目	D	03001000	80	容器	
MYG-5286	アスナロ	曲物	蓋板	板目	包丁痕	D	02701300	127	容器

### 市川橋木製品樹種

MYG 番号	樹 種	製 品 の 種 類	木 取 り	注 記	地 区	出 土 地	登録番号	製品類別
MYG-5287	スギ	曲物	蓋板	板目	D	09101100	236	容器
MYG-5288	ヒノキ	祭祀具	寄せ串	板目	D	03002206	74	祭祀具
MYG-5289	スギ	曲物	底板	板目	D	03001000	78	容器
MYG-5290	ケヤキ	柾		漆塗 黒	D	10005600	309	容器
MYG-5291	ケヤキ	柾		板目	D	03001000	82	容器
MYG-5292	ケヤキ	容器	蓋	板目	D	10005600	316	容器
MYG-5293	イスノキ	柾	横板		D	10006500	379	生活具
MYG-5294	アナダ	柾	横板		D	10006500	378	生活具
MYG-5295	サワラ	祭祀具	寄せ串	板目	D	10005600	293	祭祀具
MYG-5296	サワラ	柄杓	側板	板目	D	10006000	452	容器
MYG-5297	イスガヤ	弓	丸木		D	10006500	372	武具
MYG-5298	サワラ	曲物	蓋板	板目	D	09600001	190	容器
MYG-5299	スギ	曲物	側板	板目	A		229	容器
MYG-5300	モミ属	曲物	側板	板目	A		230	容器
MYG-5301	モミ属	曲物	側板	板目	A		231	容器
MYG-5302	サワラ	柾	底板	板目	D		275	容器
MYG-5303	トネリコ属	柾脚	柱材		柱材 44 区 SX1777 横跡		1	建築材
MYG-5304	アカマツ	柾脚	柱材	柾脚Re.1	柱材 115 区 SX1630 横跡		2	建築材
MYG-5305	アカマツ	柾脚	柱材	柾脚Re.2	柱材 115 区 SX1630 横跡		3	建築材
MYG-5306	アカマツ	柾脚	柱材	柾脚Re.3	柱材 115 区 SX1630 横跡		4	建築材
MYG-5307	クリ	柾脚	柱材		柱材 100 区 X99 南・西1		5	建築材
MYG-5308	クリ	柾脚	柱材		柱材 100 区 X99 南・西2		6	建築材
MYG-5309	クリ	柾脚	柱材		柱材 100 区 X99 南・西3		7	建築材
MYG-5310	コナラ節	柾脚	柱材		柱材 100 区 X99 北・西1		8	建築材
MYG-5311	クリ	柾脚	柱材		柱材 100 区 X99 北・西2		9	建築材
MYG-5312	クリ	柾脚	柱材		柱材 100 区 X99 北・西3		10	建築材
MYG-5313	クリ	柾脚	柱材		柱材 100 区 X99 北・北1		11	建築材
MYG-5314	モミ属	井戸枠	側板		柱材 102 区 E57 井戸跡		12	建築材
MYG-5315	クリ	建築材	柱材		柱材 104 区 P1		13	建築材
MYG-5316	クリ	建築材	柱材		柱材 104 区 P2		14	建築材
MYG-5317	クリ	建築材	柱材		柱材 104 区 P3		15	建築材
MYG-5318	モミ属	建築材	柱材		柱材 104 区 P6		16	建築材
MYG-5319	クリ	建築材	柱材		柱材 104 区 P7		17	建築材
MYG-5320	クリ	建築材	柱材		柱材 104 区 P12		18	建築材
MYG-5321	クリ	建築材	柱材		柱材 104 区 P17		19	建築材
MYG-5322	クリ	礎板			柱材 104 区 P7		20	建築材
MYG-5323	クリ	礎板			柱材 104 区 P12		21	建築材
MYG-5324	クリ	建築材	柱材		柱材 30 区 P16		22	建築材
MYG-5325	クリ	建築材	柱材		柱材 30 区 P17		23	建築材
MYG-5326	クヌギ節	杭			柱材 91 区 SX14		24	建築材
MYG-5327	クリ	建築材	柱材		柱材 97 区 南東隅柱穴		25	建築材
MYG-5328	クリ	建築材	柱材		柱材 97 区 東側柱列南から 1 間目	26		建築材
MYG-5329	クリ	建築材	柱材		柱材 97 区 東側柱列南から 2 間目	27		建築材
MYG-5330	クリ	建築材	柱材		柱材 82 区 B-2 • P0		28	建築材
MYG-5331	クリ	建築材	柱材		柱材 82 区 B-2 • P1		29	建築材
MYG-5332	クリ	建築材	柱材		柱材 82 区 B-2 • P2		30	建築材
MYG-5333	クリ	建築材	柱材		柱材 82 区 B-2 • P3		31	建築材
MYG-5334	クリ	建築材	柱材		柱材 82 区 B-2 • P4		32	建築材

### 市川橋木製品樹種

品番	樹種	製品の種類	木取り	注記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5335	クリ	建築材	柱材		柱材	82区B-2・P5	33	建築材
MYG-5336	クリ	建築材	柱材		柱材	82区B-2・P6	34	建築材
MYG-5337	クリ	建築材	柱材		柱材	98区P-4	35	建築材
MYG-5338	クリ	建築材	柱材		柱材	98区P-11	36	建築材
MYG-5339	コナラ節	杭			柱材	91区SX14a	37	建築材
MYG-5340	ヒノキ	祭祀具	馬形	板目	A	04400201	30	祭祀具
MYG-5341	サワラ	祭祀具	斎串	板目	A	00400900	39	祭祀具
MYG-5342	サクランボ	鍵	柄	削りだし	A	00420200	42	農具
MYG-5343	クリ	鍵	柄	削りだし	A	00420200	43	農具
MYG-5344	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目	A	00800200	22	祭祀具
MYG-5345	ヒノキ	曲物	底板	板目	A	00400900	53	容器
MYG-5346	ヒノキ	曲物	底板	板目	A	00400900	56	容器
MYG-5347	ヒノキ	曲物	底板	板目	A	00400900	57	容器
MYG-5348	ケヤキ	皿	高台付	板目	A	00802550	59	容器
MYG-5349	スギ	曲物	底板	板目	A	00801900	63	容器
MYG-5350	ケヤキ	合子		挽物	A	00900200	66	容器
MYG-5351	イスノキ	柳	横櫛		A	00900300	69	生活具
MYG-5352	モミ属	曲物	底板	板目	A	00900200	81	容器
MYG-5353	モミ属	祭祀具	斎串	板目	A	01101100	94	祭祀具
MYG-5354	イスノキ	柳	横櫛		A	01101100	96	生活具
MYG-5355	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目	A	01101100	98	祭祀具
MYG-5356	モッコク	柳	横櫛		A	04205500	110	生活具
MYG-5357	アヌロ	祭祀具	おしらさま	削りだし	A	04410100	114	祭祀具
MYG-5358	ヒノキ	祭祀具	斎串		A	04410000	117	祭祀具
MYG-5359	カエデ属	刀柄		黒漆	A	06600100	145	武具
MYG-5360	トウヒ属	鞘		削りだし	A	06600200	146	武具
MYG-5361	ニシキギ属	弓	丸木	心待ち	A	06605000	150	武具
MYG-5362	アサガホ	刀柄		黒漆	A	04400201	193	武具
MYG-5363	クリ	弓	丸木	削りだし	A	04400201	194	武具
MYG-5364	ヒノキ	祭祀具	斎串		A	04400203	197	祭祀具
MYG-5365	イスノキ	柳	横櫛		A	04400203	198	生活具
MYG-5366	ケヤキ	容器	蓋	挽物	A	04400203	200	容器
MYG-5367	イヌガヤ	弓	丸木		A	04410000	118	武具
MYG-5368	モミ属	曲物	底板	斜目	A	04410000	125	容器
MYG-5369	ケヤキ	皿	高台付	板目	A	06600300	137	容器
MYG-5370	ケヤキ	皿		板目	A	06600300	138	容器
MYG-5371	スギ	用途不明品	皿伏	板目	A	06600300	139	用途不明品
MYG-5372	ケヤキ	皿		板目	A	06600300	140	容器
MYG-5373	ケヤキ	皿		板目	A	06606300	186	容器
MYG-5374	アヌロ	曲物	底板	板目	A	06606100	187	容器
MYG-5375	クリ	木鍔	丸木半削		A	04400203	201	農具
MYG-5376	ブナ属	柳		漆塗 両面朱	A	04200100	220	容器
MYG-5377	ヒノキ	椿脛		板目	A	001xxxxx	222	生活具
MYG-5378	ケヤキ	皿		板目	C	C78TD22	24	容器
MYG-5379	ケヤキ	皿	高台付	板目	C	C78TX24	48	容器
MYG-5380	ケヤキ	皿		板目 漆塗 内墨	C	C20TD97	432	容器
MYG-5381	イスノキ	柳	横櫛		C	C18TX34	142	生活具
MYG-5382	ケヤキ	皿		板目	C	C20TD97	468	容器

### 市川橋木製品樹種

登録番号	製品種類	地区	出土地	記	本取り	品の種類	樹種	樹種番号
MYG-5383	ケヤキ	C	C78TD22			皿	■	465 容器
MYG-5384	スギ	C	C110TX1			祭祀具	柾	582 祭祀具
MYG-5385	スギ	C	C110TX1			祭祀具	人形	601 祭祀具
MYG-5386	モクレン属	C	C78TP25			鉢	側板	629 容器
MYG-5387	アスナロ	C	C78TD48			箱	板目	625 容器
MYG-5388	モミ属	C	C20TD97			柾	柾	652 祭祀具
MYG-5389	モミ属	C	C78TD22			編物	部材	613 飽具
MYG-5390	ヒノキ	C	C110TX1			祭祀具	柾	586 祭祀具
MYG-5391	サワラ	C	C110TX1			祭祀具	柾	590 祭祀具
MYG-5392	ヒノキ	C	C110TX1			著状製品	■	779 生活具
MYG-5393	ケヤキ	C	C110TX1			皿	柾目	713 容器
MYG-5394	モミ属	C	C110TX1			ヘラ	板目	717 生活具
MYG-5395	モミ属	C	C20TD97			用途不明品	板目	672 用途不明品
MYG-5396	ヒノキ	C	C110TX1			柾	柾	602 祭祀具
MYG-5397	サワラ	C	C110TX1			祭祀具	柾	585 祭祀具
MYG-5398	サワラ	C	C110TX1			祭祀具	人形	693 祭祀具
MYG-5399	アスナロ	C	C110TX1			用途不明品	棒	718 用途不明品
MYG-5400	モミ属	C	C110TX1			用途不明品	柾	780 用途不明品
MYG-5401	ケヤキ	C	C78TD22			高台付	柾目	17 容器
MYG-5402	ケヤキ	C	C78TD22			高台付	柾目	19 容器
MYG-5403	モミ属	C	C78TD22			祭祀具	馬形	479 祭祀具
MYG-5404	コナラ属	C	C78TD22			木鍤	芯待ち	566 農具
MYG-5405	サワラ	C	C78TE52			祭祀具	柾	491 祭祀具
MYG-5406	カエデ属	C	C78TD22			木鍤	芯待ち	495 農具
MYG-5407	ケヤキ	C	C78TD22			柾	漆塗 黒	132 容器
MYG-5408	ケヤキ	C	C78TD22			柾	漆塗 黒	145 容器
MYG-5409	スギ	C	C20TD97			祭祀具	柾	488 祭祀具
MYG-5410	ネズコ	C	C78TD42			祭祀具	人形	501 祭祀具
MYG-5411	スギ	C	C110TX1			祭祀具	柾	600 祭祀具
MYG-5412	スギ	C	C20TD97			部材	柾	671 部材
MYG-5413	ヒノキ	C	C110TX1			祭祀具	人形	584 祭祀具
MYG-5414	ネズコ	C	C110TX1			祭祀具	柾	587 祭祀具
MYG-5415	アスナロ	C	C110TX1			祭祀具	柾	589 祭祀具
MYG-5416	アスナロ	C	C110TX1			用途不明品	柾	768 用途不明品
MYG-5417	ケヤキ	C	C115TD9			柾	柾目	878 容器
MYG-5418	ケヤキ	C	C115TD3			柾	柾目	884 容器
MYG-5419	ケヤキ	C	C78TD22			柾	柾目	30 容器
MYG-5420	イスノキ	C	C41TX20			櫛	横櫛	143 生活具
MYG-5421	ケヤキ	C	C78TD22			高台付	柾目	434 容器
MYG-5422	ケヤキ	C	C78TD22			高台付	柾目	472 容器
MYG-5423	ヒノキ	C	C78TD22			刀柄	芯待ち	618 武具
MYG-5424	ヒノキ	C	C20TD97			用途不明品	柾	647 用途不明品
MYG-5425	ケヤキ	C	C110TX1			柾	柾目	705 容器
MYG-5426	ヒノキ	C	C110TX1			著状製品	■	798 生活具
MYG-5427	アカマツ	C	C20TD97			糠	柄	380 農具
MYG-5428	ケヤキ	C	C20TD97			柾	心待ち	467 容器
MYG-5429	ケヤキ	C	C20TD97			柾	柾目	469 容器
MYG-5430	サワラ	C	C20TD97			祭祀具	柾	475 祭祀具

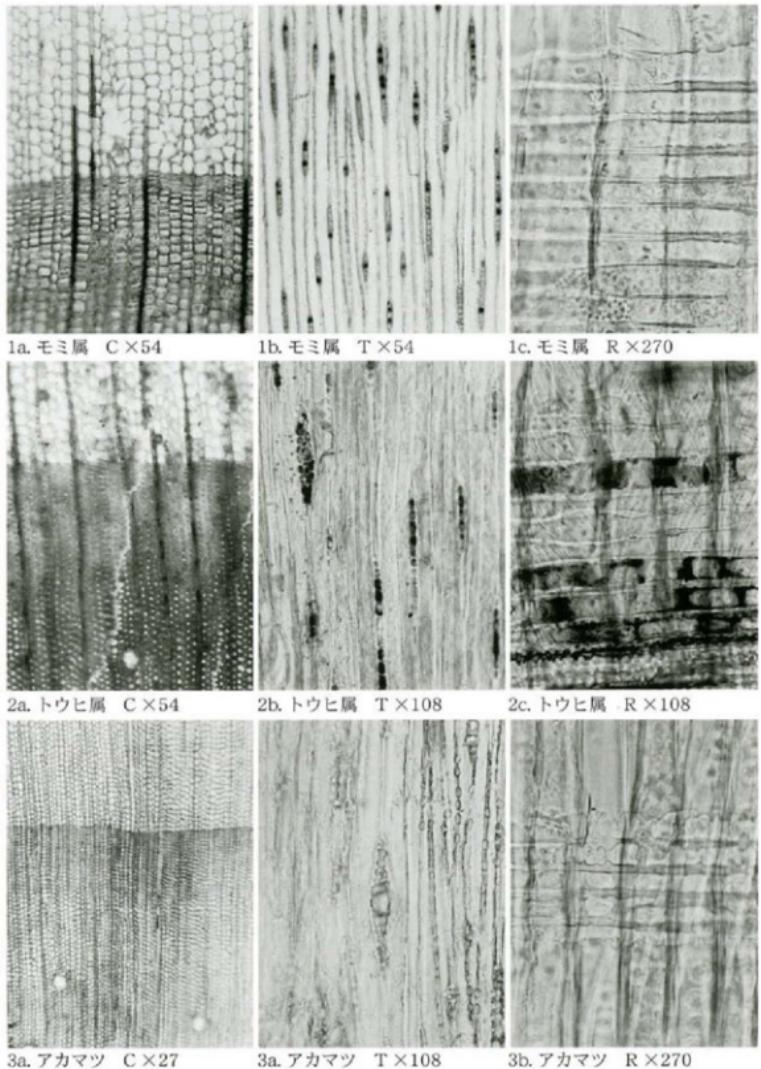
### 市川橋木製品樹種

MYG番号	樹種	製品の種類	木取り	注記	地区	出土地	登録番号	製品別類		
MYG-5431	アカマツ	ヘラ	板目		C	C20TD97	500	生活具		
MYG-5432	ヒノキ	祭祀具	柾串	板目	C	C110TX1	583	祭祀具		
MYG-5433	アヌマロ	祭祀具	柾串	板目	C	C20TD97	661	祭祀具		
MYG-5434	ヒノキ	祭祀具	柾串	板目	C	C20TD97	649	祭祀具		
MYG-5435	コナラ節	木鍤		芯持ち	C	C20TD97	657	道具		
MYG-5436	ヤナギ属	紡錘車			C	C110TX1	767	容器		
MYG-5437	ヒノキ	祭祀具	柾串	板目	C	C110TX1	787	祭祀具		
MYG-5438	ヒノキ	祭祀具	人形	板目	C	C115TD1	832	祭祀具		
MYG-5439	ヒレ属	下駄	一木	板目	C	C115TD13	885	生活具		
MYG-5440	ヒノキ	棺彌		板目	C	C110TX1	807	生活具		
MYG-5441	ケヤキ	皿	高台村	板目	転用	C	C187TD43	165	容器	
MYG-5442	サワラ	祭祀具	形代	板目	C	C20TX71	397	祭祀具		
MYG-5443	ヒノキ	祭祀具	柾串	板目	C	C110TX1	588	祭祀具		
MYG-5444	ヒノキ	祭祀具	柾串	板目	C	C20TD97	656	祭祀具		
MYG-5445	アカマツ	柄		削りだし	C	C20TD96	660	農具		
MYG-5446	ケヤキ	皿		板目	C	C110TX1	697	容器		
MYG-5447	ケヤキ	皿	高台村	板目	C	C110TX1	699	容器		
MYG-5448	ケヤキ	皿	高台村	板目	C	C78TX24	13	容器		
MYG-5449	ヒノキ	祭祀具	柾串	斜目	C	C110TX1	597	祭祀具		
MYG-5450	ケヤキ	椀		板目	C	C115TD1	823	容器		
MYG-5451	アサダ	馬櫛			C	C115TD1	827	農具		
MYG-5452	スギ	箱	側板	板目	漆塗	C	C115TD1	835	容器	
MYG-5453	モミ属	下駄		板目	C	C115TD1	836	生活具		
MYG-5454	スギ	へら状木製品			まな板板軸用	C	C115TD3	862	生活具	
MYG-5455	モクレン属	皿	高台村	板目	まな板に転用	C	C115TX8	918	容器	
MYG-5456	ツゲ	櫛	横櫛		C	C187TD43	130	生活具		
MYG-5457	モッコク	櫛	横櫛		C	C187TD43	131	生活具		
MYG-5458	モミ属	木鍤		芯持ち	C	C78TD50	635	道具		
MYG-5459	ヒノキ	祭祀具	柾串	板目	C	C78TE49	641	祭祀具		
MYG-5460	ケヤキ	皿	高台村	板目	C	C110TX1	706	容器		
MYG-5461	ケヤキ	皿	高台村	板目	焦げ	C	C110TX1	707	容器	
MYG-5462	ヒノキ	祭祀具	柾串	棒状	C	C110TX1	776	祭祀具		
MYG-5463	スギ	箸状製品			C	C110TX1	778	生活具		
MYG-5464	ヒノキ	用途不明品	棒		C	C110TX1	785	用途不明品		
MYG-5465	ケヤキ	皿	高台村	板目	C	C20TD97	34	容器		
MYG-5466	イスノキ	櫛	横櫛		C	C41TX20	144	生活具		
MYG-5467	ケヤキ	皿		板目	C	C20TD97	429	容器		
MYG-5468	クリ	木鍤		丸木半割	C	C18TK2	645	農具		
MYG-5469	モクレン属	皿	高台村	板目	挽物	C	C20TD97	648	容器	
MYG-5470	ケヤキ	皿		板目	C	C115TD1	851	容器		
MYG-5471	コナラ節	木鍤			C	C78TD22	614	道具		
MYG-5472	スギ	祭祀具	柾串	板目	C	C20TD97	655	祭祀具		
MYG-5473	サワラ	用途不明品	部材		C	C110TX1	773	用途不明品		
MYG-5474	ケヤキ	椀			漆塗	両面黒	C	C20TD97	788	容器
MYG-5475	ケヤキ	皿	高台村	板目	C	C78TD22	29	容器		
MYG-5476	ケヤキ	椀		板目	C	C78TD22	128	容器		
MYG-5477	イスノキ	櫛	横櫛		C	C20TD97	474	生活具		
MYG-5478	サワラ	祭祀具	柾串	板目	C	C84TX4	502	祭祀具		

市川橋木製品樹種

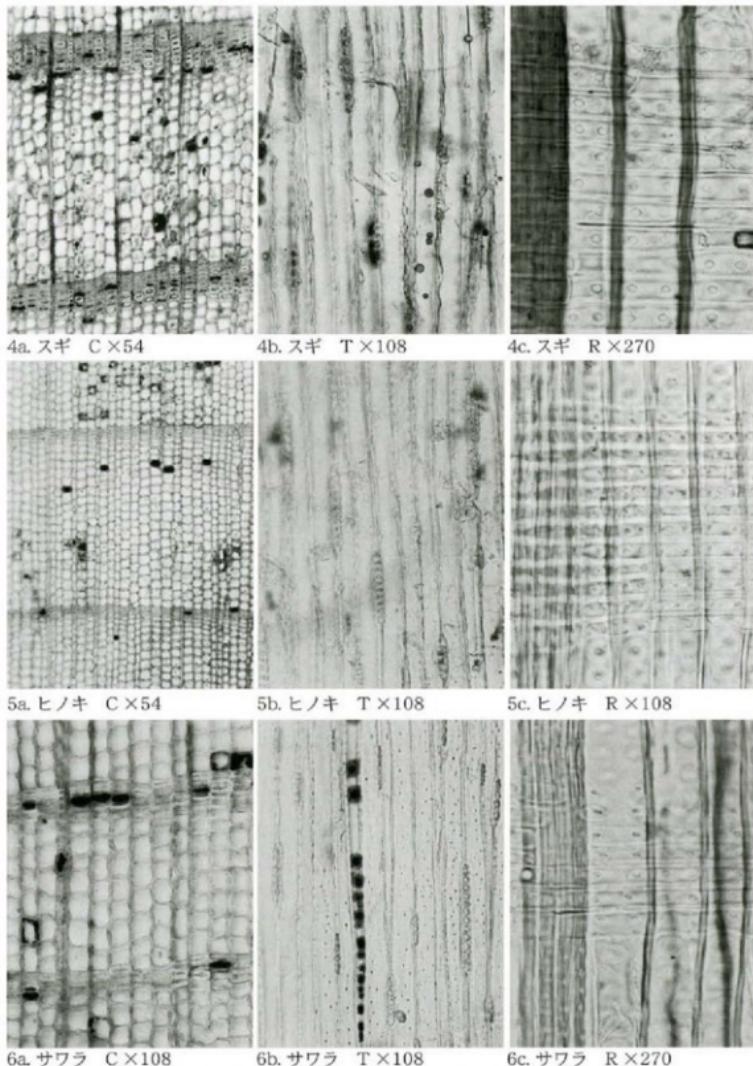
MYG番号	樹種	製品の種類	木取り	注記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5479	ヒノキ	曲物	底板	柾目	D	03002101	70	容器
MYG-5480	ヒノキ	祭祀具	人形	柾目	D	03000200	71	祭祀具
MYG-5481	ナシ亜科	木鍤		芯持ち	D	030p1850	89	農具
MYG-5482	スギ	祭祀具	柾串	柾目	D	10300201	110	祭祀具
MYG-5483	サワラ	祭祀具	柾串	板目	D	02700100	122	祭祀具
MYG-5484	カバノキ属	櫛	横櫛		D	02703200	137	生活具
MYG-5485	ヒノキ科	曲物	底板	柾目	D	08303200	157	容器
MYG-5486	コクサギ	木鍤		芯持ち	D	08900100	181	農具
MYG-5487	イスノキ	櫛	横櫛		D	09301100	187	生活具
MYG-5488	モミ属	檜屑		板目	D	10400401	194	生活具
MYG-5489	サワラ	曲物	底板	板目	D	03030000	196	容器
MYG-5490	ケヤキ	ヘラ		柾目	D	10605600	203	生活具
MYG-5491	クリ	齒鎗		漆塗 黒	D	09101000	210	武具
MYG-5492	イスノキ	櫛	横櫛		D	09101000	217	生活具
MYG-5493	サワラ	用途不明品	板	柾目	穴あき	D	09101100	238 用途不明品
MYG-5494	カヤ	祭祀具	人形	柾目		D	09101100	242 祭祀具
MYG-5495	アヌマロ	祭祀具	駄馬	斜目		D	09101200	249 祭祀具
MYG-5496	モコク	櫛	横櫛	柾目		D	09101200	250 生活具
MYG-5497	ヒノキ	曲物	蓋板	板目		D	09101100	267 容器
MYG-5498	ヒノキ	下駄		柾目		D	09101100	271 生活具
MYG-5499	ヒノキ	祭祀具	柾串	板目		D	10005500	286 祭祀具
MYG-5500	サワラ	箸				D	10005600	294 生活具
MYG-5501	ケヤキ	杓		柾目	漆塗 西面黒	D	10005600	296 容器
MYG-5502	スギ	祭祀具	柾串	板目		D	10005600	317 祭祀具
MYG-5503	スギ	祭祀具	柾串	柾目		D	10005700	333 祭祀具
MYG-5504	ヒノキ	祭祀具	柾串	板目		D	10010700	402 祭祀具
MYG-5505	ヒノキ	祭祀具	柾串	斜目		D	10005500	490 祭祀具
MYG-5506	クリ	下駄	一木	柾目		D	10008900	412 生活具
MYG-5507	スギ	祭祀具	柾串	柾目		D	10001100	417 祭祀具
MYG-5508	ヒノキ	用途不明品	板	斜目		D	10001300	432 用途不明品
MYG-5509	モッコク	櫛	横櫛			D	10001400	434 生活具
MYG-5510	マツ属	木鍤				D	10006000	444 農具
MYG-5511	クリ	用途不明品	丸木	半削		D	10009900	454 用途不明品
MYG-5512	モミ属	ささら	飾り板	板目		D	10009900	459 生活具
MYG-5513	ナシ亜科	櫛	横櫛			D	10012000	487 生活具
MYG-5514	イスノキ	櫛	横櫛			D	10010700	488 生活具
MYG-5515	モッコク	櫛	横櫛			D	10001400	489 生活具

### 市川橋木製品樹種



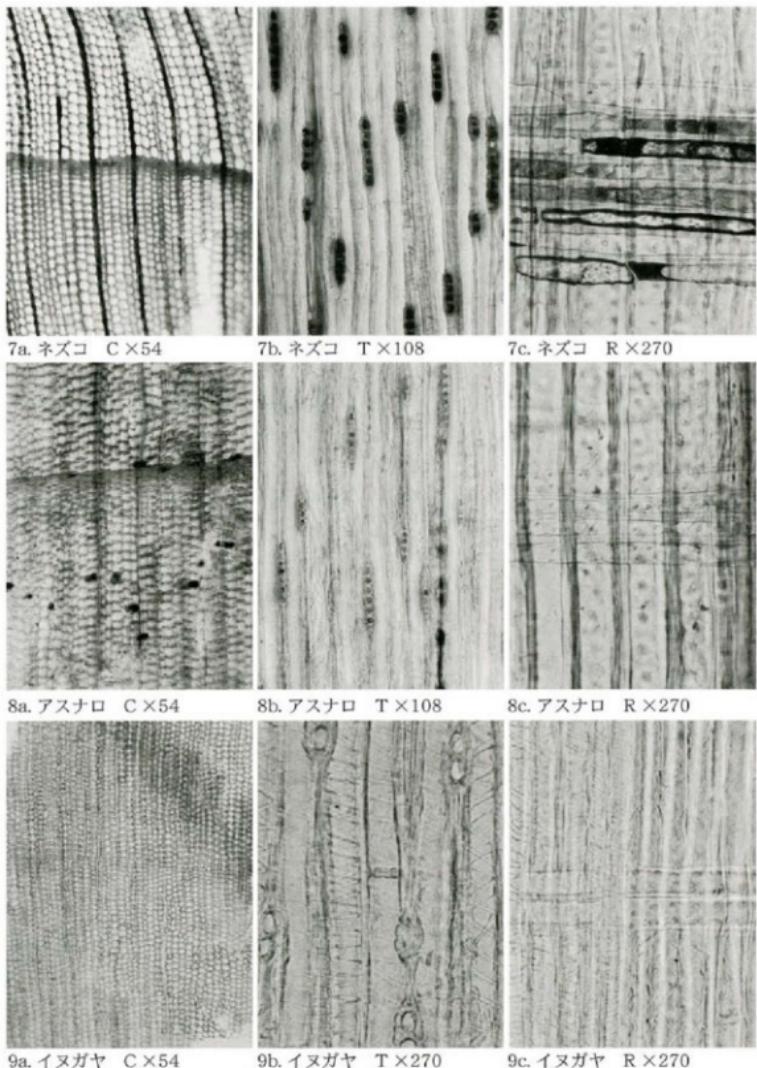
C : 横断図(木口)、T : 接線断面(板目)、R : 放射断面(柾目)

×のあとに数字は画面での拡大倍率



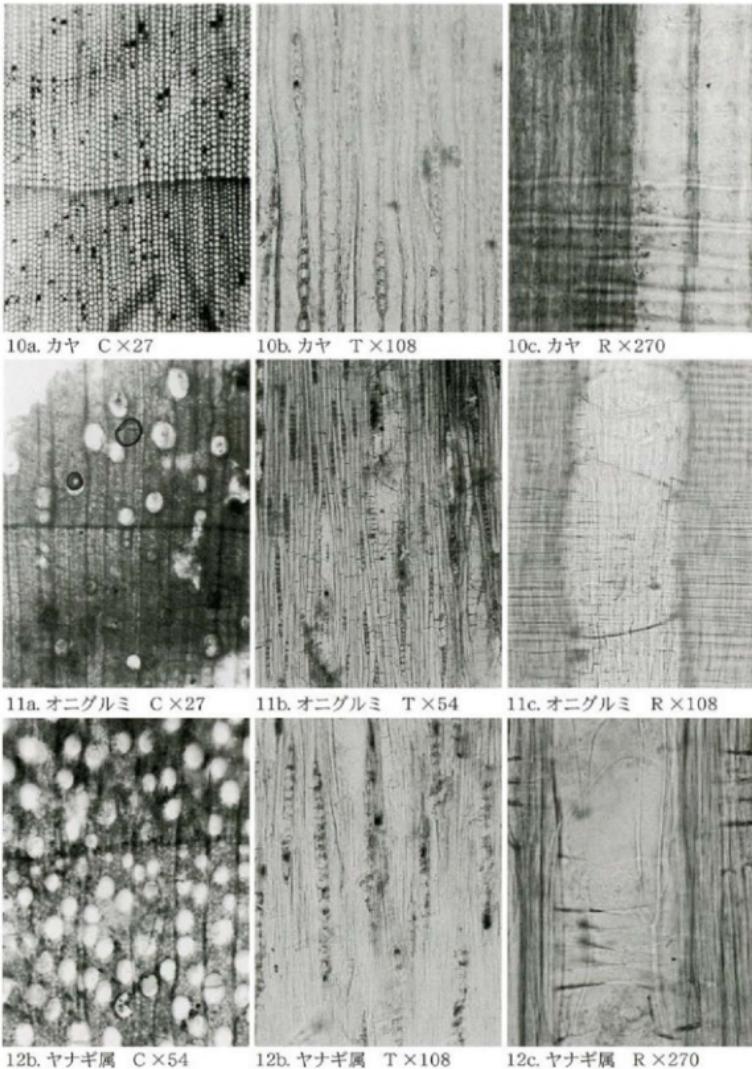
C : 横断図 (木口)、T : 接線断面 (板目)、R : 放射断面 (柾目)

×のあとに数字は画面での拡大倍率



C : 横断図（木口）、T : 接線断面（板目）、R : 放射断面（柾目）

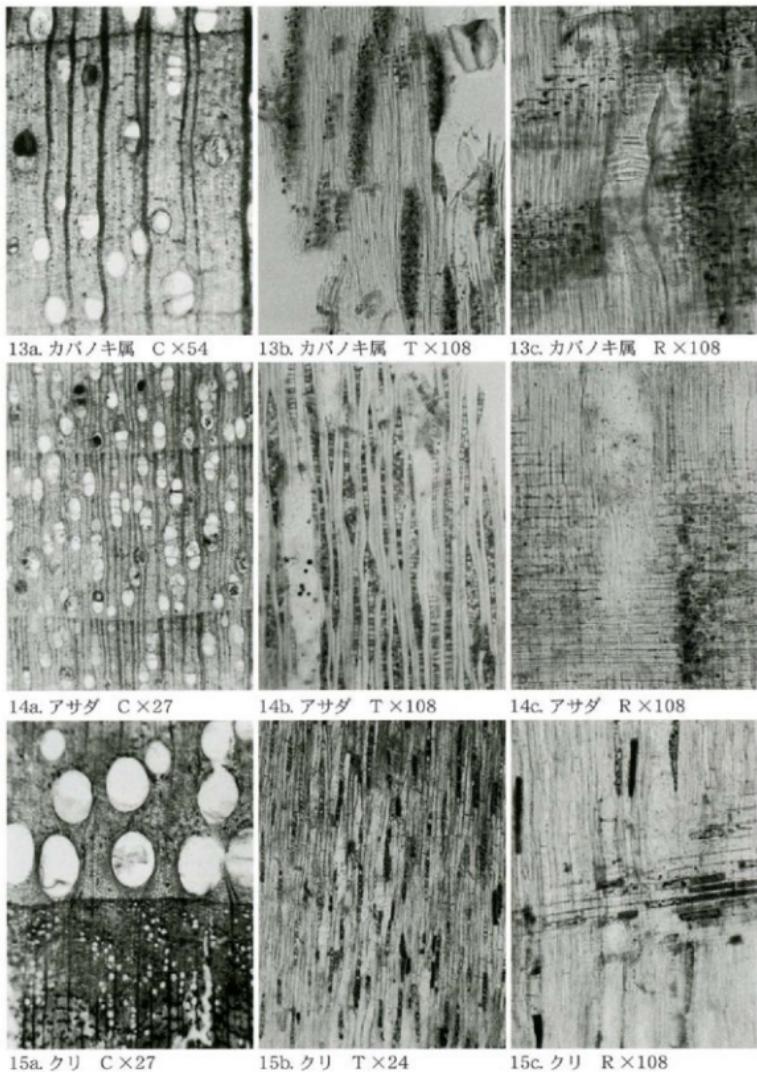
×のあとに数字は画面での拡大倍率



C : 横断図(木口)、T : 接線断面(板目)、R : 放射断面(柾目)

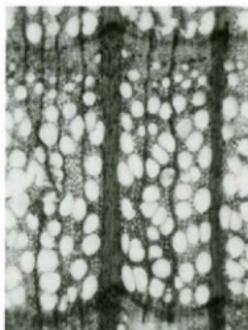
×のあとに数字は画面での拡大倍率

市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真 4

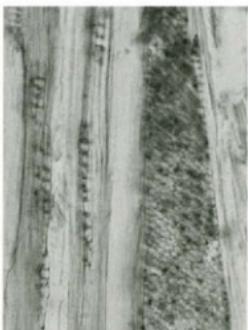


C : 横断図（木口）、T : 接線断面（板目）、R : 放射断面（柾目）

×のあとに数字は画面での拡大倍率



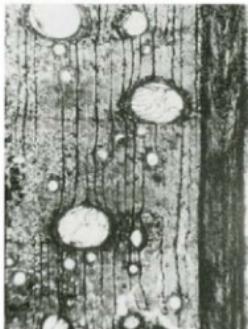
16a. ブナ属 C × 54



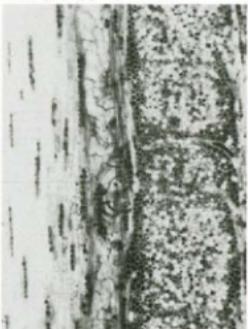
16b. ブナ属 T × 108



16c. ブナ属 R × 270



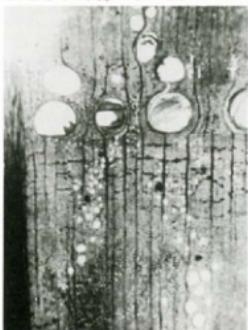
17a. クヌギ節 C × 27



17b. クヌギ節 T × 54



17c. クヌギ節 R × 108



18a. コナラ節 C × 27



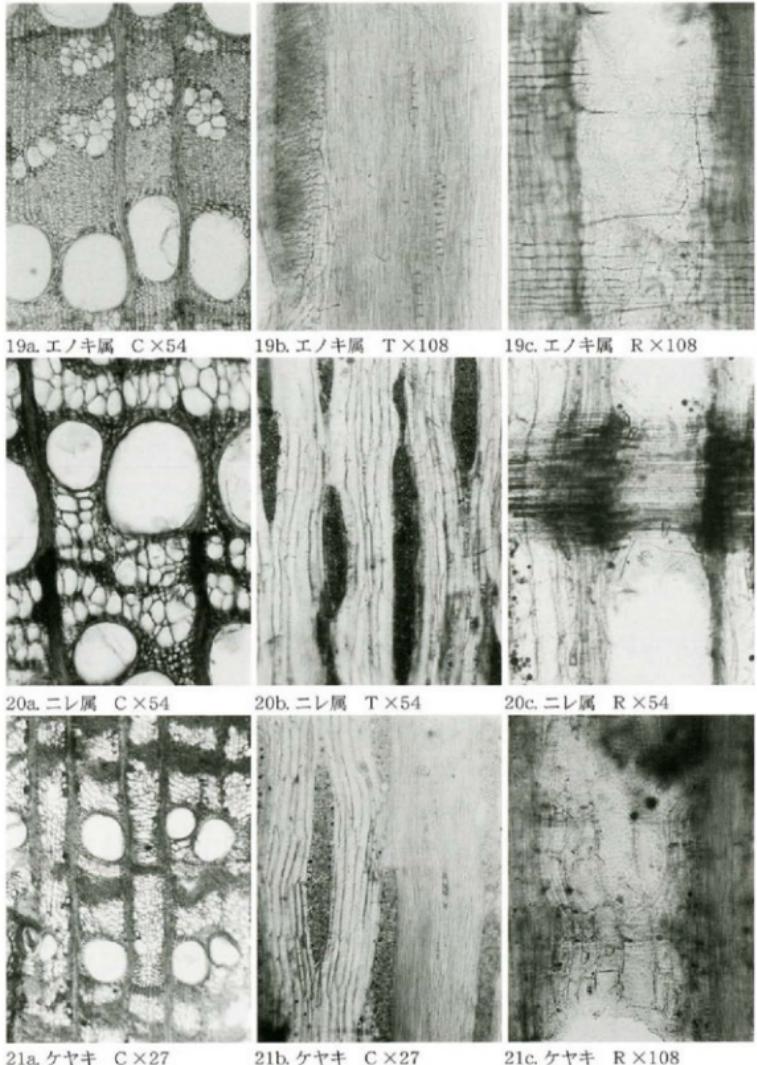
18b. コナラ節 T × 54



18c. コナラ節 R × 108

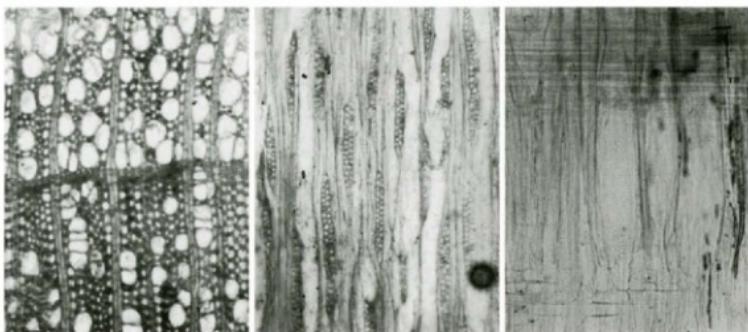
C : 横断図 (木口)、T : 接線断面 (板目)、R : 放射断面 (柾目)

×のあとに数字は画面での拡大倍率

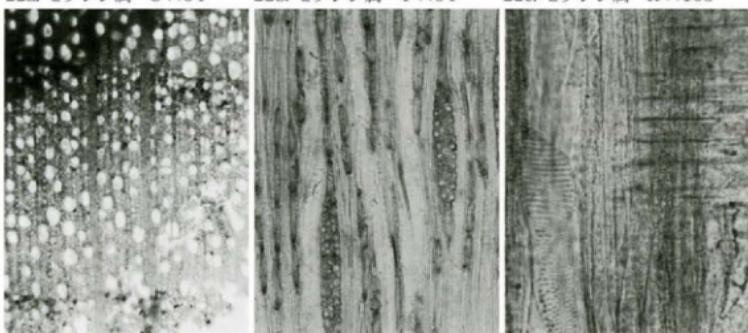


C : 横断図 (木口)、T : 接線断面 (板目)、R : 放射断面 (柾目)

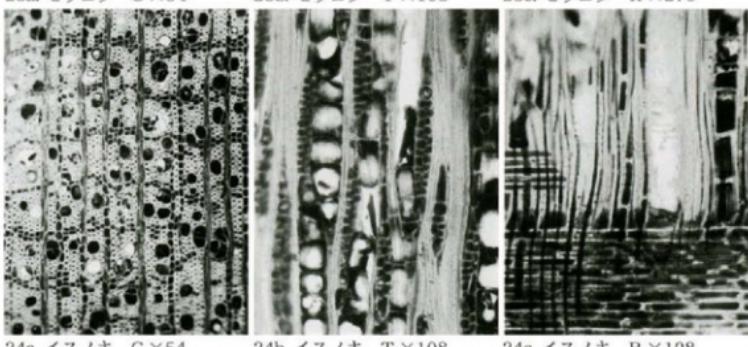
×のあとに数字は画面での拡大倍率



22a. モクレン属 C ×54    22b. モクレン属 T ×54    22c. モクレン属 R ×108



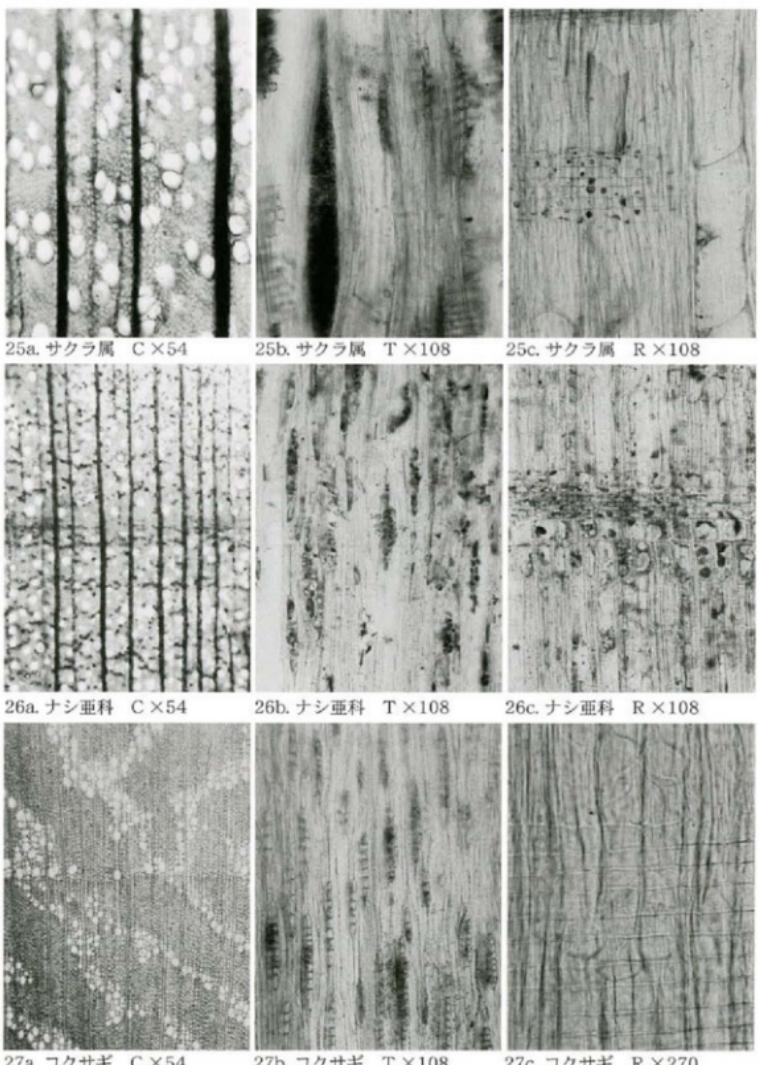
23a. モッコク C ×54    23b. モッコク T ×108    23c. モッコク R ×270



24a. イスノキ C ×54    24b. イスノキ T ×108    24c. イスノキ R ×108

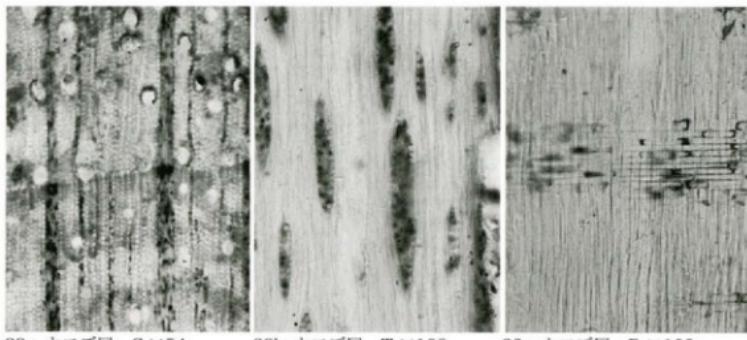
C : 横断図 (木口)、T : 接線断面 (板目)、R : 放射断面 (柾目)

×のあとに数字は画面での拡大倍率

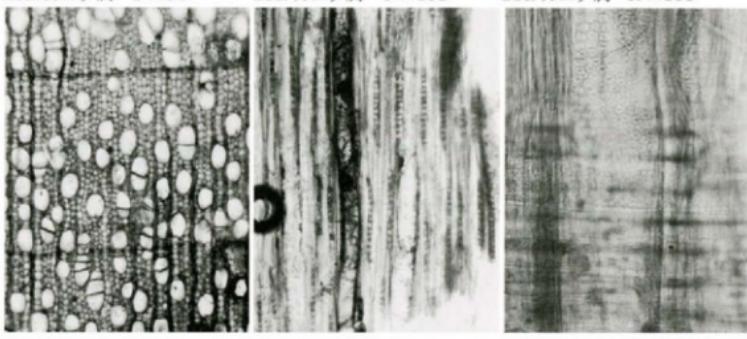


C : 横断図（木口）、T : 接線断面（板目）、R : 放射断面（柾目）

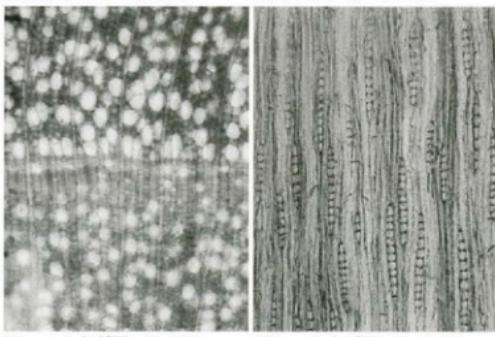
×のあとに数字は画面での拡大倍率



28a. カエデ属 C ×54      28b. カエデ属 T ×108      28c. カエデ属 R ×108



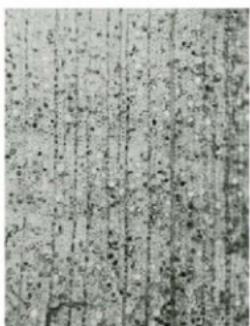
29a. トチノキ C ×54      29b. トチノキ T ×54      29c. トチノキ R ×270



30a. ニシキギ属 C ×54      30b. ニシキギ属 T ×108

C : 横断図 (木口)、T : 接線断面 (板目)、R : 放射断面 (柾目)

×のあとに記す数字は画面での拡大倍率



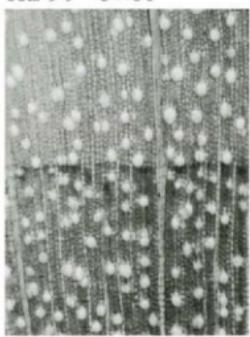
31a. ツゲ C ×54



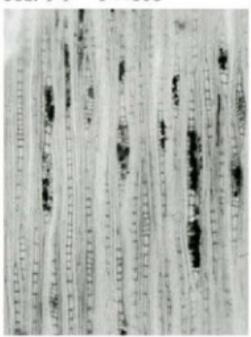
31b. ツゲ T ×108



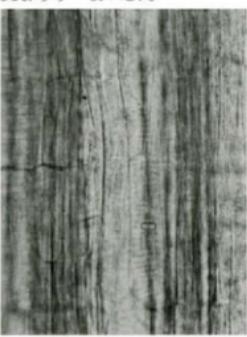
31c. ツゲ R ×270



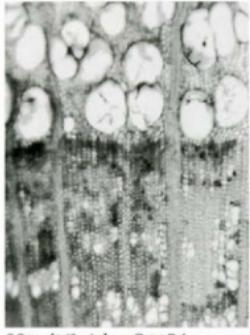
32a. キブシ C ×54



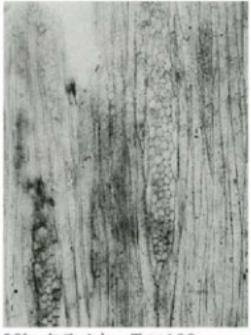
32b. キブシ T ×54



32c. キブシ R ×270



33a. タラノキ C ×54



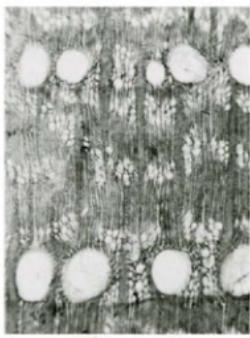
33b. タラノキ T ×108



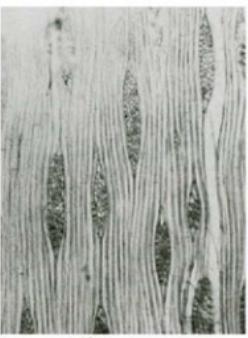
33c. タラノキ R ×108

C : 横断図（木口）、T : 接線断面（板目）、R : 放射断面（柾目）

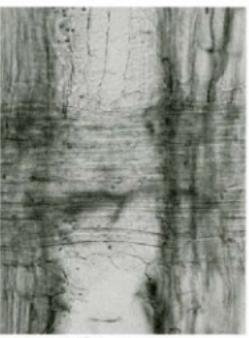
×のあとに数字は画面での拡大倍率



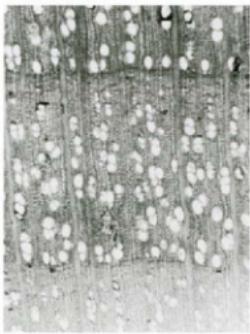
34a. ハリギリ C ×27



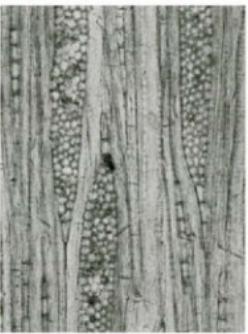
34b. ハリギリ T ×54



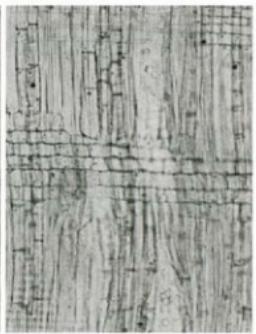
34c. ハリギリ R ×108



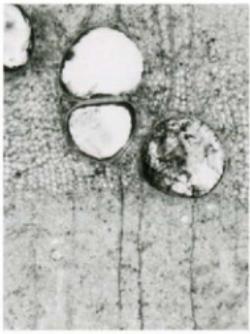
35a. エゴノキ属 C ×27



35b. エゴノキ属 T ×108



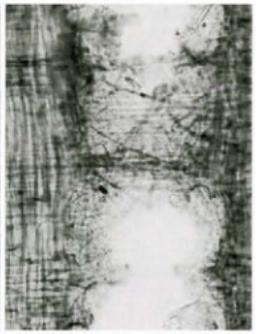
35c. エゴノキ属 R ×108



36a. トネリコ属 C ×54



36b. トネリコ属 T ×108



36c. トネリコ属 R ×108

C : 横断図 (木口)、T : 接線断面 (板目)、R : 放射断面 (柾目)

×のあとに数字は画面での拡大倍率

## 附章 2 多賀城市市川橋遺跡における自然科学分析

### I 市川橋遺跡の花粉分析・寄生虫卵分析

#### 1 はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。一方、人や動物などに寄生する寄生虫の卵殻は、花粉と同様の条件下で堆積物中に残存しており、人の居住域では寄生虫卵による汚染度が高くなる。寄生虫卵分析を用いてトイレ遺構の確認や人糞施肥の有無の確認が可能であり、寄生虫卵の種類から、摂取された食物の種類や、そこに生息していた動物種を推定することも可能である。

ここでは、市川橋遺跡で検出された道路側溝の堆積物において花粉分析と寄生虫卵分析を行い、溝の堆積環境および周辺植生について検討する。

#### 2 試 料

試料は、多賀城外の南北大路の道路側溝の埋土から採取された18点である。

試料の内訳は、SD1768e（西側溝）の灰褐色砂質土（2層、試料1と試料2）、灰褐色砂質土（1層、試料3）、SD1767e（東側溝）の灰褐色砂質土（3層、試料5と試料6）、褐色土（2層、試料7）、SD1768a（西側溝）の灰褐色砂質土（2層、試料9と試料10）、灰褐色砂質土（1層、試料11）、SD1767a（東側溝）の灰褐色砂質土（2層、試料12と試料13）、灰褐色砂質土（1層、試料14）、SD1768c（西側溝）の灰褐色砂質土（3層、試料15と試料16）、灰褐色砂質土（2層、試料17）、SD1767b（東側溝）の赤褐色土混じり暗灰褐色オリーブ色土（試料18）、灰褐色オリーブ色シルト（試料19）、灰褐色砂質土（試料20）である。

#### 3 方 法

##### (1) 花粉分析

花粉粒の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
- 2) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈殿法で砂粒を除去
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 4) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
- 5) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

## （2）寄生虫卵分析

微化石分析法を基本に、以下のように行った。

- 1) サンプルを探量
- 2) 脱イオン水を加えて攪拌
- 3) 篩別および沈澱法により大きな砂粒や木片等を除去
- 4) 25% フッ化水素酸を加えて30分静置（2～3度混和）
- 5) 速心分離（1500rpm、2分間）による水洗の後にサンプルを2分割
- 6) 片方にアセトトリシス処理を施す
- 7) 両方のサンプルを染色後、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 8) 検鏡・計数

## 4 結果

### （1）分類群

出現した分類群は、花粉では樹木花粉26、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉26、シダ植物胞子2形態の計57、寄生虫卵では3分類群である。これらの学名と和名および粒数を表1に示す。花粉数が200個以上計数できた試料は、花粉総数を基準とする花粉ダイアグラムを作成した（図1、2）。なお、200個未満であっても100個以上の試料については傾向をみるために参考に図示した。主要な分類群は顕微鏡写真を図版に示した。以下に出現した分類群を記す。

#### 〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属單維管束亜属、スギ、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属ーアサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ーケヤキ、エノキ属ームクノキ、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、ミズキ属、エゴノキ属

#### 〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科ーイラクサ科、バラ科、ウコギ科

#### 〔草本花粉〕

ガマ属ーミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、ユリ科、ネギ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、ツリフネソウ属、アリノトウグサ属ーフサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ科、オオバコ属、タンボボ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

### 〔シダ植物胞子〕

单条溝胞子、三条溝胞子

### 〔寄生虫卵〕

- ・回虫 *Ascaris lumbricoides*

回虫は世界に広く分布し、現在でも温暖・温潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられ、卵には受精卵と不受精卵がある。遺跡の堆積物の分析では、長期に及ぶ堆積年数や薬品処理の影響により、受精卵と不受精卵の区別は不明瞭である。比較的大きな虫卵で、およそ $80 \times 60 \mu\text{m}$ あり楕円形で外側に蛋白膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。

- ・鞭虫 *Trichuris trichiura*

鞭虫は世界に広く分布し、現在ではとくに熱帯・亜熱帯の高温多湿な地域に多くみられる。卵の大きさは、 $50 \times 30 \mu\text{m}$ でレモン形あるいは岐阜ちょうちん形で、卵殻は厚く褐色で両端に無色の栓がある。糞便とともに外界に出た虫卵は、3～6週間で感染幼虫包蔵卵になり経口感染する。

- ・肝吸虫 *Clonorchis sinensis*

肝吸虫はアジア地域に広く分布し、特に中国、日本、ベトナム、韓国が多い。日本では岡山県南部、琵琶湖沿岸、八郎潟、利根川流域などが流行地として知られている。虫卵は、およそ $30 \times 16 \mu\text{m}$ で不規則型で一端に陣笠状の小蓋を有する。卵殻の表面には亀甲状の紋理を認める。糞便とともに外界に出た虫卵は、水中で第1中間宿主のマメタニシに食べられ、セルカリアになり水中に遊出し、第2中間宿主のモツゴ、モロコ、コイ、フナ、タナゴに侵入してメタセルカリアとなり、魚肉とともにヒトに摂取され感染する。

## (2) 花粉群集の特徴

- 1) SD1768e 遺構（西側溝）

花粉密度は低く、ほとんど検出されなかった。

- 2) SD1767e 遺構（東側溝）

3層（試料5、6）では草本花粉の占める割合が非常に高い。ヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科が高率で出現し、アカザ科-ヒユ科、チドメグサ亞科、キク亞科などが伴われる。クワ科-イラクサ科も多い。樹木花粉ではマツ属複維管束亞属、スギ、コナラ属コナラ亞属などが非常に低率で出現する。試料5において鞭虫卵が検出された。2層（試料7）は花粉密度が低いが、そうした中で草本花粉の占める割合が高い。ヨモギ属、イネ科が高率で出現し、タデ属サナエタデ節、カヤツリグサ科、セリ亞科などが伴われる。樹木花粉ではブナ属、コナラ属コナラ亞属が多く、マツ属複維管束亞属、スギなどが伴われる。

- 3) SD1768a 遺構（西側溝）

花粉密度は非常に低く、花粉はほとんど検出されなかった。

- 4) SD1767a 遺構（東側溝）

2層（試料12、13）では花粉密度が低いが、その中で草本花粉の占める割合が高い。イネ科、カ

ヤツリグサ科、ヨモギ属が高率で出現する。樹木花粉ではブナ属、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属がやや優位で、モミ属、マツ属複維管束亜属などが伴われる。1層（試料14）では花粉密度が非常に低く、ほとんど検出されなかった。

#### 5) SD1768c 遺構（西側溝）

3層（試料15、試料16）では花粉密度は低い。このうち、試料15では、草本花粉の占める割合が高い。イネ科を主に、ヨモギ属、アカザ科ヒユ科、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節などが伴われる。樹木花粉ではブナ属、モミ属、マツ属複維管束亜属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ケヤキなどが出現する。回虫卵と鞭虫卵が検出された。試料16では花粉はほとんどされなかった。2層（試料17）では花粉密度が非常に低く、ほとんど検出されなかった。

#### 6) SD1767b 遺構（東側溝）

試料18、19では花粉密度が比較的高く、草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属が出現する。クワ科一イラクサ科が比較的高率で出現している。試料18において、鞭虫卵、肝吸虫卵を検出した。樹木花粉ではブナ属、コナラ属コナラ亜属が出現し、マツ属複維管束亜属、スギ、クリなどが伴われる。試料20では花粉密度は非常に低くほとんど検出されないが、回虫卵が検出された。

### 5 花粉分析から推定される植生と環境

#### 1) SD1768e 遺構（西側溝）

花粉密度が非常に低いことから、土壤生成作用や乾燥と湿润を繰り返す堆積環境により、花粉などの有機質遺体の分解が進んだことが考えられる。花粉がほとんど検出されないため植生の変遷は不明だが、わずかに出現したヨモギ属、イネ科、アカザ科ヒユ科などは陽当たりのよい乾燥を好む草本であることから、周辺はこれらの生育する乾燥した堆積環境であったと考えられる。よって、当該溝は常時滲水していたのではなく、乾燥と湿润を繰り返すような比較的乾燥した溝であったと推定される。

#### 2) SD1767e 遺構（東側溝）

下位より、3層ではヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科ヒユ科、チドメグサ亜科、キク亜科、クワ科一イラクサ科などの草本が生育するやや乾燥した環境が推定される。溝にはセリ亜科などの水生植物が生育していたとみられる。なお、鞭虫卵が検出されており、居住域周辺からの汚染の影響が考えられる。2層ではブナ属、コナラ属コナラ亜属、マツ属複維管束亜属を主とする森林が拡大したようである。

#### 3) SD1768a 遺構（西側溝）

花粉密度が非常に低く、土壤生成作用や乾湿を繰り返す堆積環境の下、花粉などの有機質遺体の分解が進んだことが考えられる。当該溝は常時滲水していたのではなく、乾湿を繰り返すような比較的乾燥した溝であったと推定される。

#### 4) SD1767a 遺構（東側溝）

下部の2層では、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属の草本が生育する陽当たりの良い乾燥した

環境であり、周辺地域にはブナ属、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属等の森林が分布がしていたと推定される。1層は土壤生成作用、乾湿を繰り返すような比較的乾燥した堆積環境であったと推定される。

#### 5) SD1768c 遺構（西側溝）

3層では、イネ科を主にヨモギ属、アカザ科ヒユ科、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節などの草本が生育し、周囲はやや乾燥した堆積環境が示唆される。溝は湿地から浅い滯水域を呈していたと推定される。回虫卵、鞭虫卵が検出され、溝には居住域からの汚染があったと考えられる。2層の時期は有機質が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返すような比較的乾燥した堆積環境であったと推定される。

#### 6) SD1767b 遺構（東側溝）

試料18、19ではヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科ヒユ科、クワ科イラクサ科などの草本が生育しやや乾燥した環境が推定される。試料20では、有機質が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返すような比較的乾燥した堆積環境が推定される。回虫卵、鞭虫卵、肝吸虫卵が検出されており、溝は居住域周辺からの汚染の影響があったと考えられる。

### 6まとめ

市川橋遺跡の溝内堆積物について花粉分析を行った結果、周囲はヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科ヒユ科やクワ科イラクサ科などの草本が生育するやや乾燥した環境が推定され、溝内は総体的に有機質の分解する乾燥ないし乾燥と湿润を繰り返すような堆積環境であったと推定された。寄生虫卵が検出され、居住域周辺からの汚染の影響が考えられた。

### 参考文献

- 金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原、新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法、角川書店、p.248-262.
- 島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態、大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集、60p.
- 中村 純（1973）花粉分析、古今書院、p.82-110.
- 中村 純（1980）日本産花粉の標識、大阪自然史博物館収蔵目録第13集、91p.
- 中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として、第四紀研究、13、p.187-193.
- 中村 純（1977）稲作とイネ花粉、考古学と自然科学、第10号、p.21-30.
- Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. Journal of Archaeological Science, 19, p.231-245.
- 金原正明（1999）寄生虫、考古学と動物学、考古学と自然科学、2、同成社、p.151-158.
- 金原正明・金原正子（1992）花粉分析および寄生虫、藤原京跡の便所遺構—藤原京7条1坊—、奈良国立文化財研究所、p.14-15.
- 金子清俊・谷口博一（1987）線形動物・扁形動物、医動物学、新版臨床検査講座、8、医歯薬出版、p.9-55.

## II 市川橋遺跡の珪藻分析

### 1 はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する单細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映していることから、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

ここでは、869年の陸奥国大地震の際の津波でできた崖みの堆積物について、珪藻分析から検討を行う。

### 2 試料

試料は、SX1779 の 1 層より採取された堆積物 1 点である。

### 3 方法

以下の手順で珪藻を抽出し、プレパラートを作成した。

- 1) 試料から乾燥重量 1 g を秤量
- 2) 10%過酸化水素水を加え、加温しながら 1 晚放置
- 3) 上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗
- 4) 残渣をマイクロビペットでカバーグラスに滴下して乾燥
- 5) マウントメディアによって封入し、プレパラート作成
- 6) 檢鏡・計数

検鏡は、生物顯微鏡によって 600~1000 倍で行った。計数は珪藻被殻が 100 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

### 4 結果

出現した珪藻は、中塩性種（汽水生種）2 分類群、貧塩性種（淡水生種）37 分類群である。計数された珪藻の学名と個数を表 2 に示す。また珪藻総数を基数とする百分率を算定したダイアグラムを図 3 に示す。

以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記し、珪藻の検出状況を示す。

#### 〔中塩性種〕

*Achnanthes brevipes*

#### 〔貧塩性種〕

*Amphora copulata*, *Aulacoseira sp.*, *Gomphonema parvulum*, *Hantzschia amphioxys*, *Navicula capitata*, *Navicula contenta*, *Navicula cryptocephala*, *Navicula cryptoteniella*, *Navicula elginensis*, *Navicula mutica*, *Navicula pupula*, *Navicula veneta*, *Navicula viridula* v. *rostellata*, *Neidium affine*, *Neidium ampliatum*, *Pinnularia appendiculata*, *Pinnularia*

*microstauron*, *Pinnularia subcapitata*,  
*Suriella ovata*

貧塩性種（淡水生種）で *Hantzschia amphioxys* の陸生珪藻、流水不定性種の *Navicula cryptotella*, *Navicula pupula* が比較的高率で出現し、*Navicula mutica* などの陸生珪藻が伴われる。

### 5 珪藻分析から推定される堆積環境

陸生珪藻が多く、流水不定性種、止水性種、流水性種が伴われることから、湿った環境を中心であるが、止水域、流水域となる時期もあったとみなされる。なお、海水性種は認められないことから、海水の影響については論じられない。

### 参考文献

Hustedt, F. (1937-1938) Systematische und ologische Untersuchungen über die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch. Hydrobiol. Suppl. 15, p.131-506.

Patrick, Reimer, C. W. (1966) The diatom of the United States, vol. 1. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No. 13, The Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 644p.

Lowe, R. L. (1974) Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh-water diatoms. 333p., National Environmental Research Center.

Patrick, Reimer, C. W. (1975) The diatom of the United States, vol.2. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 213p.

Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous

表2 市川橋遺跡における珪藻分析結果

分類群	SX1779 試料21 X - 6 1層
貧塩性種（淡水生種）	
<i>Achnanthes lanceolata</i>	1
<i>Amphora copulata</i>	3
<i>Amphora mantana</i>	1
<i>Amphora</i> sp.	2
<i>Fragilaria capucina</i>	1
<i>Frustulia vulgaris</i>	1
<i>Gomphonema angustatum</i>	1
<i>Gomphonema parvulum</i>	2
<i>Hantzschia amphioxys</i>	14
<i>Navicula americana</i>	1
<i>Navicula capitata</i>	2
<i>Navicula confervacea</i>	1
<i>Navicula contenta</i>	5
<i>Navicula cryptocephala</i>	4
<i>Navicula cryptotella</i>	9
<i>Navicula cuspidata</i>	1
<i>Navicula elginiensis</i>	3
<i>Navicula mutica</i>	7
<i>Navicula pupula</i>	8
<i>Navicula trivialis</i>	1
<i>Navicula veneta</i>	3
<i>Navicula viridula</i> v. <i>rostellata</i>	2
<i>Neidium affine</i>	5
<i>Neidium ampliatum</i>	3
<i>Nitzschia brevissima</i>	1
<i>Pinnularia appendiculata</i>	5
<i>Pinnularia borealis</i>	1
<i>Pinnularia gibba</i>	1
<i>Pinnularia interrupta</i>	1
<i>Pinnularia microstauron</i>	4
<i>Pinnularia nodosa</i>	1
<i>Pinnularia subcapitata</i>	4
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	1
<i>Rhopalodia gibberula</i>	1
<i>Stauroneis phoenicenteron</i>	1
<i>Suriella angusta</i>	1
<i>Suriella ovata</i>	2
中塩性種（汽水生種）	
<i>Achnanthes brevipes</i>	1
<i>Nitzschia levidensis</i> v. <i>victoriae</i>	1
合計	107
未同定	31
破片	92
試料 1 cm <sup>2</sup> 中の殻数密度	$1.4 \times 10^6$
完形殻保存率 (%)	60.0

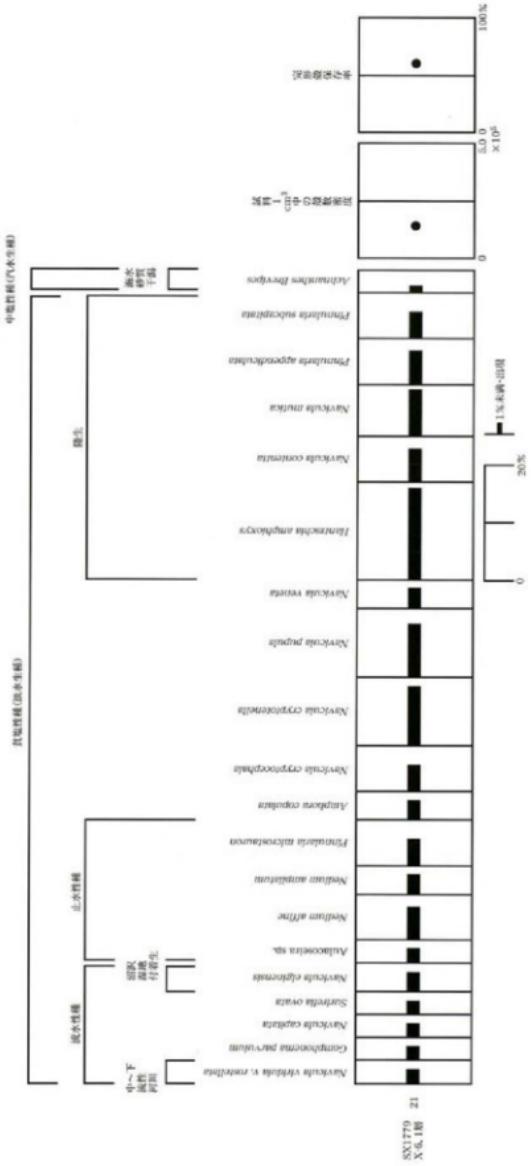


図3 多賀城市、市川橋遺跡に指ける主要珪藻ダイアグラム

*taxa.Diatom*, 10, p.35–47.

小杉正人 (1986) 陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－. 植生史研究, 第1号, 植生史研究会, p.29–44.

小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27, p.1-20.

安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 東北地理, 42, p.73–88.

伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p.23–45.

### III 市川橋遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）分析

#### 1 はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山、2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山、1984）。

ここでは、市川橋遺跡で検出された道路側溝の堆積物について植物珪酸体分析を行い、当時の農耕および周辺環境について検討する。

#### 2 試料

分析試料は、多賀城外の南北大路の道路測溝（西側 SD1768e、東側 SD1767e）の埋土から採取された試料 4 と試料 8 の計 2 点である。

#### 3 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスピーズ法（藤原、1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を  $105^{\circ}\text{C}$  で 24 時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約 1 g に対し直徑約  $40\mu\text{m}$  のガラスピーズを約 0.02 g 添加（電子分析天秤により 0.1 mg の精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法 ( $550^{\circ}\text{C}$ ・6 時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10 分間) による分散
- 5) 沈底法による  $20\mu\text{m}$  以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスピーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1 gあたりのガラスピーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスピーズ個数の比率をかけて、試料 1 g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位： $10^{-8}\text{g}$ ）をかけて、単位面積で層厚 1 cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は 2.94（種実重は 1.03）、ヨシ属（ヨシ）は 6.31、ススキ属（ススキ）は 1.24、ネザサ節は 0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は 0.75、ミヤコザサ節は 0.30 である（杉山、2000）。タケア科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

## 4 分析結果

### (1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

#### 〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ヨシ属、シバ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）

#### 〔イネ科－タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

#### 〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

### (2) 植物珪酸体の検出状況

南北大路の西側測溝SD1768eの埋土（試料4）および東側測溝SD1767eの埋土（試料8）について分析を行った。その結果、イネが多く検出され、ヨシ属、シバ属、ススキ属型、ウシクサ族A、ネザサ節型、クマザサ属型、ミヤコザサ節型なども検出された。イネの密度は、試料4では5,700個/gと高い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/gを超えており、また、試料8でも4,700個/gと比較的高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、各試料ともイネが優勢となっていることが分かる。

## 5 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

多賀城外の南北大路における測溝埋土の堆積当時は、周辺で稲作が行われていたと考えられ、そこから何らかの形で測溝内にイネの植物珪酸体が混入したと推定される。当時の測溝内もしくはその周辺は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、シバ属、ススキ属、ネザサ節などが生育する日当たりの良い比較的乾燥したところも見られたと推定される。

## 参考文献

- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）。考古学と植物学。同成社。p.189–213。  
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－。考古学と自然科学。9。p.15–29。  
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－。考古学と自然科学。17。p.73–85。

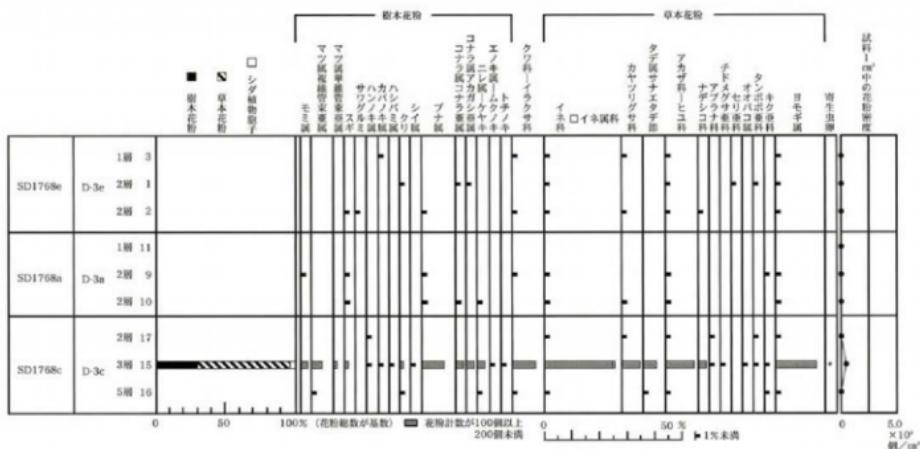


図1 多賀城市、市川橋遺跡、西側溝における花粉ダイアグラム

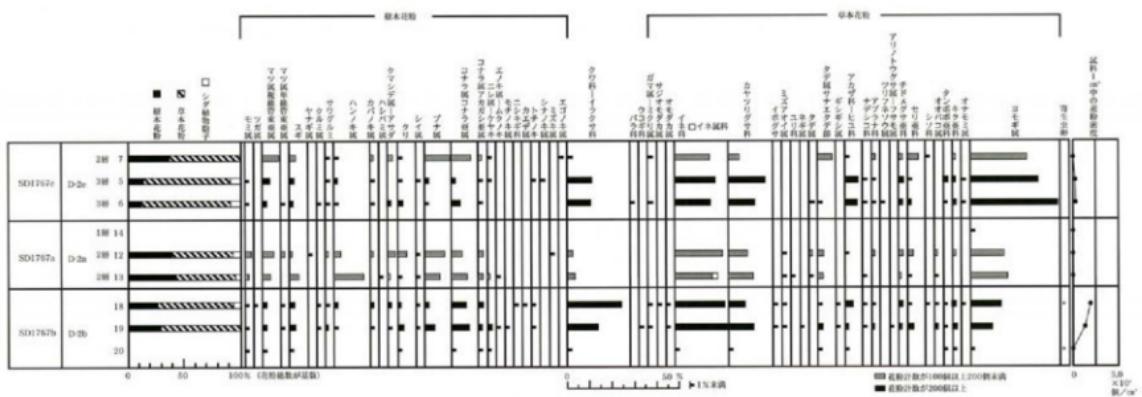


図2 多賀城市、市川橋遺跡、東側溝における花粉ダイアグラム

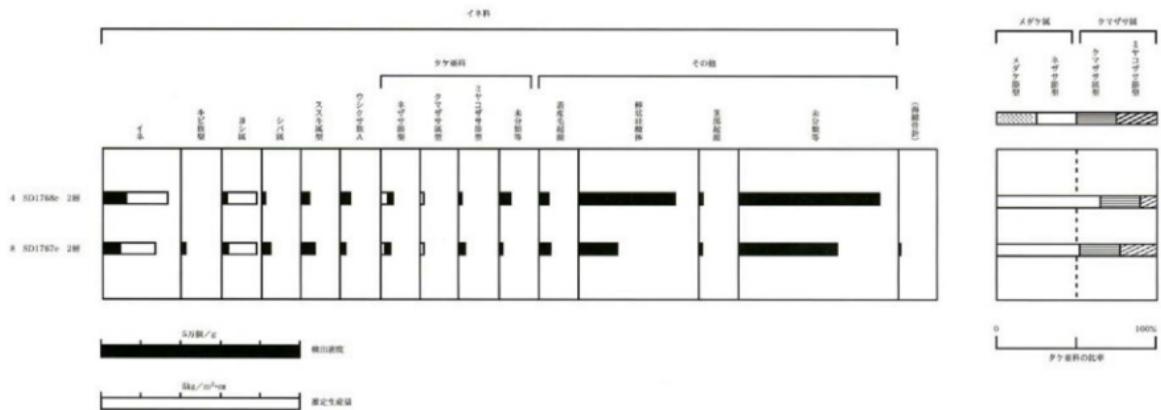
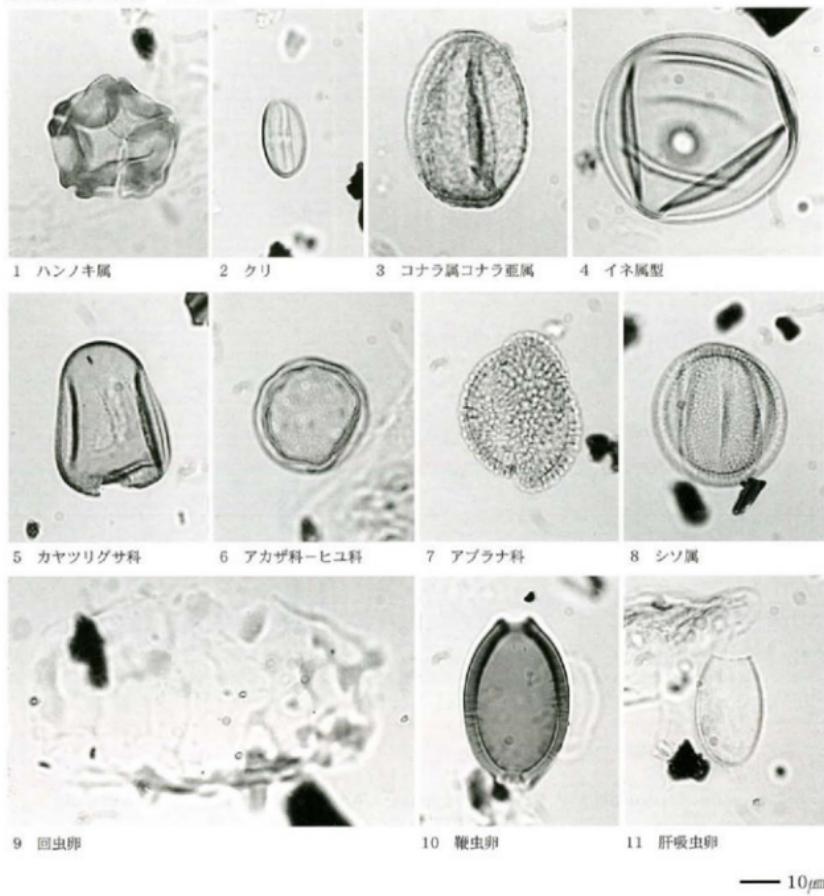


図4 多賀城市、市川橋遺跡における植物珪酸体分析結果

表 1 多賀城市、市川橋遺跡における花粉分析結果

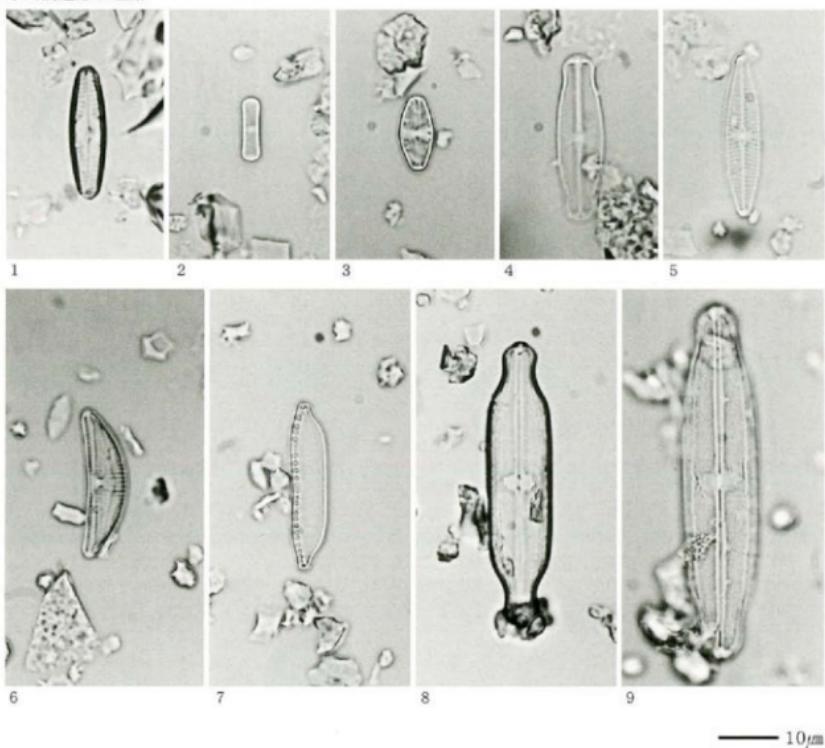
分類群	学名	SD176e			SD1767e			SD1768a			SD1767a			SD1768c			SD1767b			
		D-3e			D-2e			D-3a			D-2a			D-3c			D-2b			
		2層	1層	3層	2層	1層	2層	1層	2層	1層	2層	1層	3層	2層	1層	2層	1層	18	19	20
Arboreal pollen	樹木花粉																			
Abies	モミ属				2	2		2			5	3		5				1	1	1
Tsuga	シガ属																			1
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複管束系属			8	6	11				8	6	7	1	9	6	2				
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylon</i>	マツ属单管束系属				2					3		2		1	1					
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	1		5	5	4	1	1		2	7		2				11	10	2	
<i>Salix</i>	ヤナギ属									1										
<i>Juglans</i>	クルミ属					1											2			
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワダラクサ	1		2	3	1				2							4	4		
<i>Alnus</i>	ハンノキ属			3	2	1				5	23	1		1	7	3				
<i>Betula</i>	カバノキ属			1	1	1	2			2		1			7	1				
<i>Corylus</i>	ハシバミ属											1	1							
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシマ属-アサガ				4	3				6	2				7	3				
<i>Gustavia crenata</i>	クリ	1		1	8	1				7	1	2	1	6	10	2				
<i>Gastanoapis</i>	シイ属			2						1	1	1	1		2	1				
<i>Fagus</i>	ブナ属	1		4	1	17	1	3		15	12	14		10	17					
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidozonus</i>	コナラ属コナラ属	1		4	13	13		1		8	12	6		36	31	1				
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカシヤ属	1		1	1	2				4	4	5		11	6	2				
<i>Ulmus</i> Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ			1		1		1		2		4	2		8	1				
<i>Celtis Aphananthe aspera</i>	エノキ属ムクノキ									1	1				3					
<i>Ilex</i>	モチノキ属															1				
Celastraceae	ニシキギ科															1				
<i>Acer</i>	カエデ属															1				
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ			1									1	3	2					
<i>Tilia</i>	シナノキ属			1																
<i>Cornus</i>	ミズキ属												1							
<i>Syrax</i>	エゴノキ属						1													
Arboreal · Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉																			
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イライカ科	2	1	29	39	1	2			4	6	15	2	133	54	3				
Rosaceae	バラ科					1														
Araliaceae	ウコギ科														1					
Nonarboreal pollen	草本花粉																			
<i>Typha-Spartanium</i>	ガマ属-ミクリ属					1	1								1	3				
<i>Alisma</i>	サジオモギカ属														1					
<i>Sagittaria</i>	オモダガ属														1	3				
<i>Graniaria</i>	イネ科	1	4	4	48	61	23	15	7	35	29	44	5	4	120	91	5			
<i>Oryza</i> type	イネ属	3	2	44	46	7		2		14	19	11		2	40	45	3			
<i>Cyperaceae</i>	カヤツリグサ科																			
<i>Anemone keiskei</i>	イボクサ														1	1				
<i>Monochoria</i>	ミズアオイ属															1	2			
<i>Liliaceae</i>	ユリ科																			
<i>Allium</i>	ネギ属																1			
<i>Polygonum</i>	タデ属					1					2	1								
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>	タデ属サナエタデ属					1	9			4	4	7	1	2	8	1				
<i>Rumex</i>	ギンギク属	5	5	1	15	20	1	1	4	1		17	3	3	19	6	2			
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科			1		2	1					1				5	2			
Caryophyllaceae	ナデシコ科															3	1			
Cruciferace	アブラナ科					1	1	2			2		1	1	1	2	4			
Impatiens	ツリフネソウ属				1															
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノリザ科-サモジ																1			
Hydrocotylidae	チドメグサ属			5	6	2				3	2	1			9	5				
Apioideae	セリ科	1		2	5	7				4	1					2	10			
Labiatae	シソ科					1														
<i>Plantago</i>	オオバコ属										2	1	1			4	6			
Lactuceidae	タンポポ科	1		5	2							1		1	2	3	1			
Asteroidae	キク属			3	6	2	2			2		1	2	8	8	1				
<i>Xanthium</i>	オナモミ属			2	1											1				
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	3	2	1	81	152	38	15	13	26	29	1	24	8	3	76	39	12		
Fern spore	シダ植物胞子																			
Monocolate type spore	單孢子植物	4	8	3	13	16	5	1	2	3	5	1	7	3	2	14	5	3		
Tritiate type spore	三疊植物胞子	1		6	10					6					1	5				
Arboreal pollen	樹木花粉	3	3	1	36	49	57	4	6	0	70	75	0	53	4	1	120	108	11	
Arboreal · Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	2	1	29	40	1	2	0	0	4	6	0	15	2	0	133	55	3	
Nonarboreal pollen	草本花粉	11	15	8	208	305	93	33	26	0	97	93	1	112	19	14	305	242	25	
Total pollen	花粉総数	14	20	10	273	394	151	39	32	0	171	174	1	180	25	15	558	405	39	
	試料1g中の花粉密度	1.1	1.4	8.0	2.2	3.2	1.1	2.8	2.4	0.0	1.2	1.3	0.7	1.3	1.9	1.1	2.0	1.4	3.3	
		$\times 10^6 \times 10^6 \times 10^6 \times 10^6 \times 10^6 \times 10^6 \times 10^6$																		
Unknown pollen	未同定花粉	0	0	0	7	8	7	1	2	0	6	7	0	11	2	1	6	10	2	
Fern spore	シダ植物胞子	4	9	3	19	26	5	1	2	0	9	5	1	7	3	3	19	5	3	
Helminth eggs	寄生虫卵																			
<i>Ascaris (lumbrocoidea)</i>	回生卵															1				1
<i>Trichuris (trichiura)</i>	鞭虫卵						1									1				1
<i>Gloconchis sinensis</i>	肝吸虫卵															1				
Total	計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	1
	糞便中の寄生虫卵数	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	1.4	0.0	0.8
		$\times 10$														$\times 10$				
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

市川橋遺跡の花粉・寄生虫卵



— 10 $\mu$ m

市川橋遺跡の珪藻



— 10 $\mu$ m

1. *Pinnularia appendiculata*
2. *Navicula contenta*
3. *Navicula mutica*
4. *Navicula pupula*
5. *Navicula Cryptotenella*
6. *Amphora copulata*
7. *Hantzschia amphioxys*
8. *Neidium affine*
9. *Neidium ampliatum*

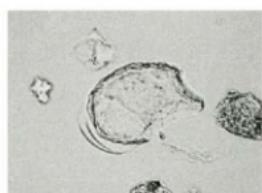
植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真



イネ  
試料 4



イネ（側面）  
試料 4



ヨシ属  
試料 4



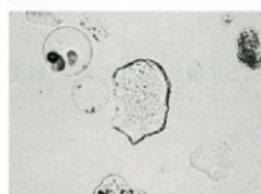
ススキ属型  
試料 8



シバ属  
試料 4



ネザサ節型  
試料 8



クマザサ属型  
試料 8



棒状珪酸体  
試料 8



イネ科の茎部起源  
試料 8

— 50μm

## 附章3 市川橋遺跡出土人骨

東北大学大学院医学系研究科人体構造学分野

澤田純明・川久保善智・百々幸雄

1993年および1998年～2001年の宮城県多賀城市市川橋遺跡の発掘調査において、河床跡から平安時代（10～11世紀）に帰属すると思われる数体分の人骨が発見された。すべて散乱状態で出土しており個体の同定は難しい。ここでは個々の骨について部位別に人類学的所見を報告する。記載した骨の番号は発掘の調査担当者によって付された注記と同じである。主な骨の計測は Martin の方法（馬場, 1991）、顔面平坦度計測は Yamaguchi (1973) に従った。また得られたデータをもとに、市川橋人骨と日本列島の人類集団との関係について若干の考察を試みた。

### 頭蓋

頭蓋の計測値を表1、顔面平坦度を表2、形態小変異を表3にまとめた。

#### R-0467・R-0468・R-0469・R-0470

複数の骨番号からなるが1個体の脳頭蓋である。顔面部と左側頭骨および頭頂骨の左半を欠く。腐食による骨質の劣化が著しい。年齢・性別は不明。

#### R-0546（写真1：上）

遺存状態：下頸を除くほぼ完全な頭蓋。右頬骨と両側の後頭頸のみが欠損する。歯は両側の第一小白歯と右第二小白歯の歯根が植立して残存する。

年齢：蝶形骨後頭骨縫合が癒合しており成人であることは間違いない。頭蓋の三主縫合の閉塞状態をみると老齢には達しておらず、壮年（20～30代）から熟年（40～50代）程度と思われる。

性別：眉間や乳様突起、外後頭隆起の形状から男性的な印象を受けるが、断定できるほどにはっきりした性徴は認められない。

形態学的特徴：頭蓋の上面観は前方が狭い卵円形で、前頭結節の発達は弱い。三主縫合の走向は比較的複雑である。頭蓋長幅示数は79.2と短頭に近い中頭を示す。後面観は各辺が緩やかな弧を描く五角形で、頭頂結節が軽度に発達している。乳様突起は他の出土頭蓋に比べるとやや大きく鉛直方向に突出する。外後頭隆起は軽度に発達している。側面から見ると、鼻根部の陥凹はごく弱く、眉間にわずかに膨隆するが眉弓は平坦である。前額部の立ち上がりは弱い。歯槽性突頸の傾向が認められる。顔面では、眼窩は円形に近い方形を呈し、眼窩示数は81.0で中眼窓型を示す。右眼窓上縁に眼窓上孔が認められるが左は切痕である。鼻骨は狭く平坦である。鼻示数は52.2で広鼻型である。犬歯窓は左側に浅く認められるが右側は破損のため不明。

傷病：左第二・第三大白歯の歯槽が閉鎖しており、齶歯あるいは歯槽膿漏の可能性がある。

表1 市川橋遺跡出土頭蓋の計測値と示数

Martin's No.		R546	R547	R548	R549	R553～ 558	R1631～ 1634
		壮年～ 老年	壮年～ 老年	10代後半	壮年～ 老年	壮年～ 老年	壮年～ 老年
		男性？	男性？	女性？	男性？	男性	男性？
1	Maximum cranial length	脳頭蓋最大長	173	175	181	-	(179) (183)
5	Basion-nasion length	頸蓋底長	95	100	97	-	-
8	Maximum cranial breadth	脳頭蓋最大幅	137	130	133	-	(149) (148)
8／1	Cranial index	頸蓋長幅示数	79.2	74.3	73.5	-	(83.2) (80.9)
9	Minimum frontal breadth	最小前額幅	92	86	72	-	(95) 93
9／8	Transversaler frontoparietal index	横前頸頭頂示数	67.2	66.2	54.1	-	-
17	Basionbregma height	バジオン・ブレグマ高	128	130	130	-	-
17／1	Cranial length-height index	頸蓋長高示数	74.0	74.3	71.8	-	-
17／8	Cranial breadth-height index	頸蓋幅高示数	93.4	100.0	97.7	-	-
40	Basion-prosthion length	顎長	90	96	97	-	-
45	Bizygomatic breadth	蝶骨弓幅	129	128	-	-	-
48	Upper facial height	上顎高	66	63	61	-	-
48／45	Kollman's upper facial index	コルマン上顎示数	51.2	49.2	-	-	-
48*	Upper facial height (Howells)	上顎高 (Howells)	63	60	58	-	-
51	Orbital breadth	眼窩幅	42	43	41	-	-
52	Orbital height	眼窩高	34	35	33	-	-
52／51	Orbital Index	眼窩示数	81.0	81.4	80.5	-	-
54	Nasal breadth	鼻幅	24	24	26	-	-
55	Nasal height	鼻高	46	48	46	-	-
54／55	Nasal index	鼻示数	52.2	50.0	56.5	-	-
61	External palate breadth	上顎歯槽突起幅	-	-	60	-	65
65	Bicondylar breadth	下顎関節突起幅	-	-	-	116	-
69	Height of mandibular symphysis	オトガイ高	-	-	-	30	-
71a	Least breadth of ramus	最も小下顎枝幅	-	-	-	32	-

計測値の単位はmm; 括弧内は参考値

表2 市川橋遺跡出土頭蓋の顔面平坦度計測

		R546	R547	R548	R1631~1634
Frontal chord (FC)	前頭骨弦長	96.9	96.7	90.2	(94.5)
Frontal subtense (FS)	前頭骨垂線長	16.9	15.6	13.2	(10.0)
FS:FC	前頭骨平坦示数	17.4	16.1	14.7	(10.6)
Simotic chord (SC)	鼻骨弦長	5.4	4.1	7.6	-
Simotic subtense (SS)	鼻骨垂線長	1.3	1.6	1.2	-
SS:SC	鼻骨平坦示数	24.1	39.0	16.4	-
Zygomatic chord (ZMC)	頬上頸骨弦長	-	-	93.0	-
Zygomaticillary subtense (ZMS)	頬上頸骨垂線長	-	-	22.0	-
ZMS:ZMC	頬上頸骨平坦示数	-	-	23.7	-

計測値の単位はmm;括弧内は参考値

## R-0547 (写真1:下)

遺存状態：下顎を除くほぼ完全な頭蓋。右上頸骨歯槽突起の臼歯部、右頬骨、右側頭骨頬骨突起、および両側の乳様突起の下半が欠損する。歯はすべて脱落している。

年齢：蝶形骨後頭骨縫合が癒合しており成人であることは間違いない。歯が残存していないため年齢段階の推定は難しいが、頭蓋の三主縫合の閉塞状態をみると老齢には達しておらず、壮年から熟年程度と思われる。

性別：眉間と眉弓、および項平面の形状から男性的な印象を受ける。

形態学的特徴：頭蓋の上面観は梢円に近い卵円形で、前頭結節の発達は弱い。三主縫合の走向は比較的複雑である。頭蓋骨長幅示数は74.3と中頭に近い長頭を示す。後面観は、頭頂結節と矢状縫合部が突出し、側面がほぼ船底に下降する五角形である。外後頭隆起の発達は弱いが項平面に若干の凹凸が認められる。側面観では、鼻根部の陥凹はごく浅い。眉間と眉弓が軽度に膨隆している。顔面では、眼窓上縁がやや直線的であるが、全体として眼窓は円形に近い方形を呈する。眼窓示数は81.4で中眼窓型を示す。両眼窓上縁に眼窓上孔が認められる。鼻骨はごく狭く、正中部が前方にやや突出する。鼻示数は50.0で中鼻型である。犬歯窓はない。

傷病：左第二小白歯・第一大臼歯の歯槽が閉鎖しており、齶歯あるいは歯槽膿漏の可能性がある。

## R-0548 (写真2:上)

遺存状態：下顎を除くほぼ完全な頭蓋。右頬骨側頭突起と右側頭骨頬骨突起、および両側の後頭頸が欠損する。歯は大臼歯のみが残存する。

年齢：蝶形骨後頭骨縫合は癒合しておらず、第二大臼歯の萌出は完了しているが第三大臼歯は未萌出であることから、10代後半と推定される。

性別：未成年であるため性別の判定は難しいが、平坦な眉間と眉弓、小さな乳様突起、未発達の外後頭隆起などの特徴から女性的な印象を受ける。

形態学的特徴：頭蓋の上面観は梢円に近い卵円形で、前頭結節が軽度に発達している。三主縫合の走

表3 市川橋出土頭蓋の形態小変異の出現状況

	R-546	L	R-547	L	R-548	L	R-549	L	R-553～559		R-560～563		R-1631	
									R	L	R	L	R	L
Metopism	前頭縫合	-	-	-	-	-	/	-	-	/	-	-	-	-
Supraorbital nerve groove	眼窩上神経溝	-	-	-	+	-	-	/	/	/	-	-	/	-
Supraorbital foramen	眼窩上孔	+	-	+	+	+	+	/	/	+	+	-	/	-
Ossicle at lambda	ラムダ小骨	+	-	-	-	+	-	/	-	-	-	/	-	-
Blasterionic suture trace	横後頭縫合痕跡	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	/	/	-
Asterionic bone	アステリオン小骨	+	-	-	-	-	-	/	/	/	-	-	/	-
Occipito-mastoid wormians	後頭乳突縫合骨	-	-	-	-	-	-	/	/	/	-	-	/	-
Parietal notch bone	頭頂切痕骨	+	-	-	-	+	-	/	/	/	-	-	/	-
Condylar canal patent	頸管側存	+	+	+	+	+	+	/	/	/	/	/	/	/
Precondylar tubercle	前頸結節	/	/	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/
Paracondylar process	傍頸突起	-	-	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	/
Hypoglossal canal bridging	舌下神經管二分	-	-	-	-	-	-	/	/	-	/	/	/	/
Foramen of Huschke	フュケ孔	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-
Foramen ovale incomplete	卵円孔形成不全	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-
Foramen of Vesalius	ベサリウス孔	-	-	+	+	-	-	/	/	+?	-	-	-	-
Pterygo-spinous foramen	翼棘孔	/	-	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	-
Medial palatine canal	内側口蓋管	-	-	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	-
Transverse zygomatic suture trace	横顎骨縫合痕跡	/	-	/	-	/	-	/	/	/	/	/	/	/
Jugular foramen bridging	頸静脈溝二分	-	-	+	-	-	-	/	/	/	/	/	/	/
Sagittal sinus groove left	矢状洞溝(左)	-	-	-	-	-	-	/	-	-	/	-	+	-
Clinoid bridging	床突起間骨橋	-	-	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	/
Mylohyoid bridging	頸舌骨筋神經溝骨橋	/	/	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	/

+: present, -: absent, ?: unknown

向は比較的複雑である。頭蓋骨長幅示数は73.5と長頭を示す。後面觀は、円形に近い五角形である。外後頭隆起、項平面ともに発達していない。乳様突起は小さい。側面觀では、鼻根部は平坦で、眉間と眉弓は発達せず、前額面がほぼ垂直に立ち上がる。顔面では、眼窩は円形に近い方形であり、眼窩示数は80.5で中眼窓型を示す。両眼窩上縁に眼窩上孔が認められる。鼻骨は狭く平坦である。鼻示数は56.5で

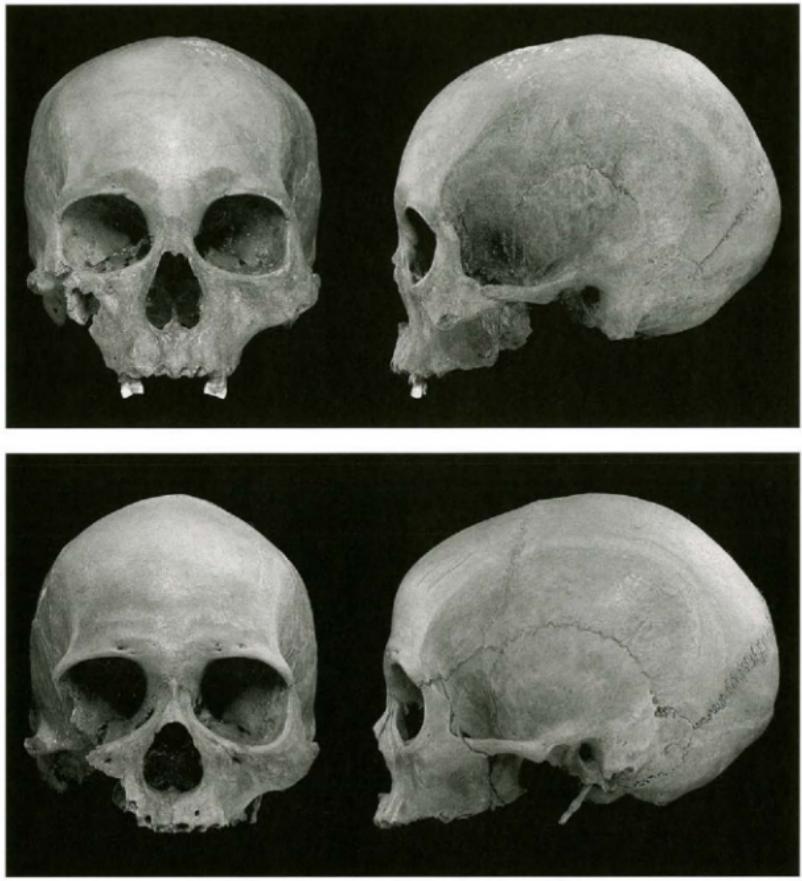


写真1 上：R-0546 頭蓋 下：R-0547 頭蓋

広鼻型である。犬歯窩はない。

#### R-0549

遺存状態：ほぼ完全な下顎骨だが両側の下顎角周辺が破損している。歯は左犬歯、左右の全小白歯と第一・第二大臼歯および右第三大臼歯が残存する。

年齢：第三大臼歯の萌出が完了しているため成人である。咬耗は軽度であり、壮年から熟年程度と推定される。

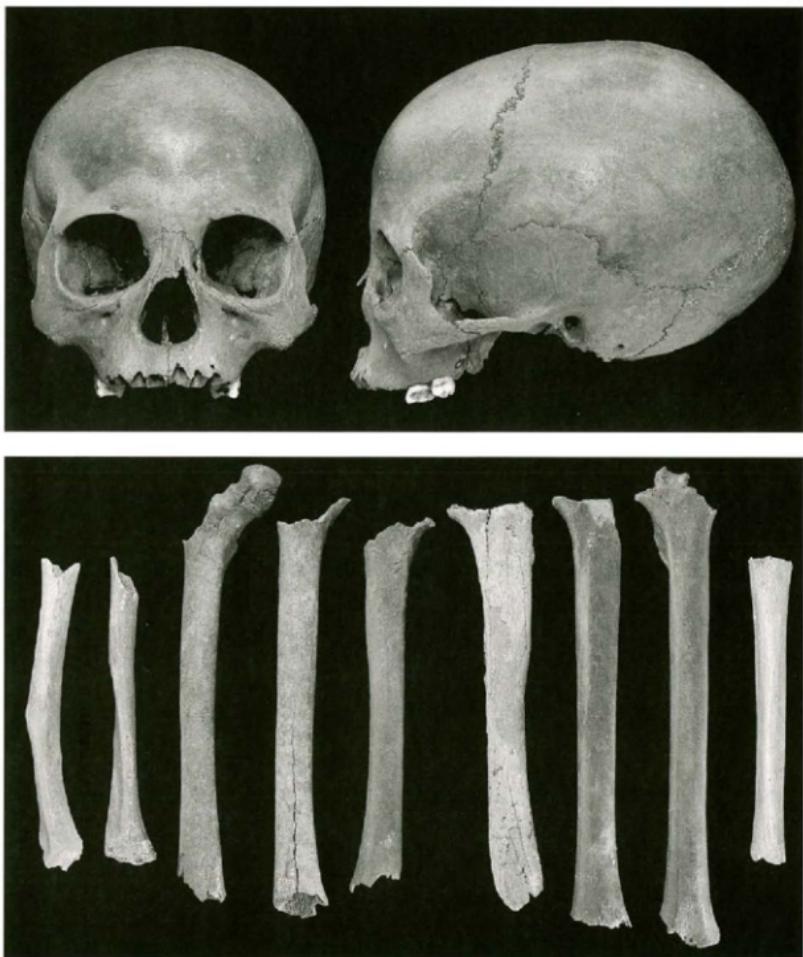


写真2 上：R-0546 頭蓋

下：(左から) R-0415・R-0693 左上腕骨、R-0583・R-56・R-0569 右大腿骨、  
R-0472・R-0585・R-0586 左大腿骨、R-0509 右脛骨

性別：下頸体が厚く頑丈であり、またオトガイ三角が前方に突出していることから男性的な印象を受ける。

形態学的特徴：左側に 2 個のオトガイ孔が認められる。筋突起の前縁はほぼ垂直に立ち上がり、下頸枝の幅はさほど広くない。切歯 2 歯が萌出しておらず、歯槽の形状からみて両側の中切歯もしくは側切歯の先天性欠如と思われるが、萌出歯が脱落しているため同定は不可能である。藤田（1995）によれば、日本人では中切歯で 1.22%、側切歯で 0.69% の欠如率の報告があるという。右下頸角の破損部付近には小型哺乳類とみられる嚙痕が観察される。左下頸角の破損部は、下頸体下部から下頸枝後縁にかけて削ぎ取ったかのような形状を呈して奇妙な印象を与えるが、その成因は判然としない。

傷病：左側の臼歯部に歯槽膿漏と思われる軽度の骨吸収が認められる。

#### R-550

右頬骨と右上顎骨頬骨突起破片。

#### R-0551

右上顎第二小白歯の遊離歯。歯頭部遠心面に象牙質にまで達する齲歎が認められる。

#### R-0552

右上顎第一小白歯の遊離歯。歯頭部遠心面に象牙質にまで達する齲歎が認められる。出土状況から R-0549～R-0552 は 1 個体の可能性がある。

#### R-0553・R-0554・R-0555・R-0556・R-0557・R-0558

遺存状態：複数の骨番号からなるが 1 個体の脳頭蓋である。顔面骨の大部分を欠く。

年齢：頭蓋の大きさと三主縫合の閉塞状態からみて壮年から熟年程度と推察される。

性別：乳様突起と外後頭隆起から項平面にかけての形状から男性と思われる。

形態学的特徴：頭蓋の上面観は前方が狭い卵円形で、前頭結節の発達は弱い。三主縫合の走向は他の出土頭蓋に比べて単純である。頭蓋骨長幅示数は 83.2 と短頭を示す。后面観は、上辺が緩やかな弧を描き、側面が鉛直に下降する方形に近い五角形である。乳様突起は比較的大きく鉛直方向に突出する。外後頭隆起はやや発達しており、項平面にも凹凸が認められる。側面から見ると、鼻根部の陥凹は観察不可能であるが、眉間と眉弓はやや膨隆している。前額部の立ち上がりは弱い。顔面では、眼窩上縁が緩やかな弧を描き、眼窩上孔が両側とも認められる。

#### R-0560・R-0561・R-0562・R-0563

遺存状態：複数の骨番号からなるが 1 個体の脳頭蓋である。骨質の保存状態は悪く骨表面の剥落が随所に認められる。

年齢：頭蓋の大きさからみて成人段階に達していると思われる。

性別：乳様突起が比較的大きく鉛直方向に突出していることから男性的な印象を受ける。

#### R-564～R-570

ヒトの頭蓋の小破片群。1個体に属するかどうかは不明。

#### R-0580・R-0581

左右の頭頂骨であり、複数の骨番号からなるが1個体に属する。年齢・性別は不明。

#### R-1631・R-1632・R-1633・R-1634

遺存状態：複数の骨番号からなるが1個体の頭蓋である。両側の鼻骨、左上顎骨前頭突起・側頭突起、左頸骨、後頭骨の底部と外側部、蝶形骨の体が欠損する。歯は両側の第一・第二大臼歯が残存する。下頸はなし。

年齢：第三大臼歯の歯槽が開放していることから成人段階には達している。第一・第二大臼歯の咬耗がやや進んでおり一部に象牙質が露出しているが、頭蓋の三主縫合は内・外板とともに閉塞しておらず、壮年から熟年程度と思われる。

性別：乳様突起や項平面の形状から男性的な印象を受ける。

形態学的特徴：頭蓋の上面観は卵円形である。前頭結節は発達していない。三主縫合の走向は他の出土頭蓋に比べて簡単である。頭蓋骨長幅示数は、80.9と中頭に近い短頭を示す。後面観は、円形に近い五角形で最大幅はやや下に位置する。項平面が軽度に発達している。乳様突起は比較的大きく、鉛直方向に突出する。側面観では、眉間と眉弓の膨隆は弱い。鼻根部の観察は不可能。軽度の歯槽性突頭が認められる。眼窩は完全に保存されていないが、各辺がゆるやかな弧を描く方形を呈する。左眼窩上縁に眼窩上孔が認められるが、右側は切痕である。

傷病：前頭骨右眼窩面にクリブラ・オルビタリア（Cribra orbitalia）が認められる。クリブラ・オルビタリアとは栄養・健康状態などに起因する鉄欠乏性貧血が主原因であるとされる多孔性の骨変化である。また右上顎第一大臼歯の歯頭部遠心側に齙蝕が認められる。

#### 椎骨・肋骨

##### R-40・R-0268・R-0280

R-40はほぼ完形の環椎、R-0268は完形の上位胸椎、R-0280は左上位肋骨である。

#### 四肢骨

四肢骨の計測値は表4にまとめた。

##### R-0699

左鎖骨。骨端が欠損しており、骨幹部のみが残存する。

##### R-0415（写真2：下）・R-0510・R-0693（写真2：下）

R-0510は右上腕骨、他は左上腕骨で、全て骨幹部のみが残存する。いずれも三角筋祖面の発達は弱い。

表4 市川橋遺跡出土四肢骨の計測値と示数

Humerus			R-0510(L)	R-0693(R)
Martin's No.				
5	Maximum diameter of mid-shaft	中央最大径	(23)	(19)
6	Minimum diameter of mid-shaft	中央最小径	(18)	(14)
6 / 5	Index of cross-section	骨体横断示数	(78)	(74)
7	Least circumference of the shaft	骨体最小周	62	53

Femur			R-56(R)	R-0471(R)	R-0569(R)
Martin's No.					
6	A-P diameter of midshaft	骨体中央矢状径	25	30	22
7	M-L diameter of midshaft	骨体中央横径	26	28	25
6 / 7	Pilasteric index	骨体中央横断面示数	97	107	88
8	Circumference of mid-shaft	骨体中央周	80	88	75

Martin's No.			R-0583(R)	R-0584(R)	R-0574(R)
6	A-P diameter of midshaft	骨体中央矢状径	23	22	22
7	M-L diameter of midshaft	骨体中央横径	25	27	25
6 / 7	Pilasteric index	骨体中央横断面示数	95	81	90
8	Circumference of mid-shaft	骨体中央周	77	78	73

Martin's No.			R-472(L)	R-0545(L)	R-0585(L)
6	A-P diameter of midshaft	骨体中央矢状径	26	18	24
7	M-L diameter of midshaft	骨体中央横径	28	20	27
6 / 7	Pilasteric index	骨体中央横断面示数	95	93	88
8	Circumference of mid-shaft	骨体中央周	88	60	79

Martin's No.			R-0586(L)	R-0745(L)	R-0746(L)
6	A-P diameter of midshaft	骨体中央矢状径	28	29	22
7	M-L diameter of midshaft	骨体中央横径	27	27	23
6 / 7	Pilasteric index	骨体中央横断面示数	105	108	96
8	Circumference of mid-shaft	骨体中央周	85	82	70

Tibia					
Martin's No.			R-0416(R)	R-0509(R)	R-0511(L)
8	A-P diameter of midshaft	中央最大矢状径	31	31	20
9	M-L diameter of midshaft	中央横径	19	21	13
9 / 8	Index of cross-section	中央横断示数	62	67	65
10	Circumference of mid-shaft	骨体中央周	80	83	55
10b	Minimum circumference	骨体最小周	73	74	50

計測値の単位はmm; 括弧内は参考値

R-0693は極めて華奢であり、女性か未成年と思われる。計測可能なR-0510とR-0693の骨体横断示数はそれぞれ79.4と73.2で、強い扁平性を示すとはいえない。R-0415は骨幹中央部に骨折の治癒痕が認められる。

R-56(写真2:下)・R-0471・R-0569(写真2:下)・R-0583(写真2:下)・R-0584・R-0747・R-0472(写真2:下)・R-0545・R-0585(写真2:下)・R-0586(写真2:下)・R-0745・R-0746

前6者は右大腿骨、他は左大腿骨である。R-0583のみ骨頭が残存するが、他は全て両端を欠く。R-0586は殿筋粗面から粗線にかけて強く発達しており骨幹部後面がやや柱状性を呈するが、他の大腿骨では粗線の発達は軽度から中程度であり骨幹部は柱状性を示さない。R-0545は小さく華奢であり未成年である可能性が高い。

R-0416・R-0509(写真2:下)・R-0511

前2者は右脛骨、後者は左脛骨である。全て骨端を欠いており骨幹部のみが残存する。R-0416の脛示数は62.4と扁平性であるが、中央部の横断形は三角であり縄文時代人に多く見られる扁平脛骨とは異なる。他の脛骨は中脛に属する。R-0511は小さく華奢であり未成年と考えられる。

#### 市川橋遺跡出土人骨と日本列島の他集団との比較

成人男性と思われる完形頭蓋2個体(R-0546、R-0547)について、頭蓋の計測値12項目(表1)と顎面平坦度計測値4項目(表2)の計16項目に基づき、日本列島の人類集団との簡単な比較を行なった。比較に用いた人種集団は縄文時代人、北海道統縄文時代人、西日本弥生時代人、東日本古墳時代人、鎌倉時代人、府内江戸時代人、北東北江戸時代人、北海道アイヌ、関東現代人、東北現代人の10集団である。これらの10集団と市川橋人骨の間で、簡便な多変量解析法であるベンローズの形態距離を算出した(表5)。比較集団のデータは川久保(2004)による。

R-0546頭蓋と他の集団との間の距離を比較すると、府内江戸時代人に最も近く、関東現代人と東北現代人、北東北江戸時代人と続く。R-0547頭蓋と他の集団との間の距離を比較すると、R-0546頭蓋と同様に府内江戸時代人に最も近く、次いで東北現代人、北海道アイヌ、北東北江戸時代人と並んだ。両個体とも縄文時代人や北海道統縄文時代人ととの距離は大きい。近藤・百々(1996)は、ほぼ同時代と思われる宮城県多賀城市山王遺跡から出土した頭蓋(No.2333)について、縄文時代人、東日本古墳時代人、北海道アイヌ、現代日本人との間のベンローズの形態距離を計算し、No.2333頭蓋との距離が現代日本人、北海道アイヌ、東日

表5 ベンローズの形態距離

	R-0546	R-0547
縄文時代人	0.9958	1.1875
統縄文時代人	1.0320	1.0856
西日本弥生時代人	0.8089	0.9847
東日本古墳時代人	0.8656	0.9736
鎌倉時代人	0.9040	0.8692
府内江戸時代人	0.7293	0.7689
北東北江戸時代人	0.7638	0.8616
北海道アイヌ	0.8212	0.8540
関東現代人	0.7439	0.8685
東北現代人	0.7365	0.8238

本古墳時代人、縄文時代人の順に近いことを報告している。また頸蓋の非計測的形態小変異をみると、縄文時代人や北海道アイヌで出現頻度が高い舌下神經管二分は市川橋人骨には認められず、一方縄文時代人やアイヌに比べて現代および歴史時代の本土和人で出現頻度が高い眼窩上孔は、眼窩上縁が観察できた市川橋人骨6体のうち5体に認められた。充分な個体数ではないため以上の結果の解釈には慎重であるべきだが、多賀城近辺の平安時代人が、縄文時代人や北海道アイヌよりも歴史時代以降の本土和人に近い頭蓋形態を備えていたことは指摘しておいてもよいだろう。

### まとめ

市川橋遺跡の河床跡から、少なくとも9体分の頭蓋を含む散乱人骨が出土した。壮年から熟年程度の成人が多いが、未成年の骨も含まれている。数体の人骨には、齶齒、歯槽膿漏、クリブラ・オルビタリア、骨折などの傷病痕が認められた。また頭蓋の形態学的特徴は、縄文時代人や北海道アイヌよりも歴史時代ないし現代の本土和人に近いことが示された。

### 謝辞

人骨の整理と観察に際し、奥松島縄文村歴史資料館の菅原弘樹学芸員、東北大学大学院歯学系研究科鈴木敏彦助手、同医学系研究科坂上と弘助手・瀧川涉助手、同医学系研究科博士課程大学院生前田朋子氏・佐伯史子氏からご助力を頂いた。記して感謝申し上げたい。

### 文献

- 馬場悠男（1991）「人体計測法Ⅱ人骨計測法」、雄山閣、東京。  
藤田恒太郎（1995）「歯の解剖学 第22版」、金原出版、東京。  
川久保善智（2004）東日本住民における顔面平坦度の地域差と時代変化、東北大学大学院医学系研究科  
博士論文。  
近藤 修・百々幸雄（1998）山王遺跡多賀城前地区出土人骨、宮城県文化財調査報告書「山王遺跡IV」,  
pp.158-168.  
Yamaguchi, B. (1973) Facial flatness measurements of the Ainu and Japanese crania. Bull. Nat.  
Sci. Mus. 16: 161-171.

附章四 市川橋遺跡出土の文字資料について

## 例言

- 一、本章は、市川橋遺跡A区・D区から出土した木簡・漆紙文書・墨書き器についてまとめたものである。
- 二、本章二節の執筆は新井重行氏（東京大学史料編纂所）がおこなつた。
- 三、資料の整理から調査にいたるまで平川南氏（国立歴史民俗博物館教授）、三上喜孝氏（山形大学助教授）による指導・ご教示いただいた。記して感謝の意を表したい。

## 目次

### 例言

- 一 木簡について
- 二 漆紙文書について
- 三 墨書き器について

## 一 木簡について

### 凡例

- 一、道路側溝（南北大路・東西大路・東一道路・東〇道路・西〇道路・西一道路・南一道路）、河川、その他の遺構（溝・土壤・井戸）とともにまとめ、各遺構内で文書（文書様木簡・記録簡）、付札（貢進物荷札・付札）、その他の木簡の順で記載した。

- 一、各木簡については、法量（長さ・幅・厚さ）、欠損している場合は括弧付きで示す）、型式、出土遺構及び層位をまず記載し、続いて軽文、形状を述べ、適宜解説を加えた。出土遺構の詳細については木簡を参照されたい。なお、木簡番号については、市川橋遺跡出土木簡の通し番号である。

一、型式番号は以下の通りである。

- 011 短冊形。
  - 019 一端が方頭・他端は折損・腐食で原形が失われたもの。
  - 031 長方形の材の両端の左右に切り込みを入れたもの。
  - 032 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れたもの。
- 033 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもの。
- 039 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損あるいは腐食して不明なもの。

051 長方形の材の一端を尖らせたもの。

059 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は欠損。

061 用途の明瞭な木製品に墨書きのあるもの。

065 用途未詳の木製品に墨書きのあるもの。

081 折損、腐食その他によって原形の判明しないもの。

090 削屑。

一、硁文に加えた符号は木簡学会で定めたものを使用し、以下の通りである。

「」木簡の上端・下端が原形をとどめていることを示す。

<木簡の上端・下端などに切り込みのあることを示す。

○穿孔のあることを示す。

■抹消により判読困難なもの。

□□□欠損文字のうち、字数の数えられないもの。

□□欠損文字のうち、字数の数えられないもの。

『』異筆、追筆であることを示す。

・木簡の表裏に文字のある場合、その区別を示す。

〔〕校訂に関する注で、原則として硁文の右傍に付し、本文に置き換えるべき文字を含む場合。

力 筆者、編者が加えた注で疑問の残るもの。

一、掲載した写真および実測図の縮尺は特に断らない限り約1／2である。

一、当教育委員会発行の略報や『木簡研究』(木簡学会)などで既報告のものあるが、報告内容が異なる場合は本報告内容が優先するものとする。

## 第四九号木簡

659×(38)×9 011 SD1767c

・「

○ 燐城団解 申進上兵士事 合九人 刑部子立



道□□□人足

道丈部竹万呂

」

・「

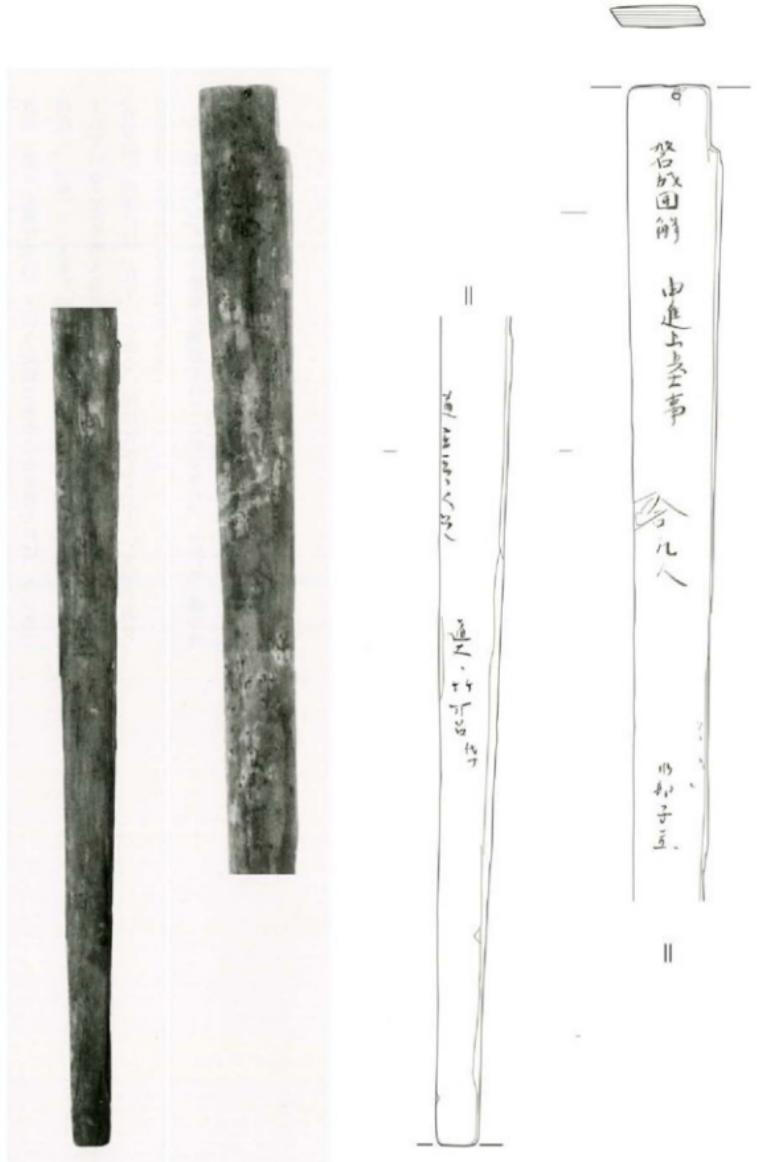


南北大路東側溝SD一七六七cから出土した。南北大路の側溝には五時期の変遷があるが、そのうち三番目の時期の側溝である。『日本三代実録』貞觀十一年（八六九）五月二十六日癸未条にみえる陸奥国大地震による津波の影響を受けたと思われるSX一七七九によつて破壊されているため、下限については八六年以前に求めることができる。

また、この層からはロクロ調整された土師器が出土していることから、上限を八世紀末に求めることができる。陸奥国で最後に設置された磐城団の史料上の初見は承和十五年（八四八）五月辛未（十五日）条である。承和初年まで廻るとする説もあるが（鈴木拓也「九世紀陸奥国軍制と支配構造」『古代東北の支配構造』吉川弘文館、一九九八）、いずれにせよ、磐城団の設置時期と出土遺構の年代とは相違しない。

上端および下端は原形をとどめるが、左右両側面は欠損している。本来はより幅広の短冊形であったと推測される。上端近くに孔があるが、その孔はオモテからウラにかけて垂直なものではなく、斜め上から下にむかって穿たれたものである。柱などに掛けたものであると推測できるだろう。

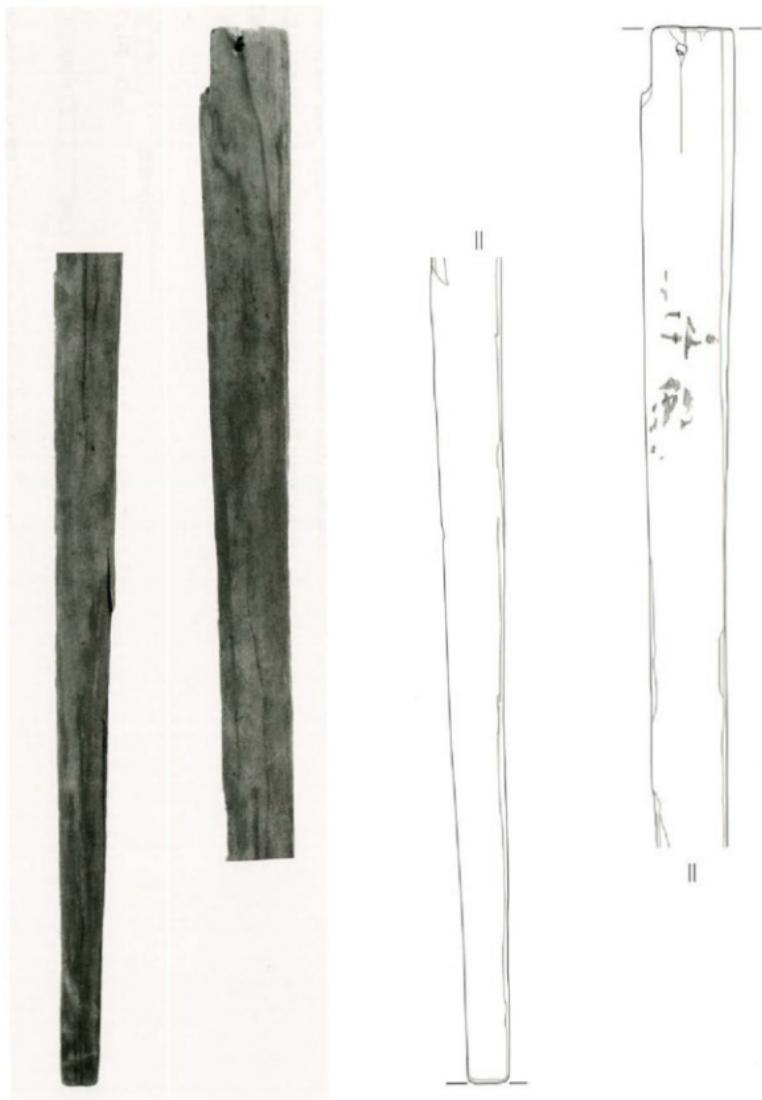
内容は、磐城団からの兵士進上に関する上申文書である。進上する兵士の人数は、残画から九人と判断できる。「合九人」の記載の下には九人の名前が列記されていると思われるが、現況では三人の人名しか確認することはできない。一人目「刑部子立」の右上にも墨痕を確認することができるが、人名か否かについては判断が難しい。二人目と三人目（一段目・三段目）の冒頭は「道」で共通している。「道」で始



第49号木簡才モテ面

まるウジ名の例として「道守」や「道嶋」などがある。ただし、三人目が「道+支部竹万呂」という記載であることを考えれば、ウジ名ではなく、「道」+「人名」の可能性がある。本木簡が道路側溝から出土していることを考えると、「道」字と道路との関連性が注目される。「竹万呂」の下には「代」である。他に比べると小さい文字であり、「竹万呂」にかかる注記であろう。

ウラ面にもわずかに墨痕を確認することができた。しかし、墨の残りは良くなく、文字数などは不明で、オモテ面との関係についても不明とせざるを得ない。



第49号木筒ウラ面

第五〇号木簡 (330)×35×6 019 SD1767c

・「□火長人□――□者□ □  
〔貳 □ カ〕 (上カ)

・「□□□□ 債借入石□――□

三片接合。上端は刃物によるキリオリ。下端は欠損し、左右両側面は原形をとどめる。上部にある墨痕が切れているため、上端のキリオリは二次利用のためのものである可能性もある。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。ただし下方は一部荒れている。四箇所に長方形の孔がある。間隔は等しくない。墨痕を切る孔であるため、二次利用のための孔であると判断される。第一孔が比較的丁寧な作りであるのに対し、第二～四孔特に第二・第三孔は粗雑な作りである。第四九号木簡と同一遺構から出土している。オモテ面には軍團における兵士十人の長である「火長」とみえる。それ以外の詳細については不明とせざるを得ないが、軍團関係の内容であり、第四九号木簡との関連性が注目される。



第50号木简

## 第五一号木簡

(142) × 49 × 19 065 SD2342d

『□□』

謹解  
申進上春

米事 合□□□

『□□』

(更カ) [枚カ] □□  
合□□ □□  
□□ □□

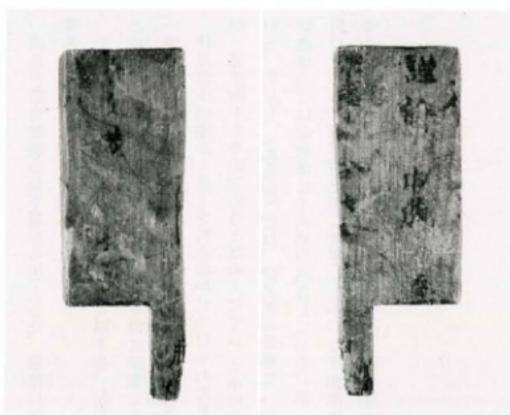
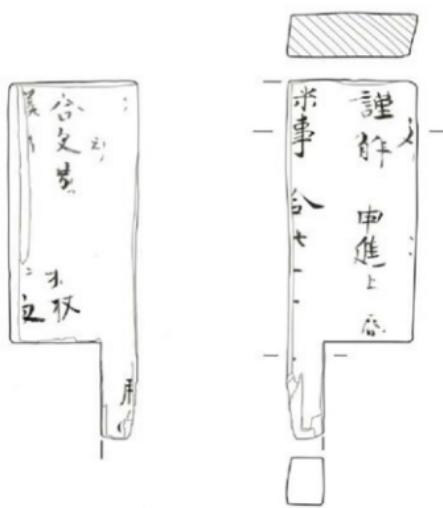
下端のみ欠損し、それ以外はすべて刃物により切断・調整されてい  
ることが確認できる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されてい  
る。

墨書は二種類確認できる。一つは春米進上についての「解」であり、  
もう一つはオモテ面右側およびウラ面右側に見える墨書である。

一度の使用のうち最初の使用は、オモテ面右側面およびウラ面右下  
方に見える墨書内容である。これはともに墨書が切られていることか  
ら、横は左右ともに現況よりも大きいものであつたと考えられる。そ  
して不要になつた後、春米の「解文」木簡として使用されたと考えら  
れる。右側面は刃物による成形をうけていること、一度目の墨書を切  
つていることなどから解文が記載される時に切断されたと考えられる。  
また、材が不整形であるにもかかわらず、解文の一目と二目との文  
言が統一しているため、下部も解文が記載される時に切断されたと考え  
られる。ただし、左側面に関しては、解文の墨書(三行目)を切つて  
いることから、横幅はより大きなものであったと考えられる。解文が

不要になつた後左側面が切断されたのである。本木簡は不整形かつ  
分厚い材であり、木材として何らかの用途に使用された可能性もある  
が、その点については不明とせざるを得ない。

オモテ面「合」の下は春米の合計数量が記載されていたと考えられ  
る。残画からは「廿」や「卅」などが考えられるが断定は難しい。ウ  
ラ面にも墨書を確認することができる。一行目第五文字目が「枚」で  
あるとすれば数量の単位となり、その上の字は「てへん」が見えてい  
る」とから「拾」である可能性が高いだろう。



第51号木简

第五一号木簡 167×14×7 051 SD2342d

〔鷹々〕

〔原り曳り〕  
「□□□」主物部□速□□□

・「延暦十年九月□日」

完形。上端は圭頭状につくる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

「△主物部（某）」から進上された物品に付けられた荷札。上から一  
字目は「野」などが考えられるが、断定は難しい。下部の墨書を物品  
名およびその数量とみれば、「糧六斗」の可能性もあるだろう。延暦十  
年は七九年にあたる。

南北大路東側溝の最下層から出土した。遺構自体は八世紀後半から  
のものである。

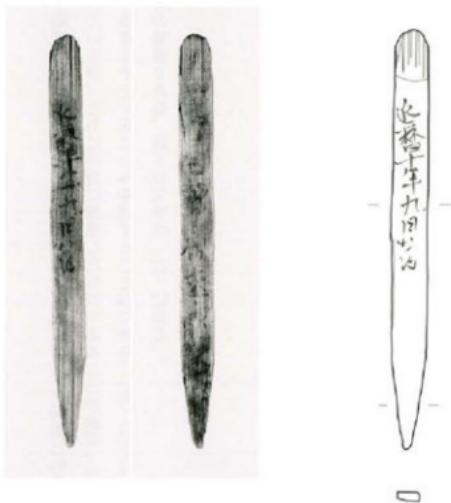
上端は原形をとらめるが、下端は欠損する。左右両側面は原形をと  
どめる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整しているが、ウラ面は  
一部剥離している。オモテ面上端を面取り加工している。

伊具郡小川里から進上された荷物につけられた札。「小川里」とある  
が、郡里制下のものであるとは考えにくく。「小川郷」のことと考えら  
れる。ただ、「和名抄」には、伊具郡の管郷に「小川郷」はみえない。  
陸奥国内では安積郡に小川郷が所在している。第一文字目部分は削り  
残りである。誤字を訂正し使用したか、二次利用された可能性などが  
考えられる。「公」の下の字は「公卿」の可能性がある。

第五二号木簡 (141)×26×4 039 SD2767a

〔原り曳り〕

「□」伊具郡小川里公□□



第52号木簡



第53号木簡

第五四号木簡 109×17×5 033 SD2342d

「高」

□□

削肩。二字分の墨痕が確認できる。

完形。ただし材の腐食が甚だしい。オモテ・ウラ両面とも表面が荒れていますが、ともに平滑に調整したものである」とが確認できる。

墨書はオモテ面にのみ確認することができる。「高」以下は四文字程度の墨書である。最下の文字は「衣」に似る。

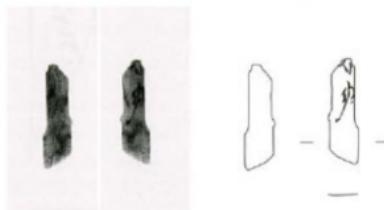
第五五号木簡 (209)×(21)×4 081 SD1767a

□□

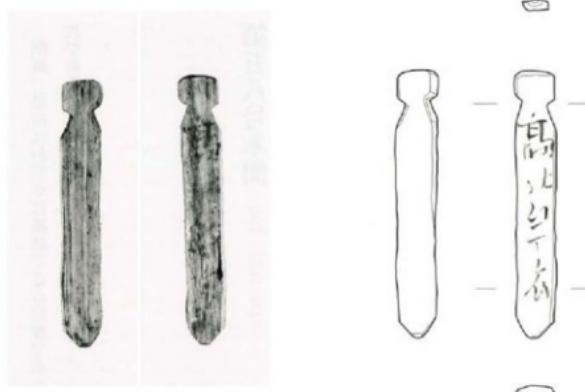
下端および右側面は原形をとどめるが、上端および左側面は欠損する。表面はオモテ・ウラとともに平滑に調整している。

オモテ面にのみ墨痕を確認する」とができる。ただし文字は半截されており、判読は困難である。

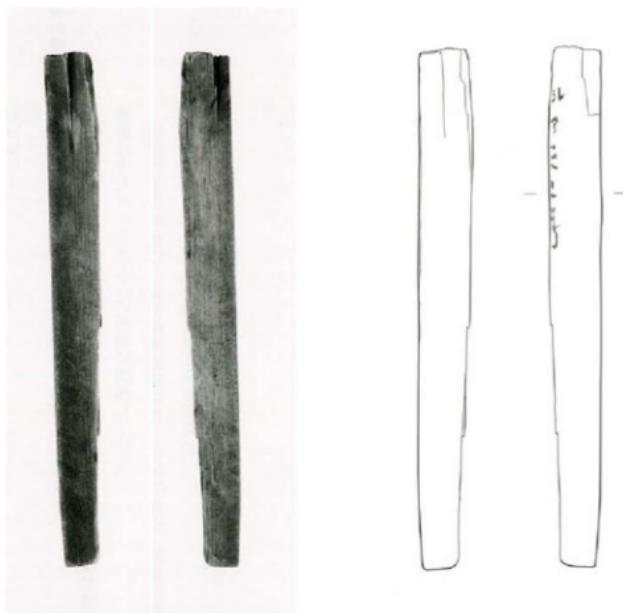
第五六号木簡 091 SD1767a



第56号木簡



第54号木簡



第55号木簡

第五七号木簡 091 SD1767a

□

削肩。墨痕はわずかに確認できる程度である。ほかに接合しない細片がある。

第五八号木簡 091 SD1767a

□

削肩。墨痕はわずかに確認できる程度である。

第六〇号木簡 (74)×(21)×2 065 SX2451  
(麻力)

「□□□」

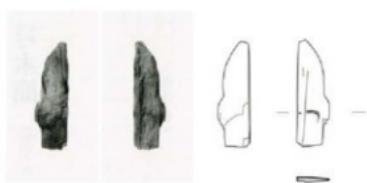
上端および左右両側面の上半は原形をとどめるが下半は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

墨書はオモテ面に三文字程度確認することができる。墨書内容や形状との関係など詳細は不明とせざるを得ない。

△白米上

上端・下端ともに欠損する。左側面も欠損するが、右側面はほぼ原形をとどめる。また、右側面上部に切り込みのあることがわずかに確認でき、付札状の木簡であったことが判明する。表面については、ウラ面の欠損が甚だしいが、オモテ・ウラ両面ともに平滑に調整されている。

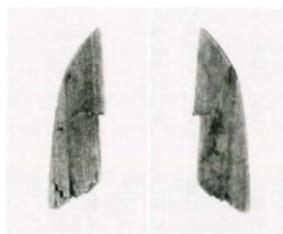
「文字目は字体としては「百」に似るが、「白」であると判断した。白米の付札である。



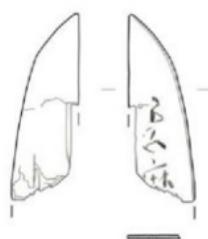
第58号木简



第57号木简



第59号木简



第60号木简

—



〔符カ〕

□□

□□

(題簽軸)

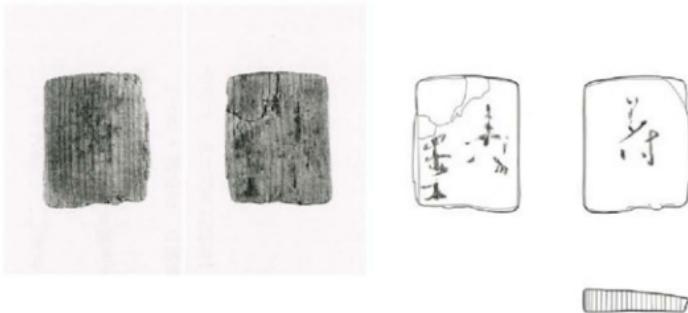
軸部はすべて欠損し、題簽部のみ残る。上端および下端左半分は原形をとどめるが、左右両側面は欠損する。表面は腐食が甚だしいがオモテ・ウラともに平滑に調整している。

題簽軸。オモテ・ウラともに墨書が確認できる。オモテ面は一文字の墨書と見れば「符」と解釈できる。ウラ面は二行にわたる墨書である、一行目の文字數は二文字とも見られるが断定し難く、上部を欠損する二行目は現況では一文字分確認できぬ。

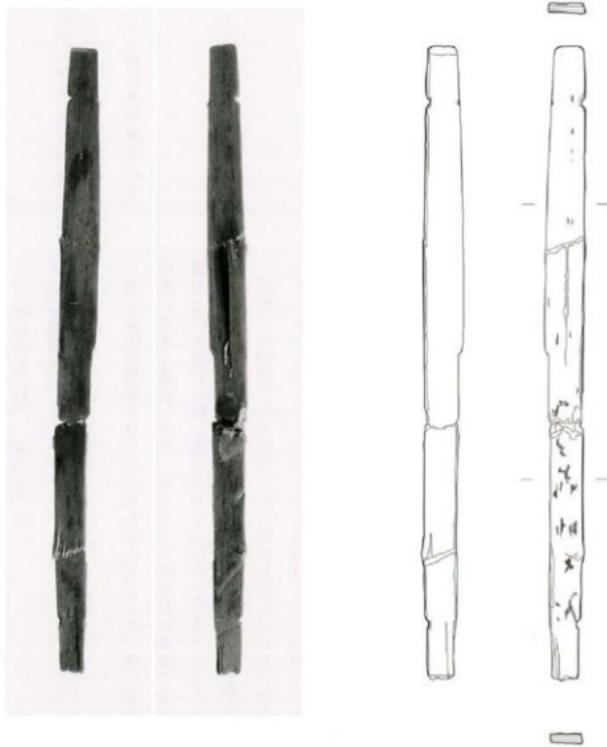
▽□――――▽

1片接合。上端および右側面は原形をとどめ、下端および左側面は欠損する。ウラ面の上端は面取りされている。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。右側面の上端より「〇三」、下端より「〇三」の所にそれぞれ切り込みがあり、「〇三」型式の付け札状である。左側面は欠損しているが、上端より二十二の所に切り込みをわずかに確認できる。

墨書はオモテ面にのみ確認できるが、文字数などの詳細については不明とせざるを得ない。



第61号木简



第62号木简

第六二号木簡 (235) ×33×5 019 SD2386e

「戸主丈部□□米五斗

〔五カ〕  
・「安積郡長江郷□部□米□斛」  
・「七月升四日」

上部右隅および下端を欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑<sup>12</sup>で調整している。

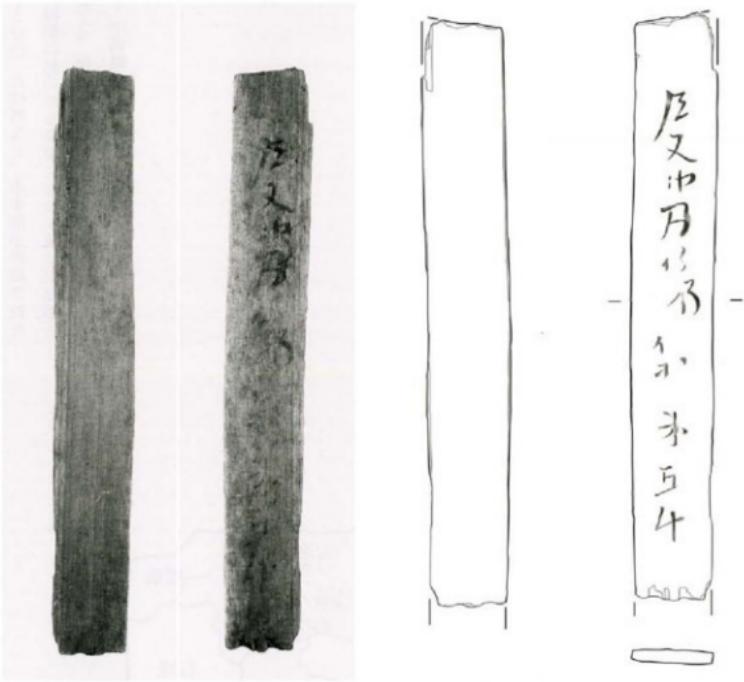
「人名+物品名」の記載形式をとる<sup>13</sup>ことから、付札と判断される。ただし、切り込みは現状では確認できない。

西○道路西側溝SD11三八六から出土した<sup>14</sup>。西○道路西側溝は六時期の変遷を確認したが、そのうち二<sup>15</sup>時期目の側溝である。前後の側溝および木簡の年紀（第九六号—□□〔天平九〕宝字三年<sup>16</sup>、第七四号—延暦十九年）から、造構の年代は八世紀後半と考えられる。

完成。右側面下には刃物を入れて切りおとしている。ウラ面は少々荒れているが、オモテ・ウラともに表面は平滑に調整されている。オモテ面上端は面取りしている。切り込みは、半円形にえぐるいわゆる「エグリ技法」によるものである。

安積郡長江郷から進上された米の荷札。オモテ面「郷」より下の字は三文字程度であり、「鳥部□」「□鳥部」などの可能性もあるが、断定は難しい。ウラ面には進上の月日が記載されている。

『和名類聚抄』によれば、長江郷は安積郡ではなく、会津郡の管郷である。そもそも安積郡を含む会津地域は、郡郷編成に度数の変遷がある。「続日本紀」によれば養老二年（七一八）の石背国設置により陸奥国からの分離され、その後数年で陸奥国に再併合されている。また、延喜六年（九〇六）正月、安積郡北領（入野・佐戸）を安達郡として独立させたとされる（延喜式民部省頭注）。ただし、『和名抄』（承平年間＝九三一～三八編纂）諸本には反映されていない（もじ）、「和名抄」高山寺本は入野・佐戸両郷を耶麻郡所属にするなど相違が見られる。



第63号木简

会津地方の郷郷編成に混乱があつたのかもしだれない。よつて、「和名抄」編纂時（承平元年間＝九三一～三八）とは異なり、本木簡が作成された時期、すなわち、「和名抄」編纂以前のある時期には長江郷は安積郡都属だったと考えられるであろう。長江郷は、会津地方南部、現在の下郷町弥五島・大沢・湯野上・小沼崎から会津若松市大戸町上三寄にかけての地域に比定される。



### 会津・安積郡内諸郷位置図



第64号木筒

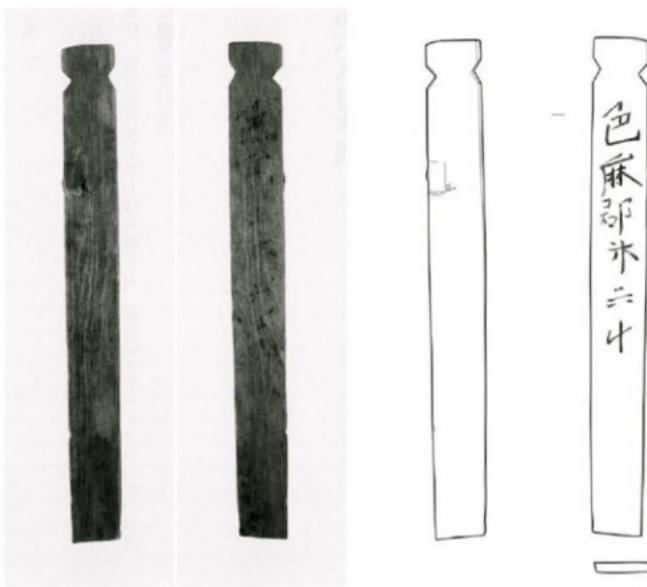
第六五号木簡 199×22×5 032 SX2459

〔六カ〕  
「▽色麻郡米□斗」

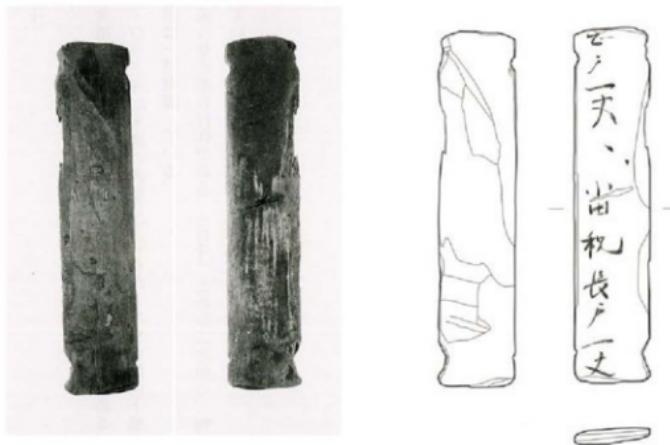
第六六号木簡 143×30×6 031 SD2386b  
〔小田カ〕  
「▽口戸一丈□二□□税長戸一丈▽」

完形。オモテ・ウラとともに表面を平滑に調整している。  
色麻郡から運上された米の付札。数量は「三」にも似るが、運筆からは「六」の可能性が高い。色麻郡は、現在の宮城県加美郡中新田町（現・加美町）付近に比定されている。

完形。ただし、左側面は一部欠損している。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整しているが、ウラ面はそのほとんどが粗く削られている。粗い削りが二次的成形か否かについては不明とせざるを得ない。  
墨書きはオモテ面にのみ確認する」とができる。



第65号木简



第66号木简

第六七号木簡 (83)×24×5 032 SD2459

▽大」

□万呂五斗」

上端は欠損し、下端は原形をとどめる。左右両側面は原形をとどめるが、切り込み部より上は欠損する。表面はオモテ・ウラとともに平滑に調整している。

上端は欠損するが、下端および左右両側面は原形をとどめる。表面はオモテ・ウラとともに平滑に調整しているが、オモテ面の下部および裏面の上部は一部剥離している。  
下端を尖らせる形の付札である。「五斗」とあることから、物品名は記載されていないが米であろう。

### 第六八号木簡

(124)×(10)×3 032 SD2386b

▽□□□万□

材の腐食が甚だしい。上端は欠損するが、下端および左右両側面は原形をとどめる。ただし、左右両側面とともに切り込み部より上は欠損している。表面は荒れているが、平滑に調整している。

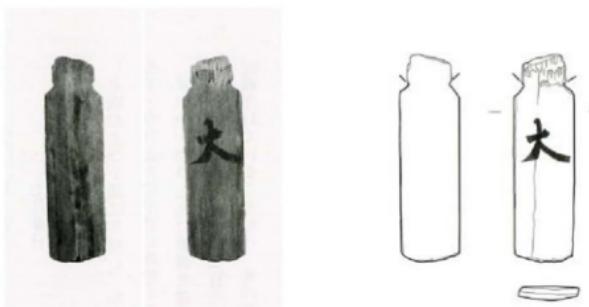
物品の付け札

第六九号木簡 (75)×26×3 059 SD2386b

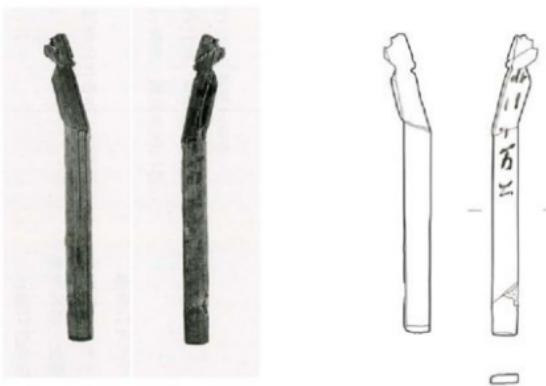
□万呂五斗」

上端は欠損するが、下端および左右両側面は原形をとどめる。表面はオモテ・ウラとともに平滑に調整しているが、オモテ面の下部および裏面の上部は一部剥離している。

下端を尖らせる形の付札である。「五斗」とあることから、物品名は記載されていないが米であろう。



第67号木簡



第68号木簡



第69号木簡

第七〇号木簡 (185)×16×5 081 SD2386b

第七二号木簡 (96)×(18)×7 039 SD2386e

〔石カ〕  
□□□角  
五斗

七月廿日

上端および下端は欠損し、左右両側面は原形をとどめる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整する。

オモテ・ウラともに墨書を確認することができる。原形をとどめてはいないが、オモテ面に「五斗」の記載があること、ウラ面に日付が記載されていることから、米の進上荷札であることが推測できる。

上端はわずかに原形をとどめるが、下端は欠損する。左側面は原形をとどめ、右側面は欠損する。上部に切り込みがあり、付札状である。

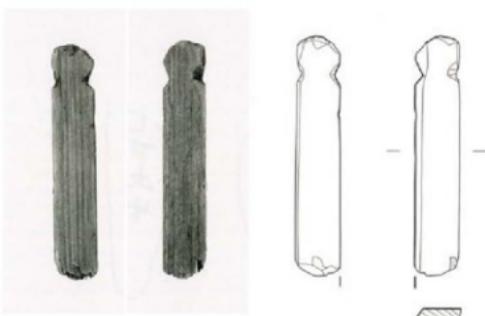
墨書はオモテ・ウラともに確認できない。

第七一号木簡 (102)×16×6 039 SD2386b

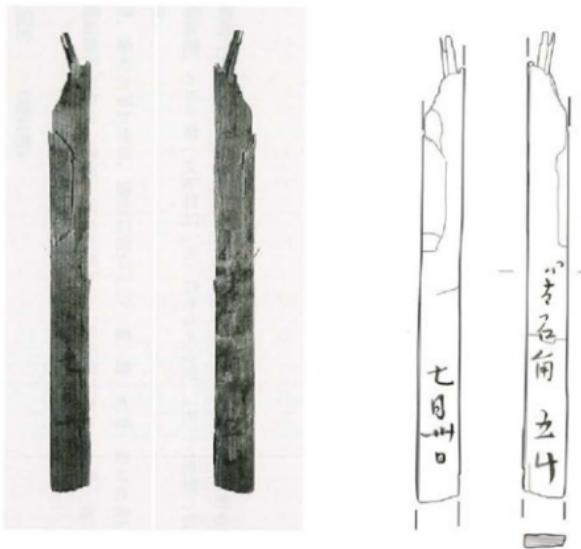
▽

上端および左右両側面は原形をとどめ、下端が欠損する。ただし、左右両側面ともに切り込み部より上を欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

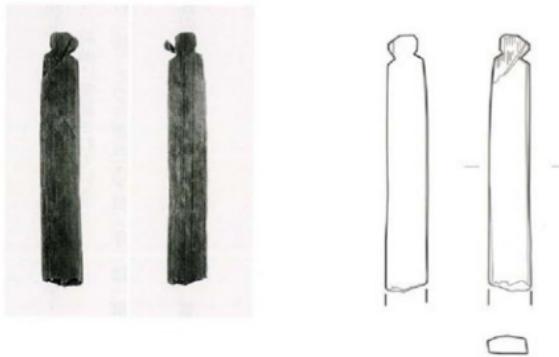
墨書はオモテ・ウラともに確認できない。



第72号木簡



第70号木簡



第71号木簡

第七二二号木簡 (130) × 26 × 9 061 SD2386b

- ・「失馬文」
- ・「國判」
- （題簽軸）
- ・「 延曆十九年」
- （題簽軸）

題簽部は完存し、軸部下端が欠損する。題簽部は長さ二九三、幅二六三、厚さ七三である。軸部は長さ一〇一三、幅一九三、厚さ九三である。

題簽軸。オモテ面 文字目は「矢」にもみえるが、「失」と判断した。

文書名「失馬文」は六国史や「計会帳」などの諸史料には未見である。

題簽部はほぼ完存し、軸部は欠損する。表面はオモテ・ウツともに平滑に調整しており、両面に墨書きされている。

オモテ面七文字目「貳」とウラ面五文字目「年」は一部表面が削り取られている。

題簽軸。正税借貸の収納にかかる文書の軸である。延曆十九年は八〇〇年にあたる。

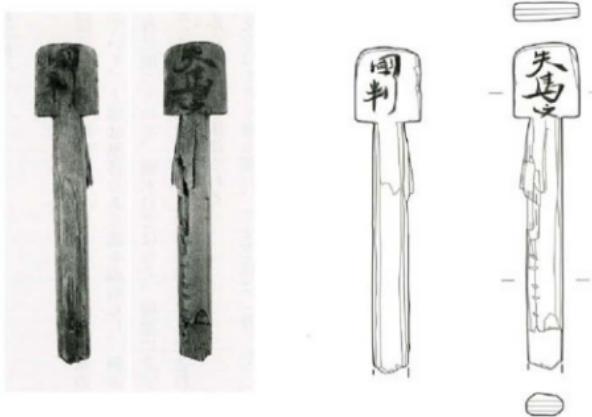
第七四四号木簡 (133) × 28 × 6 061 SD2386c

- ・「取納借貸正稅貳」
- ・「 延曆十九年」
- （題簽軸）

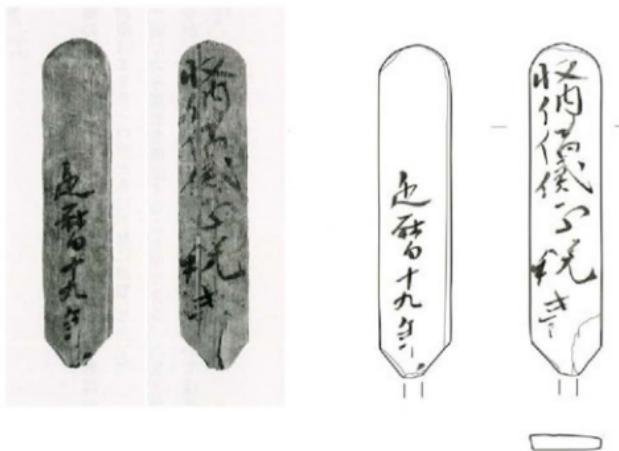
題簽部はほぼ完存し、軸部は欠損する。表面はオモテ・ウツともに平滑に調整しており、両面に墨書きされている。

オモテ面七文字目「貳」とウラ面五文字目「年」は一部表面が削り取られている。

題簽軸。正税借貸の収納にかかる文書の軸である。延曆十九年は八〇〇年にあたる。



第73号木簡



第74号木簡

第七五号木簡 (274)×11×11 061 SD2386b

〔券力〕  
「馬□」(題簽軸)

断面がほぼ正方形で、四隅をわずかに面取りした棒状の木簡。下端のみ欠損している。上端は墨書のある面を面取りし、側面は、四面とも表面を平滑に削っている。軸木口ではなく、軸部に文字を記した例は現在のところ見当たらないが、文字が上端近くに記されていることや形態などから題簽軸と推測される。

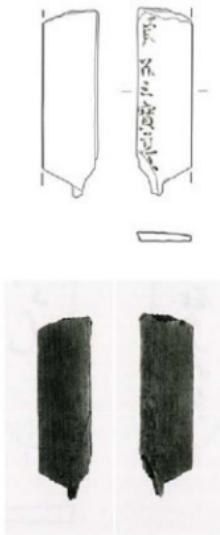
題簽軸。文字は小さく筆も細い。「二字目は「券」か。「馬券」という文書名は六国史や「社會帳」などの諸史料には未見である。

第七六号木簡 (75)×(22)×4 081 SD2386e

〔道力〕  
□□三寶□□

右側面のみ原形をとじめ、上端・下端および左側面はいずれも欠損する。表面はオモテ・ウラとともに平滑に調整している。

オモテ面にのみ墨書を確認することができる。六文字分の墨書が確認できるが、その一部は左側が欠損し、詳細については不明となるを得ない。



第76号木簡

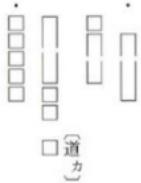


S=1/1



第75号木简

第七七号木簡 (110) × (40) × 4 081 SD2386g



な成形であると推測される。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。文字はオモテ面にのみ確認できる。半裁されているため詳細は不明であるが、二～四文字目は同字で「道」に似る。右側面上端の調整痕跡のある部分にも墨痕を確認することができる。この墨痕は切られているため、本木簡は木簡として使用された後何らかの材に転用された可能性がある。

右側面は原形をとどめるが、上端・下端および左側面は欠損する。表面はオモテ・ウラともに少々荒れているが、平滑に調整している。

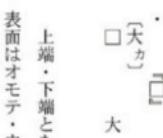
オモテ・ウラで天地が逆に文字が書かれている。おそらく一連のものではなく、別々に記されたものであろう。

ウラ面の第二～四文字目までは、門構えの文字であることが確認でき、第五文字目も同じく門構えの文字である可能性が高い。ウラ面は、門構えの文字を習書したものか。

第七九号木簡 (73) × 22 × 4 081 SD2386b



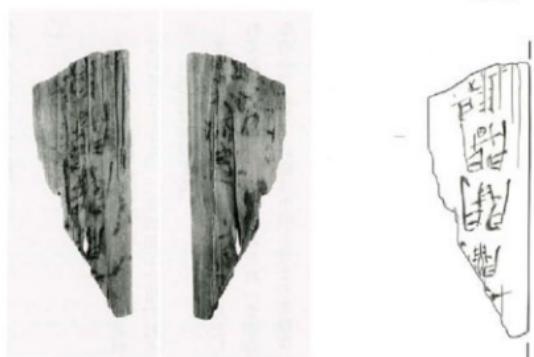
第七八号木簡 (98) × (19) × 3 081 SD2386b



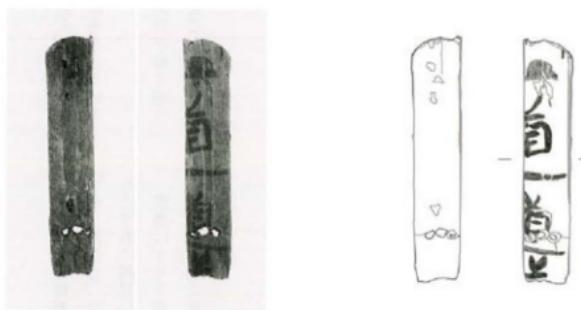
上端・下端ともに欠損する。左右両側面は刃物を入れ調整している。

表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

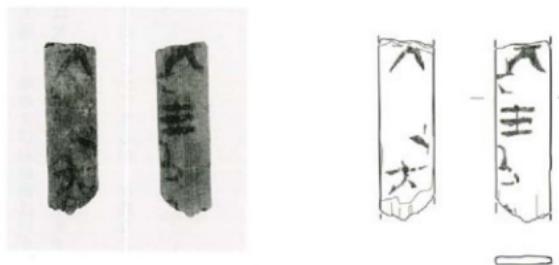
墨書きは、濃いものと薄いものとの二種類が認められる。薄いものについては半裁されており、右半分のみが残る。薄い墨書きが書かれ、不要になつた後に転用され、濃い墨書きが書かれたか。左右両側面は、転用時に成形された可能性がある。



第77号木简



第78号木简



第79号木简

## 第八〇号木簡 (60)×17×1 081 SD23386e

□ □

上端は欠損し、下端は円弧状に成形されている。ただし、文字を切つていることから、二次的加工と思われる。左側面は原形をとどめるが、右側面は欠損する。

オモテ面のみ墨痕が確認できる。ただし、表面の大部分が薄く削られており、上方と下方にそれぞれ一文字分の墨痕であることが判明するのみであり、詳細は不明とせざるを得ない。

## 第八一号木簡 (101)×16×1 081 SD23386b

□ □

上端・下端はともに欠損する。左右両側面はいずれも一部欠損するものの原形をとどめる。表面はオモテ・ウラとともに平滑に調整されており、文字の判読は困難である。また、オモテ・ウラ関係も不明である。

## 第八二号木簡 (198)×(13)×2 081 SD23386e

□ □

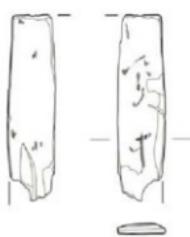
左側面のみ原形をとどめ、上端・下端および右側面はいずれも欠損する。ただし、左側面も上部は欠損している。表面はオモテ・ウラとともに平滑に調整している。

墨書はオモテ面にのみ確認することができるが、字数などの詳細については不明とせざるを得ない。

上端のみ原形をとどめ、それ以外は欠損する。表面はオモテ・ウラとともに平滑に調整している。

墨書は両面に確認できるが、文字数をはじめとする詳細については不明である。

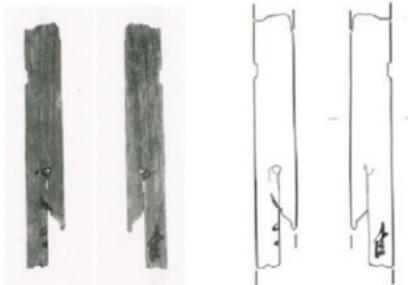
墨書はオモテ・ウラとともに確認できる。ただし墨書部分は半分欠損しており、文字の判読は困難である。また、オモテ・ウラ関係も不明である。



第80号木簡



第83号木簡



第81号木簡



第82号木簡

第八四号木簡 (132)×15×4 019 SD2386c



上端および下端は欠損するが、左右両側面は原形をとどめる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

オモテ面にのみ墨痕を確認することができる。しかし、文字の天地や字数などは判然としない。

第八六号木簡 091 SD2386b



二片接合。ほかに四片の削屑があり、うち二片に墨痕が認められるが、直接接合はない。

解文の削屑と推測される。したがつて、「解」の上に見える墨痕は「謹」の可能性があるが断定は難しい。

第八五号木簡 (40)×(14)×3 081 SD2386g



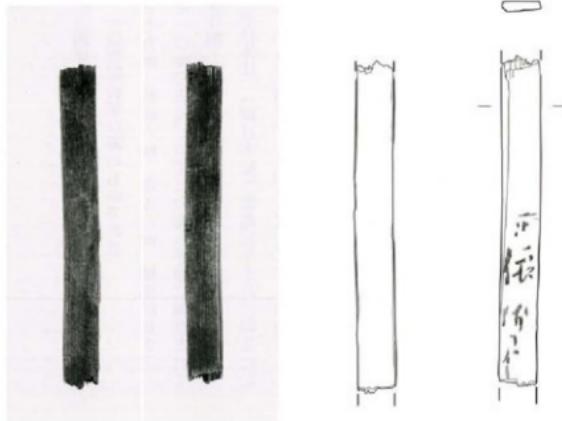
第八七号木簡 091 SD2386b



二片接合。右側面は原形をとどめるが、上端・下端および左側面は欠損している。

二文字分の墨痕が確認できる。

二文字分の墨書が確認できるが、詳細は不明である。



第84号木简



第87号木简

第86号木简

第85号木简

三百、他国九百疋也。若依違先例不注綱數數者、以此旨可申者。

・「精好」  
・「精好」（題簽軸）

西一道路S-X一七〇三の下期西側溝から出土した。F期は灰白色火

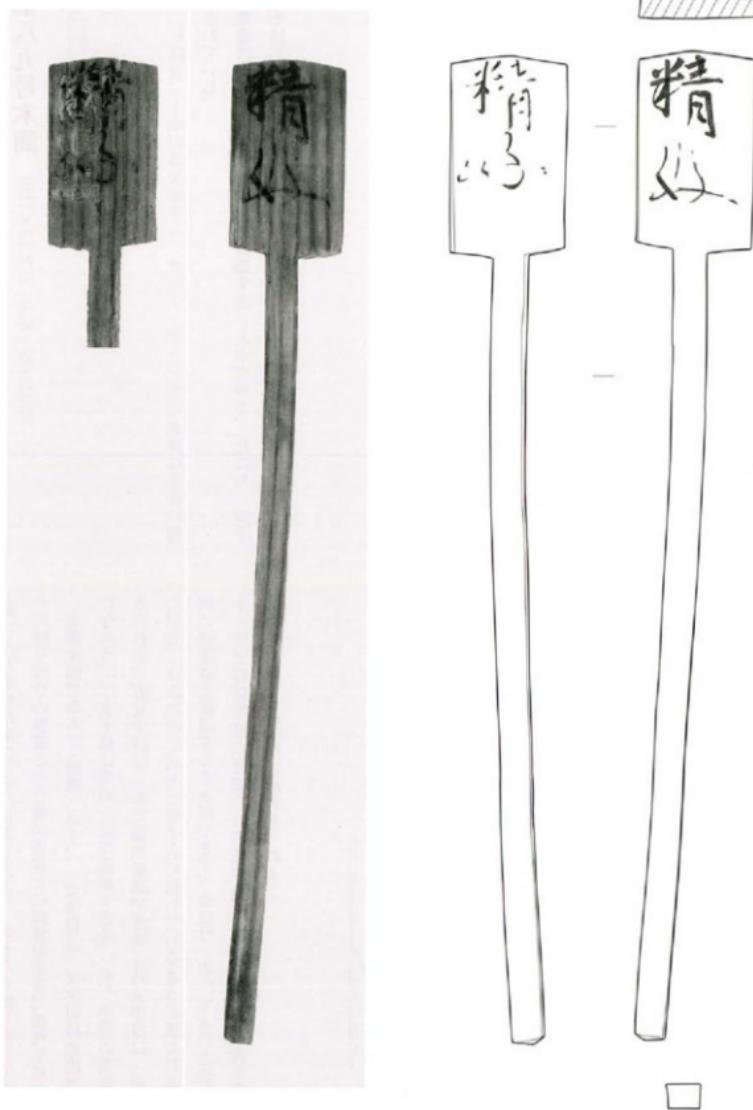
山灰旗下以降であり、一〇世紀前葉以降のものである。

完形。題簽部は長さ七九厘米、幅四六厘米、厚さ八毫米、軸部は長さ三一七厘米、幅一三三毫米、厚さ一〇毫米である。いずれの面も平滑に調整されている。軸部下端は面取り加工されている。

題簽軸。「精好」の語 자체は、「統日本紀」雲龜元年十月己卯条において、栗を「於諸穀中、最是精好」と述べるよう、「精密でよい」と。また出来ばえの美しいこと」などの意をもつ（大漢和辞典より）。ただし、「精好」の語は、良質な綱を述べる際に使用される例が多く見受けられる。たとえば、「尾張国郡司百姓等解文」第六条（永

延二年一九八八）では、尾張國守藤原元命が、「當國の美糸」を私用し、「他國の糸を貢進に充てた」とことが記されているが、「亦至于精好之生糸者、貢取當國之美糸、織私用之綾羅、買上他國之糸、備貢官之例進」（以下略）とみえる。また、時期はすこし下るが、「左經記」長元七年（一〇三一四）十一月十四日および十五日の兩条では、陸奥國が貢納する綱について、述べられている。

十四日庚午、天晴。（中略）義賢申云、件解文長元六年料載綱數、今年料不載。仍問其旨之處、綱丁申云、所進之綱一千二百疋也。而先例所進陸奥綱三百、他國綱三百也。是彼國綱雖得也。仍半分以代物、路次之間交易値也。為代之例、而此度綱、彼國綱



第88号木简

第八九号木簡 (91)×21×3 019 SD1962a

・□□  
・「□□

二片接合。下端のみ欠損する。オモテ・ウラともに表面は平滑に調整されている。

墨書きは、オモテ・ウラ両面に確認することができる。ただし、文字数をはじめとして詳細については不明とせざるを得ない。

第九〇号木簡 (342)×22×7 019 SX2479

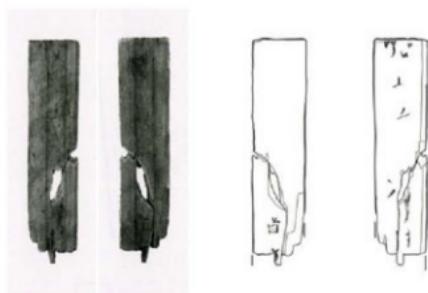
・「莫□謹牒□宣捧申便使□□□知下□□  
・■■□  
□□□□

五片接合。上端および左右両側面は原形をとどめるが、下端は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑であるが、ウラ面は一部削られている。

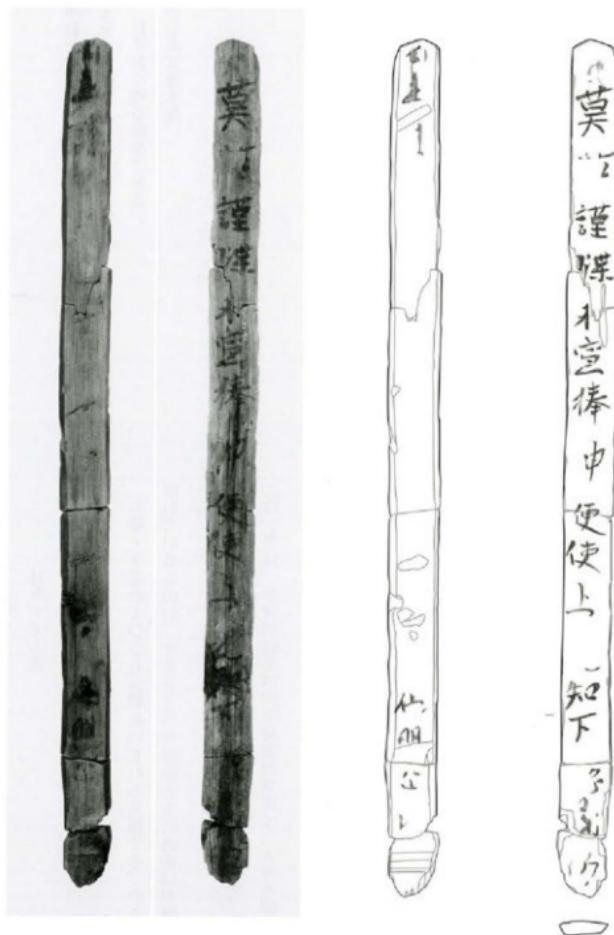
墨書きは、オモテ・ウラ両面に確認することができる。オモテとウラとの墨書きの関係は不明である。なお、紙文および実測図には示していないが、オモテ面第一文字目「莫」の上に墨痕が確認できる。一部

「莫」とも墨痕が重なっていることから、おそらく削り残りであろう。その削り残りの墨書きとウラ面の墨書きとに関係がある可能性も残る。

文書木簡である。「謹牒」の上、「一文字目」と「二文字目」は差出者の名前になる。二文字目は旁の一部が確認できる。「乞」や於の旁などが考えられる。五文字目は「禾」偏が確認できる。八文字目は「申」と見た場合、ほかの字に比べてやや右に偏しているように思われるが、左側には墨痕を確認することができる。やはり「申」でよいと思われる。十一文字目以降は「便使」の名前が記されているものと考えられる。「上部」「上」「山」などが考えられる。



第89号木簡



第90号木簡

## 第九一號木簡 (103)×28×3 019 SX1735A/B

□解 申進人□

二片接合。上端および下端は欠損するが、左右両側面は原形をとど

める。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整しているが、ウラ面はほ  
とんどが剥離し、わずかに残る程度である。  
人の進上を報告した文書木簡。

## 第九二號木簡 84×15×3 011 SX2101B

「算取人田太郎[當得]」

完形。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

黒書はオモテ面のみ確認できる。職名十人名の記録簡である。「算  
取人」は六国史等には未見<sup>4</sup>。

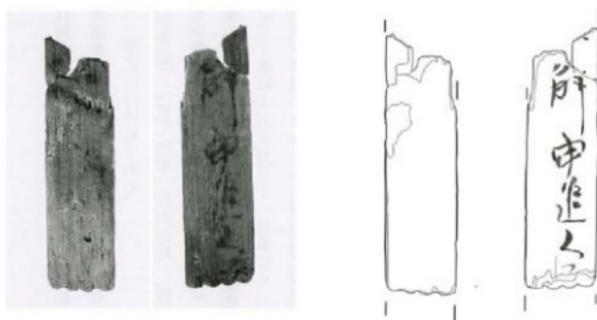
## 第九三號木簡 (111)×(46)×3 081 SX2365

□――

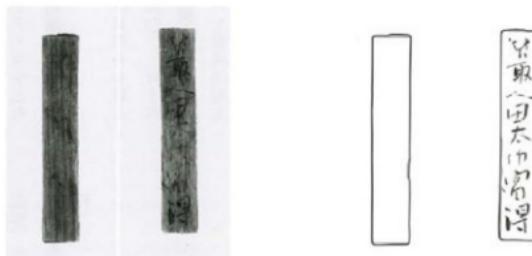
鳥取マ子人成  
鳥取マ稀人□

上端・下端および左右両側面いずれも欠損する。ウラ面の一部が剥  
がれているものの、オモテ・ウラ両面ともに表面は平滑に調整されて  
いる。

物品の数量単位と人名が確認できる。食料支給簿か。なお、「鳥取部」  
のウジ名は、多賀城跡第四四次発掘調査出土二九号木簡にもみえる。



第91号木簡



第92号木簡



第93号木簡

## 第九四号木簡

142×24×6 033 SX1725B

「伊少穀一石」

右側面下部が欠損するほかは、原形をとどめる。オモテ・ウラとともに表面を平滑に削っている。左右に切り込みがあり、他端を尖らせる○三三型式の付け札である。

「伊少穀」へ充てた米一石の付札。「伊少穀」とは、伊具郡を本貫とする少穀のことであろう。『続日本後紀』承和七年（八四〇）二月十六

日条の賜姓記事では、「伊具郡擬大穀陸奥真成等」と表現されている。

おなじく承和十五年五月十三日条にも、「伊具郡麻積郷戸主磐城團擬主帳陸奥臣善福」とみえる。軍製名に軍團名を冠するのではなく、郡名を冠することが広く行われていたことをうかがうことができる。

## 第九五号木簡

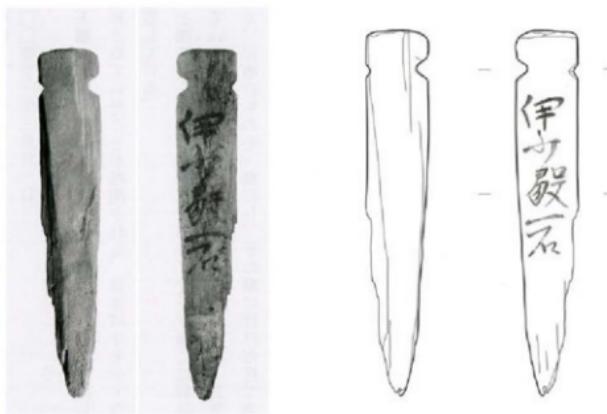
145×19×4 032 SX2101A

「御米二斗二升」

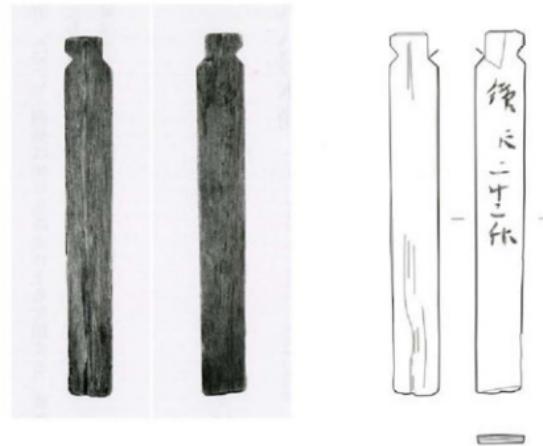
完形。ただし、右側面下部と左側面切込み部より上を欠損する。表面は一部荒れているが、オモテ・ウラとともに平滑に調整している。

米二斗二升の付札である。

表



第94号木简



第95号木简

## 第九六号木簡 (104)×(21)×6 081 SX2379

・□壹裏百串」

・「天平カ」

・□寶字三年三月廿一日」

下端および左側面は原形をとじめる。上端は欠損しているが山形に成形されていたことが推測される。表面はオモテ・ウラとともに平滑に調整している。

上端を尖らせた形の荀札である。オモテ面には物品と数量が記載されている。第一文字目は「月」偏のみ残る。第二文字から下は数量記載で、百串のものを「一束に」、その裏に付けた札である。「文字目は「詫」である可能性を指摘できよう。「詫」の単位としては、「串」のか「斤」や「古(=籠)」などが知られる。「串」が用いられた例としては、新潟県八幡林遺跡出土木簡や平城宮出土木簡がある。「平穴□串」(八幡林遺跡出土二四号木簡)「□穴一百串」(同二七号木簡)、「鹿舗舟串 上長」(平城宮跡出土木簡概報(三一))などである。

ウラ面は質進日が記載されている。「寶字」の上は墨痕がわずかに見える程度であるが、「天平」であろう。天平宝字三年は七五九年。

## 第九七号木簡 62×27×9 032 SX1735B

「」

完形。ただし左側面は一部欠損している。表面はオモテ・ウラともウラともに平滑に調整されている。

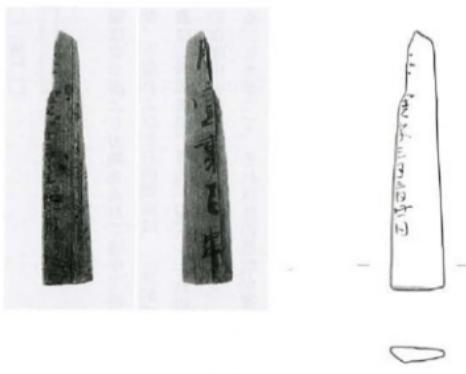
墨書はオモテ・ウラ両面ともに確認できない。

## 第九八号木簡

115×19×4 032 SX1735B

「」

完形。ただし左側面は一部欠損している。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されているが、ウラ面の下半部は剥がれている。墨書はオモテ・ウラ両面ともに確認できない。



第96号木简



第97号木简



第98号木简

## 第九九号木簡 (114)×35×10 039 SX1812



上端はウラ面より刃物を入れて途中で折る、いわゆるキリオリによる切斷。下端および左右両側面は、二次的成形がなされている。

墨書は一種類確認できる。「無」とそれ以外の薄い墨書である。「無」は材のほぼ中央に書かれているのに対し、それ以外の墨痕は切断されている。したがって、それ以外の墨痕が書かれた木簡がまず作成・使用されて不要となった後に、成形されて「無」が記されたと考えられる。その際、オモテ面の表面をカットグラス状に削り取っていることも確認できる。また、下方左右両側面に切り込みのようなものが確認できる。最初に記された墨書よりも内側に見えることから、二次的成形時のものであると判断されるが、この切り込みが付札としての機能を持つものであるか否かについては不明である。

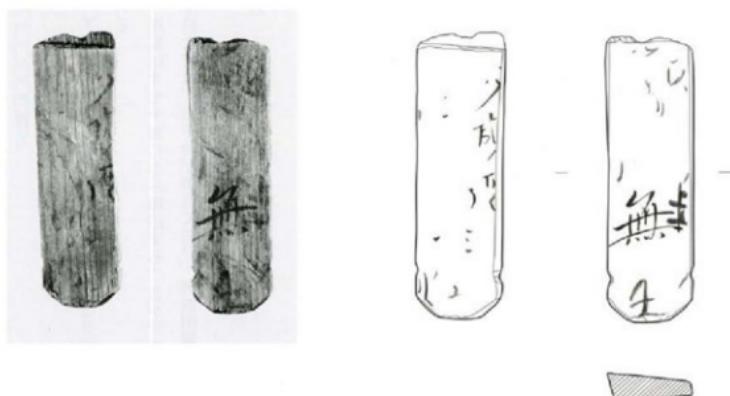
内容は、「無」一文字であるため、不明とせざるを得ない。

## 第一〇〇号木簡 195×(17)×4 065 SX2379

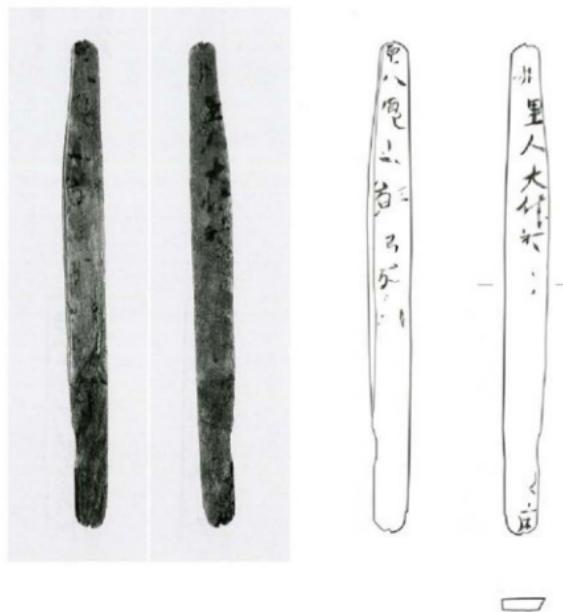


上端・下端ともに一部欠損するが丸く成形している。ただし、オモテ・ウラ両面に確認できる墨痕を両端ともに切つているため、木簡使用後の成形であると判断される。左側面は原形をとどめるが、右側面は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

墨書はオモテ・ウラともに確認できる。オモテ面に「大伴部」のウジ名が記されているが、人名が記されているのみで、オモテ・ウラの関係をはじめ、内容その他の詳細については不明とせざるを得ない。「大伴」氏は、弘仁十四年（八二三）淳和天皇の諱大伴を避けて「伴」氏に改めている。オモテ面最下の文字は「麻」か。



第99号木簡



第100号木簡

第一〇一號木簡 (210)×35×10 019 SX2101A

「□□□□□押方

下端のみ欠損する。表面はオモテ・ウラ両面ともに平滑に調整している。

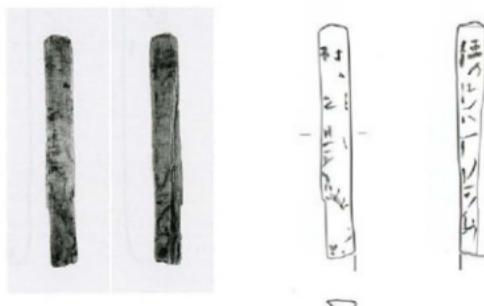
墨痕はオモテ面にのみ確認することができる。第一文字目から六文字目までは、右半分が削れており、判読困難である。

第一〇二號木簡 (94)×(12)×4 081 SX2101B

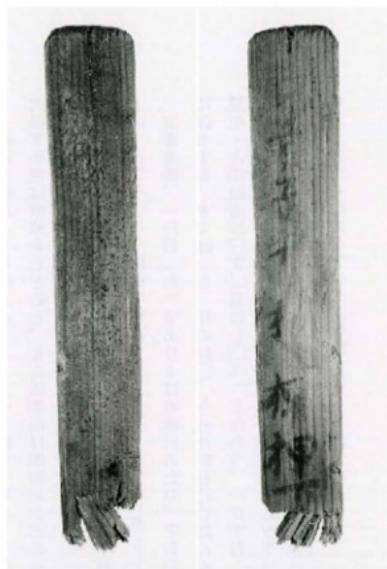


上端および左側面は原形をとどめるが、下端および右側面は欠損する。表面はオモテ・ウラとともに平滑に調整するが、オモテ面は一部欠損している。

墨書はオモテ・ウラともに確認できるが、字数その他の詳細は不明である。



第102号木簡



第101号木简

□□封□三□ 右件封□今月廿四日

〔乙・カ〕

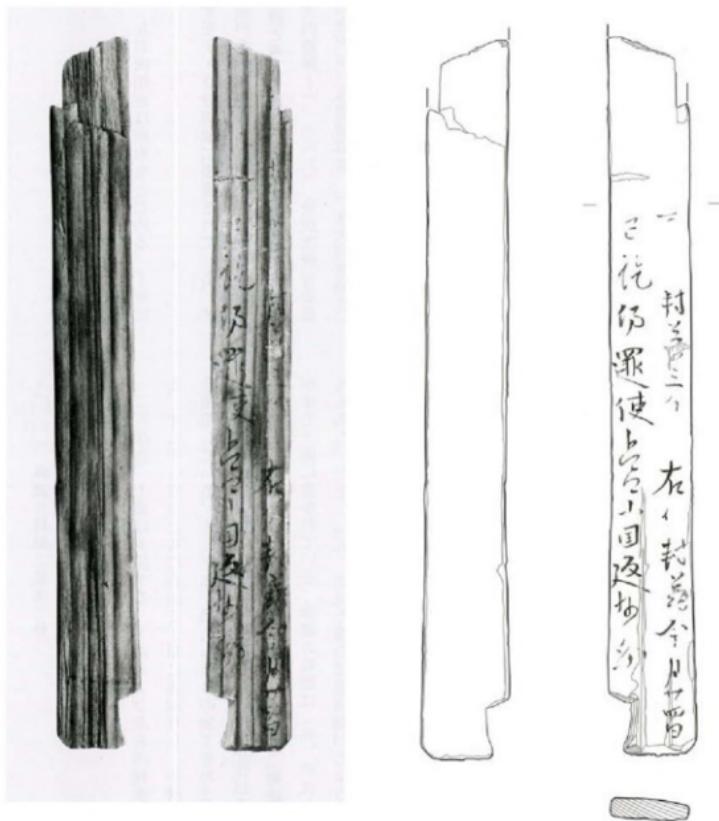
□訖仍還使占マ小国返抄□

」

上端は刃物により切断され、右上方を欠損している。下端は左隅を欠損する他は原形をとどめる。左右両側面は原形をとどめる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

墨書きは、オモテ面に二行確認することができる。「封」の上は、「とい」という墨痕を確認することができるが判然としない。

文書本簡。「右」字より上は事書にあたり、それ以下は本文に該当する。本文は「右、件の封□、今月廿四日已に訖んぬ。仍つて還使・占部國返抄□す（返抄し□）」となる。一文字目「封」の下の字と、七文字目「封」の下の字はおそらく同字であろう。残画からは「藏」などが考えられるが、断定は難しい。なお「封藏」は、「封じておさめたくわえる」（『大漢和辞典』）の意味を持つ。



103号木简

## 第一〇四号木簡 (128)×16×8 081 SD2342d

・×年五月卅日舍人家宿買物

□—卷□

上端・下端ともに欠損する。左右両側面は原形をとどめる。丁寧に面取り加工した枝材である。

内容は、文書木簡である。オモテ・ウラ両面に墨書きされている。オモテ面「舍人家宿」は、石川県戸水大西遺跡から出土した墨書き土器の「宿家」が駅より格下の宿泊施設と考えられている(金沢市文化財紀要「六〇『戸水遺跡群Ⅱ 戸水大西遺跡』」二〇〇〇、金沢市教育委員会「金沢市文化財紀要一七四『金沢市戸水遺跡群Ⅲ 戸水大西遺跡』」二〇〇一、金沢市教育委員会)ことを参考にすれば、「舍人の宿家」のことかもしだれない。

接合しないものの、同じく枝材を使用した第一〇五号木簡との関連性が注目される。

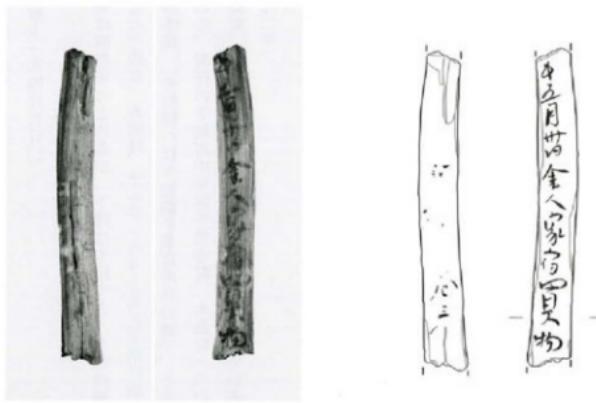
二片接合。上端は欠損する。下端および左右両側面は原形をとどめる。オモテ・ウラともに表面を丁寧に面取りし、平滑に調整した枝材を使用している。オモテ面下端も面取りの加工をおこなっている。同じく枝材を使用した第一〇四号木簡との関連性が注目される。

物品名と数量を列記したものである。「麻綿」・「袴綿」・「米」の数量がオモテ面に書かれている。麻綿の数量は「升」のほか、「五」の可能性もある。ただし、「五」と見た場合は最終画がちようど欠損部分に該当することもあり、確認できない。「袴綿」は、袴に用いる綿の意と解すれば、数量は「二」(単位記載なし)となろう。ただし、綿でできた袴という意味の「袴綿」が、「袴綿」と表記された可能性も指摘できるだろう。そのように考えれば、次の「要」字は袴の単位「腰・貫」と解釈できるかもしだれない。ウラ面にも何らかの物品が記載されていたと見られ、数量単位「卷」が記されている。「子集」最後に記載されていることから人名か。

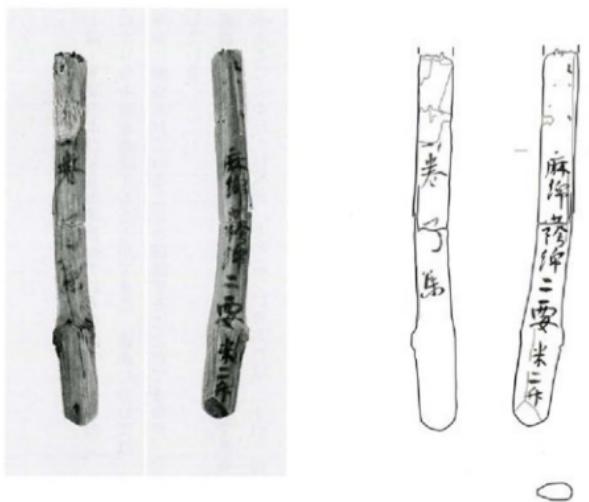
## 第一〇五号木簡 (150)×18×7 019 SX2451

□— 麻綿升袴綿二要米一升】

□—卷子集】



104号木简



105号木简

第一〇六号木簡 (104)×17×2 019 SD2163B 1層

・「千葉郷 私馬矢五□  
・「延暦十一年四月五日□

上端は原形をとじめるが、下端は欠損する。左右両側面はいずれも原形をとじめる。表面は、オモテ・ウラとともに平滑に調整されている。文書木簡「千葉郷」は下総国千葉郡所在の郷で、千葉郡の都家所在郷である。現在の千葉市中央区千葉寺町、大森町・川戸町付近（さらには浜野町、生寒町を含める場合あり）に比定されている。延暦十一年は七九二年。

上端・下端および左右両側面いずれも欠損する。ただし、右側面下方にキリカキ痕を確認することができる。表面については、オモテ面が平滑に調整されていることを確認することができるが、ウラ面は剥離している。

墨書きは、オモテ面に二行にわたりて確認することができる。キリカキがある」とから、付札か。そのように考えれば、「十口」は、物品の数量か。

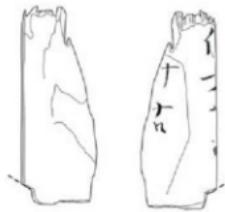
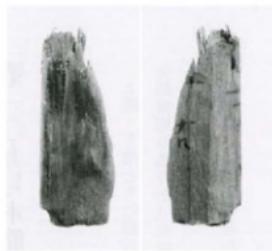
第一〇七号木簡 (79)×(30)×4 032 SD2386g

□ □ √  
十 口

第一〇八号木簡 201×26×4 032 SX2451

▽

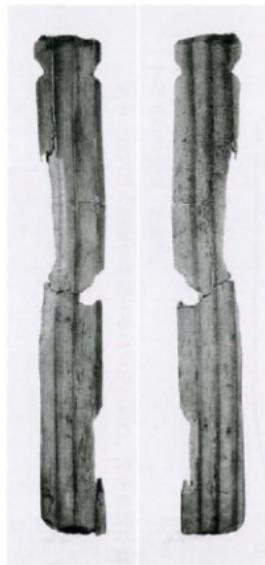
11片接合。上端・下端および左右両側面いずれも原形をとじめる。  
表面は平滑に調整されている。  
墨書きは、オモテ・ウラともに確認できない。



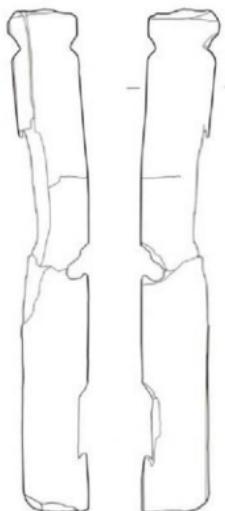
第107号木簡



第106号木簡



第108号木簡



第一〇九号木簡 152×14×2 033 SD2100 2層

「維長」

上端・下端ともに原形をしめる。左右両側面も原形をとめるが、左側面切り込み部は欠損している。オモテ面のみ表面を平滑に調整している。

先を尖らせた形態をもつ付札。「維長」は人名か。

第一一一号木簡 445×34×8 011 SD2363

□□

大大大大大大

□□道淨河淨河之之々々々人人人人人人人

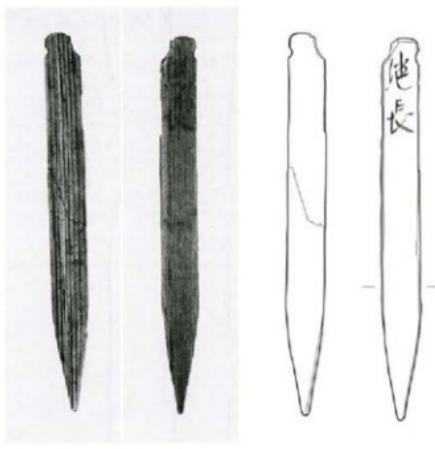
完形。二片接合。オモテ面のみ表面を平滑に調整している。たゞ、左下の一部が削れている。

オモテ面にのみ墨書を確認することができる。同字を繰り返し記してゐる」とから、習書か。

第一一〇号木簡 223×26×20 065 SD2381

「官」

円柱状の材を不整形に削った木製品。一部欠損している。用途は不詳。下端部は断面が円形を呈しており、その一部を面取りして平坦な面を作り出し、文字を記している。墨書は木製品に伴うものかと推測されるが、詳細は不明。



第109号木簡



ウラ

左側面

オモテ

右側面

第110号木簡

第一一一号木簡 (209)×(23)×8 081 SE1912

・□□ □ □□  
・□

上端のみ原形をとどめ、下端および左右両側面は欠損する。表面は  
オモテ・ウラともに平滑に調整している。

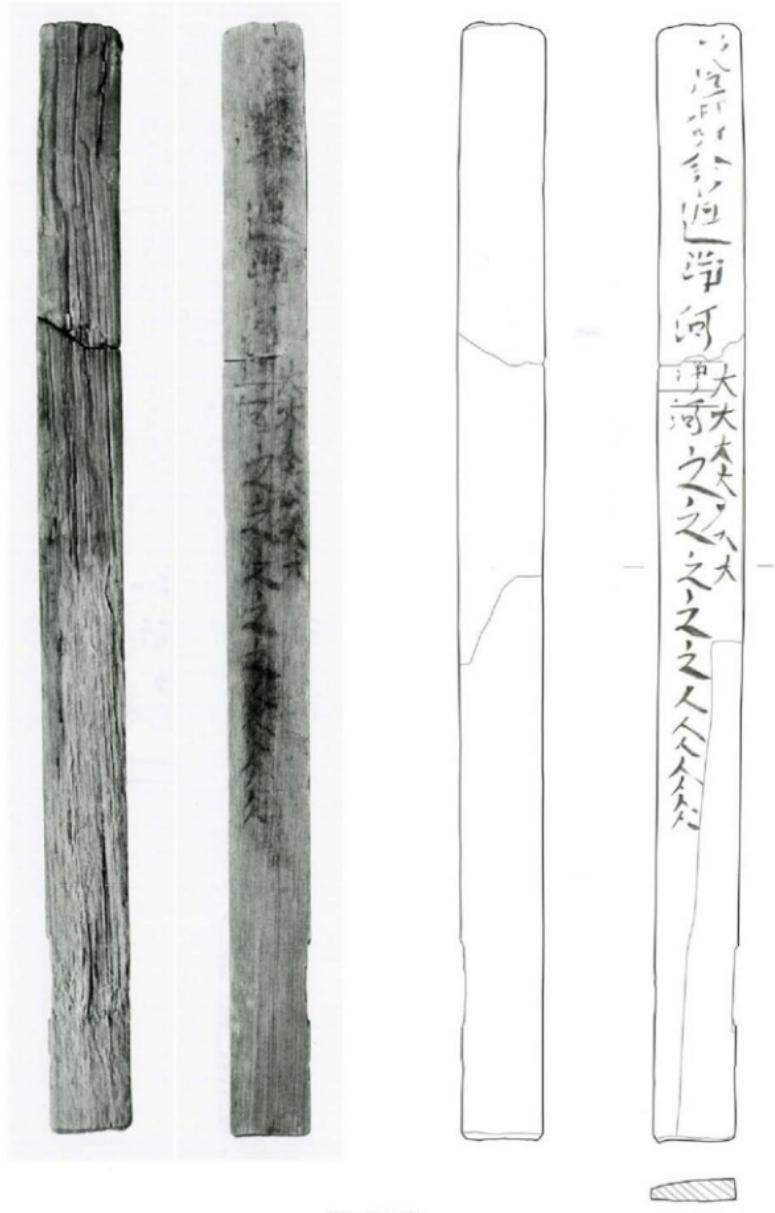
墨書はオモテ・ウラ両面に確認できるが、詳細は不明とせざるを得  
ない。

第一一一号木簡 (88)×(4)×2 081 SD2386b

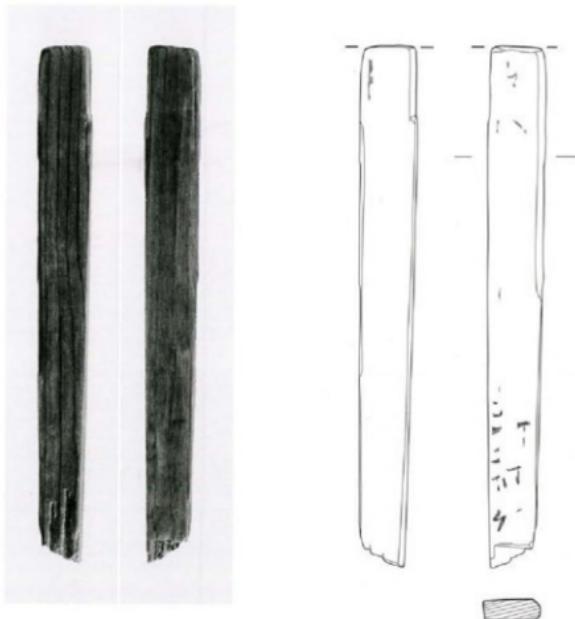
□□

上端・下端および左右両側面いずれも欠損する。表面はオモテ・ウ  
ラともに平滑に調整している。

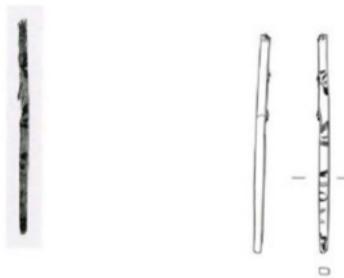
墨痕はオモテ面にのみ確認することができるが、幅がわずか四畳  
か残っていないため、文字數等詳細については不明とせざるを得ない。



第111号木简



第112号木简



第113号木简

## 二 漆紙文書について

本節をなすにあたり、平川南氏（国立歴史民俗博物館教授）にご教示いただいた。

### 凡例

一、本節は、漆紙文書についてまとめたものである。文字の確認できたものを報告の対象とした。このほか文字の確認できなかつた漆紙は七点、漆付着土器は三点である。

一、漆紙文書については、A区・D区のほか、C区出土のものについても収録している。出土遺構については、『多賀城市文化財調査報告書第七〇集』を参照されたい。

一、积文に加えた符号は以下の通りである。

□□□ 欠損文字のうち、字数の確認できるもの。

( ) 校訂に関する注で、原則として积文の右傍に付し、本文に置き換えるべき文字を含む場合。

( ) 説明注

力 筆者、編者が加えた注で疑問の残るもの。

一、掲載した図版類は特に断らない限りほぼ原寸である。

## 一一、釈文

## 一、形状

折らずにそのまま廃棄されたもの。法量は一四・二×一一・八cmである。

現状はC字形をしており、全体の四分の三ほどの周縁が残る。容器の復元直径は約一四cmである。ウルシ面にわずかに木質の付着がみられるところから、容器は土器ではなく曲物と考えられる。

蓋紙としての利用の際に紙を内側へ向けて折り込んでいる。折り込まれた縁の周間に、約五mmの幅で圓形化した漆が帶状に付着している部分があることから、落とし蓋のようにして使用されたと推定される。

文字は両面に確認できた。ウルシ面には八行（復元を含む）が確認でき、文字の大きさは、大きいものが約一・三cm四方、小さいものが約一・〇cm四方、行間は約一・六cmである。オモテ面には四行（復元を含む）が確認でき、文字の大きさは約一・五cm四方、行間は約二cm（「位」の部分）である。

ウルシ面には漆の下に墨痕が確認できる箇所があつたため、グラインダーを用いて表面をわずかに削り取ったところ、數文字を確定することができた。なおこの作業以前に写真撮影をおこない、作業中の赤外線テレビカメラ画像はビデオテープに収めた。

なお、以下に掲げる釈文のほかに、オモテ面の上に複雑に折りたたまれている部分に、どの行に当たるか判断できなかつた墨痕がある。

## 〔ウルシ面〕

□	□□	〔乗カ〕
□驛	驛馬	〔等々カ〕
□符一枚柴田郡	□	月卅日
□傳	□及下	〔模カ〕
□	武藏	相□
□迎	□	月卅日
佛主	三	

〔※このほか、折り込まれた部分に墨痕あり〕

## 【オモテ面】

（在カ）  
□□□

位

□半飛

□

## 三、内容

### 【ウルシ面】

一行目三文字目は「しんによう」が明瞭に確認できる。墨痕からは「速」「速」などが近い。

二行目一文字目は墨痕は確認できたが判読できなかった。

四行目一文字目は、漆紙の縁の部分に文字がかかっているが、赤外線カメラにより観察したところ「傳」と判読して間違いない。

六行目一文字目は旁の一部であるが、墨痕からは「繼」「述」などが考えられる。

七行目の「戸主物」の三文字は天地逆に書かれている。

八行目一文字目は「てへん」もしくは「きへん」が確認できる。六

文字目は「こんべん」は確認できるが旁の一部分を欠き、判読できない。字形からは「訊」「語」などが近い。  
ウルシ面は、陸奥国府における駆馬や伝の使用・文書の通送などにかかる帳簿と考えられる。

記載の中に「驅馬」（二行目）「傳」（四行目）などと見えるのが注目される。三行目の「符一枚」については、下達文書の「符」と「傳符」の場合が考えられる。公文書にみられるそれぞれの単位に注目すると、

例えば官司間で授受した公文書の目録である「出雲国計会帳」（『大日本古文書』一一五八七）や「伊勢国計会帳」（『大日本古文書』二四一五四七）では文書の「符」の単位として「道」「條」「紙」などがあるが、「枚」は見られない。一方「傳符」については、郡稲の収支を記録した「越前国郡稲穀」（『大日本古文書』一一四六一）のなかに「肆炮傳符壹枚」という表記があり「枚」という単位が確認できる。ただし、

文書の性格がやや異なるが、寺院作成の財産目録である「西大寺資財流記帳」（『寧楽遺文』中巻）には「卷 太政官符并案（五十五枚）」（（一）は細字）という表記があり、いずれかを早計に判断するのは避けるべきであろう。

地名に関する記述として「柴田郡」（三行目）「武藏」「相模」（五行目）「山道」（八行目）がある。

陸奥国柴田郡は、多賀城の南西約三〇km、現在の宮城県柴田郡付近に比定され「延喜式」（兵部省）によると、柴田郡には柴田駒があり、駒馬十疋・伝馬五疋が備えられていた。

「相模」については国名（相模國）・郷名（色麻郡相模郷）が考えられるが「武藏・相模」と連続することから国名である可能性が高い。なお武藏・相模といふ順は、陸奥国から都へ向かうルート上にあり、かつ国境を接している国であることから、仮にこの部分に陸奥国から都へ向かうルート上の国名が列記されていると考へると、「武藏」の上には「常陸」「下総」などの国名が想定される。そこで再び五行目の墨痕に注目すると、三文字目を「下」と読み、一文字目を「国」の下半



第2号漆紙文書 ウルシ面 ---部分は折込想定線

### ■部分はオモテ面

部分は折込想定線



第2号漆紙文書 赤外画像

とみても字形としては矛盾がない。以上の検討から、五行目を推定復

元すると

：国及下總・武藏・相模：

となる。一案として掲げておく。

武藏國は宝亀二（七七一）年に東山道から東海道へ改められており（『続日本紀』宝亀二年十月己卯条）、下總・武藏・相模という記載順は東海道に属することをふまえたものと考えられることから、当文書は宝亀二年以降の作成ということになる。

また、「文字目を「国」とすれば、「及」字ははさんで東海道の国が続けて列記されると考へたいので、「及」字の上には、陸奥国と同じく東山道に属し、征夷の際に物資の補給地として重視されていた上野・下野などの国名が記載されていた可能性がある。

「山道」（八行目）に関しては、『続日本紀』天平九（七三七）年四月戊午条に藤原麻呂からの報告として「山海両道を開き、海道に田夷遠田君維人を、山道に帰服狄和我君計安曇を派遣して夷狄を鎮撫した」との記述がある。また、宮城県赤井遺跡からは「海道」と記した付札木簡が出土している（『木簡研究』二三）。当文書には「部内山道」と記されており、「山道」という語が陸奥国内の行政的な地域名称として使用されていたことがわかる。

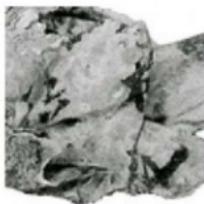
#### 【オモテ面】

オモテ面は複雑に折りこまれた紙片が付着しており、この紙片の下にも文字が存在するが、現状では確認できない。また、ウルシ面の破損した部分から確認できるオモテ面の文字がある。

一行目はウルシ面から確認できるオモテ面の文字である。三文字目は現状では折り込まれており文字の向きが一致しないが、復元すると「□（在力）」とした文字と同じ行にあたる。文字の旁部分「反」のみ確認できる。

三行目はオモテ面から、現存部分の中央に確認できる。「半飛」の文字は明瞭であり、「半」の上にも文字が存在するが、折られた紙片に隠されている。

いざれも謹直な楷書体で書かれているが、内容は判然としない。



赤外線画像



赤外線画像

■部分はウルシ面  
----は折込想定線

第2号漆紙文書 オモテ面

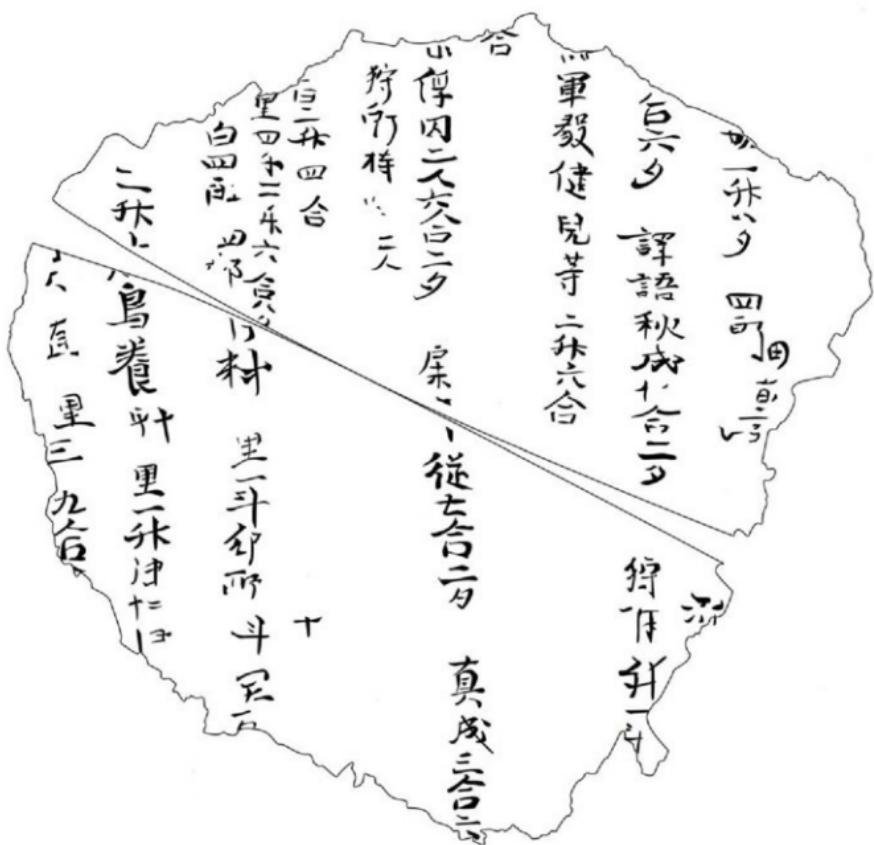
## 第三号漆紙文書 SD2386G (D区)

### 二、积文

#### 一、形状

漆容器の蓋紙として再利用されたもの、ウルシ面を内側にして二つ折りにして廃棄されたもの。法量は長径一五・五×短径八・二cmで、現状は半円形をしている。漆容器の復元直径は約一六cmである。文字は漆面にのみ確認されたが、漆により密着しているため、はがして観察することはできない。文字の大きさは約〇・八cm四方、行間は約一・五cm。

□	一升八夕	四□□□	□
合六夕	詫語秋成	合二夕	狩□□一斗
□軍艦錦兎等二升六合	合	□	□
□仔因二人六合二夕	□	□	□
□	從七合二夕	真成三合	〔六 カ〕
狩□持□二人	白二升四合	□	□
黒四斗二升九合八夕	□料	黒一斗	□□□□□
〔解カ〕	〔所料カ〕	〔料カ〕	□
白四□四□	□	□	□
□一升	□	鳥養料	黒一升□□□
□	□	□	□
□	黑三	□	九合□



第3号漆紙文書（反転・展開）

### 三、内容

一行目一文字目は、「田」のようにもみえるが、他の行と比べて文字が小さく、行も揃わない。

「脊」字は七行目にもみえるが、いずれもその下に続く文字を判読できなかった。

一四文字目は、「井」に似る。

六行目一〇文字目は、「戸主」のようにもみえるが、確認できる墨痕は

「戸」と「末」を合わせたような字形で、「戸主」とは考えがたい。

八行目六文字目は、「十」のような墨痕が確認できるのみで、上下に文字は確認できなかった。

九行目の「黒四斗」・「白四斗」は、行間がこの部分のみ狭いことおよび下に続く文字との関係から、割書であると思われる。下の「□料」の内訳を記したものであろう。左行五文字目は「おおさど」が明瞭に確認できた。

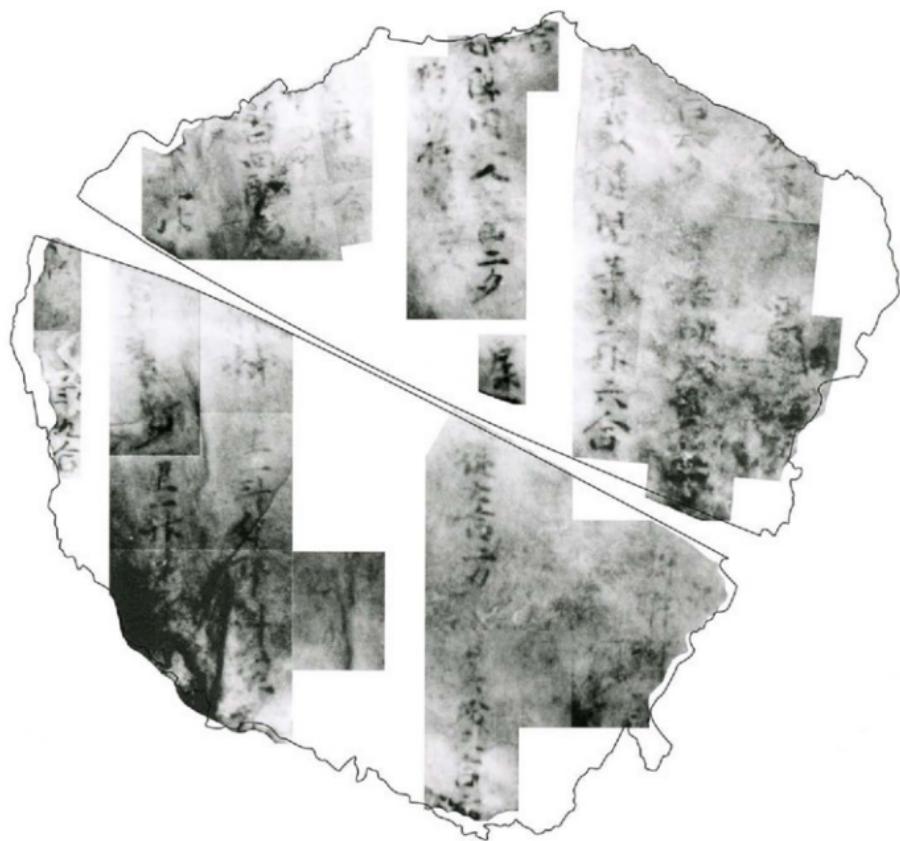
一〇行目二文字目は、「津」に似る。

一一行目三文字目は、「直」に似る。

全体に「斗・升・合・夕」の単位が確認できる。また、白・黒などの記載があることから「白米」「黒米」という米の単位と考えられ、本文書は食料支給の帳簿であると思われる。前半には軍餉・健児などの職掌名・人數・支給量などが記されるが、八行目を境として、白・黒の別が記されるようになり、一項目の記載量がやや多くなる。また、費用を示すと思われる「〇料」という表記がみえる。

前半の記載のうち、「一人当たりの支給額が判明する」のは六行目の「俘囚二人六合二夕」つまり俘囚一人当たり三合一夕、および「真成三合」のみであるが、一人当たりの支給額が約三合と少ないことから、

ここに記されているのは一食分程度の食料支給と考えられる。多賀城作成であれば、国府での行事に参加した者への食料支給などが考えられる。訳語（三行目）については、いちおう職掌名とウヂ名とが考えられるが、六行目に「真成三合」人と名のみの表記があること、および前半部分には「軍餉・健児」などの職掌名が見られるところから考えると職掌名の可能性が高い。職掌としての蝦夷訳語は『続日本紀』義老六（七二二）年四月丙戌条に「征討陸奥蝦夷、大隅薩摩隼人等一將軍已下及有功蝦夷、并譯語人、授勳位各有差。」とあり、「日本三代実錄」元慶五年（八八一）五月三日庚戌条に「從陸奥蝦夷訳語外從八位下物部斯波連永野外從五位下」とあるなど、八・九世紀を通じてその存在が確認できる。陸奥国の健児（四行目）については、史料の初見が大同五（八一〇）年であり、大同元（八〇六）年頃に導入されたと考えられていることから（鈴木拓也「九世紀陸奥国の軍制と支配構造『古代東北の支配構造』吉川弘文館、一九九八年）、本文書の作成年代は大同年間以降と考えられる。なお『延喜式』（兵部省）によれば、陸奥国に健児三三四人が置かれている。



赤外画像

## 二、积文

## 一、形状

漆の蓋紙として再利用され、そのまま廃棄されたもので、バレットとして使用した土師器に固定化した漆とともに付着している。土師器は口縁部を欠損しており、残存するのは漆が付着している部分のみである。

漆紙文書は下半を欠損し、不整形な半月形をしており、残存部分の法量は一三・二×一〇・八cmである。

四方、小字が〇・六cm四方で、行間は約一・五cmである。文字のほかに横界線が二本確認でき、界線の幅は二・三cmである。縦界線・印影文字はオモテ面に確認できた。文字の大きさは、大字が約〇・八cm

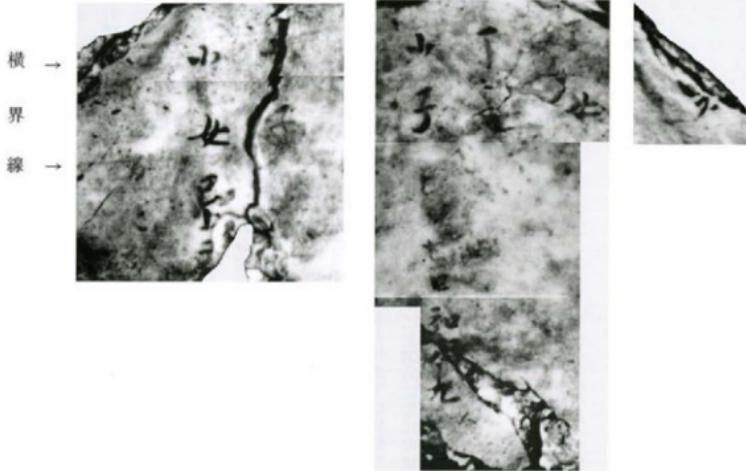
文字は確認できなかつた。

## 三、内容

籍帳様の文書である。一本の横界線で区切られた欄に「丁女」「小子」などの年齢区分を記し、その下の欄に注記を記す。「一・三・五行目の年齢区分の下には文字はない。また、文書の奥には二行分ほどの余白があるが、この部分にも文字は確認できなかつた。

一行目一文字目は一部文字を欠損するが「男」として間違いない。こには年齢区分が記されるはずであるから、「男」のつく年齢区分として「中男」と推定できる（現存の籍帳のなかには「小男」という表記の例もあるが（譜岐国戸籍）『大日本古文書』一一三一七・三一八など）、当文書には「小子」という表記が使用されていることから、「小男」はあたらない。

注記の内容については欠損のため不明であるが、戸口の死亡や移動などの注記がなされたものであろう。現存の籍帳のうち類似の書式をもつものとして「陸奥国戸口損益帳」（大日本古文書）一一三〇五、



第4号漆紙文書

三〇八）が挙げられる（岸俊男「いわゆる『陸奥国戸籍』の残闇」）日本古代籍帳の研究、塙書房、一九七三年などを参照）。料紙に注目すると、本文書は年齢区分の記載が現存料紙のかなり上方に書かれているのが特徴的である。現存の戸籍・計帳のうち年齢区分が界線によって区切られる書式を持つものは、年齢区分が料紙の中ほどあるいはやや下方に位置するものが普通である。

漆の蓋紙として使用するには、現存部分の周囲にも紙が必要であるから、仮に本文書の年齢区分記載が料紙の中央にあるとすると、蓋をする際に下方の料紙が足りず、不都合を生じる。

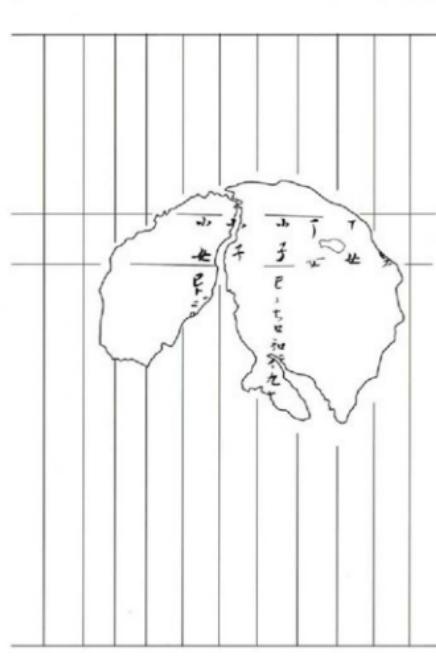
前掲の「陸奥国戸口損益帳」は戸籍・計帳の例と異なり、年齢区分がかなり上方に記載されている。この帳簿が死亡や移来の情報を書き込むことを目的としたためであろう。試みに本文書の第一界線と、「陸奥国戸口損益帳」の第二界線を重ねてみると、残存部分が料紙の縱幅のちょうど中央に位置し、界線の幅はやや異なるものの、文字の大きさ、行間等はほぼ一致することから、本文書の記載様式は「陸奥国戸口損益帳」と同様のものであるとみてよい。和銅年間より弘仁年間まで、同じ書式で戸口の移動がまとめられていた点が注目される。多賀城市の山王遺跡第十二次調査SD一八〇出土の第一号文書は、鄉里制下（七一七～七四〇）の戸口損益帳案とみている。（『多賀城市文化財調査報告書第四五集 山王遺跡I』一九九七年）

「戸口損益帳」は造籍から次の籍年までの戸口の異同を集計したものであるから、この文書が「戸口損益帳」であるとすれば、一次利用された時期は弘仁九（八一八）年以降の最初の造籍年まで、ということになる。平田耿二氏によると弘仁三（八一二）年の造籍後、次の籍年である弘仁九年の造籍は史料で確認できないが（平田耿二「平安時代

の戸籍について」）『日本古代籍帳制度論』吉川弘文館、一九八六年の一二頁第四九表を参照）、和銅元（七〇八）年の造籍のために作成されたとされる「陸奥国戸口損益帳」には、大宝二（七〇二）年から和銅元年までの注記がみられるところから、当文書が「戸口損益帳」であるとすれば、弘仁九年の注記を持つ当文書は弘仁九年の造籍を裏付ける史料としてよいだろう。ただし、当文書には弘仁九年の注記しか確認できないことなどから、単年度の集計である可能性を考慮する必要がある。

一～四行は、一行目以前に三人分の記載を欠き、一戸内における計七人分の異同を抜き出したものと考えられるが、この部分は男女順の配列になつてない。人名や続柄の記載を欠くため判然としないが、養老五年下總国戸籍のように戸主との親等順に配列されていたか。

なお陸奥国の籍帳の書式については、養老五年までは御野型の書式（男女順に配列）であり養老五（七二一）年に全国的に書式の統一が行われるという指摘がある（平川南「古代の籍帳と道制」『九州史学』一六、一九九六年）。



陸奥国戸口損益帳の界線(模式)と見取図



現況(S=1/2)

[ワルシ面]

## 一、形状

断片であるが、片面にのみ漆の付着が認められるので、蓋紙として再利用された文書の一部であろう。法量は九・五×五・二cmである。

両面に文字が確認でき、オモテ面の文字の大きさは約一・〇cm四方、行間は約一・五cm、ウルシ面の文字の大きさは約一・〇cm四方、行間は約一・二cmである。

## 二、积文

【オモテ面】



(縦横等)

並曹備



□十



□

## 三、内容

オモテ面の一行目は文字の左端が微存している。

二行目には、「二」字の直下より墨線が引かれている。

四行目一文字目は文字を欠損しているが、二・五行目から「」に數

字が入るとすれば「十」が近い。

「物品名+数量」という書式が想定される。「並曹備」とは、「(以上  
の物は) みな曹司に備えられている」の意味か。

曹司については、山王遺跡から「西曹司」墨書き土器(『山王遺跡III』  
宮城県教育委員会、多賀城跡(SK-200六土壤)から「曹司」墨書き  
土器(『宮城県多賀城跡調査研究年報』一九九〇)の出土例があり、  
多賀城内およびその周辺に曹司が存在していたことが知られる。

以上よりオモテ面の内容は、物品の数量と保管場所をまとめた帳簿  
と考えられる。また、謹直な文字で書かれていることから、一時的な  
控えなどではないであろう。

ウルシ面は堀田などの田積を記した帳簿である。四行目以降は、漆

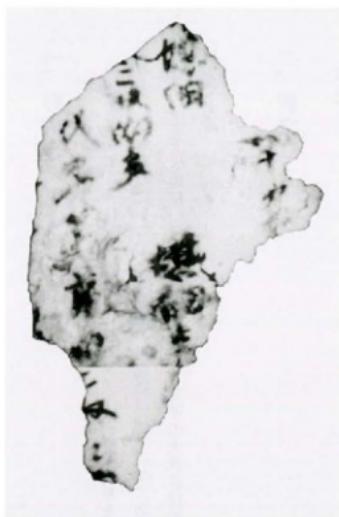
□十□

□堪個 参段伯歩 堪個壹

〔田カ〕

□代□□□□二段三





ウルシ面

オモテ面

第5号漆紙文書

付着のため墨痕が明瞭でない。

文字の難直さからオモテ面が一次利用面であると判断される。

## 第六号漆紙文書

SK1343 (C区)

### 一、形状

「1点を接合し、長径一・五×短径九・三cmのほぼ円形をしている。  
折らずに廃棄されたもので、漆容器の復元径は約一二cmである。

文字はオモテ面に一行のみ確認できた。文字の大きさは約一・五cm  
四方である。

### 二、积文

宝龟三年

### 三、内容

右端に年号のみが確認された。宝龟三年は七七二年にあたる。漆紙  
の状態からは、他の部分がとくに磨滅しているようには見えないこと  
から、墨痕が確認できない部分は余白のまま廃棄されたものと考えら  
れる。年号は文書の末尾部分にあるか。



第6号漆紙文書

## 二、积文

## 一、形状

四点の小片を接合した大きな断片一点と、小断片、および多数の細片からなる。文字を確認できた断片は五点、墨痕を確認できた断片は三点である。確認できた文字はすべてウルシ面に書かれたものであるが、文字は赤外線カメラによつてもウルシ面からは確認することができず、オモテ面から左文字で確認することができた。

文字が確認できた断片の法量は①一・二×一〇・五cm、②四・九×四・〇cm、③三・六×二・八cm、④三・七cm×二・五cm、⑤三・三×二・四cmである。文字の大きさは約一・五cm四方、行間は約二・五cmで、各断片ともほぼ共通している。界線や印影は確認できなかつた。

墨痕が確認できた断片の法量は、⑥一・一×〇・八cm、⑦一・四×一・二cm、⑧〇・九×一・三cmである。

なお、漆紙文書のはか一・五×一・三cmほどの漆が付着した布の小片が共伴している。





①

第7号漆紙文書 ① (才モテ面からの反転実測)

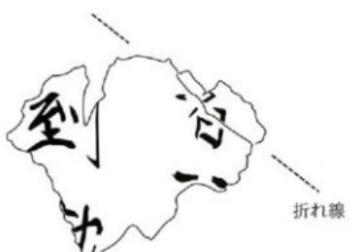
### 三、内容

①二行目九文字目は、残画からは「九」あるいは「五」が近い。  
三・四行目には墨痕が認められる。文書末尾の年紀・署名部分にあたるか。

③一行目一文字目は文字の上半が残存しており、残画は「其」に似る。

④一文字目は文字が半存しており、残画からは「軍」が近い。

⑤一・三文字目は墨痕が確認できる。二文字目は字形からは「長」が近い。



⑧

⑦

⑥



第7号漆紙文書 ②～⑧

## 二、积文

### 一、形状

三片を接合した大断片と二つの断片、三つの小片の計七点からなる。  
うち三片のオモテ面に墨痕が確認できた。

①三片を接合した大断片で、法量は九・三×七・八cmである。当文  
書は蒔紙として再利用され、のちにウルシ面を内側にして折られて廻  
被されたもので、一・二行目の間に綫方向の折目が確認できる。文字  
はオモテ面にあり、大きさは約一・五cm四方、行間約三cmで界線や印  
影は確認できなかった。

②長径四・〇cm×短径一・三cmの小片で、オモテ面に墨痕が確認で  
きるが、いずれの文字も欠損しており、判読できなかった。

③長径五・八cm×短径一・一cmの小片で、オモテ面にわずかに墨痕  
が確認できる。

①□依忽□

米

②□

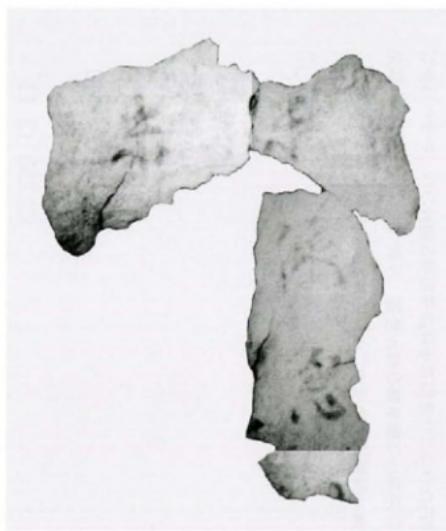
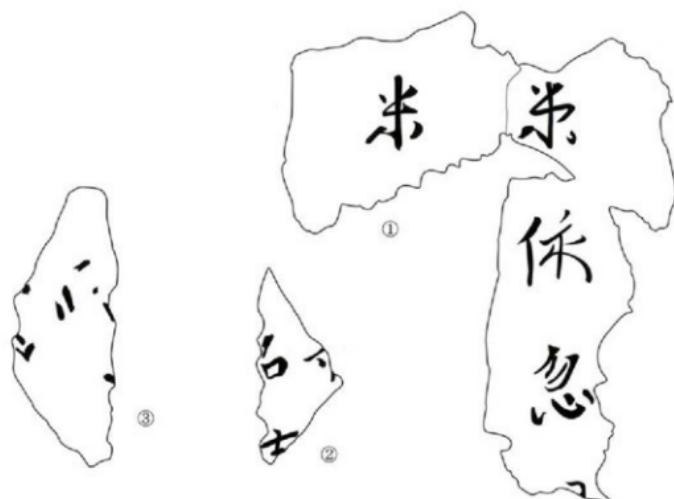
□□

③□

(墨痕)

### 三、内容

①謹直な文字であるが内容は不明である。



第8号漆紙文書

## 二、积文

## 【ウルシ面】

大伴部□ □

□ □ □□□

## 【オモテ面】

□□□□  
□□  
□

## 一、形状

六片を接合した断片（一三・九×六・五〇）と三点の小片からなる。もつとも大きな断片については両面に文字を確認できた。ウルシ面には一行確認でき、文字の大きさは約一・〇cm四方で、行間は約二・二〇である。界線や印影は確認できなかつた。

当文書は、ウルシ面を内側にして折られて廃棄されたものである。

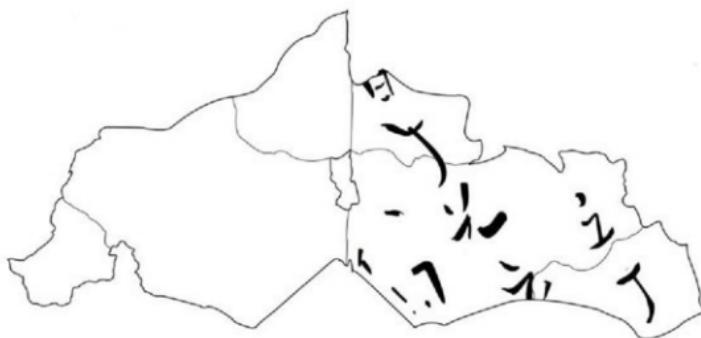
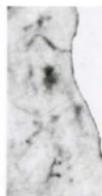
断片は折られた状態で出土したが、その後の調査時に折目がはがれ、ウルシ面の紙質の一部が左右に分かれてしまつてゐる。そのため、折目より左半の文字は左文字でみえてゐるが、これはもと右半の文字と同一の面に書かれていたものである。左半に文字の有無は確認できなかつた。なお积文は本来の文字の位置を復元して示した。

## 三、内容

オモテ面については、墨痕は明瞭であるがいすれの文字も欠損しており、判読できなかつた。文字の大きさは約一・五cm四方で行間は約二・〇cmである。

小片のうち一点（一・八×〇・七〇）には墨痕が確認できた。

ウルシ面の一行目には「大伴部」というウチ名が確認できた。大伴氏は弘仁十四（八二三）年に、淳和天皇の諱を避けて伴氏に改姓していることから、この文書の作成年代はそれ以前ということになる。  
一行目二文字目は「うかんむり」が確認できる。



第9号漆紙文書（上：ウルシ面、下：オモテ面）

# 第一〇号漆紙文書 SD1411 (C区)

## 二、釈文

### 一、形状

漆のパレットとして使用した土器の蓋紙として再利用され、そのまま土器とともに廃棄されたもので、土器底部の直径一〇cmほどの範囲に漆と紙質の断片が付着している。土器の口径は一三・五cmで一部欠損している。

土器底部に残るやや大きい紙片に左文字で數文字が確認できた。つまり文字はウルシ面に書かれていることになる。確認できた底部の文字の大きさは一・五cm四方、行間は一・五cmであるが、釈文の一・二行目は文字が重なっているようにも見え、判然としない。

また、漆の周縁に沿つていくつかの墨痕（左文字）を確認できた。この部分には紙質は残っていない。なお、周縁の文字はどの行の何文字目であるかを断定できないので、釈文中に示していない。前記の文字の大きさ、行間で均等に割り付けた際の復元案を示しておくので参考にされたい。

### 三、内容

一行目二文字目では「のぎへん」であろう。二行目二文字目に一部重なる。

三行目三文字目は「つちへん」および旁の一部が明瞭に確認できるが、判読できなかった。  
文書の内容については不明とせざるをえない。

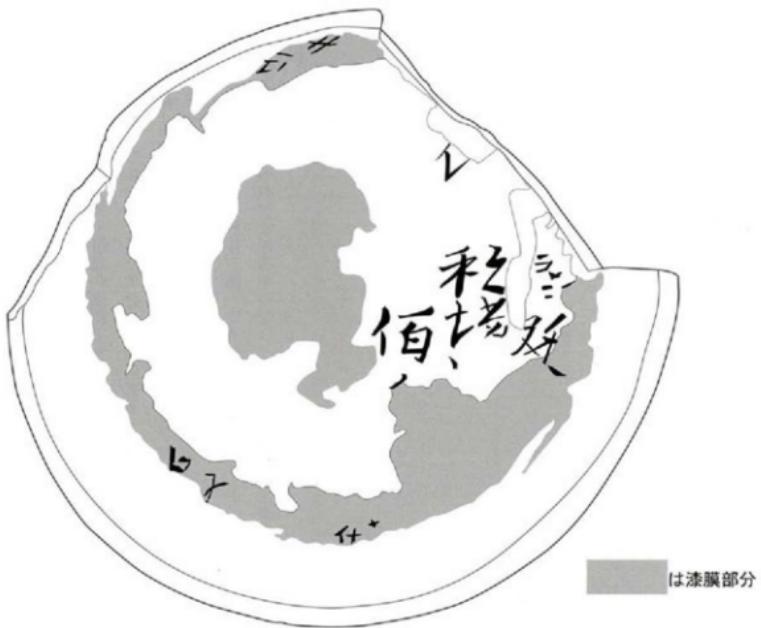
【参考 釈文復元案】

□□  
□□□  
□□□  
□□□

□□□  
□□□

(※漆の周縁に沿つて文字の断片あり)

□□  
□□□  
□□□  
□□□  
□□□  
□□□  
□□□  
□□□



赤外画像



現況写真 ( $S=1/2$ )

第10号漆紙文書（反転復元）

# 第一二号漆紙文書 SD2336g (D区)

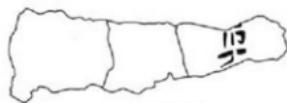
## 二、积文

### 一、形状

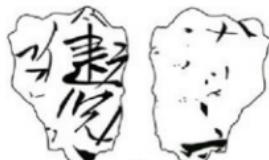
多数の小片からなる。文字・墨痕が確認できた断片については、別表に法量を示した。ウルシ面・オモテ面の両面に文字・墨痕を確認でき、「健兒」「勝」「繩」など複数の断片に共通する文字がみられるが、文字の大きさは均一ではなく筆跡も複数存在するため、同一の文書であるかは不明である。また、ウルシ面・オモテ面の利用関係、および文書の内容についても不明とせざるを得ない。ただし、付着した漆の状態はよく似ている。

番号	法量(縦×横)	備考
1	3.2×2.5	
2	2.8×3.0	
3	4.0×3.2	
4	3.5×4.0	
5	1.9×5.6	
6	2.6×1.7	
7	2.6×2.2	
8	1.5×4.2	
9	1.7×3.3	
10	2.0×1.3	
11	1.7×1.4	
12	2.3×2.0	
13	1.8×1.3	
14	1.5×1.1	
15	1.5×1.6	
16	1.3×1.6	
17	2.9×2.3	墨痕
18	1.8×2.5	墨痕
19	1.8×2.0	墨痕
20	1.9×0.6	墨痕
21	1.6×1.5	墨痕
22	1.7×1.6	墨痕
23	1.5×1.1	墨痕
24	1.1×1.6	墨痕
25	1.2×1.8	墨痕
26	1.1×0.9	墨痕





才モテ面



ウルシ面

才モテ面



⑤  
ウルシ面



ウルシ面

才モテ面

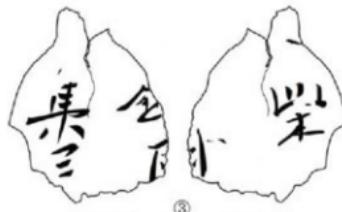


ウルシ面

⑥

才モテ面

才モテ面

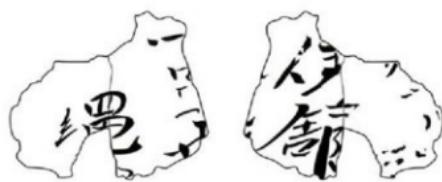


ウルシ面

才モテ面



⑦  
ウルシ面



ウルシ面

④

才モテ面

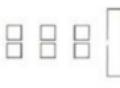
第11号漆紙文書 ①～⑦

⑤

【オモテ面】

□見

【ウルシ面】



⑥

【オモテ面】



【ウルシ面】



□廣

【ウルシ面】



□

⑦

【ウルシ面】

健兒



⑧

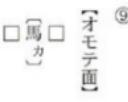
【オモテ面】



⑨

【ウルシ面】

勝



□馬カ

【オモテ面】



□

【ウルシ面】

⑩

【ウルシ面】



二日

【ウルシ面】



⑪

【ウルシ面】



⑫

【ウルシ面】



□

【ウルシ面】



⑬

【ウルシ面】

繩

⑭

【ウルシ面】



⑮

【ウルシ面】

墨痕

⑯

【ウルシ面】



⑰

【ウルシ面】

(墨痕)

⑱

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

⑲

【ウルシ面】



⑳

【ウルシ面】

墨痕

㉑

【ウルシ面】



㉒

【ウルシ面】

墨痕

㉓

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉔

【ウルシ面】



㉕

【ウルシ面】

墨痕

㉖

【ウルシ面】



㉗

【ウルシ面】

墨痕

㉘

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉙

【ウルシ面】



㉚

【ウルシ面】

墨痕

㉛

【ウルシ面】



㉜

【ウルシ面】

墨痕

㉝

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉞

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



二日

【オモテ面】

【ウルシ面】

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



㉟

【ウルシ面】

墨痕

㉟

【ウルシ面】



ウルシ面



⑧

オモテ面



ウルシ面



⑬

オモテ面



ウルシ面



⑨

オモテ面



⑩ ウルシ面



ウルシ面



⑩

オモテ面



⑪ ウルシ面



⑪ ウルシ面



⑯ ウルシ面



⑫ ウルシ面

第11号漆紙文書 ⑧～⑯

### 三、内容

⑩ウルシ面に「繩」の右半が残る。オモテ面二文字目は「庭」に似る。

⑪文字の大きさは約一cm四方。一行目二文字目は「乘」に似る。

⑫ウルシ面の文字の大きさは約一cm四方。一部重なる。「健兒」の文字が確認できることより、当文書の作成年代は大同年間以降と考えられる(第三号文書参照)。

⑬ウルシ面・オモテ面とともに文字の大きさは約二cm四方。

⑭ウルシ面・オモテ面とともに文字の大きさは約一cm四方。オモテ面の「柴」字は柴田郡に關わるか。

⑮ウルシ面・オモテ面とともに文字の大きさは約一・五cm四方、行間は約二cm。ウルシ面一行目末尾の文字は「廿」に似る。二行目には「繩」とあり、器仗に關わる記述か。オモテ面は「繩」字は明瞭に確認できるが、その上の文字は判読できなかった。

⑯ウルシ面の文字の大きさは約一・二cm四方、行間約一・八cm。三分割が確認できたがいずれの文字も判読できなかつた。二行目二文字目は「柴」の上半に似る。三行目一文字目は「殿」に似る。オモテ面には「見」字が確認できた。あるいは「健兒」か。文字の大きさは約〇・八cm。

⑰ウルシ面の文字の大きさは約一・五cm四方、行間は約一・五cm。一・二行目の文字は一部重なる。一行目二文字目は「かわへん」が確認できる。

⑱文字の大きさは約一・二cm四方。二行目は各文字の一部を欠くが「健兒」として間違いない。

⑲ウルシ面の文字の大きさは約一・五cm四方。オモテ面は文字の上半を欠く。

⑳いざれも文字の一部を欠く。オモテ面二行目は「馬」に似る。



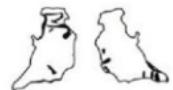
⑯ ウルシ



⑯ オモテ



⑰ オモテ面



⑱ ウルシ面



⑲ ウルシ面



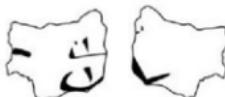
⑳ ウルシ面



㉑ オモテ面



㉒ ウルシ面



㉓ ウルシ面



㉔ ウルシ面



㉕ ウルシ面



㉖ オモテ面

第11号漆紙文書 ⑯～㉖

## 二、积文

## 一、形状

いくつかの断片を接合した大きな断片四点と、四×三・三cmほどの断片三点、および多くの小断片・細片からなる。大きな断片のウルシ面には、固形化した漆が筋状に付着していることから、蓋紙の周縁部にあたると考えられる。小断片はいずれも漆の付着が少ない。

文字・墨痕が確認されたのはそのうちの三点で、いずれもオモテ面である。法量は①八・二×三・五cm、②三・八×二・三cm、③二・八×一・七cmで、①は明瞭に「寶」字が確認でき、文字の大きさは約一・五cm四方である。「寶」の上には一・二文字分の余白がある。なお、C区からは「宝龜三年」の年紀を持つ漆紙文書（第六号）が出土していることを参考にすると、①についても年号「宝龜」の可能性があろう。②③はいずれも墨痕で判読に至らなかつた。いずれにも界線・印影は確認できなかつた。

また、紙綴目とみられる、幅〇・三cm、長さ一・三cmほどの帯状の凸部をもつ小断片（法量は一・六×〇・八cm）が存在する。その糊代の幅からは非常に丁寧な紙綴であるといえ、当文書が公文書である可能性が指摘できる。

□ ③ □ ② 寶 ①



①



①赤外画像



③



②

第12号漆紙文書

# 第一三三号漆紙文書 SX1812 (A区)

# 第一四号漆紙文書 43区第IV層 (A区)

## 一、形状

三片を接合した断片（八・九×六・三印）と十一点の小片（墨痕なし）からなる。最も大きな断片のうち紙質が残っている部分は、才モテ面左半の六・七印×二・五印ほどの部分で、大部分の紙質は失われている。紙質が残る部分に文字が半存している。

文字は一行四文字が確認できた。文字の大きさは約一・〇印四方で字間は約一・五印である。界線や印影は確認できなかつた。

## 一、积文

枚

多数の小片よりなる。一点の小片（11・八×11・三印）は才モテ面に文字が確認できた。文字の大きさは約一・〇印四方である。その他数点の小片に墨痕が確認できた。

## 一、积文

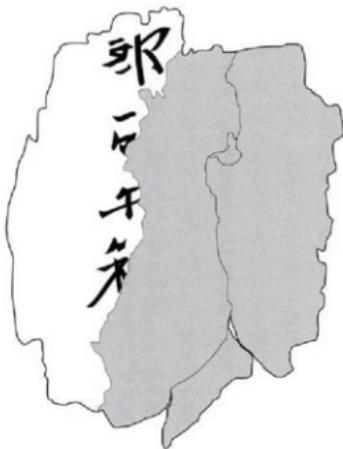
(才モテ面)

部□□□

## 三、内容

二文字目は残画からは「成」が近い。

四文字目は残画からは「しめすへん」と考えられる。



は漆膜部分

第13号漆紙文書



第14号漆紙文書

## まとめ

市川橋遺跡からは計三点の漆紙文書が出土した。うち文書の作成年代を知りうるものは以下のとおり。

(1) 文書に紀年を有するもの

第六号・宝龜三 (七七二) 年

第二二号・宝龜 (七七〇～七八一) か

第七号・延暦九 (七九〇) 年

第四号・弘仁九 (八一八) 年

(2) 文書の内容より年代が推定できるもの

第二号・宝龜二 (七七一) 年以降

第三・一号・大同年間 (八〇六～八一〇) 以降

第九号・弘仁十四 (八二三) 年以前

年代を知りうる文書の作成年代は七七〇年頃から八一〇年頃までに収まり、他の文書や遺構の年代を考えるうえで参考になろう。

また、文字が確認できなかつた蓋紙も含めると、漆容器の直徑が復元できるものについては直徑一五cm前後のものが多い。平川南氏は、漆液を入れた容器（曲物）の推定径を一四cm前後、二二cm前後、三三cm前後の小・中・大の三グループに分類したが、そのうちの小グループに属することになる（『漆紙文書の研究』総論第一章註（6）、六〇～六一頁、吉川弘文館、一九八九年）。また、ウルシ面に固形化した漆が厚く付着しているものや、蓋紙をした土器ごと廻棄されたものもみられることから、当遺跡周辺では、下地塗りなどに用いる漆が、同時に大量に使用された状況が推測される。

また、内容の判明する文書についてはいずれも陸奥国府多賀城で作

成されたものと考えられ、明確に多賀城以外の施設で作成されたと分かる文書は存在しない。

なお、漆紙文書は文書の保管や移動を考慮せねばならず、文書の作成年代と蓋紙としての利用の年代が必ずしも近いとは限らない点に十分に留意する必要がある。

### 三 墨書・刻書土器について

#### 凡例

一、墨書き土器については、筆のはしりが認められるものはできるだけ採録した。したがって破片資料も多數含まれている。それ以外の墨付や転用硯などの墨痕については墨書き土器の範疇に含めていない。

一、刻書き土器については、焼成前の土器に刻んだものを「ヘラガキ」、焼成後の土器に刻んだものを「線刻」と称して区別し、土器に刻む行為の総称として「刻書」の呼称を用いている。

一、本節中において掲載した実測図は、本編から必要に応じて抜粋したものである。縮尺は本編と同じく三分の一である。写真図版については任意の縮尺である。写真図版については、基本的には墨書きの天地を基準に掲載した。

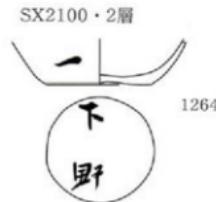
一、対象となった土器については、「墨書き・刻書き土器一覧表」として掲げ、器種・構造・層位・文字内容・記載部位・記載方向などをまとめた。

ここでは、若干の傾向を述べる。

墨書きは一文字あるいは二文字の墨書きが圧倒的に多い。また、それぞれの墨書きの出土地には際立った傾向などはよくみられず、同一文字の点数もそれほど多くない。そのなかで、SE一六七三井戸跡やSD一六七九溝跡を中心としたA一区周辺からは「奈」字が多く出土している。他地区に比べると元形品の割合も高い。ただし、意味は現時点では捉えにくい。

記載された文字の種類、内容は実に多彩である。たとえば地名では

「日理」・「下野」などがある。そのほか、「□郡」と底部にヘラガキされたものもある。人名には「田郷支部（以下欠）」と記されたものや「中成」・「石成」や「秦」・「麻呂」などが見られる。あるいは「局」や「宅」・「家」・「舍」・「政所」などの施設名、「酒」や「魚」などの用途を記したもの、「得」や「福」・「富」・「万福」などの吉祥句などもある。また五芒星「☆」の魔除け記号も出土している。横画五本と縦画四本で示すいわゆる「九字」は確認できなかつたが、「井」が出土している。井戸を示す「井」である場合があるが、井戸跡からの出土は確認できない。したがって、これは魔除け記号と考えてよいだろう。「神悦」と記されたものも二点出土しているが、文字どおり捉えるならば、神への贊応を示すものであろう。



SX2100・2層

1264



SX1667B

717

SE1671

239

240

241

SX1812 · 4b層

SD1667B

545

665

SD2386d

954

1016

2940

SX2365 · 4層

1004

1002

1173

1193

2961

1173

1193

2961

SD1768a

SD2344b

SX1667B

111

890

710

SD1652

286

313

314

885

766

SD1667B

SX1667C

SD2163 · 2層

SX1812 · 4c層

SX1667C

83区X56

343

(体部) 579 (底部)

764

1289

SX1667B

SX2365 · 5層

SX2100 · 2層

SX2365 · 4層

722

1065

1267

1270

1006

SD1768c

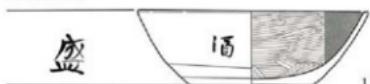


115



123

SD1768c



117

SX2365・4層



1019



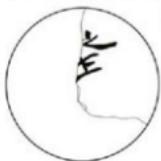
1210



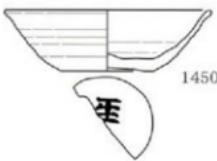
1022



1021



SX1900



1450

を手がかりに理解されている。すなわち「身（＝）形」方「命」十召十代（替）という表現形式を持ち、冥界の閻魔王に飲食物を齋應することによって死を免れようとする信仰・祭祀と深く関わっていることを示すものである。また、齋應する飲食物は「酒」であり、器に盛った状態で字を認識できるよう正位で記しているものと考えられよう。「盛」の場合も、「盛酒」と記された墨書き土器がほかに出土していることを考えれば、同じく酒を盛ったものと考えてよいだろう。則天文字の墨書きも確認することができた。則天文字とは、周知のとおり、武周の則天皇后が制定し、使用させた文字である。今回の調査地区からは、「遷」（地）、「至」（人）が出土している。特に「遷」（地）についてはS-X-三六五・四層から、四点出土している。正位で体部に記されたものが一点、底部に記されたものが三点である。記載部位は異なるものの、いずれも体部に記号を伴っている点が注目される。体部に同様の記号が記されているものが一点出土している。破片であるため詳細は不明とせざるを得ないが、これも則天文字「遷」を体部なし底部に伴つたものと考えられよう。

SE1673・3層



SD1679



「奈」字形集成

SE1673・1層



SE1673・2層



SE1673・3層



SE1673・4層



その他の墨書



## 付表 墓書・刻書土器一覧

(凡例)

一覧表中の「文字」の欄で使用した符号の凡例は次のとおりである。

- 「□」……………鉢鏡は困難だが、一文字記載されていることが確認できたもの。もしくは字数は不明であるが、明らかに墨書きないし刻書・漆書がなされていることが確認できたもの。
- 「□□」……………鉢鏡は困難だが、文字数の確認できるものの。
- 「□」・「□」……同一の部位に記載されているが、熟語ではなく一字ずつで意味を持つと判断したもの。
- 「□」/「□」……異なる部位に記載されていることを示す。
- 「□〔カ〕」……文字を確定しがたいものの。
- 「□〔 〕」……墨書・刻書・漆書きの別を記す。ただし墨書きに関しては必要な場合のみ記す。
- 「□〔 〕」……文字の内容に関する注記。

種類	器種	通 横・層 位	文 字	記 鋼 部 位	記 鋼 方 向	備 考	認 番	盤 誌
土師器	甕	SD 1767a 2	人面彌帶	底部外周	正位	肩か	62 A 5061	
須恵器	杯	SD 1767b 2	「三口」	底部外周	/	二文字目「国」などか	2245 A 5108	
土師器	杯	SD 1767c 3	「永」	底部外周	/		63 A 5062	
土師器	杯	SD 1767c 3	「ト」(墨書) / 「×」(ヘラガキ)	底部外周/底面内面	/		65 A 5067	
須恵器	杯	SD 1767c 3	「秋知」	底部外周	横位		67 A 5064	
土師器	甕	SD 1767c 2	人面彌帶	底部外周	正位	2面	69 A 5499	
土師器	甕	SD 1767c 3	人面彌帶	底部外周	正位	4面	70 A 5489	
須恵器	杯	SD 1767c 3	「紀」	底部外周	正位		3198 A 5114	
土師器	杯	SD 1768a 2	「今」(墨書) · 「口」(苗字)	底部外周	/	門構えの文字	110 A 5503	
土師器	杯	SD 1768a	「電」	底部外周	/		111 A 5065	
土師器	杯	SD 1768c 2	「口」(大穴)	底部外周	倒位		114 A 5067	
土師器	杯	SD 1768c 2	「酒」·「身代」	底部外周	正位・横位		115 A 5069	
土師器	杯	SD 1768c 2	「酒」·「處」	底部外周	正位		117 A 5069	
土師器	杯	SD 1768c 2	「酒」·「身代」	底部外周	正位/横位		123 A 5068	
土師器	杯	SD 1768c 2	「酒」·「口」	底部外周	正位・横位		2247 A 5066	
土師器	杯	SD 1768c 2	「口」	底部外周	/		2248 A 5070	
須恵器	杯	SD 1768c 1	「口」	底部外周	/		2249 A 5112	
須恵器	杯	SD 1768c 3	「口」(林か)	底部外周	/		2250 A 5113	
土師器	杯	SD 1768c	「口」	底部外周	正位		2251 A 8104	
土師器	杯	SD 1768d 2	「口」	底部外周	/		2252 A 5069	
須恵器	杯	SD 1768d 3	「×」(ヘラガキ)	底部外周	/		2253 A 5073	
土師器	杯	SD 1768d 2	「口」(判)	底部外周	正位		2254 A 5115	
須恵器	杯	SD 1768e 4	「夫」	底部外周	/		131 A 5068	
須恵器	杯	SD 1768f 2	「一」(ヘラガキ)	底部外周	/		2255 A 3436	
土師器	杯	SD 1768f 3	「二」	底部外周	正位		2256 A 5059	
土師器	杯	SD 1768f 1	「口」	底部外周	/		2257 A 5063	
須恵器	杯	SD 1768f 4	「十」	底部外周	正位		2258 A 5110	
須恵器	杯	SD 1666c 1	「口」	底部外周	/		2259 A 2127	
土師器	杯	SD 1666e 1	「口」	底部外周	/		2260 A 2118	
土師器	杯	SD 1666e 1	「口」	底部外周	正位		2261 A 2120	
須恵器	杯	SD 1666e 1	「口」	底部外周	/		2262 A 2125	
須恵器	杯	SD 1666e 1	「一」(ヘラガキ)	底部外周	/		2263 A 2135	
土師器	杯	SD 1701b 1	「口」	底部外周	/		2264 A 1662	
土師器	杯	SD 1701b 1	「口」	底部外周	/		2265 A 2117	
土師器	杯	SD 1701b 1	「口」	底部外周	/		2266 A 2119	
土師器	杯	SD 1701b 1	「口」	底部外周	/		2267 A 2121	
須恵器	杯	SD 1701b 1	「口」	底部外周	/		2268 A 2128	
須恵器	杯	SD 1701b 1	「中成」	底部外周	/		2269 A 2129	
土師器	杯	SD 1701b 1	「口」	底部外周	/		2270 A 2567	
土師器	杯	SD 1701b 1	「口」	底部外周	正位		2271 A 4960	
土師器	杯	SD 1703a 1	「+」(ヘラガキ)	底部外周	/		172 A 307	
須恵器	甕	SD 1703b 2	「記号」	底部外周	/		178 A 290	
土師器	杯	SD 1703f 1	「口」	底部外周	正位		183 A 276	
須恵器	杯	SD 1704a 3	「六」	底部外周	/		189 A 277	
須恵器	杯	SD 1704a 3	「余人」	底部外周	横位		191 A 282	
須恵器	杯	SD 1704a 3	「口」	底部外周	倒位		2272 A 281	
土師器	杯	SE 2421	遊び方理土	底部外周	/		211 A 279	
土師器	杯	SE 2421 1	「口」	底部外周	/		2273 A 283	
土師器	杯	SE 2421	側内理土	「大山」	底部外周	正位	212 A 289	
土師器	杯	SE 2299	側内理土 2	「勢」	底部外周	正位	219 A 268	
須恵器	杯	SE 2299	抜き穴	「口」(ヘラガキ)	底部外周	/	2274 A 362	
須恵器	杯	SE 2148	側内理土 1	「大方」	底部外周	正位	226 A 2152	

## 墓書・刻書土器一覧

種類	器種	造構・層位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	回番	量 錄
土師器	杯	SE 2148 側内埋土 2	「口 (大カ)」	体部外面	/		2275 A	2147
土師器	杯	SE 2148 側内埋土 3	「口」	体部外面	/		2276 A	2148
土師器	杯	SE 2148 側内埋土 4	「口」	体部外面	/		2277 A	2149
土師器	杯	SE 2148 側内埋土 5	「口」	体部外面	/		2278 A	2150
乳頭器	杯	SE 2148 側内埋土 6	「口」	体部外面	側位か		2279 A	2151
乳頭器	杯	SE 2148 側内埋土 7	「口」	体部外面	側位		2280 A	2153
土師器	杯	SE 2148 側内埋土 8	「口」	体部外面	側位か		2281 A	2159
土師器	杯	SE 2148 側内埋土 9	「口」	体部外面	正位	あるいは二文字	228 A	2146
土師器	杯	SE 2148 側内埋土 2	「伊」	体部外面	正位		3199 A	2843
土師器	杯	SE 2150 側内埋土 1	「口」	体部外面	正位		232 A	2161
土師器	杯	SE 2150 側内埋土	「口」	底部外面	/		2282 A	2144
土師器	高台付杯	SE 2150 枝穴	「手」・「石万昌」	体部外面	正位		2283 A	2140
土師器	杯	SE 2150 亂り方埋土	「彌」	体部外面	側位		2284 A	2142
土師器	杯	SE 2150 側内埋土	「口」	体部外面	/		2285 A	2143
乳頭器	杯	SE 2150 矢舟下層	「口」	体部外面	/		2286 A	2145
土師器	杯	SE 2150 側内埋土	「口」	体部外面	側位		2287 A	2171
土師器	杯	SE 2149 2	「口」	体部外面	/		235 A	2158
土師器	杯	SE 2149 側内埋土	「大」・「口」	体部外面	正位		236 A	2160
土師器	杯	SE 2149 亂り方埋土	「口」	体部外面	正位か		237 A	2155
乳頭器	杯	SE 2149 側内埋土 1	「口」	体部外面	正位		2288 A	2845
土師器	杯	SE 2149 側内埋土 2	「口」	体部外面	/		2289 A	2157
土師器	杯	SE 2149 亂り方埋土	「(記号力)」	体部外面	/		2291 A	2156
土師器	杯	SE 1671 側内埋土	「別」	底部外面	/		239 A	1059
土師器	杯	SE 1671 側内埋土	「別」	底部外面	/		240 A	1076
土師器	杯	SE 1671 側内埋土	「別」	底部外面	/		241 A	1072
乳頭器	杯	SE 1671 側内埋土	「大」	体部外面	側位		242 A	1074
乳頭器	杯	SE 1671 側内埋土	「中」	底部外面	/		243 A	1071
乳頭器	杯	SE 1671 乱き穴	「口」	体部外面	/		2292 A	1070
土師器	杯	SE 1671 井戸艸埋土	「○ (又様力)」	底部外面	/		2293 A	2975
乳頭器	杯	SE 1672 側内埋土	「(手)」	体部外面	正位		244 A	1075
乳頭器	杯	SE 1672 乱き穴段白下	「口 (二力)」	底部外面	/		245 A	2638
乳頭器	杯	SE 1672 側内埋土	「石」	底部外面	/		246 A	1062
土師器	杯	SE 1672 亂り方埋土	「仲」	体部外面	正位		247 A	1057
土師器	杯	SE 1673 亂り方埋土	「仲」	体部外面	正位		248 A	1059
土師器	杯	SE 1674 亂り方埋土	「口」	体部外面	/		2294 A	1058
土師器	杯	SE 1675 亂り方埋土	「口」	体部外面	/		2295 A	1060
土師器	杯	SE 1676 亂り方埋土	「口」	体部外面	/		2296 A	1061
土師器	杯	SE 1677 亂り方埋土	「口」	体部外面	正位か		2297 A	1063
乳頭器	杯	SE 1678 亂り方埋土	「井」(愚書)・「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		2298 A	1064
土師器	杯	SE 1679 亂り方埋土	「口」	体部外面	/		2299 A	1066
土師器	杯	SE 1680 亂り方埋土	「口」	体部外面	正位か		2300 A	1068
土師器	杯	SE 1681 亂り方埋土	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		2301 A	1442
土師器	高台付杯	SE 1672 桟内灰白上	「口」(愚書)・「口 (田力)」(難刻)	体部外面/底部外面	/		2302 A	1446
乳頭器	杯	SE 1672 亂り方埋土	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		2303 A	2963
乳頭器	杯	SE 1672 乱き穴段白上	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		2304 A	2974
土師器	杯	SE 1673 亂き穴段白上	「口 (二力)」	底部外面	/		245 A	1064
土師器	杯	SE 1673 亂き穴	「口」	体部外面	正位		247 A	1057
土師器	杯	SE 1673 側内埋土	「井」	体部外面	側位		248 A	1059
土師器	杯	SE 1673 側内埋土	「中」	体部外面	側位		2290 A	1068
乳頭器	杯	SE 1673 側内埋土 2 層	「井」	体部外面	正位		2301 A	1442
土師器	杯	SE 1673 側内埋土 2 层	「口」	底部外面	/		2291 A	1066
土師器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「口 (三力)」	底部外面	/	ほかに体部外面部材	260 A	1056
土師器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「泉」	体部外面	正位		261 A	1042
土師器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「王」	底部外面	/		262 A	1043
土師器	高台付杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「泉」	体部外面	正位		263 A	1052
乳頭器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「泉」	体部外面	正位		264 A	1053
乳頭器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「井」	体部外面	正位		265 A	1049
乳頭器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「井」	体部外面	正位		266 A	1054
乳頭器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「泉」	体部外面	/		267 A	1044
乳頭器	杯	SE 1673 側内埋土 2 层	「泉」	体部外面	/		268 A	1054
乳頭器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「井」	体部外面	/		269 A	1056
乳頭器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「勝」	底部外面	/		270 A	1051
土師器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「口 (田力)」	体部外面	側位か		271 A	1091
土師器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「口」	体部外面	正位か		272 A	1085
乳頭器	杯	SE 1673 側内埋土 4 层	「中」	体部外面	正位		273 A	1092
土師器	甕	SE 1673 乱き穴	「口」	体部外面	/		2305 A	1047
乳頭器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「口」	体部外面	/		2306 A	1077
乳頭器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「口」	体部外面	/		2307 A	1078
土師器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「口」	体部外面	/		2308 A	1089
土師器	杯	SE 1673 側内埋土 3 层	「口」	底部外面	/		2309 A	1090

### 墨書・刻書土器一覧

種類	器種	通義・筆位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図 番	登 錄
篆書器	瓶	SE 1673 側内埋土 3 層	「一」(へラガキ)	底部外側	/		2310 A	1458
篆書器	杯	SE 1692 球土 1 層	「口」	底部外側	/	二文字か(二文字目は「上」)	275 A	1065
篆書器	杯	SE 2314 抽土六	「口」	体部外側	横位		277 A	287
篆書器	杯	SE 2314 接合六	「一」(へラガキ)	底部外側	/		278 A	397
篆書器	杯	SE 2314 抽合六	「口」	体部外側	正位方		279 A	284
篆書器	杯	SE 2314 抽合六	「万」	体部外側	正位		280 A	285
篆書器	杯	SE 2314 側内埋土	「口」	体部外側	/		291 A	292
篆書器	杯	SD 1652 1	「山口」	底部外側	/		284 A	118
篆書器	杯	SD 1652 1	「中成」	体部外側	横位		286 A	111
篆書器	杯	SD 1652 1	「X」(へラガキ)	底部外側	/		308 A	90
篆書器	杯	SD 1652 1	「口 (火方)」	底部外側	/		309 A	144
篆書器	杯	SD 1652 1	「X」	底部外側	/		310 A	148
篆書器	杯	SD 1652 1	「X」(へラガキ)	底部外側	/		311 A	96
篆書器	杯	SD 1653 1	「(記号力)」	底部外側	/		312 A	87
篆書器	杯	SD 1652 1	「中成」	底部外側	/		313 A	95
篆書器	杯	SD 1652 1	「中成」	底部外側	/		314 A	88
篆書器	高台付杯	SD 1652 1	「X」(へラガキ)	底部外側	/		315 A	89
篆書器	杯	SD 1652 1	「X」(へラガキ)	底部外側	/		2313 A	91
篆書器	高台付杯	SD 2295 2	「圓」(へラガキ)	底部外側	/	丸字の頗少	323 A	368
篆書器	杯	SD 2298 1	「吉」	体部外側	正位		326 A	278
篆書器	杯	SD 2298 1	「口 (万方)」	体部外側	正位		327 A	291
篆書器	杯	SD 2503 1	「(記号力)」	底部外側	/		335 A	1935
篆書器	甕	SD 2817 1	「口取火良口 (合力) 納口」	体部外側	横位		329 A	5496
篆書器	杯	SD 2163 1	「天」・「天」	体部外側	横位		340 A	1929
篆書器	杯	SD 2163 1	「口」	底部外側	/	体部外側附	341 A	2162
篆書器	杯	SD 2163 2	「董」	底部外側	/		343 A	1898
篆書器	杯	SD 2163 2	「大」	底部外側	/		344 A	1912
篆書器	杯	SD 2294	「#」(へラガキ)	体部外側	正位		2314 A	367
篆書器	杯	SD 2163 1	「大」	体部外側	正位		2315 A	1901
篆書器	杯	SK 1651 1	「山」	体部外側	正位		350 A	113
篆書器	杯	SK 1651 1	「山」	体部外側	正位		351 A	114
篆書器	杯	SK 1651 1	「山」	体部外側	正位		352 A	116
篆書器	杯	SK 1651 1	「口」	体部外側	正位方		353 A	115
篆書器	杯	SK 2164 1	「丶」	体部外側	倒位		383 A	401
篆書器	杯	SK 2164 2	「三」(へラガキ)	底部外側	/		384 A	1862
篆書器	杯	SK 2445 1	「万」・「口」	底部外側/底部外側	倒位		390 A	1883
篆書器	杯	SK 2445 1	「口 (大方)」	体部外側	横位		393 A	1868
篆書器	杯	SK 2446 1	「口」	体部外側	横位方		395 A	1891
篆書器	杯	SK 2446 1	「口口 (万方)」	底部外側	/		2317 A	1893
篆書器	杯	SK 1697 1	「本」	底部外側	/		397 A	1094
篆書器	杯	SX 1812 1	「口」	体部外側	/		2318 A	4072
篆書器	杯	SX 1812 1	「口」	体部外側	正位		2319 A	4075
篆書器	甕	SX 1812 2	人面墨書	体部外側	正位	鉛觸	430 A	4418
篆書器	甕	SX 1812 3b	「在」	底部外側	/	左文字	490 A	4114
篆書器	甕	SX 1812 3b	(記号)・(m 記号)	体部外側	正位方		491 A	3963
篆書器	甕	SX 1812 3	「人」・「人」	体部外側	倒位		492 A	4106
篆書器	甕	SX 1812 3	「永」	体部外側	倒位		493 A	4094
篆書器	甕	SX 1812 3	人面墨書	体部外側	正位	目と鼻	495 A	5478
篆書器	甕	SX 1812 3b	人面墨書	体部外側	正位	部位判然としないが、目か	496 A	4426
篆書器	甕	SX 1812 3b	人面墨書	体部外側	正位	目と眉	498 A	4427
篆書器	甕	SX 1812 3	人面墨書	体部外側	正位	目と鼻	495 A	5478
篆書器	甕	SX 1812 3	人面墨書方	体部外側	/		497 A	4416
篆書器	甕	SX 1812 3	人面墨書方	体部外側	正位		499 A	4415
篆書器	甕	SX 1812 3	「口」	体部外側	/		500 A	4414
篆書器	杯	SX 1812 3	「口 (脚力)」	体部外側	正位		2316 A	4112
篆書器	杯	SX 1812 3	「人」	体部外側	正位		2320 A	4095
篆書器	杯	SX 1812 3	「(記号)」	体部外側	正位方		2321 A	4096
篆書器	杯	SX 1812 3	「口」	底部外側	/		2322 A	4099
篆書器	杯	SX 1812 3	「口」	体部外側	/		2323 A	4101
篆書器	杯	SX 1812 3	「口」	体部外側	/		2324 A	4102
篆書器	杯	SX 1812 3	「口」	体部外側	正位		2325 A	4104
篆書器	杯	SX 1812 3	「口」	体部外側	倒位方		2326 A	4107
篆書器	杯	SX 1812 3	「口」	体部外側	正位		2327 A	4108
篆書器	杯	SX 1812 3	「(記号力)」	体部外側	/		2328 A	4109
篆書器	杯	SX 1812 3	「口」	体部外側	正位		2329 A	4110
篆書器	杯	SX 1812 3	「口」	底部外側	正位		2330 A	4111
篆書器	杯	SX 1812 3	「口」	底部外側	/		2331 A	4113
篆書器	杯	SX 1812 3	「口」	体部外側	正位方		2332 A	4115
篆書器	杯	SX 1812 3	「口 (火方) (記号力)」	体部外側	/		2334 A	4117

### 墨書・刻畫土器一覧

種類	器種	造構・層位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	量 録
頭曲部	杯	SX 1812 3	「口」(生力)	底部外画	/		2335	A 4393
頭部	杯	SX 1812 4	「頬」	体部外画	正位		543	A 4067
土師部	杯	SX 1812 4b	「頬」	体部外画	側位		538	A 4026
土師部	杯	SX 1812 4b	「色」	体部外画	正位		539	A 4032
土師部	杯	SX 1812 4b	「全山」	体部外画	正位	合わせ文字	540	A 4041
頭部	杯	SX 1812 4b	「記号」	体部外画	正位		541	A 4314
頭部	杯	SX 1812 4b	「○(記号)」	体部外画	正位		542	A 4315
上師部	杯	SX 1812 4b	「大二」・「口」(火二力)	体部外画	正位		544	A 4031
頭部	杯	SX 1812 4b	「樹」	底部外画	/		545	A 4317
土師部	復	SX 1812 4b	人面墨書き	体部外画	正位力		546	A 4419
土師部	復	SX 1812 4b	人面墨書き	体部外画	/		547	A 4421
土師部	復	SX 1812 4b	人面墨書き	体部外画	/		548	A 4422
土師部	復	SX 1812 4b	人面墨書き	体部外画	正位	顔の輪郭	549	A 4420
上師部	杯	SX 1812 4b	「口」	底部外画/底部外画	/		2336	A 4015
上師部	杯	SX 1812 4b	「口」	底部外画	/		2337	A 4018
上師部	杯	SX 1812 4b	「口」	底部外画	/		2338	A 4020
上師部	杯	SX 1812 4b	「口」	底部外画	/		2339	A 4021
上師部	杯	SX 1812 4b	「口」	底部外画	/		2340	A 4022
上師部	杯	SX 1812 4b	「口」	体部外画	正位力		2341	A 4023
上師部	杯	SX 1812 4b	「口」	体部外画	/		2342	A 4025
上師部	杯	SX 1812 4b	「口」	体部外画	正位		2343	A 4027
上師部	杯	SX 1812 4b	「口」	体部外画	横位		2344	A 4028
上師部	杯	SX 1812 4b	「衣」	底部外画	/		2345	A 4029
土師部	杯	SX 1812 4b	「口」	体部外画	正位	「イ」箇などか	2346	A 4034
上師部	杯	SX 1812 4b	「口」・「口」	体部外画	/		2347	A 4035
土師部	杯	SX 1812 4b	「口」	体部外画	正位		2348	A 4036
土師部	杯	SX 1812 4b	「伊」	体部外画	正位		2349	A 4038
土師部	杯	SX 1812 4b	「口」(大力太力)	体部外画	正位		2350	A 4039
上師部	杯	SX 1812 4b	「口」	底部外画	/		2351	A 4040
頭部	杯	SX 1812 4b	「X」(ヘラガキ)	底部外画	/		2352	A 4248
頭部	杯	SX 1812 4b	「口」	底部外画	/		2353	A 4318
頭部	杯	SX 1812 4b	「二」	体部外画	正位力	画数記号か	2354	A 4319
土師部	杯	SX 1812 4c	「水」	体部外画	正位		574	A 4063
土師部	杯	SX 1812 4c	「繩」(墨書き) / 「X」(ヘラガキ)	体部外画/底部外画	正位		575	A 4066
高台付属	杯	SX 1812 4c	「中」	体部外画	正位		576	A 4049
頭部	杯	SX 1812 4c	「人」	体部外画	正位		577	A 4058
頭部	杯	SX 1812 4c	「水」	底部外画	/		578	A 3680
頭部	杯	SX 1812 4c	「𠙴」 / 「參」	体部外画/底部外画	正位		579	A 5493
土師部	復	SX 1812 4c	人面墨書き	体部外画	/		580	A 4417
頭部	杯	SX 1812 4c	人面墨書き	体部外画	正位		581	A 5483
土師部	不明	SX 1812 4c	人面墨書き	体部外画	/	口・額輪・耳	630	A 4437
土師部	杯	SX 1812 4c	「口」	体部外画	正位力		2355	A 3818
土師部	杯	SX 1812 4c	「口」	体部外画	正位力		2356	A 4044
土師部	杯	SX 1812 4c	「口」	体部外画	正位		2357	A 4045
土師部	杯	SX 1812 4c	「口」	体部外画	正位力		2358	A 4046
土師部	杯	SX 1812 4c	「口」	体部外画	/		2359	A 4048
土師部	杯	SX 1812 4c	「手」	体部外画	側位		2360	A 4054
頭部	杯	SX 1812 4c	「口」	体部外画	正位		2361	A 4061
頭部	杯	SX 1812 4c	「火」	体部外画	正位		2362	A 5511
土師部	杯	SX 1812 4c	「口」	体部外画	/		3209	A 4051
頭部	杯	SX 1812 4d	「鳥」	体部外画	側位		584	A 4065
頭部	杯	SX 1812 4d	「十八」	体部外画	正位		2363	A 4064
頭部	杯	SX 1812 4d	「口」(ヘラガキ)	底部外画	/		2364	A 4333
頭部	杯	SX 1812 4d	「口」	底部外画	/		2365	A 4354
土師部	杯	SX 1812 5	「月」・「舟」 / 「月」	体部外画/底部外画	横位		594	A 3926
土師部	杯	SX 1812 5	「C」	体部外画	正位		595	A 3929
頭部	杯	SX 1812 5	「火」	体部外画	側位		596	A 4321
頭部	瓶	SX 1812 5	(留書力)	体部内面	/	審慎らしの留力	597	A 4268
頭部	瓶	SX 1812 5	「定」	底部外画	/		598	A 4324
土師部	杯	SX 1812 5	「口」	体部外画	正位力		2366	A 3917
土師部	杯	SX 1812 5	「口」	体部外画	側位	記号か	2367	A 3924
土師部	杯	SX 1812 5	「口」	体部外画	正位	「オ」	2368	A 3930
頭部	杯	SX 1812 5	「口」	体部外画	正位		2369	A 4323
頭部	杯	SX 1812 5	「口」	体部外画	正位		2370	A 4325
土師部	杯	SX 1812 6	「体」	体部外画	正位		599	A 3676
頭部	杯	SX 1812 6	「大万」	体部外画	横位		600	A 4080
土師部	復	SX 1812 7	人面墨書き	体部外画	正位	耳と額か	415	A 4403
頭部	杯	SX 1812 7	「廿」・「廿」	体部外画	正位力	丸字の否略形か	615	A 3675
土師部	杯	SX 1812 7	「酒」・「福」	体部外画	正位・側位		616	A 3933

### 墨書・刻書土器一覧

種類	器種	通 構・層 位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	登 記
須恵器	杯	SX 1812 7	「(記号カ)」 / 「(記号)」	体部外面/底部外面 「他」	/		617 A	3953
須恵器	杯	SX 1812 7	「財」	体部外面	横位		618 A	3965
須恵器	杯	SX 1812 7	「底」	体部外面	横位		619 A	3967
須恵器	杯	SX 1812 7	「大」	体部外面	正位		620 A	3958
須恵器	杯	SX 1812 7	「口(生カ)口」	体部外面	正位		621 A	3959
須恵器	杯	SX 1812 7	「大」	体部外面	正位		622 A	3960
須恵器	杯	SX 1812 7	「十」・「十」	体部外面	正位		623 A	3961
土師器	杯	SX 1812 7	「集口(束力)」	底部外面	/		625 A	3896
土師器	裏	SX 1812 7	人面彫書	体部外面	正位	目	626 A	4404
土師器	裏	SX 1812 7	人面彫書各	体部外面	/		627 A	4405
土師器	裏	SX 1812 7	人面彫書	体部外面	正位	目	628 A	4408
土師器	裏	SX 1812 7	人面彫書	体部外面	正位	目	629 A	4410
土師器	裏	SX 1812 7	人面彫書	体部外面	正位		631 A	4407
土師器	裏	SX 1812 7	人面彫書	体部外面	正位	目か	632 A	4409
土師器	裏	SX 1812 7	人面彫書	体部外面	/		633 A	4405
土師器	裏	SX 1812 7	人面彫書	体部外面	正位	脚觸	634 A	4413
土師器	裏	SX 1812 7	人面彫書	体部外面	正位	目と耳	635 A	4411
土師器	裏	SX 1812 7	人面彫書各	体部外面	/		636 A	4425
土師器	裏	SX 1812 7	「上」	体部外面	正位	目と鼻	637 A	5479
須恵器	杯	SX 1812 7	「口(本カ)」(墨書き)・「一」(ヘラガキ)	底部外面	/	あるいは「大口」か	2372 A	3947
須恵器	杯	SX 1812 7	「十」	体部外面	/		2373 A	3949
須恵器	杯	SX 1812 7	「口(春カ)」	体部外面	正位		2374 A	3962
須恵器	杯	SX 1812 7	「口」	体部外面	正位		2375 A	3956
須恵器	杯	SX 1812 7	「高」	体部外面	横位		2376 A	3964
土師器	杯	SX 1812 7	「百」	底部外面	/		638 A	3969
土師器	杯	SX 1812 7	「口」	底部外面	/	旁に寸	639 A	3978
土師器	杯	SX 1812 7	「下川田」	体部外面	側位		640 A	3685
須恵器	杯	SX 1815 7	「十人」	体部外面	正位		641 A	4093
土師器	杯	SX 1816 7	「口(墨跡)」/「二(ハナヨリ)・「一(ヘラガキ)」	底部外面/底部外面	正位	ヘラガキは画数記号	642 A	3966
須恵器	杯	SX 1817 7	「申」	体部外面	正位		643 A	3681
須恵器	杯	SX 1818 7	「口」・「見」/「口」	体部外面/底部外面	側位・横位		644 A	3679
須恵器	杯	SX 1818 7	「火」・「火」	体部外面	側位		645 A	4068
土師器	杯	SX 1818 7	「宮」	体部外面	側位		646 A	3976
須恵器	杯	SX 1814 7	「口(魔カ)」	体部外面	横位		647 A	4088
土師器	裏	SX 1815 7	人面彫書	体部外面	正位	2画	649 A	5488
土師器	裏	SX 1816 7	人面彫書	体部外面	正位	目鼻耳	650 A	5481
土師器	裏	SX 1817 7	人面彫書	体部外面	正位		651 A	4424
須恵器	杯	SX 1818 7	人面彫書	体部外面	正位	目と耳	652 A	4299
土師器	裏	SX 1819 7	人面彫書	体部外面	正位	目と耳か	653 A	4423
土師器	裏	SX 1820 7	「加」	体部外面	正位		2377 A	3977
土師器	杯	SX 1821 7	「口(古カ)」	底部外面	/		2378 A	3980
土師器	杯	SX 1822 7	「口」	体部外面	/		2379 A	3982
土師器	杯	SX 1823 7	「口」	体部外面	正位		2380 A	3983
須恵器	杯	SX 1824 7	「口」	体部外面	正位力		2381 A	4090
須恵器	杯	SX 1826 7	「口」	底部外面	/	草記の文字か、あるいは文字	2382 A	4363
土師器	杯	SX 1812	「口(魔カ)」	体部外面	正位力		2393 A	3998
須恵器	杯	SX 1812	「田」	体部外面	正位		2384 A	4073
須恵器	杯	SX 1812	「辨」	底部外面	/		2385 A	4083
須恵器	杯	SX 1812	「口」	底部外面	/		2386 A	4087
須恵器	杯	SX 1812	繪出面	体部外面	正位	「万」の合わせ文字か	2387 A	4341
須恵器	杯	SX 1867B	「口」	体部外面	正位		654 A	1150
須恵器	杯	SX 1867B	「口」/「口」	体部外面/底部外面	正位力		655 A	1149
須恵器	杯	SX 1867B	「口(古カ)」	底部外面	/		656 A	1151
須恵器	杯	SX 1867B	「長」	底部外面	/		657 A	1152
須恵器	杯	SX 1867B	「口」	体部外面	正位		658 A	1153
須恵器	杯	SX 1867B	「口」	体部外面	正位		659 A	1154
須恵器	杯	SX 1867B	「口」	体部外面	正位		660 A	1156
須恵器	杯	SX 1867B	「口」	体部外面	正位		661 A	1156
須恵器	杯	SX 1867B	「人」/「人」/「人」	体部背面/底部背面/底面背筋	正位力/正位力		662 A	1157
須恵器	杯	SX 1867B	「口」/「●」	体部外面/底部外面	正位力		663 A	1158
須恵器	杯	SX 1867B	「十」	体部外面	正位		664 A	1159
土師器	杯	SX 1867B	「辨」	底部外面	/		665 A	1162
須恵器	杯	SX 1867B	「(文様カ)」	体部外面	正位	須呂吉文様 6 頭	666 A	1160
須恵器	杯	SX 1867B	「片」	底部外面	/		667 A	1167
須恵器	杯	SX 1867B	「上」	底部外面	/		668 A	1164
須恵器	杯	SX 1867B	「井上」	底部外面	/		669 A	1165
須恵器	杯	SX 1867B	「片」	底部外面	/		670 A	1168

### 墨書・刻書土器一覧

種類	器種	造構・層位	文 字	記帳部位	記帳方向	備 考	図番	目 録
須恵器	杯	SX 1667B	「片」	底部外面	/		671	A 1169
須恵器	杯	SX 1667B	「二」・「二」	律部外面	正位		672	A 1170
須恵器	杯	SX 1667B	「生」	体部外面	側位		673	A 1171
須恵器	杯	SX 1667B	「生」・「生」	体部外面/底部外面	側位		674	A 1172
須恵器	高台村杯	SX 1667B	「口」(真力)	底部外面	/	もしくは「十口」	675	A 1174
須恵器	杯	SX 1667B	「參人」	底部外面	/		676	A 1175
須恵器	杯	SX 1667B	「毛人」	体部外面	側位		677	A 1176
須恵器	杯	SX 1667B	「真」	底部外面	/		678	A 1177
須恵器	杯	SX 1667B	「大」(添書)	体部外面	側位		679	A 1179
須恵器	杯	SX 1667B	「王」(記号)	体部外面	正位		680	A 1178
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	底部外面	/		681	A 1183
須恵器	杯	SX 1667B	「大」(添書)	体部外面	正位		682	A 1185
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(口)	体部外面	正位		683	A 1186
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(添書)	体部外面	正位		684	A 1187
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(口)	体部外面	正位		685	A 1189
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(添書)	体部外面	正位		686	A 1190
須恵器	杯	SX 1667B	「大」(添書)	底部外面	/	体部外面にも添付書	687	A 1189
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外面	正位		688	A 1191
須恵器	杯	SX 1667B	「大」	体部外面	側位		689	A 1192
須恵器	杯	SX 1667B	「大」	体部外面	正位		690	A 1193
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(記号力)	底部外面	/		691	A 1197
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外面	正位		692	A 1200
須恵器	杯	SX 1667B	「大」	底部外面	/		693	A 1203
須恵器	杯	SX 1667B	「木」	体部外面	側位	私用鏡? 沖縄	694	A 1196
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(大力)・「大」	体部外面/底部外面	正位		695	A 1206
須恵器	杯	SX 1667B	「大丈」	底部外面	/		696	A 1207
須恵器	杯	SX 1667B	「大」・「大」	体部外面/底部外面	正位		697	A 1210
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(記号力)・「口」	体部外面	正位		698	A 1211
須恵器	杯	SX 1667B	「因」	体部外面	正位		699	A 1212
須恵器	杯	SX 1667B	「大」(添書)・「大」(添書)・「口」(へらがけ)	体部外面/底部外面	正位/正位		700	A 1208
須恵器	杯	SX 1667B	「魔」	体部外面	側位		701	A 1213
須恵器	杯	SX 1667B	「口」・「口」	体部外面	側位		702	A 1214
須恵器	杯	SX 1667B	「子」・「口」/「相」・「藍子」	体部外面/底部外面	正位		703	A 1217
須恵器	杯	SX 1667B	「父」	底部外面	/		704	A 1220
須恵器	杯	SX 1667B 1	「香人」	体部外面	側位		705	A 1248
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外面	正位		706	A 1253
須恵器	杯	SX 1667B 1	「口」(添書)	体部外面	正位		707	A 1651
須恵器	杯	SX 1667B 1	「香人」	底部外面	/		708	A 5494
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外面	正位		709	A 1254
須恵器	杯	SX 1667B	「毛」	底部外面	/		710	A 1233
須恵器	杯	SX 1667B	「生」・「物」	体部外面/底部外面	正位		711	A 1240
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	底部外面	/		712	A 1237
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(更力)	底部外面	/		713	A 1152
須恵器	杯	SX 1667B	「長」	底部外面	/		714	A 1728
二鈴器	蓋	SX 1667B 1	「口」	つまみ部	/		715	A 1224
須恵器	杯	SX 1667B	「口」・「(記号力)」・「(記号力)」	体部外面	正位	同一記号	716	A 2098
須恵器	蓋	SX 1667B 1	「金」	つまみ部	/		717	A 5492
二鈴器	杯	SX 1667B 1	「口」	体部外面	正位		718	A 1259
須恵器	杯	SX 1667B 1	「口」(理)	体部外面	正位		719	A 5487
須恵器	杯	SX 1667B 1	「口」(千力)	底部外面	/		720	A 5486
須恵器	杯	SX 1667B 1	人面巻書	体部外面	正位		721	A 2091
須恵器	杯	SX 1667B 1	人面巻書	体部外面	側位		722	A 1234
二鈴器	杯	SX 1667B	「田辺太郎」	体部外面	側位		723	A 1236
須恵器	杯	SX 1667B	「争」	体部外面	側位		724	A 2054
須恵器	杯	SX 1667B 1	「×」(へらがけ)	底部外面	/		725	A 2066
須恵器	杯	SX 1667B 1	「面」(線刻)	体部外面	正位	九字の略形か	726	A 5491
二鈴器	杯	SX 1667B 1	人面巻書	体部外面	正位	2面	727	A 1262
二鈴器	便	SX 1667B	人面巻書	体部外面	正位		728	A 1264
二鈴器	便	SX 1667B	人面巻書	体部外面	正位	目と鼻	729	A 1264
二鈴器	便	SX 1667B	人面巻書	体部外面	正位	目	730	A 1272
二鈴器	便	SX 1667B	人面巻書	体部外面	/		731	A 1266
二鈴器	便	SX 1667B	人面巻書	体部外面	正位	目	732	A 1271
二鈴器	便	SX 1667B	人面巻書	体部外面	正位	鼻と口	733	A 1270
二鈴器	便	SX 1667B	人面巻書	体部外面	正位	口力 機敷面があるが詳細不明	734	A 1263
二鈴器	便	SX 1667B	人面巻書	体部外面	正位	耳	735	A 1273
須恵器	杯	SX 1667B	「中成」	底部外面	/		855	A 1173
須恵器	杯	SX 1667B 1	人面巻書	体部外面	正位		2211	A 5485
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	底部外面	/		2388	A 1166
須恵器	杯	SX 1667B	「口」・「口」(口力)	体部外面	正位・正位		2389	A 1148
二鈴器	杯	SX 1667B	「口」	体部外面	正位		2390	A 1163
須恵器	杯	SX 1667B	「大」(添書)	体部外面	正位		2391	A 1180

### 墨書・刻書土器一覧

種類	器種	造構・層位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	登 記
須恵器	杯	SX 1667B	「大」(漆書)	体部外側	正位		2392	A 1181
須恵器	杯	SX 1667B	「J」(漆書)	体部外側	正位	体部外側に漆付着	2393	A 1184
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(記号)	底部外側	/		2394	A 1194
須恵器	杯	SX 1667B	「大」・「大」	体部外側	正位		2395	A 1201
須恵器	杯	SX 1667B	「大」	体部外側	正位		2396	A 1202
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外側	/		2397	A 1204
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外側	正位		2398	A 1216
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外側	/		2399	A 1218
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(生字)	底部外側	/		2400	A 1221
須恵器	杯	SX 1667B	「片」	体部外側	正位		2401	A 1222
須恵器	杯	SX 1667B	「口」 / 「口」	体部外側/底部外側	/		2402	A 1223
土師器	杯	SX 1667B	「木」	体部外側	正位		2403	A 1225
須恵器	杯	SX 1667B	「片」	底部外側	/		2404	A 1226
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	底部外側	/		2405	A 1227
土師器	杯	SX 1667B	「口」	体部外側	/		2406	A 1228
須恵器	高台付杯	SX 1667B	「口」	底部外側	/		2407	A 1229
土師器	杯	SX 1667B	「口」	体部外側	傾位		2408	A 1230
須恵器	杯	SX 1667B	「宮」	底部外側	/		2409	A 1231
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外側	/		2410	A 1232
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外側	/		2411	A 1235
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(×か)	底部外側	/		2412	A 1238
須恵器	杯	SX 1667B	「四」	体部外側	正位		2413	A 1239
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	底部外側	/		2414	A 1243
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(墨印)・「口」(×方)(ヘラガキ)	底部外側	/		2415	A 1244
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(色力)	体部外側	正位		2416	A 1246
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	底部外側	/		2417	A 1246
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(墨印) / 「一」(ヘラガキ)	体部外側/底部外側	/		2418	A 1249
須恵器	杯	SX 1667B	「口」(墨印) / 「口」(一)(ヘラガキ)	体部外側/底部外側	/		2419	A 1247
須恵器	杯	SX 1667B	「口」 / 「口」	体部外側/底部外側	/		2420	A 1250
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	底部外側	/		2421	A 1251
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	底部外側	/		2422	A 1252
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外側	/		2423	A 1255
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外側	/		2424	A 1256
須恵器	杯	SX 1667B	「田」	体部外側	正位		2425	A 1257
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	底部外側	/		2426	A 1258
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外側	/		2427	A 1260
須恵器	杯	SX 1667B	「口」	体部外側	/		2428	A 1261
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外側	正位		2429	A 1265
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外側	正位	目	2430	A 1267
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外側	正位	目	2431	A 1268
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外側	正位		2432	A 1269
須恵器	杯	SX 1667B	「生」	体部外側	正位		2433	A 1281
須恵器	杯	SX 1667B 1	「舍人」	底部外側	側位		2434	A 1757
須恵器	杯	SX 1667B 1	「舍人」	底部外側	/		2435	A 1758
土師器	甕	SX 1667B 1	「一」	体部外側	正位		2436	A 1776
土師器	甕	SX 1667B 1	「口」(井力)	体部外側	正位		2437	A 1777
須恵器	杯	SX 1667B 1	「一」(ヘラガキ)	底部外側	/		2438	A 2051
土師器	甕	SX 1667B 1	「一」・「二」	体部外側	正位		2439	A 1759
須恵器	杯	SX 1667B 1	「一」(ヘラガキ)	底部外側	/		2440	A 2053
須恵器	杯	SX 1667B 1	「X」(ヘラガキ)	底部外側	/		2441	A 2054
須恵器	杯	SX 1667B 1	「一」(ヘラガキ)	底部外側	/		2442	A 2058
土師器	甕	SX 1667B 1	「X」(ヘラガキ)	底部外側	/		2444	A 2061
須恵器	杯	SX 1667B 1	「一」(ヘラガキ)	底部外側	/		2445	A 2063
須恵器	杯	SX 1667B 1	「二」(ヘラガキ)	底部外側	/		2446	A 2064
須恵器	杯	SX 1667B 1	「一」・「二」	体部外側	正位		2447	A 4841
須恵器	杯	SX 1667B 1	「一」(ヘラガキ)	底部外側	/		2448	A 5484
須恵器	杯	SX 1667B 1	「X」(ヘラガキ)	底部外側	/		2449	A 5512
須恵器	杯	SX 1667C 1	「口」	底部外側	/		743	A 1764
土師器	甕	SX 1667C 1	「口」(原力)	体部外側	正位		760	A 1747
須恵器	杯	SX 1667C 1	「口」(原力)	体部外側	/		761	A 1762
須恵器	杯	SX 1667C 1	「大」	体部外側	側位		762	A 1774
須恵器	杯	SX 1667C 1	「上」	体部内側	正位		763	A 1161
須恵器	杯	SX 1667B 1	人面墨書	体部外側	側位	他に体部外側に墨書あり	764	A 1765
土師器	甕	SX 1667B 1	「口」	体部外側	/		765	A 1764
須恵器	杯	SX 1667C 1	「口」	底部外側	/		766	A 1767
須恵器	杯	SX 1667C 1	「中成」	底部外側	/		767	A 1763
須恵器	杯	SX 1667C 1	「口」	底部外側	/		768	A 1773
須恵器	杯	SX 1667C 1	「口」	体部外側	正位	墨書の上に縦刻でなぞる。	769	A 2055
土師器	甕	SX 1667C 1	「口」(原力)	体部外側	正位	墨書の上に縦刻でなぞる。	770	A 2052

### 墨書・刻書土器一覧

種類	器種	通 構・層 位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	登 錄
土師器	甕	SX 1667C 1	人面彫書	体部外面	/		771 A	1766
土師器	甕	SX 1667C 1	人面彫書	体部外面	正位	目	772 A	1754
土師器	甕	SX 1667C 1	人面彫書	体部外面	正位	目	773 A	1755
土師器	甕	SX 1667C 1	人面彫書	体部外面	正位	目と鼻	775 A	1753
陶器	杯	SX 1667C 1	「口」	体部外面	/		2450 A	1760
土師器	杯	SX 1667C 1	「口」	底部外面	/		2451 A	1761
陶器	杯	SX 1667C 1	「口」	体部外面	/		2452 A	1769
陶器	杯	SX 1667C 1	「口」	底部外面	/	月の可能性あり	2453 A	1770
陶器	杯	SX 1667C 1	「口」	体部外面	/		2454 A	1771
陶器	杯	SX 1667C 1	「口」	体部外面	/		2455 A	1772
陶器	杯	SX 1667C 1	「口」	体部外面	/		2456 A	1775
土師器	杯	SX 1667C 1	「大口」	体部外面	正位	もしくは二字	2457 A	1778
土師器	杯	SX 1667C 1	「口」	体部外面	横位		2458 A	1780
土師器	杯	SX 1667C 1	「口〔万〕」	底部外面	/		2459 A	1781
土師器	杯	SX 1667C 1	「崩」	体部外面	正位		2460 A	1782
土師器	杯	SX 1667C 1	「口」	体部外面	正位		2461 A	1783
土師器	杯	SX 1667C 1	「口」	底部外面	/		2462 A	1785
土師器	杯	SX 1667C 1	「口」	体部外面	/		2463 A	1786
土師器	杯	SX 1667C 1	「口〔記号カ〕」	体部外面	正位	「王」か		
土師器	杯	SX 1667C 1	「口」	底部外面	/		2464 A	1788
土師器	杯	SX 1667C 1	「口」	体部外面	横位		2465 A	1790
陶器	杯	SX 1667C 1	「二」〔ヘラガキ〕	底部外面	/		2466 A	2056
陶器	杯	SX 1667C 1	「一」〔ヘラガキ〕	底部外面	/		2467 A	2057
土師器	杯	SX 1667C 1	「X」〔ヘラガキ〕	底部外面	/		2468 A	2058
陶器	杯	SX 1667C 1	「X」〔ヘラガキ〕	底部外面	/		2469 A	2062
陶器	杯	SX 1667C 1	「口」	体部外面	/		2470 A	2126
土師器	甕	SX 1853B 2	人面彫書	体部外面	正位		779 A	5482
陶器	杯	SX 1853B 2	「口口」	底部外面	/		2537 A	5389
土師器	杯	SX 1715 黒褐色堆積層	「☆」	体部外面	正位		780 A	8079
土師器	杯	9 区第1層	「川口」	底部外面	/		813 A	286
土師器	甕	9 区第1層	「一」〔ヘラガキ〕	底部外面	/		843 A	1331
陶器	杯	9 区第1層	「万」/「口」	体部外面/底部外面	側位		2471 A	2190
土師器	杯	9 区第1層	「口〔宮カ〕」	体部外面	正位		2472 A	2249
陶器	杯	9 区第Ⅲ層	「生」	体部外面	横位		816 A	1384
土師器	杯	9 区第Ⅲ層	「口」	体部外面	/		819 A	2465
陶器	杯	9 区第Ⅲ層	「口」	底部外面	/		820 A	2470
土師器	杯	9 区第Ⅲ層	「安」	体部外面	正位		2473 A	1325
陶器	杯	9 区第Ⅲ層	「車」	底部外面	/		2474 A	1335
土師器	杯	9 区第Ⅳ層	「十」	底部外面	/		835 A	2433
陶器	杯	9 区第Ⅳ層	「右」	底部外面	/		836 A	2443
陶器	高台付杯	9 区第Ⅴ層	「X」〔ヘラガキ〕	底部外面	/		839 A	2454
土師器	杯	9 区第Ⅴ層	「井」	底部外面	/		2475 A	2440
土師器	杯	9 区第Ⅴ層	「真」	体部外面	横位		2476 A	2444
土師器	杯	9 区第Ⅴ層	「仲」	体部外面	正位		2477 A	2445
土師器	杯	9 区第Ⅴ層	「口」	体部外面	正位		2478 A	2449
土師器	杯	9 区第Ⅴ層	「口」	底部外面	/	体部外面に捺付着	2479 A	2455
土師器	杯	9 区第Ⅴ層	「長」	体部外面	正位		2480 A	2767
陶器	杯	SD 2342b	「春」	体部外面	正位		856 A	5617
陶器	杯	SD 2342a 1	「口」	体部外面	横位		857 A	5605
陶器	杯	SD 2342a	「鳥」	体部外面	正位		2481 A	5598
良悪器	杯	SD 2342e 1	「口」/「木」	底部外面/底部内面	/		2482 A	5604
良悪器	杯	SD 2342c 1	「大」	底部外面	/		856 A	5137
良悪器	杯	SD 2342c 1	「口」	底部外面	/		2483 A	5140
良悪器	杯	SD 2342d 1	「川」	底部外面	/		857 A	5142
良悪器	杯	SD 2362 1	「口」	底部外面	/	斜などか	858 A	5169
良悪器	杯	SD 2342d 3	「十」	体部外面	正位		859 A	5572
良悪器	杯	SD 2342d	換出面	「石」	底部外面	/	870 A	5573
土師器	杯	SD 2342d	「大」	体部外面	正位		871 A	5616
土師器	杯	SD 2342d	檢出面	「口〔宝カ〕」	体部外面	/	872 A	5612
良悪器	杯	SD 2342d 2	「富」	体部外面	横位		873 A	5132
良悪器	杯	SD 2342d	「二」	体部外面	正位		2484 A	5133
良悪器	杯	SD 2362 1	「口」	体部外面	正位		2485 A	5170
良悪器	杯	SD 2342d 3	「十」	体部外面	正位		2486 A	5175
良悪器	杯	SD 2342d	「石」	底部外面	/		874 A	5574
土師器	杯	SD 2342f 1	「西」	体部外面	正位		884 A	5125
土師器	杯	SD 2344e 1	「口井」	底部外面	/	旁は「矢」	885 A	5139
良悪器	高台付杯	SD 2344c 1	「口」	底部外面	/		887 A	5138
良悪器	杯	SD 2344e 1	「升」	体部外面	正位		890 A	5767
良悪器	杯	SD 2344c	「臼」	体部外面	正位		891 A	5766
良悪器	杯	SD 2344c	「十」	体部外面	/		892 A	5764

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	造形・部位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	回書	登録
直巻沿	杯	SD 2342d 3	「十」	体部外面	正位		869 A 5572	
直巻沿	杯	SD 2342d k面	「石」	底部外面	/		870 A 5573	
土師器	杯	SD 2342d	「火」	体部外面	正位		871 A 5616	
土師器	杯	SD 2342d k面	「口(主力)」	体部外面	/		872 A 5612	
直巻沿	杯	SD 2342d 2	「富」	体部外面	横位		873 A 6132	
土師器	杯	SD 2342f 1	「富」	体部外面	正位		874 A 5574	
土師器	杯	SD 2344e 1	「口井」	底部外面	/		884 A 6125	
直巻沿	高台付杯	SD 2344e 1	「口」	底部外面	/	旁は「父」	885 A 6139	
直巻沿	杯	SD 2344e 1	「升」	体部外面	正位		887 A 6138	
直巻沿	杯	SD 2344c	「吧」	体部外面	正位		890 A 5767	
直巻沿	杯	SD 2344c	「千」	底部外面	/		891 A 5766	
直巻沿	杯	SD 2344b b	「十」	体部外面	/		892 A 5764	
直巻沿	杯	SD 2342e 2	「口(金力)」	底部外面	/		894 A 5808	
土師器	杯	SD 2342g k面	「大」	体部外面	正位		895 A 5929	
土師器	杯	SD 2362 1	「神」	底部外面	/		896 A 6171	
土師器	杯	SD 2362 1	「松」	底部外面	/		897 A 5560	
直巻沿	杯	SD 2362 1	「鉢」	底部外面	/		898 A 5558	
直巻沿	杯	SD 2362 1	「口」	底部外面	/		899 A 6173	
直巻沿	杯	SD 2359 2	「春」	体部外面	正位		900 A 5668	
直巻沿	杯	SD 2450 1	「十」	底部外面	/		901 A 5599	
直巻沿	杯	SK 2501 1	「主口」	体部外面	横位		902 A 6135	
直巻沿	杯	SD 2449 1	「夫」	体部外面	横位		903 A 5675	
土師器	杯	SK 2499 1	「舟万」	底部外面	/		904 A 5635	
土師器	杯	SK 2499 3	「夷」	体部外面	側位		905 A 5943	
直巻沿	杯	SK 2499 1	「大」	体部外面	/		907 A 5839	
土師器	杯	SK 2500 1	「女」	体部外面	正位		908 A 5633	
直巻沿	杯	SK 2501 1	「口」	体部外面	/		909 A 5632	
直巻沿	杯	SK 2502 1	「車」	体部外面	正位		910 A 5844	
直巻沿	杯	SK 2496	「口(掛力)」	底部外面	/		912 A 5823	
直巻沿	杯	SX 2352 1	「口」	底部外面	/		916 A 5805	
直巻沿	杯	SX 2352 1	「印」	体部外面	正位		917 A 5816	
土師器	杯	SX 2352 1	「手」	底部外面	/		918 A 5897	
直巻沿	杯	SX 2352 1	「口(形書) + 「一」(ヘラガキ)」	面部外面	/	墨書きは一字ないし二字	919 A 5808	
直巻沿	瓢	SX 2451 2	「口」	底部外面	/		921 A 5901	
直巻沿	杯	SX 2451 2	「口」	底部外面	/		922 A 5930	
直巻沿	杯	SX 2495 3	「神」	底部外面	/		923 A 5907	
土師器	杯	66 IK PI	「合」	体部外面	正位		926 A 8078	
土師器	杯	66 IK 檜出面	「友」	体部外面	正位		927 A 7023	
直巻沿	碗	66 IK 檜出面	「田馬」	底部外面	/		928 A 6141	
土師器	杯	66 IK 第II層 II d	「太」	体部外面	正位		930 A 7026	
直巻沿	瓢	66 IK 第IV層 III a	「口」	底部外面	/		932 A 7022	
直巻沿	杯	66 IK 第IV層 III a	「足」	底部外面	/		933 A 7029	
直巻沿	杯	66 IK 第IV層 III a	「口」	底部外面	/		934 A 7033	
直巻沿	杯	66 IK 第IV層 III a	「口」	体部外面	側位力		935 A 7030	
直巻沿	杯	66 IK 第IV層 III a	「口」	瓶底外面	/		936 A 7034	
土加器	甕	66 IK 第IV層 III c	「人面墨書き」「口女口」	体部外面/口縁部	横位	三字目「叔」か	937 A 6669	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外面	正位		2493 A 504	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	底部外底	/		2494 A 507	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	正位		2495 A 509	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	底部外底	/		2496 A 512	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「本」	体部外底/底部外面	正位力	体部外面にも墨書き	2497 A 613	
土師器	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	正位力		2498 A 514	
土師器	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	正位		2499 A 515	
土師器	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	側位		2500 A 516	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	側位力		2501 A 518	
土師器	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	正位		2502 A 519	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	底部外底	/		2503 A 520	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	正位		2504 A 521	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	正位		2195 A 522	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	正位		2505 A 524	
土師器	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	正位		2506 A 525	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	正位		2507 A 529	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	体部外底	正位		2508 A 530	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	底部外底	/		2509 A 531	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	底部外底	/		2510 A 535	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	底部外底	正位力	あるいは「万」	2511 A 537	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	底部外底	/		2512 A 538	
直巻沿	杯	SD 1679 2	「口(中力)」 / 「口」	体部外底/底部外底	正位		2513 A 543	
直巻沿	杯	SD 1679 1	「舟」	底部外底	/	ウ冠か	2514 A 546	

### 墨書き・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	量 跡
須恵器	杯	SD 1679 1	「十」	体部外側	横位		2515 A	547
須恵器	杯	SD 1679 1	「口」〔墨書き〕・「一」〔ヘラガキ〕	底部外側	/		2516 A	548
須恵器	杯	SD 1679 2	「口」〔墨〕	体部外側	横位	三文字なら「小衣知」	2517 A	549
須恵器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外側	正位		2518 A	550
須恵器	杯	SD 1680 1	「X」〔ヘラガキ〕	底部外側	/		2522 A	1472
須恵器	杯	SD 1680 1	「X」〔ヘラガキ〕	底部外側	/		2522 A	1472
須恵器	杯	SD 1680 1	「内」 / 「口〔内力〕」	体部外側/体部内側	正位/正位		2519 A	630
須恵器	杯	SD 1680 1	「口」	体部外側	倒位		2520 A	636
須恵器	杯	SD 1680 1	「J」・「口」	体部外側	倒位		2521 A	628
須恵器	杯	SD 1680 1	「中虎」・「口」	体部外側	正位	二箇所同字か。	2522 A	640
須恵器	杯	SX 2333 河用	「口」	体部外側	/		2523 A	4473
土師器	杯	SX 2333 河用	「政所」	底部外側	/		2524 A	4474
土師器	杯	SX 2333 河用	「集」	体部外側	正位		2525 A	4475
土師器	杯	SX 2333 河用	「口」	体部外側	正位		2526 A	4500
土師器	杯	SX 2333 河用	「口」	体部外側	/		2527 A	4503
土師器	杯	4区P167	「口」	体部外側	倒位		2528 A	5231
土師器	杯	SI 1797 1	「右」	体部外側	正位		2529 A	5235
須恵器	杯	SX 2529 2	「十」〔墨書き〕	体部外側	正位		2530 A	5243
土師器	杯	4区第IV層	「馬」	体部外側	正位		2531 A	5351
土師器	杯	SD 1781 1	「財」	底部外側	/		2532 A	5358
須恵器	杯	SX 1853C	「佐」	底部外側	/		2533 A	5379
土師器	杯	SX 1853C	「口〔耐力〕」	体部外側	正位		2534 A	5384
土師器	杯	SX 1853C	「〔起号カ〕」	体部外側	正位		2535 A	5386
須恵器	杯	SX 1853C	「口〔耐力〕」	体部外側	正位		2536 A	5387
須恵器	杯	SX 1853B 2	「口口」	机部外側	/		2537 A	5389
須恵器	杯	SD 1681	「口〔奈力〕」	底部外側	/		2538 A	8076
須恵器	杯	11区	「真」	体部外側	正位		2539 A	8110
須恵器	杯	11区	「真」	体部外側	正位		2540 A	8111
須恵器	杯	66区第1層 西壁	「奉」	底部外側	/		2541 A	5623
須恵器	杯	66区第1層 西壁	「口〔奉力〕」	底部外側	/		2542 A	5627
須恵器	杯	SD 2386b 3	「廣」	体部外側	正位		941 D	2469
須恵器	杯	SD 2386b 1	「中口」〔墨書き〕 / 「X」〔ヘラガキ〕	体部外側/底部外側	横位		942 D	2471
須恵器	杯	SD 2386b 1	「今」	体部外側	横位		943 D	2020
土師器	杯	SD 2386b 檻出面	「口」 / 「田」	体部外側/底部外側	/		944 D	2038
須恵器	杯	SD 2386b 1	「田」	体部外側	横位		945 D	2511
須恵器	杯	SD 2386b 1	「口」	体部外側	正位		946 D	2512
須恵器	杯	SD 2386b 檻出面	「万福」	底部外側	/		947 D	2501
土師器	杯	SD 2386b 1	「新」	体部外側	正位		2333 D	2468
須恵器	杯	SD 2386b 1	「口」	底部外側	/		2543 D	2472
須恵器	杯	SD 2386b 高植土	「口」	底部外側	/		2544 D	2473
須恵器	杯	SD 2386b 1	「口」	底部外側	/	「牛」篇	2545 D	2488
須恵器	杯	SD 2386b 檻出面	「口」	底部外側	/		2546 D	2502
須恵器	杯	SD 2386b 2	「口土」	底部外側	/		2547 D	2505
須恵器	杯	SD 2386b 1	「高」	底部外側	/		2548 D	2507
須恵器	杯	SD 2386b 1	「口」	底部外側	/		2549 D	3047
須恵器	杯	SD 2386b 1	「大」	体部外側	横位		2550 D	856
須恵器	杯	SD 2386c 1	「赤」〔線刻〕	底部外側	/		2551 D	2513
須恵器	杯	SD 2386c 1	「中」	底部外側	/		2552 D	2486
須恵器	杯	SD 2386d 1	「舟子」 / 「口〔角力〕」	体部外側/底部外側	正位		949 D	2462
須恵器	杯	SD 2386d 2	「中」	体部外側	正位		950 D	2028
須恵器	杯	SD 2386d 檻出面	「水」	底部外側	/		952 D	2467
須恵器	杯	SD 2386d 1	「石」	底部外側	/		953 D	2009
土師器	杯	SD 2386d 2	「財」	底部外側	/		964 D	2479
須恵器	杯	SD 2386d 1	「口〔耐力〕」	底部外側	/	他にも墨書きあり	965 D	2007
須恵器	杯	SD 2386d 2	「口〔耐力〕」	底部外側	/		2552 D	2486
須恵器	杯	SD 2386d 1	「口〔廣力〕」	底部外側	/		2553 D	2490
土師器	杯	SD 2386d 3	「口」	底部外側	/		2554 D	2491
須恵器	杯	SD 2386e 1	「十」	底部外側	/		2555 D	2008
須恵器	杯	SD 2386e 1	「口〔本力〕」	底部外側	/		2556 D	2010
須恵器	杯	SD 2386e 1	「口」	底部外側	/		2557 D	2011
須恵器	杯	SD 2386e 1	「口口」	底部外側	/		2558 D	2012
須恵器	杯	SD 2386e 1	「中」	体部外側	正位		2559 D	2014
須恵器	杯	SD 2386e 1	「口」	体部外側	正位		2560 D	2015
須恵器	杯	SD 2386e 1	「口」	体部外側	正位	「足」偏	2561 D	2016
須恵器	杯	SD 2386e 1	「十」	底部外側	/	体部外側にも墨書き	2562 D	2475
須恵器	杯	SD 2386e 檻出面	「得」	底部外側	/		2563 D	2476
土師器	杯	SD 2386g	「井」	体部外側	正位		965 D	1968
須恵器	杯	SD 2386g 檻出面	「夫」	底部外側	/		2564 D	1198
須恵器	杯	SD 2386g	「口」	体部外側	正位		2565 D	1199
土師器	杯	SD 2386g V 4	「口」	体部外側	正位		2567 D	1202

### 墨書・刻書土器一覧

種類	格 種	造 儀・層 位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	登 誌
直巻絵	杯	SD 2386g 黒色土	「口」	底部外画	/		2568	D 1203
土師絵	杯	SD 2386g V 4	「口」	体部外画	/		2569	D 1204
直巻絵	杯	SD 2386g 條出面	「口」	体部外画	正位		2570	D 1207
直巻絵	杯	SD 2386g V 4	「口」	底部外画	/		2571	D 1213
直巻絵	杯	SD 2386g 「口」(威力)	「口」(威力)	体部外画	横位力		2572	D 1270
土師絵	杯	SD 2386g 3	「万」	体部外画	正位		2573	D 1279
直巻絵	杯	SD 2386g 2	「口」(万力)	底部外画	/		2574	D 1285
直巻絵	杯	SD 2386g 北壁 2 層	「丸」	体部外画	正位		957	D 1000
直巻絵	杯	SD 2386g 鮎水溝	「馬」	体部外画	/		958	D 996
土師絵	杯	SD 2386g 3	「口」	体部外画	横位力		960	D 947
土師絵	杯	SD 2386g 3	「口」	体部外画	正位		981	D 946
土師絵	杯	SD 2386g 鮎水溝	「口」	体部外画	正位		982	D 1002
土師絵	杯	SD 2386g 條出面	「口」(墨書)・「X」(ヘラガキ)	底部外画	/		983	D 929
直巻絵	杯	SD 2386g 黒色土	「口」(王力)	底部外画	/		984	D 936
直巻絵	杯	SD 2386g 鮎水溝	「口」	体部外画	正位		986	D 1211
土師絵	杯	SD 2386g 1	「本」	体部外画	正位		987	D 1281
直巻絵	杯	SD 2386g 1	「大口」	底部外画	/	二文字目「シ」	988	D 1286
直巻絵	杯	SD 2386g 1	「馬」	体部外画	正位		989	D 1298
土師絵	杯	SD 2386g 3	「洋」	体部外画	正位		970	D 1269
土師絵	杯	SD 2386g 條出面	「口」	体部外画	正位		2575	D 932
土師絵	杯	SD 2386g 條出面	「口」	体部外画	/		2576	D 933
土師絵	杯	SD 2386g 條出面	「口」	体部外画	/		2577	D 935
直巻絵	杯	SD 2386g 3	「口」	体部外画	/		2578	D 937
土師絵	杯	SD 2386g 「口」	「口」	底部外画	/		2579	D 938
土師絵	杯	SD 2386g 3	「口」	体部外画	正位		2580	D 940
直巻絵	杯	SD 2386g 2	「口」	底部外画	/		2581	D 942
直巻絵	杯	SD 2386g 1	「口」	底部外画	/		2582	D 949
土師絵	杯	SD 2386g 3	「口」	体部外画	/		2583	D 953
土師絵	杯	SD 2386g 3	「口」	底部外画	/		2584	D 955
土師絵	杯	SD 2386g 3	「口」	体部外画	/		2585	D 956
土師絵	杯	SD 2386g 3	「口」	体部外画	/		2586	D 958
土師絵	杯	SD 2386g 3	「口」	体部外画	/		2587	D 961
直巻絵	杯	SD 2386g 3	「口」	体部外画	/		2588	D 963
直巻絵	杯	SD 2386g 3	「口」	体部外画	/		2589	D 964
直巻絵	杯	SD 2386g 1	「口」(威力)	体部外画	正位		2590	D 966
直巻絵	杯	SD 2386g 4	「口」	体部外画	/		2591	D 968
土師絵	杯	SD 2386g 黒色土	「口」	体部外画	/		2592	D 976
直巻絵	杯	SD 2386g 黒色土	「万」(墨書) / 「万」(墨書)	底部外画/底部内面	/		2593	D 977
直巻絵	便	SD 2386g 黒色土	「口」	体部外画	/		2594	D 979
直巻絵	杯	SD 2386g 北壁 2 層	「井」	底部外画	/		2595	D 980
直巻絵	杯	SD 2386g 黒色土	「口」	底部外画	/		2596	D 981
直巻絵	杯	SD 2386g k 画	「口」(十力)	体部外画	正位		2597	D 982
直巻絵	杯	SD 2386g k 画	「口」	体部外画	正位		2598	D 983
直巻絵	杯	SD 2386g k 画	「口」	体部外画	/		2599	D 986
直巻絵	杯	SD 2386g 黑色土	「口」	体部外画	/		2600	D 989
直巻絵	杯	SD 2386g 黑色土	「口」	底部外画	/		2601	D 990
直巻絵	杯	SD 2386g 黑色土	「口」	体部外画	正位		2602	D 992
土師絵	杯	SD 2386g 黑色土	「口」	体部外画	正位		2603	D 995
直巻絵	杯	SD 2386g 鮎水溝	「口」	体部外画	正位		2604	D 999
直巻絵	杯	SD 2386g 鮎水溝	「口」	体部外画	/		2605	D 1003
土師絵	杯	SI 2087 1	「口」(久方)	体部外画	横位		971	D 2754
土師絵	杯	SI 2087 1	「X」(ヘラガキ)	體部外画	/		2607	D 521
土師絵	杯	SE 2372 後六	「口木」	体部外画	正位		972	D 2753
直巻絵	杯	SE 2372 圓り方	「待」	体部外画	正位		973	D 2748
直巻絵	杯	SE 2372 後六	「永」	体部外画	正位		2608	D 2756
土師絵	廣	SE 874 圓り方 2	「口」	体部外画	横位	文字複数あり。	974	D 2740
土師絵	杯	SE 874 圓り方 1	「口」	底部外画	/		975	D 2741
直巻絵	杯	SE 874 圓り方 (古)	「待」	体部外画	正位		976	D 2750
直巻絵	杯	SK 2374 1	「口」	体部外画	正位		977	D 2788
土師絵	杯	SK 2374 1	「口」	体部外画	正位		978	D 2789
土師絵	杯	SK 2374 1	「口」	体部外画	/		979	D 2811
土師絵	杯	SK 2374 1	「(文様力)」(ヘラガキ)	体部外画	/		2609	D 1147
土師絵	杯	SK 2374 1	「口」(ヘラガキ)	体部外画	/		2610	D 1148
土師絵	杯	SK 2382 2	「◎」	底部外画	/		982	D 2818
土師絵	杯	SK 2382 1	「口」(筋力)	底部外画	/		983	D 2815
土師絵	高台付組	SK 2382 1	「待」	體部外画	/		984	D 2817
土師絵	杯	SK 2382 1	「吉」	体部外画	正位		985	D 2813
土師絵	杯	SK 2382 1	「待」	体部外画	正位		986	D 2810

### 墨書・刻畫土器一覧

種類	器種	造 構・層 位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	量 縦	
眞思器	杯	SK 2382 2	「𠙴」	体部外面	横位		987	D 2803	
眞思器	杯	SK 2382 1	「主」	体部外面	横位		2911	D 2802	
眞思器	杯	SK 2384 1	「口」	体部外面	正位	○圓い文字	988	D 2816	
上耕器	杯	SK 2384 1	「万」 / 「万」	体部外面/底部外面	正位		989	D 2804	
上耕器	杯	SK 2384 1	「口」 / 「カ」	体部外面	正位		990	D 2814	
眞思器	高台付杯	SK 2385 1	「玉」	底部外面	/		991	D 2812	
眞思器	高台付杯	SD 2381	檢出面	「口」	底部外面	/	992	D 1195	
眞思器	杯	SD 2381	西壁 2 層	「金」	底部外面	/	993	D 1197	
眞思器	杯	SD 2381	3a	「林」	底部外面	/	2912	D 1196	
上耕器	杯	SD 2381	檢出面	「口」	体部外面	正位	2913	D 1210	
上耕器	杯	SD 2381 2	「詮」	体部外面	正位	九字の跡か	2914	D 1212	
眞思器	杯	SK 2388	西ヘキトレー	底部外面	/		994	D 874	
上耕器	杯	SK 2388 4	「施」	体部外面	横位		995	D 852	
眞思器	杯	SK 2388 4	「口」 / 「萬」	体部外面	/		996	D 865	
眞思器	杯	SK 2388 2	「萬」	体部外面	正位		998	D 855	
上耕器	杯	SK 2388	「口」	体部外面	/		2915	D 853	
眞思器	杯	SK 2388 3a	「口」	体部外面	/		2916	D 854	
上耕器	杯	SK 2388	「口」	体部外面	/		2917	D 856	
眞思器	杯	SK 2388 3b	「口」	体部外面	/		2918	D 857	
眞思器	杯	SK 2388	西壁トレンチ	「口」	体部外面	正位か	2919	D 858	
眞思器	杯	SK 2388 3a	「口」	体部外面	/		2920	D 860	
眞思器	杯	SK 2388 3a	「口」	体部外面	/		2921	D 861	
眞思器	杯	SK 2388 3b	「口」	体部外面	/		2922	D 862	
眞思器	杯	SK 2388	西壁トレンチ	「口」	底部外面	/	2923	D 866	
上耕器	杯	SK 2388 3a	「口」	底部外面	/		2924	D 867	
眞思器	杯	SK 2388 3b	「萬」	体部外面	正位		2925	D 875	
上耕器	杯	SK 2388	西ヘキトレー	「口」 + 「口」	体部外面	正位	2927	D 877	
眞思器	杯	SK 2388	西ヘキトレー	「萬」 + 「口」 / 「萬」	体部外面	正位	2928	D 878	
眞思器	杯	SK 2388 4	「口」	体部外面	正位		2929	D 881	
眞思器	杯	SK 2388	西ヘキトレー	「口」	体部外面	/	2930	D 882	
眞思器	杯	SK 2388 4	「口」	体部外面	正位		2931	D 883	
眞思器	杯	SK 2388 4	「口」	体部外面	正位		2932	D 884	
眞思器	杯	SK 2478 3	「𠙴」	底部外面	/		999	D 2557	
眞思器	杯	SK 2478 3	「施」	体部外面	横位		1000	D 2887	
眞思器	杯	SK 2478 3	人面巻書 / 「造」	体部外面 / 底部外面	横位	人面三面	1001	D 2886	
眞思器	杯	SK 2478 3	「災」	体部外面	正位		2933	D 2888	
眞思器	杯	SK 2478 3	「王」 / 「カ」	体部外面	/		2934	D 2889	
眞思器	杯	SK 2478 1	「口」 / 「カ」	底部外面	/		2935	D 2890	
眞思器	杯	SK 2478 3	「口」	体部外面	/		2936	D 2891	
眞思器	杯	SK 2478 3	「口」	底部外面	正位		2937	D 2892	
眞思器	杯	SK 2478 3	「口」	底部外面	/		2938	D 5106	
眞思器	杯	SK 2478 3	人面巻書	体部外面	/		2939	D 5127	
眞思器	杯	SK 2478 3	「施」	人面巻書 / 「造」	体部外面 / 底部外面	横位	人面三面	1002	D 2886
眞思器	杯	SK 2478 3	「災」	体部外面	正位		2933	D 2888	
眞思器	杯	SK 2478 3	「王」 / 「カ」	体部外面	/		2934	D 2889	
眞思器	杯	SK 2478 1	「口」 / 「カ」	底部外面	/		2935	D 2890	
眞思器	杯	SK 2478 3	「口」	体部外面	/		2936	D 2891	
眞思器	杯	SK 2478 3	「口」	底部外面	正位		2937	D 2892	
眞思器	杯	SK 2478 3	「口」	底部外面	/		2938	D 5106	
眞思器	杯	SK 2478 3	人面巻書	体部外面	/		2939	D 5127	
眞思器	杯	SK 2478 3	「施」	人面巻書 / 「造」	体部外面 / 底部外面	横位	人面三面	1001	D 2886
眞思器	杯	SK 2478 3	「災」	体部外面	正位		2933	D 2888	
眞思器	杯	SK 2478 3	「王」 / 「カ」	体部外面	/		2934	D 2889	
眞思器	杯	SK 2478 1	「口」 / 「カ」	底部外面	/		2935	D 2890	
眞思器	杯	SK 2478 3	「口」	体部外面	/		2936	D 2891	
眞思器	杯	SK 2478 3	「口」	底部外面	正位		2937	D 2892	
眞思器	杯	SK 2478 3	「口」	底部外面	/		2938	D 5106	
眞思器	杯	SK 2478 3	人面巻書	体部外面	/		2939	D 5127	
眞思器	杯	SK 2478 3	「施」	人面巻書 / 「造」	体部外面 / 底部外面	横位	人面三面	1001	D 2886
眞思器	杯	SK 2478 3	「災」	体部外面	正位		2933	D 2888	
眞思器	杯	SK 2478 3	「王」 / 「カ」	体部外面	/		2934	D 2889	
眞思器	杯	SK 2478 3	「口」	体部外面	横位		1003	D 2589	
眞思器	杯	SK 2478 4	「家」	体部外面	横位		1004	D 2593	
眞思器	杯	SK 2478 4	「施」	体部外面	横位		1005	D 2598	
眞思器	杯	SK 2478 4	「魚」	体部外面	正位		1006	D 2658	
眞思器	杯	SK 2478 4	「大」	体部外面	正位		1007	D 2671	
眞思器	杯	SK 2478 4	「伊万」	体部内面			1008	D 2839	
眞思器	杯	SK 2478 4	「大」	体部外面	正位		1009	D 2856	
眞思器	杯	SK 2478 4	「高」	体部外面	横位		1010	D 2925	
眞思器	杯	SK 2478 4	「土」	体部外面	横位		1011	D 2933	
眞思器	杯	SK 2478 4	「山」	底部外面	/		1012	D 2885	
眞思器	杯	SK 2478 4	「大」 / 「漁」	底部外面	正位		1013	D 2858	
眞思器	杯	SK 2478 4	「大」	体部外面	/		1014	D 2931	
眞思器	杯	SK 2478 4	「伊万」	体部内面			1008	D 2839	
眞思器	杯	SK 2478 4	「高」	体部外面	横位		1010	D 2925	
眞思器	杯	SK 2478 4	「土」	体部外面	横位		1011	D 2933	
眞思器	杯	SK 2478 4	「山」	底部外面	/		1012	D 2885	
眞思器	杯	SK 2478 4	「大」 / 「漁」	底部外面	/		1013	D 2858	
眞思器	杯	SK 2478 4	「大」	体部外面 / 体部内面	横位 / 横位		1014	D 2931	
眞思器	杯	SK 2478 4	「高」 / 「長」	体部外面 / 体部内面	横位 / 横位	底部に墨痕があるか	1015	D 2936	
眞思器	杯	SK 2478 4	「財」	底部外面	/		1016	D 2664	
眞思器	杯	SK 2478 4	「村」	底部外面	/		1017	D 2564	
眞思器	杯	SK 2478 4	「日下」	底部外面	/		1018	D 2843	
眞思器	杯	SK 2478 4	「施」 / 「重」	体部外面 / 底部外面	正位	側天文字 地	1019	D 2841	
眞思器	杯	SK 2478 4	「施」 / 「重」	体部外面 / 底部外面	正位	側天文字 地	1020	D 10003	
眞思器	杯	SK 2478 4	「施」 / 「重」	体部外面 / 底部外面	/	側天文字 地	1021	D 2569	
眞思器	杯	SK 2478 4	「重」	底部外面	/	側天文字 地 備註外面にも墨書き記載か	1022	D 10002	
眞思器	杯	SK 2478 4	「合」	底部外面	/		1023	D 2838	
眞思器	杯	SK 2478 4	「施」 / 「カ」	底部外面	/		1024	D 2667	
眞思器	杯	SK 2478 4	「施」 / 「カ」	底部外面	/		1025	D 2653	
眞思器	杯	SK 2478 4	「山」 (巻書) + 「一」 (ヘラガキ)	底部外面	/		1026	D 2665	
眞思器	杯	SK 2478 4	「井」	底部外面	/		1027	D 10009	
眞思器	杯	SK 2478 4	「木」	底部外面	/		1028	D 2935	

### 墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・部位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	回数	登 記
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		1029	D 2564
須恵器	杯	SX 2365 4	「夫夫 口夫 夫夫 大大大 口大」 (重複)・「ト」(ハラガキ)・「口(王別)」(重複)	体部外側/底部外側	正位		1030	D 2926
須恵器	高台付杯	SX 2365 4	「益」/「益」	体部外側/底部外側	横位		1031	D 2553
土師器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		1032	D 2581
須恵器	杯	SX 2365 4	「二口」	底部外側	/	三回か	1033	D 2544
須恵器	杯	SX 2365 4	「萬」	体部外側	横位		1034	D 2918
須恵器	杯	SX 2365 4	「伊万」	体部外側	横位		1035	D 2540
土師器	杯	SX 2365 4	「石」	体部外側	正位		1036	D 2548
土師器	杯	SX 2365 4	「木」	底部外側	/		1037	D 2580
須恵器	杯	SX 2365 4	「日」	体部外側	正位		1038	D 2907
須恵器	杯	SX 2365 4	「口(阿カ)」	体部外側	横位		1039	D 2590
須恵器	杯	SX 2365 4	「十」	底部外側	/		1040	D 2666
須恵器	杯	SX 2366 4	「×」	底部外側	/		1041	D 2545
須恵器	杯	SX 2366 4	「口(中力)」	体部外側	正位		1042	D 2668
須恵器	杯	SX 2366 4	「内」	体部外側	正位		1043	D 2546
須恵器	杯	SX 2366 4	人面彌摩	体部外側	正位	目	1044	D 2847
須恵器	杯	SX 2366 4	「口」	体部外側	/		1045	D 2910
須恵器	杯	SX 2365 4	人面彌摩	体部外側	正位	2面	1047	D 2905
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/	二文字の可能性あり	2640	D 924
須恵器	杯	SX 2366 4	「口」(縦跡)	体部外側	正位		2641	D 1675
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」(ヘラガキ)	底部外側	/		2642	D 1679
須恵器	杯	SX 2365 4	「牛」	底部外側	/		2643	D 2579
須恵器	杯	SX 2365 4	「大」	体部外側	横位		2644	D 2550
土師器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	/		2645	D 2582
土師器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	正位		2646	D 2583
土師器	杯	SX 2366 4	「口」	体部外側	/		2647	D 2585
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		2648	D 2591
須恵器	杯	SX 2366 4	「口」(大力)	体部外側	正位		2649	D 2592
須恵器	杯	SX 2365 4	「大口」	体部外側	横位		2650	D 2594
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	/		2651	D 2596
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	/		2652	D 2597
須恵器	杯	SX 2365 4	「口(女方)」	底部外側	/		2653	D 2669
土師器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		2654	D 2849
土師器	杯	SX 2365 4	「口(透か)」	体部外側	横位		2655	D 2850
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		2656	D 2851
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	横位		2657	D 2857
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	/		2658	D 2862
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	正位		2659	D 2863
須恵器	杯	SX 2365 4	「万」	底部外側	/		2660	D 2865
須恵器	杯	SX 2365 4	「口(主カ)」	底部外側	/		2661	D 2869
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	正位		2662	D 2871
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		2663	D 2874
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		2664	D 2875
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	/		2665	D 2876
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	正位		2666	D 2877
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		2667	D 2878
須恵器	杯	SX 2365 4	「東」	体部外側	横位		2668	D 2879
須恵器	杯	SX 2365 4	「川」	体部外側	/		2669	D 2881
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		2670	D 2883
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		2671	D 2906
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」(墨書)・「一」(ヘラガキ)	底部外側	/		2672	D 2908
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」(墨)	底部外側	/		2673	D 2909
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	正位		2674	D 2912
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	/		2675	D 2913
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」(日上)	底部外側	/		2676	D 2914
須恵器	杯	SX 2365 4	「口(大カ)」	体部外側	侧位		2677	D 2915
土師器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		2678	D 2919
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		2679	D 2921
須恵器	杯	SX 2365 4	「口(宅カ)」	底部外側	/		2680	D 2922
土師器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	正位		2681	D 2924
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	底部外側	/		2682	D 2927
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	/		2683	D 2928
須恵器	杯	SX 2365 4	「口」	体部外側	正位		2684	D 2929
須恵器	高台付杯	SX 2365 4	「十」(墨書)	底部外側	/		2685	D 3238
土師器	甕	SX 2365 4	「口」	体部内側	/		2686	D 5136
須恵器	杯	SX 2365 5	「口(千カ)」	体部外側	正位		1052	D 2517
須恵器	杯	SX 2365 5	「牛」	体部外側	正位		1053	D 2520
須恵器	杯	SX 2365 5	「口田」	体部内側	正位	あるいは「宮」	1054	D 2663

### 墨書・刻畫土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	登 記
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」(田力)	体部外側	正位		1055	D 2655
須恵器	杯	SX 2365 5	「十」・「十」・「十」(墨印) / 「X」(ヘラガキ)	体部外側/底部外側	正位		1056	D 2632
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」(女)	底部外側	/	一文字目旁は「女」カ	1057	D 2659
須恵器	杯	SX 2365 5	「(文様)」	体部外側			1058	D 2538
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	正位		1059	D 2559
土師器	杯	SX 2365 5	「火」	体部外側	正位		1060	D 2570
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	正位		1061	D 2553
須恵器	杯	SX 2365 5	「王」	体部外側	正位		1062	D 2574
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	瓶部外側	/		1063	D 2529
土師器	杯	SX 2365 5	「口」(火力)	底部外側	/		1064	D 2562
須恵器	杯	SX 2365 5	「麻呂」	瓶部外側	/		1065	D 2526
須恵器	杯	SX 2365 5	「主」	体部外側	正位		1066	D 2674
土師器	杯	SX 2365 5	人面墨書	体部外側	正位	黒	1067	D 2577
土師器	杯	SX 2365 5	「升」(麻呂)	体部外側	/		2687	D 1724
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」(羅列)	瓶部外側	/		2688	D 1725
須恵器	杯	SX 2365 5	「廣」	底部内側	/		2689	D 2515
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」(車力) + 「口」	体部外側	正位	二箇所同字亦	2690	D 2523
須恵器	杯	SX 2365 5	「(筆者)」 - 「一」(ヘラガキ)	体部外側/底部外側	/		2691	D 2516
須恵器	杯	SX 2365 5	「像」	瓶部外側	/		2692	D 2521
須恵器	杯	SX 2365 5	「升」	体部外側	正位		2693	D 2522
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	瓶部外側	/		2694	D 2524
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	瓶部外側	/		2695	D 2527
須恵器	杯	SX 2365 5	「火」	底部外側	/		2696	D 2528
須恵器	杯	SX 2365 5	「火」	体部外側	/		2697	D 2532
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	/		2698	D 2533
須恵器	杯	SX 2365 5	「真」	底部外側	/		2699	D 2534
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」 + 「口」(火)	体部外側	正位		2700	D 2535
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	/		2701	D 2536
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	瓶部外側	/	「禾」(筆)	2702	D 2541
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」(主力)	体部外側	正位		2703	D 2543
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」(口)	体部外側	横位力		2704	D 2544
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	正位力		2705	D 2545
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	横位力		2706	D 2547
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	/		2707	D 2550
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	/		2708	D 2551
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	横位力		2709	D 2552
須恵器	杯	SX 2365 5	「火」	瓶部外側	/		2710	D 2558
土師器	杯	SX 2365 5	「火」	体部外側	正位		2711	D 2560
土師器	杯	SX 2365 5	「火」	体部外側	倒位		2712	D 2561
須恵器	杯	SX 2365 5	「(記号)」	体部外側	正位	刻天文子「迹」に伴う記号。 ただし刻天文子は確認できない	2713	D 2564
土師器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	/		2714	D 2573
土師器	杯	SX 2365 5	「火」 + 「船」	体部外側	横位		2715	D 2563
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	倒位	京、鹿などか	2716	D 2578
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	/		2717	D 2673
須恵器	杯	SX 2365 5	「口」	体部外側	/		2718	D 2675
土師器	杯	SX 2365 5	人面墨書	体部外側	正位	眉	2719	D 5116
土師器	杯	SX 2365 5	人面墨書力	体部外側	/		2720	D 5117
土師器	杯	SX 2365 5	人面墨書	体部外側	正位	鼻	2721	D 5118
土師器	杯	SX 2365 6	「口」(押)	瓶部外側	/		1071	D 2670
土師器	杯	SX 2365 6	「口」	瓶部外側	/		1072	D 2887
須恵器	杯	SX 2365 6	「口」	体部外側	倒位力		1073	D 2895
須恵器	杯	SX 2365 6	「口」	体部外側	正位		1074	D 2667
土師器	杯	SX 2365 6	「口」	体部外側	/		2722	D 2678
須恵器	杯	SX 2365 6	「口」	瓶部外側	/		2723	D 2693
土師器	杯	SX 2365 6	「口」	体部外側	/		2724	D 2894
須恵器	杯	SX 2365 6	「口」(一力)	瓶部外側	/		2725	D 2899
須恵器	杯	SX 2365 6	「口」	底部外側	/		2726	D 2960
土師器	杯	SX 2365 6	「口」	体部外側	/		2727	D 2962
須恵器	杯	SX 2365 6	「口」	体部外側	正位力		2728	D 2963
須恵器	杯	SX 2365 6	「口」	底部外側	/		2729	D 2964
土師器	杯	SX 2365 6	人面墨書				2730	D 5107
土師器	杯	SX 2365 6	人面墨書				2731	D 5108
土師器	杯	SX 2365 6	「千」 / 「口」	体部外側/底部外側	正位		1075	D 2681
須恵器	杯	SX 2365 6	「火」	体部外側	正位		1076	D 2696
須恵器	杯	SX 2365 6	「火」	体部外側	正位		1077	D 2702
土師器	杯	SX 2365 6	「十」 / 「十」(口)	体部外側/底部外側	倒位		1078	D 2700
須恵器	杯	SX 2365 6	「大」 / 「大」	体部外側/底部外側	正位		1079	D 2698
須恵器	杯	SX 2365 6	「口」(上力) / 「上」	体部外側/底部外側	正位力		1080	D 2697

### 墨書・刻書土器一覧

種類	器種	道 標・層 位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	回 古	量 跡	
須恵器	杯	SX 2365	粗 紗 錠	「束」	体部外側	横位	1081	D 2663	
須恵器	杯	SX 2365	粗 紗 錠	「口」	体部外側	側位	1082	D 2688	
須恵器	杯	SX 2365	粗 紗 錠	「口」	体部外側	正位	2732	D 2680	
須恵器	杯	SX 2365	粗 紗 錠	「口」	体部外側	正位方	2733	D 2685	
須恵器	杯	SX 2365	粗 紗 錠	「口」	体部外側	正位	2734	D 2687	
土師器	杯	SX 2365	粗 紗 錠	「大」(縦翻)	底部外側	/	2735	D 1697	
土師器	杯	SX 2365	粗 紗 錠	「口」	体部外側	/	2736	D 2689	
須恵器	杯	SX 2365	粗 紗 錠	「口」	底部外側	/	2737	D 2092	
須恵器	杯	SX 2365	粗 紗 錠	「口」	体部外側	正位	2738	D 2693	
須恵器	杯	SX 2365	粗 紗 錠	「口」	底部外側	/	2739	D 2695	
須恵器	杯	SX 2365	粗 紗 錠	「口」	体部外側	/	2740	D 2701	
須恵器	杯	SX 2364	4	「田」	体部外側	正位	1083	D 926	
須恵器	杯	SX 2364	4	「田」	体部外側	正位	1084	D 912	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」(力)	体部外側	正位	1085	D 1304	
須恵器	杯	SX 2364	4	「束」	底部外側	/	1086	D 927	
須恵器	杯	SX 2364	4	「井」	底部外側	/	1087	D 10001	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	底部外側	/	1088	D 903	
須恵器	高台付杯	SX 2364	4	「乙」(主)	底部外側	/	1089	D 925	
須恵器	杯	SX 2364	4	「本」	底部外側	/	1090	D 891	
須恵器	杯	SX 2364	4	「井」/「井」	体部外側/底部内側	横位	1091	D 2923	
須恵器	杯	SX 2364		「日」	底部外側	/	1092	D 1096	
須恵器	杯	SX 2364	4	「奉」	体部外側	正位	1093	D 918	
須恵器	杯	SX 2364	4	「下」(箇書)・「+」(ヘラガキ)	底部外側	/	1094	D 915	
須恵器	杯	SX 2364	4	「春」	体部外側	/	1095	D 910	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	底部外側	/	1096	D 9995	
土師器	杯	SX 2364		「大」	体部外側	横位	1097	D 1086	
須恵器	壺	SX 2364	4	「大」	體外側	/	1098	D 922	
須恵器	杯	SX 2364	4	「片」	底部外側	/	1099	D 897	
須恵器	杯	SX 2364	4	人面施墨力	体部外側/体部内側	/	1100	D 904	
須恵器	杯	SX 2364	4	人面施墨	体部内側	正位	1101	D 921	
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	正位	1103	D 7108	
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	正位	1104	D 7110	
須恵器	杯	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	正位	1105	D 917	
須恵器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	正位	1106	D 5158	
須恵器	杯	SX 2364	4	「酒」	底部外側	/	1107	D 920	
須恵器	杯	SX 2364	4	「片」(箇書)・「X」(ヘラガキ)	底部外側	/	1108	D 919	
土師器	杯	SX 2364	4	「口」	体部外側	正位	3201	D 886	
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	正位	額左半	D 5077	
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	正位	2236	D 5080	
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	正位	2239	D 5098	
土師器	杯	SX 2364	4	「口」	底部外側	/	2741	D 890	
土師器	杯	SX 2364	4	「口」	体部外側	/	2742	D 893	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	底部外側	/	2743	D 908	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	体部外側	/	2744	D 899	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	底部外側	/	2745	D 900	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	体部外側	/	2746	D 902	
須恵器	杯	SX 2364	4	「大」	底部外側	/	2747	D 905	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	体部外側	側位方	2748	D 907	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」(万カ)	底部外側	/	2749	D 908	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	体部外側	/	2750	D 911	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	底部外側	/	2751	D 914	
須恵器	杯	SX 2364	4	「X」	底部外側	/	2752	D 916	
土師器	杯	SX 2364	4	「主」	底部外側	/	2753	D 923	
須恵器	杯	SX 2364	5	「圓」	底部外側	/	2754	D 1309	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	体部外側	側位方	2748	D 907	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」(万カ)	底部外側	/	2749	D 908	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	体部外側	/	2750	D 911	
須恵器	杯	SX 2364	4	「口」	底部外側	/	2751	D 914	
須恵器	杯	SX 2364	4	「X」	底部外側	/	2752	D 916	
土師器	杯	SX 2364	4	「主」	底部外側	/	2753	D 923	
須恵器	杯	SX 2364	5	「圓」	底部外側	/	2754	D 1309	
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	正位	目	2755	D 5081
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	正位	目と耳	2756	D 5082
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	/	2757	D 5083	
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	正位	目	2758	D 5084
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	/	2759	D 5085	
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨	体部外側	/	2760	D 5087	
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨力	体部外側	/	2761	D 5090	
土師器	甕	SX 2364	4	人面施墨力	体部外側	/	2762	D 5092	
須恵器	杯	SX 2479	3	崩 承 土	「圓」	底部外側	/	1109	D 1305
須恵器	杯	SX 2479	3	「死」/「万」	体部外側/底部外側	側位	1110	D 1306	
須恵器	杯	SX 2479	3	「上」	底部外側	/	1111	D 1311	
土師器	杯	SX 2479	3	「神」	体部外側	正位	「傳」か	1112	D 1313
須恵器	杯	SX 2479	3	「神」	体部外側	正位方	丸字の跡か	1113	D 1084
土師器	甕	SX 2479	崩 承 土	人面施墨	体部外側	正位	號	2234	D 5078
土師器	甕	SX 2479	崩 承 土	人面施墨	体部外側	正位	二面か	2235	D 5079

### 墨書・刻畫土器一覧

種類	器種	造構・層位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図版	登 錄
須恵器	杯	SX 2479 痕薄土	「口」	底部外側	/		2763	D 1307
須恵器	杯	SX 2479 痕薄土	「口 (生力)」	体部外側	/		2764	D 1310
須恵器	杯	SX 2479 痕薄土	「口」	底部外側	/		2765	D 1314
須恵器	杯	SX 2479 3	「口」	体部外側	/		2766	D 1315
須恵器	杯	SX 2479 3	「口」	底部外側	/		2767	D 1316
須恵器	杯	SX 2479 3	「太」	底部外側	/		2768	D 1317
土師器	壺	SX 2479 3	人面彫書力	体部外側	/		2769	D 5108
須恵器	杯	SX 2366 1	「貝」	体部外側	正位	1115	D 1008	
須恵器	杯	SX 2366 3	「幅」	体部外側	正位	1116	D 1025	
須恵器	杯	SX 2366 3 痕厚唇	「十」・「十」/「丈」	体部外側/底部外側	正位	1117	D 1023	
須恵器	杯	SX 2366 3	「井」	底部外側	/	1118	D 1009B	
須恵器	杯	SX 2366 1	「廣」	底部外側	/	1119	D 1007	
須恵器	杯	SX 2366 3	「木」	体部外側	倒位	宇都は「大」+「ト」	1120	D 1022
土師器	杯	SX 2366 3	「丈」	体部外側	倒位	1121	D 1031	
土師器	杯	SX 2366 3	「口 (能力)」	体部外側	正位	1122	D 1014	
土師器	杯	SD 2366 2	「口 (生)」	底部外側	/	1123	D 1026	
須恵器	杯	SD 2366 2	「川」	体部外側	倒位	1124	D 1027	
須恵器	杯	SX 2366 3 痕厚唇	「口」/「口」	体部外側/底部内側	倒位力	2770	D 1010	
土師器	杯	SX 2366 痕厚唇	「口」	底部外側	/	2771	D 1012	
土師器	杯	SX 2366 痕厚唇	「口」	体部外側	/	2772	D 1013	
土師器	杯	SX 2366 3	「口」	体部外側	/	2773	D 1015	
土師器	杯	SX 2366 3	「口」	底部外側	/	2774	D 1016	
須恵器	杯	SX 2366 3	「加」	底部外側	/	2775	D 1017	
須恵器	杯	SX 2366 3	「三」	底部外側	/	2776	D 1018	
須恵器	杯	SX 2366 3	「川」	体部外側	正位	2777	D 1024	
須恵器	杯	SX 2366 3	「口」	体部外側	倒位力	2778	D 1028	
土師器	杯	SX 2366 3	「口」	底部外側	/	2779	D 1029	
土師器	杯	SD 2366 壁土	「口」	体部外側	/	2780	D 1030	
須恵器	杯	SX 2368	「手」	体部外側	正位	1126	D 1076	
須恵器	杯	SX 2368	「子」	体部外側	/	1127	D 1088	
須恵器	杯	SX 2368	「手」	体部外側	正位	1128	D 1091	
須恵器	杯	SX 2368	「ヰ」	体部外側	正位	1129	D 1004D	
土師器	杯	SX 2368	「口」	体部外側	/	主か	1130	D 1092
須恵器	杯	SX 2368	「十」・「丈」	体部外側/底部外側	正位	1131	D 1069	
須恵器	杯	SX 2368	「申」	底部外側	/	1132	D 1079	
土師器	杯	SX 2368	「東」/「今」	体部外側/底部外側	正位	1133	D 1068	
須恵器	高台付杯	SX 2368	「口」	底部外側	/	1134	D 1078	
須恵器	杯	SX 2368	「川」	体部外側	正位力	1135	D 1126	
須恵器	杯	SX 2368	「匁」	体部外側	正位	1136	D 1116	
須恵器	杯	SX 2368	「火」	体部外側	正位	1137	D 1123	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	体部外側	/	1138	D 1065	
須恵器	杯	SX 2368	「益」	底部外側	/	1139	D 1085	
土師器	杯	SX 2368	「上」	底部外側	/	1140	D 1093	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	体部外側	正位力	2781	D 1064	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	底部外側	/	2782	D 1066	
須恵器	杯	SX 2368	「ヰ」	体部外側	正位	2783	D 1067	
須恵器	杯	SX 2368	「ヰ」・「ヰ」	体部内側	正位	2784	D 1070	
土師器	杯	SX 2368	「口」	底部外側	/	2785	D 1071	
須恵器	杯	SX 2368	「口 (古力)」	底部外側	/	2786	D 1072	
土師器	杯	SX 2368	「女」	体部外側	倒位	2787	D 1075	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	体部外側	正位力	2788	D 1077	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	体部外側	倒位	2789	D 1080	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	底部外側	/	2790	D 1081	
須恵器	杯	SX 2368	「東」	体部外側	正位	2791	D 1082	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	底部外側	/	2792	D 1083	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	体部外側	正位	文字數不詳	2793	D 1089
土師器	杯	SX 2368	「久」	体部外側	倒位	2794	D 1096	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	底部外側	/	2795	D 1097	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	体部外側	横位	2796	D 1098	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	体部外側	/	2797	D 1099	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	底部外側	/	2798	D 1100	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	体部外側	/	2799	D 1101	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	底部外側	/	2800	D 1102	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	底部外側	/	2801	D 1103	
土師器	杯	SX 2368	「口」	底部外側	/	2802	D 1104	
須恵器	杯	SX 2368	「口」	底部外側	/	二文字か	2803	D 1105
須恵器	杯	SX 2368	「千」	体部外側	横位	2804	D 1106	
須恵器	杯	SX 2368	「口」(墨書き) / 「升」(ハラガキ)	体部外側/底部外側	/		2805	D 1107
土師器	杯	SX 2368	「口」	底部外側	/		2806	D 1108

### 墨書・刻書土器一覧

種類	器種	通 標・層 位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	登 記
直底器	杯	SX 2268	「口」	体部外面	/		2807	D 1110
直底器	杯	SX 2268	「口」	体部外面	側位		2808	D 1112
直底器	杯	SX 2268	「口」	体部外面	/		2809	D 1113
直底器	杯	SX 2268	「口」〔万カ〕	底部内面	/		2810	D 1114
直底器	杯	SX 2268	「奉」	体部外面	機位		2811	D 1115
直底器	杯	SX 2268	「口田」	底部外面	/		2812	D 1117
上脚器	便	SX 2268	「口」	体部外面	/		2813	D 1118
直底器	杯	SX 2268	「口」	体部外面	正位		2814	D 1119
上脚器	杯	SX 2268	「口」	体部外面	/		2815	D 1120
直底器	杯	SX 2268	「口」	体部外面	/		2816	D 1121
直底器	杯	SX 2268	「口」	体部外面	/		2817	D 1122
直底器	杯	SX 2268	「口」	体部外面	/		2818	D 1125
上脚器	费	SX 2268	人面面審力	体部外面	/		2819	D 5111
上脚器	杯	SX 2263	「万」	体部外面	正位		1145	D 1046
直底器	杯	SX 2263 1	「〇」	底部外面	/		1146	D 1047
直底器	杯	SX 2263 1	「山本」	底部外面	/		1147	D 10097
直底器	杯	SX 2263 埋土	「申」	体部外面	側位		2820	D 1049
直底器	瓶	SX 2263 1	「〇」	底部外面	/		2821	D 1051
上脚器	杯	SX 2263 1	「丸」	底部外面	/		2822	D 1055
上脚器	杯	SX 2263 1	「車」〔墨書き〕 / 「口」〔ヘラガキ〕	体部外面/底部外面	正位		2823	D 1701
上脚器	杯	SX 2263 1	「口」	底部外面	/		2824	D 1056
直底器	杯	SX 2263 1	「良」	体部外面	機位		2825	D 1058
直底器	杯	SX 2263 1	「口」	底部外面	/		2826	D 1060
直底器	杯	SX 2263 1	「口」	体部外面	/		2827	D 1061
直底器	杯	SX 2263 1	「口」	底部外面	/		2828	D 1062
直底器	杯	SX 2263 1	「片」 - 「X」〔ヘラガキ〕	底部外面	/		2829	D 1098
直底器	杯	SX 2278 3	「王」	体部外面	正位		1154	D 1193
直底器	杯	SX 2278 東壁 1 層	「口」	底部外面	/	「牛」彌	1155	D 1194
直底器	杯	27 区第 1 層 沢用	「虎」	底部外面	/		1156	D 2485
土師器	杯	100 区 P149	「夫」	体部外面	側位		1159	D 868
土師器	杯	100 区第 IV 層 黒色土	「秀」	体部外面	正位		1166	D 2707
土師器	杯	100 区第 IV 层 黑色土	「中」	体部外面	正位		1167	D 2711
土師器	杯	100 区第 IV 层 黑色土	「村」	底部外面	/		1168	D 2715
土師器	杯	100 区第 IV 层 黑色土	「祖入口」	体部外面	/		1169	D 2717
土師器	耳皿	100 区第 IV 层 黑色土	「蛇」	体部外面	正位		1170	D 2728
直底器	杯	100 区第 IV 层 黒色土	「阿」	底部外面	/		2833	D 1345
土師器	杯	100 区第 IV 层 黒色土	「口」	体部外面	正位	「木」彌心	2834	D 1347
直底器	杯	100 区第 IV 层 黒色土	「夷」	体部外面	正位		2835	D 1353
土師器	杯	100 区第 IV 层 黒色土	「守」	体部外面	正位		2836	D 1360
直底器	杯	100 区第 IV 层 黒色土	「口」	底部外面	/		2837	D 2709
直底器	杯	100 区第 IV 层 黒色土	「口」	体部外面	/		2838	D 2722
土師器	杯	100 区第 IV 层 黒色土	「井」	体部外面	正位		2839	D 2729
土師器	杯	100 区第 IV 层 黑色土	「口」	底部外面	/		2840	D 2732
土師器	杯	100 区第 IV 层 黑色土	「吉」	体部外面	正位		2841	D 3614
土師器	杯	SD 831 D1	「上」 - 「丘」	底部外面	/	彌集	1172	D 6703
直底器	杯	SD 831 D1	「中家」	底部外面	/		1173	D 6706
直底器	杯	SD 831 E1	「口」	底部外面	/		2842	D 6707
土師器	杯	SD 831 B1	「口」	体部外面	正位		2843	D 6709
土師器	杯	SD 831 B1	「匪」	体部外面	正位		2844	D 6710
土師器	杯	SD 831 B1	「口」	底部外面	/		2845	D 6713
土師器	杯	SD 831 B1	「口」	底部外面	/		2846	D 6714
直底器	杯	SD 831 檻出面	「口」	底部外面	/		2847	D 6715
直底器	杯	SD 831 D3	「口」	体部外面	/		2848	D 6716
土師器	杯	SD 831 B1	「山」	体部外面	正位		2849	D 6738
直底器	杯	SD 831 E1	「口」〔記号カ〕	底部外面	/		2850	D 6687
直底器	杯	SD 832 E1	「山」	底部外面	/		1180	D 6686
直底器	杯	SD 832 D3	「井」	体部外面	正位		2851	D 6688
土師器	杯	SD 832 D1	「口」	体部外面	側位		2852	D 6689
直底器	杯	SD 832 E1	「口」〔王カ〕	体部外面	機位		2853	D 6690
直底器	杯	SD 832 E1	「口」〔王カ〕	底部外面	/		2854	D 6691
直底器	杯	SX 830 2	「口」〔記号カ〕	体部外面	正位カ		1182	D 6647
直底器	杯	SX 830 1	「口」	底部外面	/		2855	D 6635
直底器	杯	SX 830 2	「口」	体部外面	/		2856	D 6636
土師器	杯	SX 830 1	「一」〔ヘラガキ〕	底部外面	/		2857	D 6637
土師器	杯	SX 830 サブトレ	「夫」〔羅頭〕	底部外面	/		2858	D 6640

### 墨書・刻畫土器一覧

種類	器種	造 様・層 位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	量 錄
酒呑器	杯	SX 830 1	「口」	底部外面	/		2869	D 6641
土師器	杯	SX 830 1	「口」	体部外面	/		2860	D 6642
酒呑器	杯	SX 830 2	「口」	体部外面	/		2861	D 6643
酒呑器	杯	SX 830 2	「口」	体部外面	正板方		2862	D 6644
酒呑器	杯	SX 830 2	「口」	底部外面	/	あるいは二字	2863	D 6646
土師器	甕	SX 830 1	「井」(羅刻)	体部外面	正板		2864	D 6649
酒呑器	杯	SX 830 1	「口」	体部外面	/		2865	D 6652
酒呑器	杯	SX 830 1	「口」	体部外面	/		2866	D 6653
土師器	甕	SX 830 1	「口」	体部外面	/		2867	D 6655
土師器	甕	SX 830 1	「口」	体部外面	正板		2868	D 6657
土師器	杯	SD 923d 4	「力」	底部外面	/		1185	D 7965
土師器	杯	SD 923d 4	「里」	体部外面	正板		2869	D 7964
土師器	杯	SD 923d 4	「木」	底部外面	/		2870	D 7967
酒呑器	杯	SD 923d 4	「口」(懸垂) + 「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		2871	D 7973
酒呑器	杯	SD 923d 4	「口」(十方)	底部外面	/		2872	D 8682
酒呑器	杯	SD 923d 4	「田」	底部外面	/		1187	D 8759
酒呑器	杯	SD 2201a 4	「十倉人」	底部外面	/		1188	D 8758
酒呑器	杯	SD 2201a 4	「山方」	底部外面	/		1189	D 8755
酒呑器	杯	SD 2201a 4	「田」	底部外面	/		1190	D 8862
土師器	杯	SD 2201a 4	「口」	体部外面	正板		2873	D 8748
土師器	甕	SD 2201a 1	「前」	体部外面	正板		2874	D 8749
酒呑器	瓶輪	SD 2201a 1	「口」/「口」	体部外面/底部外面	/		2875	D 8751
酒呑器	杯	SD 2201a 4	「子方」	体部外面	正板		2876	D 8752
酒呑器	杯	SD 2201a 1	「口」	底部外面	/	二字とすれば「口子」	2877	D 8756
酒呑器	杯	SD 2201a 4	「口」	底部外面	/		2877	D 8756
酒呑器	杯	SD 2201a 3	「田」	底部外面	/		2879	D 8757
酒呑器	杯	SD 2201a 4	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		2880	D 9396
酒呑器	杯	SD 2201a 3	「角」(羅刻)	底部内面	/		2881	D 9397
土師器	杯	SD 2201b 1	「村人」	底部外面	/		1191	D 8683
酒呑器	杯	SD 2201b 1	「口」(村人)	底部外面	/		1192	D 8679
酒呑器	杯	SD 2201b 0	「舍」	体部外面	側位		1193	D 8668
土師器	杯	SD 2201b 1	「舍」	体部外面	側位		1194	D 8688
土師器	杯	SD 2201b 0	「田」	底部外面	/		1195	D 8670
土師器	杯	SD 2201b 1	「記号力」	体部外面	正板		2882	D 8653
土師器	杯	SD 2201b 1	「口」	体部外面	/		2883	D 8664
酒呑器	杯	SD 2201b 1	「口」	体部外面	/		2884	D 8665
土師器	杯	SD 2201b 0	「山方」	体部外面	側位		2885	D 8666
酒呑器	杯	SD 2201b 0	「口」	体部外面	正板	旁は「寸」	2886	D 8667
土師器	杯	SD 2201b 1	「口」	体部外面	正板		2887	D 8669
土師器	杯	SD 2201b 1	「口」	体部外面	側位		2888	D 8672
土師器	杯	SD 2201b 1	「口」	体部外面	正板方		2889	D 8673
土師器	杯	SD 2201b 1	「口」	体部外面	/		2890	D 8674
土師器	杯	SD 2201b 1	「口」	体部外面	/		2891	D 8675
土師器	杯	SD 2201b 1	「口」(王方主力)	体部外面	正板		2892	D 8676
土師器	杯	SD 2201b 1	「口」	体部外面	/		2893	D 8680
土師器	杯	SD 2201b 1	「口」	体部外面	正板		2894	D 8681
土師器	杯	SD 2201b 0	「—」(ヘラガキ)	底部外面	/		2895	D 9391
土師器	小瓶	SD 2201b 1	「—」(ヘラガキ) + 「口」(羅刻)	底部外面	/		2896	D 9403
土師器	杯	SD 2201c 1	「口」	体部外面	正板	罐などか	1196	D 8687
酒呑器	杯	SD 2201c 1	「口」	体部外面	/		2897	D 8694
酒呑器	杯	SD 2201c 1	「口」	体部外面	/		2898	D 8685
酒呑器	杯	SD 2201c 1	「口」	体部外面	/		2899	D 8686
土師器	杯	SE 2123 3	「口」	底部外面	/		2900	D 7707
酒呑器	杯	SE 2123 2	「口」	底部外面	/		2901	D 7709
酒呑器	杯	SE 2123 3	「口」	底部外面	/		2902	D 7710
酒呑器	杯	SE 2123 1	「口」(十方)	体部外面	/		2903	D 7718
酒呑器	杯	SE 2123 2	「口」	体部外面	正板		2904	D 7721
酒呑器	杯	SE 2123 3	「口」(十方)	体部外面	正板		2905	D 7723
酒呑器	杯	SE 2123 1	「口」	底部外面	/		2906	D 7735
酒呑器	杯	SE 2123 1	「口」	体部外面	/		2907	D 7736
酒呑器	杯	SE 2123 1	「口」	体部外面	/		2908	D 7714
酒呑器	杯	SE 2123 1	「口」	体部外面	/		2909	D 7716
酒呑器	杯	SE 2123 2	「口」	体部外面/底部外面	側位		2910	D 7720
土師器	杯	SE 2123 1	「口」	底部外面	正板		2911	D 7724
酒呑器	杯	SE 2123 1	「口」	体部外面	正板		2912	D 7725
酒呑器	杯	SE 2123 1	「口」	底部外面	/		2913	D 7729
酒呑器	杯	SD 2099 1	「奥」	体部外面	正板		1208	D 6760
酒呑器	杯	SD 2099 3	「奥」	体部外面	正板		1209	D 6771
土師器	杯	SD 2099 2	「口」	体部外面	/		1210	D 6766

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	道 構・層 位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	回 号	量 程
土師器	杯	SD 2099 3	「口」(十方)	体部外側	正位		1211	D 6763
土師器	杯	SD 2099 2	「口」	体部外側	/		2914	D 6759
土師器	杯	SD 2099 2	「×」(ヘラガキ)	底部外側	/		2915	D 6761
土師器	杯	SD 2099 3	「口」	体部外側	/		2916	D 6764
土師器	杯	SD 2099 2	「口」	体部外側	正位		2917	D 6768
眞善器	杯	SD 2099 2	「口」	底部外側	/		2918	D 6769
眞善器	杯	SD 2099 2	「口」(本方)	体部外側	正位		2919	D 6770
眞善器	杯	SD 2099 3	「口」	体部外側	/		2920	D 6774
土師器	杯	SD 2099 3	「口」	体部外側	側位		2921	D 6776
土師器	杯	SD 2098 1	「林」	底部外側	/		1212	D 6797
眞善器	杯	SD 2098 1	「千」	体部外側	横位		1213	D 6799
眞善器	杯	SD 2098 1	「屈」	体部外側	横位		1214	D 6791
眞善器	杯	SD 2098 1	「口」	体部内側	/		2922	D 6669
眞善器	杯	SD 2098 1	「口」(十方)	底部外側	/		2923	D 6787
土師器	杯	SD 2098 1	「×」(ヘラガキ)	底部外側	/		2924	D 6789
土師器	杯	SD 2098 1	「口」	底部外側	/		2925	D 6793
土師器	杯	SD 2098 1	「口」	体部外側	/		2926	D 6794
眞善器	杯	SD 2098 1	「口」	体部外側	/		2927	D 6795
土師器	杯	SD 2098 1	「口」	体部外側	側位		2928	D 6796
眞善器	杯	SD 2098 1	「口」	体部外側	/		2929	D 6798
眞善器	杯	SD 2098 1	「下毛野」	底部外側	/		1216	D 10690
眞善器	杯	SD 2096 1	「口」(高カ)	体部外側	側位		1217	D 6748
眞善器	杯	SD 2096 1	「十」(縦跡)	体部内側	正位		2930	D 6747
土師器	杯	SK 2197 1	「子」	体部外側	側位		1218	D 8706
土師器	杯	SK 2197 1	「子」	体部外側	側位		1219	D 8707
土師器	杯	SK 2197 k	「山」	底部外側	/		2931	D 8703
眞善器	杯	SX 2101A 3	「里」・「七十」	底部外側	/	眞方同	1226	D 6475
眞善器	杯	SX 2101A 1	「口」	底部外側	/	二文字とすれば「十万」カ	1227	D 6473
眞善器	杯	SX 2101A 3	「大」	底部外側	/		1228	D 6474
土師器	杯	SX 2101A 2	「下」(縦跡)	体部外側	横位		2932	D 6398
眞善器	杯	SX 2101B 1	「井」	体部外側	正位		1234	D 6448
眞善器	杯	SX 2101B 1	「井」	底部外側	/		1235	D 9997
眞善器	杯	SX 2101B 1	「井」	底部外側	/		1236	D 6437
眞善器	杯	SX 2101B 1	「井」	底部外側	/		1237	D 6435
眞善器	杯	SX 2101B 1	「十」	底部外側	/		1238	D 6439
眞善器	杯	SX 2101B 1	「本」	底部外側	/		1239	D 6442
眞善器	杯	SX 2101B 1	「道見」	底部外側	/		1240	D 6446
眞善器	高台付杯	SX 2101B 1	「口」・「口」	体部外側	側位カ・側位カ	紀に二箇所墨書きあり	1241	D 6440
眞善器	高台付杯	SX 2101B 1	「口」	底部外側	/		1242	D 6443
眞善器	杯	SX 2101B 1	「×」(ヘラガキ)	底部外側	/		2933	D 6373
眞善器	杯	SX 2101B 1	「井」(縦跡)	底部内側	/		2934	D 6374
眞善器	杯	SX 2101B 1	「庭見」	底部外側	/		2935	D 6431
眞善器	杯	SX 2101B 1	「口」(本方)	底部外側	/		2936	D 6445
眞善器	杯	SX 2101B 1	「口」	体部外側	/		2937	D 6447
眞善器	杯	SX 2101B 2	「吉」	底部外側	/		1245	D 6433
眞善器	杯	SX 2101C 1	「口」(井方)	底部外側	/		1250	D 6402
眞善器	高台付杯	SX 2100 1	「口」(夫カ夫カ)	底部外側	/		1251	D 6544
土師器	杯	SX 2100 1	「口」(上カ)	底部外側	/		1252	D 6423
眞善器	杯	SX 2100 1	「大」	底部外側	/		1253	D 6415
眞善器	杯	SX 2100 1	「×」(ヘラガキ)	底部外側	/		2940	D 6385
眞善器	杯	SX 2100 1	「口」	体部外側	/		2941	D 6417
眞善器	杯	SX 2100 1	「口」	体部外側	正位		2942	D 6418
眞善器	杯	SX 2100 2	「田」	体部外側	正位		1260	D 6410
眞善器	杯	SX 2100 2	「口」	体部外側	正位		1261	D 6490
眞善器	杯	SX 2100 2	「口」	体部外側	正位		1262	D 6424
眞善器	杯	SX 2100 2	「糸子」	底部外側	/		1263	D 6509
眞善器	杯	SX 2100 2	「吉」	底部外側	/		1264	D 6601
眞善器	杯	SX 2100 2	「下野」	底部外側	/		1265	D 6502
眞善器	杯	SX 2100 2	「糸子」/「口」	体部外側/底部外側	正位		1266	D 6504
眞善器	杯	SX 2100 2	「丈」	体部外側	正位		1267	D 6499
眞善器	杯	SX 2100 2	「石成」	体部外側	横位		1268	D 6387
土師器	杯	SX 2100 2	「主」(縦跡)	底部外側	/		1269	D 6506
土師器	杯	SX 2100 2	「新」	体部外側	正位		1270	D 6507
土師器	杯	SX 2100 2	「石成」(墨書) / 「×」(ヘラガキ)	体部外側/底部外側	横位		1271	D 6508
土師器	杯	SX 2100 2	「石」	体部外側	/		2943	D 6420
眞善器	杯	SX 2100 2	「口」	体部外側	/		2944	D 6425
眞善器	杯	SX 2100 2	「口」/「口」	体部外側/体部内側	/		2945	D 6426
眞善器	杯	SX 2100 2	「口」	体部外側	/		2946	D 6428
土師器	杯	SX 2100 2	「口」	体部外側	/		2947	D 6429

墨書・刻畫土器一覧

種類	器種	造構・層位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	回収	登録
須恵器	杯	SX 2100 2	「口」	底部外側	/		2948	D 6495
須恵器	杯	SX 2100 2	「口」	底部外側	/		2949	D 6496
土師器	杯	SX 2100 2	「火」	底部外側	/		2950	D 6498
須恵器	杯	SX 2100 2	「口」	底部外側	/		2951	D 6503
須恵器	杯	SX 2100 2	「口」	底部外側	/		2952	D 6505
須恵器	杯	SX 2100 3	「口」	底部外側	/		1278	D 9999
須恵器	杯	SX 2100 3	「口」	底部外側	/		1279	D 10010
須恵器	高台付杯	SX 2100 3	「口」	底部外側	/		1280	D 6409
須恵器	杯	SX 2100 3	「瓦」	底部外側	/		1281	D 6412
須恵器	杯	SX 2100 3	「公」	底部外側	側位		1283	D 6406
須恵器	杯	SX 2100 3	「成」	底部外側	横位		1284	D 6414
須恵器	杯	SX 2100 3	「下」	底部外側	/		1285	D 6403
須恵器	杯	SX 2100 3	「X」 〔ヘラガキ〕	底部外側	/		2963	D 6377
土師器	杯	SX 2100 3	「口」	底部外側	横位		2964	D 6407
須恵器	杯	SX 2100 3	「口」	底部外側	/		2965	D 6497
須恵器	杯	SX 2100 3	「井」	底部外側	横位		2956	D 9996
須恵器	杯	SX 2112 1	「加」	底部外側	/		1287	D 6668
須恵器	杯	SX 2112 1	「口」	底部外側	/		2967	D 6670
須恵器	杯	SX 2287 1	「加」	底部外側	側位		1288	D 6659
土師器	杯	SX 2287 1	「口」	底部外側	/		2968	D 6662
須恵器	杯	SX 2567 1	「角」	底部外側	/		1289	D 6612
土師器	高台付杯	SX 2508 1	「口」	底部外側	/		1290	D 6618
須恵器	杯	SX 2180 2	「口」	底部外側	正位	二文字の可能性あり	1293	D 8717
土師器	杯	SX 2180 2	「口」	底部外側	/		2969	D 8714
須恵器	杯	SX 2180 2	「口」	底部外側	/		2960	D 8721
須恵器	杯	SX 2180 3	「角」	底部外側	/		2961	D 8724
須恵器	杯	SX 2180 3	「待」	底部外側	/		2962	D 8725
土師器	杯	SX 2180 1	「口」	底部外側	/		2963	D 8726
土師器	杯	SX 2180 3	「口」	底部外側	正位カ		2964	D 8732
須恵器	杯	SX 2180 1	「口」	底部外側	/		2965	D 8733
土師器	高台付杯	SX 2180 1	「村」	底部外側	/		2966	D 8734
土師器	杯	SX 2180 1	「範」	底部外側	側位		2967	D 8735
土師器	杯	SX 2180 3	「口」 〔十九〕	底部外側	/		2968	D 8737
須恵器	杯	SX 2180 2	「口」	底部外側	/		2969	D 8739
土師器	杯	SX 2180 1	「口」	底部外側	/		2970	D 8740
土師器	杯	SX 2180 1	「口」	底部外側	/		2971	D 8742
土師器	杯	SX 2180 1	「口」	底部外側	/		2972	D 8743
土師器	杯	SX 2180 3	「口」	底部外側	/		2973	D 8745
土師器	杯	SX 2180 1	「口」	底部外側	/		2974	D 8746
土師器	杯	SX 2180 1	「口」 〔ヘラガキ〕	底部外側	範本		2975	D 9383
須恵器	杯	SX 2188 1	「十」	底部外側	/		1254	D 8691
土師器	杯	SX 2188	「𠙴」	底部外側	/		1295	D 8689
須恵器	杯	SX 2188 1	「口」 〔記号カ〕	底部外側	/		2976	D 8718
須恵器	杯	SX 2188 1	「口」 〔口〕	底部外側	/		2977	D 8851
須恵器	杯	SX 2188 1	「十」	底部外側	/		2978	D 8865
須恵器	杯	SX 2188 1	「一」 〔ヘラガキ〕	底部外側	/		2979	D 9394
須恵器	杯	SX P69 埋土	「加」	底部外側	側位		1296	D 6835
須恵器	杯	SX P69 埋土	「口」	底部外側	/		2990	D 6834
須恵器	杯	SX 区第1層	「縦」	底部外側	/		1297	D 6811
須恵器	杯	SX 区第1層	「口」 〔同〕	底部外側	/		1298	D 6906
須恵器	杯	SX 区第1層	「井」	底部外側	/		1300	D 6814
土師器	杯	SX 区第1層	「*」 〔縦跡〕	底部外側	/		2991	D 6376
土師器	便	SX 区第1層	「X」 〔ヘラガキ〕	底部外側	/		2992	D 6810
須恵器	杯	SX 区第1層	「口」 〔縫跡〕	底部外側	/	現存しているのは「井」	2993	D 6812
須恵器	杯	SX 区第1層	「口」 〔十九〕	底部外側	/		2994	D 6815
須恵器	杯	SX 区第1層	「口」	底部外側	正位	二文字とすれば、二文字目は「ア」	2995	D 6816
須恵器	杯	SX 区第1層	「口」	底部外側	正位	「示」 〔縫跡〕	2996	D 6909
土師器	杯	105 区第1層	「高」	底部外側	正位		1302	D 7963
土師器	杯	105 区第1層	「大」	底部外側	正位		2997	D 7961
土師器	杯	105 区第1層	「子」	底部外側	横位		2998	D 7962
土師器	杯	105 区第1層	「口」	底部外側	正位カ		2999	D 7966
土師器	杯	105 区第1層	「口」	底部外側	正位		3000	D 7971
須恵器	杯	105 区第1層	「口」	底部外側	正位		3001	D 7980
土師器	杯	105 区第1層	「範」	底部外側	正位		3002	D 7982
須恵器	杯	105 区第1層	「口」	底部外側	/		3003	D 7985
土師器	杯	105 区第1層	「口」	底部外側	正位カ		3004	D 7998
土師器	杯	105 区第1層	「井」 〔縫跡〕	底部外側	正位		3005	D 8027
須恵器	杯	83 区第1層	「酒」 〔口〕	底部外側	/	異筆か	1303	D 6891

### 墨書・刻畫土器一覧

種類	器種	道 横・層 位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	登 錄
酒器群	杯	83 区第III層	「口」(記号力)	脛部外面	/		1304	D 6894
土器群	杯	83 区第III層 施簡準横題	「(記号)」(縦題)	底部外面	/		1307	D 6821
酒器群	杯	83 区第III層	「十」	脛部外面	正位		3065	D 6874
酒器群	杯	83 区第III層	「口」	脛部外面	/		3067	D 6887
酒器群	杯	83 区第III層	「口」	脛部外面	側位力		3068	D 6888
酒器群	杯	83 区第III層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3069	D 6889
酒器群	杯	83 区第III層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3070	D 6890
土器群	杯	83 区第III層	「口」(井力)・「ヘラガキ」	底部外面	/		3011	D 6893
酒器群	杯	83 区第III層	「×」(施題)	底部外面	/		3012	D 6898
酒器群	杯	83 区第III層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/	体部外面上墨付	3013	D 6900
酒器群	杯	83 区第III層	「口」	脛部外面	/		3014	D 6902
酒器群	杯	105 区第III層	「舍」	底部外面	/		3068	D 6958
酒器群	杯	105 区第III層	「口」	底部外面	/	二文字とすれば一字目は「子」か	3069	D 6970
土器群	杯	105 区第III層 黒土土	「口」	体部外面	/		1310	D 6710
土器群	杯	105 区第III層	「口」	脣位	秀は「色」		1311	D 6892
土器群	杯	105 区第III層	「口」	脣位	「四」偏		1312	D 7969
酒器群	杯	105 区第III層	「H入」(墨書)・「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		1313	D 7976
土器群	杯	105 区第III層	「口」	底部外面	/		3015	D 6893
土器群	杯	105 区第III層	「口」(山力)	体部外面	正位		3016	D 6894
酒器群	杯	105 区第III層	「毛」	体部外面	正位		3017	D 6895
土器群	杯	105 区第III層	「口」	底部外面	/		3018	D 6897
酒器群	杯	105 区第III層	「毛」	体部外面	正位		3019	D 6872
土器群	杯	105 区第III層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3020	D 9400
土器群	杯	105 区第III層	「口」・「口」	体部外面	正位	二箇所同字	3021	D 8700
酒器群	高台付杯	83 区第IV層	「口」	体部外面	側位力		3022	D 7317
酒器群	杯	83 区第IV層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3023	D 7320
土器群	甕	83 区第IV層	「×」(施題)	体部外面	/		3054	D 7321
酒器群	杯	83 区第IV層	「—」(ヘラガキ)	底部外面	/		3025	D 7322
酒器群	杯	83 区第IV層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3026	D 7323
土器群	杯	105 区検出面	「子」	体部外面	側位		3027	D 8704
土器群	杯	105 区検出面	「口」	脣位			3028	D 8705
酒器群	杯	105 区検出面	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3029	D 9392
酒器群	杯	105 区検出面	「—」(ヘラガキ)	底部外面	/		3030	D 9398
酒器群	瓶	105 区検出面	「—」(ヘラガキ)	底部外面	/		3031	D 9399
土器群	甕	105 区検出面	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3032	D 9401
土器群	甕	SD 2231b 1	「■」(施題)	底部内面	/		1315	D 1656
土器群	甕	SD 2231b 2	「■」	体部外面	正位		1316	D 1509
土器群	甕	SD 2232e 2	「前」	体部外面	正位		1318	D 1513
酒器群	杯	SD 2235c 1	「頭」	体部外面	/		3033	D 1516
酒器群	杯	SD 2232c 1	「口」	底部外面	/		3034	D 2426
酒器群	杯	SX 1940A 2	「口」	体部外面	/		3035	D 6181
土器群	甕	SX 1940A 2	「口」	体部外面	/		3036	D 6182
酒器群	杯	SX 1940A 1	「口」	底部外面	/		3037	D 6187
酒器群	杯	SX 1940A 1	「口」(大力)	体部外面	正位		3038	D 6189
酒器群	杯	SX 1940D 植出凸	「—」(ヘラガキ)	底部外面	/		3039	D 6164
土器群	甕	SD 1918b 1	「口」	底部外面	/		3040	D 4304
土器群	甕	SD 1918c 2	「口」	体部外面	/		3041	D 4309
土器群	甕	SD 1918c 1	「口」	体部外面	/		3042	D 4310
土器群	甕	SD 1918c 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3043	D 4313
酒器群	杯	SD 1918e 2	「口」	底部外面	/		3044	D 4306
酒器群	杯	SD 1918e 2	「角」	体部外面	正位		3045	D 4307
酒器群	杯	SD 1918e 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3046	D 4312
酒器群	高台付杯	SD 1919b 2	「上口」	底部外面	/		1329	D 4317
土器群	甕	SD 1919b 1	「口」	体部外面	正位		3047	D 4323
酒器群	杯	SD 1919b 1	「口」(山力)	底部外面	/		3048	D 5332
土器群	甕	SD 1919c 1	「口」	体部外面	正位	「禾」偏か	1330	D 4325
酒器群	杯	SD 1919d 1	「口」	体部外面	側位力		1332	D 4322
酒器群	杯	SD 1919d 1	「口」	底部外面	/	「イ」偏か	1333	D 4324
土器群	甕	SE 2010 井戸側内 2層	「集」	体部外面	正位		3049	D 5605
土器群	甕	SE 2010 沢り方	「口」(井力)	体部外面	正位力		3050	D 5506
土器群	甕	SE 2010 井戸側内 2層	「口」	体部外面	/		3051	D 5507
土器群	甕	SE 2010 沢り方	「口」	体部外面	/		3052	D 5508
土器群	甕	SE 2010 沢り方	「口」(石力)	体部外面	正位		3053	D 5512
土器群	甕	SE 2010 沢り方	「口」	体部外面	/		3054	D 5514
酒器群	甕	SE 1926 沢り方	「口」	体部外面	/		3055	D 5026
土器群	甕	SE 1926 沢り方	「口」	体部外面	正位力		3056	D 5027
酒器群	甕	SE 1926 沢り方	「口」	体部外面	/		3057	D 5028
土器群	甕	SE 1926 井戸側内理土	「船」	体部外面	正位		3058	D 5032
酒器群	甕	SE 1926 1	「口」	体部外面	/		3059	D 5035

### 墨書・刻書土器一覧

種類	越 種	造 構・層 位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図 庫	目 錄
鉄器皿	杯	SE 1926 井戸側内	「一」《ヘラガキ》	底部外面	/		3060 D	5022
土師器皿	杯	SE 1872 1	「升」	体部外面	正位		1339 D	5067
陶器皿	杯	SE 1872 1	「人」	体部外面	正位		3061 D	5040
土師器皿	杯	SE 1976 2	「右」	体部外面	正位		1349 D	2355
陶器皿	杯	SE 1976 1	「左」	底部外面	/		2566 D	2345
土師器皿	杯	SE 1976 1	「右」	体部外面	倒位		2626 D	2362
土師器皿	杯	SE 1924 3	「口」	体部外面	正位		3062 D	5025
土師器皿	杯	SE 1924 井戸側内裡土	「口」	体部外面	/		3063 D	5033
土師器皿	杯	SE 1924 3	「口」	体部外面	正位		3064 D	5036
土師器皿	杯	SE 1924 2	「口」	体部外面	/		3065 D	5037
土師器皿	杯	SE 1924 3	「口」	体部外面	倒位		3066 D	5038
鐵器皿	杯	SD 1892 1	「大」	体部外面	/		3067 D	4357
土師器皿	杯	SD 1896A 2	「東」	体部外面	倒位		1401 D	5295
陶器皿	杯	SD 1896A 1	「口」	体部外面	正位		3068 D	5293
鉄器皿	杯	SD 1896A 1	「一」《ヘラガキ》	底部外面	/		3069 D	5295
土師器皿	杯	SD 1896A 1	「口」	体部外面	/		3070 D	5297
土師器皿	杯	SD 1896A 1	「口」	体部外面	横位	「イ」偏か	3071 D	5298
陶器皿	杯	SD 1896A 1	「口」	体部外面	正位		3072 D	5299
土師器皿	杯	SD 1896A 1	「口」	体部外面	/		3073 D	5301
土師器皿	杯	SD 1896A 2	「口」〔十カ〕	体部外面	/		3074 D	5310
土師器皿	杯	SD 1896A 1	「口」	体部外面	/		3075 D	5314
土師器皿	杯	SD 1896A 2	「口」	体部外面	倒位		3076 D	5315
陶器皿	杯	SD 1896A 1	「X」	体部外面	倒位		3077 D	5316
土師器皿	杯	SD 1896S 1	「X」《ヘラガキ》	底部外面	/		3078 D	5294
土師器皿	杯	SD 1896S 3	「口」	体部外面	/		3079 D	5306
陶器皿	杯	SD 1898B 1	「口」	底部外面	/		3080 D	5307
土師器皿	杯	SD 1898B 2	「口」	底部外面	/		3081 D	5311
土師器皿	杯	SD 1898B 2	「田口」	体部外面	正位		3082 D	5312
土師器皿	杯	SD 1898B 2	「口」	底部外面	/		3083 D	5313
陶器皿	杯	SD 1914 1	「東」	体部外面	正位		1403 D	5333
土師器皿	杯	SD 2055 1	「持」	体部外面	横位		1404 D	5324
陶器皿	杯	SD 2055 1	「口」	体部外面	/		3084 D	5329
土師器皿	杯	SD 2055 1	「口」〔卓カ〕	体部外面	正位		3085 D	5331
土師器皿	杯	SD 1897 1	「丈」	体部外面	正位		1408 D	5327
陶器皿	杯	SD 1897 1	「口」〔十カ〕	底部外面	/		3086 D	5335
土師器皿	杯	SD 2233 1	「田」《ヘラガキ》	底部外面	/	九字の音略か	1410 D	1651
土師器皿	杯	SD 2240 4	「一」《ヘラガキ》	底部外面	/		3087 D	1398
土師器皿	杯	SD 2262 2	「魂」	体部外面	正位		1412 D	1403
土師器皿	杯	SK 2217 1	「等」〔縦刷〕	体部外面	正位		1413 D	1401
陶器皿	杯	SK 2302 2	「口」〔實カ〕	底部外面	/		1417 D	1505
土師器皿	杯	SK 2303 3	「口」〔實カ〕	体部外面	正位		1420 D	1501
陶器皿	杯	SK 2303 4	「口」〔實カ〕	体部外面	正位		1421 D	1502
土師器皿	杯	SK 2303 4	「實」	底部外面	/		1422 D	1504
土師器皿	杯	SK 2303 2	「口」	体部外面	/		3088 D	1508
陶器皿	杯	SK 2303 2	「口」〔百カ〕	体部外面	正位		3089 D	1514
土師器皿	杯	SK 2304 2	「大」	体部外面	正位		1434 D	1511
陶器皿	杯	SK 1974 1	「紙」・「原」	体部外面	正位		1442 D	2379
土師器皿	杯	SK 1974 1	「史」・「史」	体部外面	横位		1443 D	2369
土師器皿	杯	SK 1974 1	「山上」	体部外面	正位	あわせ文字	1444 D	2373
土師器皿	杯	SK 1974 1	「口」	体部外面	/		3090 D	2376
陶器皿	杯	SK 1974 1	「口」	底部外面	/		3091 D	9990
土師器皿	杯	SK 1974 1	「口」・「口」・「口」	体部外面	正位	体部の二文字は同字。	3092 D	2372
陶器皿	杯	SK 1884 1	「度」	体部外面	正位		1445 D	4242
土師器皿	杯	SK 1900 1	「信」	底部外面	/		1449 D	5270
陶器皿	杯	SK 1900 1	「重」〔則天文字〕	底部外面	/	則天文字 人	1450 D	10005
土師器皿	高台付杯	SK 1900 2	「大口」〔田カ〕	底部外面	/		1451 D	5258
陶器皿	杯	SK 1900 1	「食」・「口」〔田カ〕	底部外面	/		1452 D	5268
土師器皿	杯	SK 1900 1	「一」《ヘラガキ》	底部外面	/		3093 D	5254
陶器皿	杯	SK 1900 1	「X」〔縦刷〕	底部外面	/		3094 D	5255
土師器皿	杯	SK 1900 2	「古」	底部外面	/		3095 D	5259
陶器皿	杯	SK 1900 2	「口」	底部外面	/		3096 D	5261
土師器皿	杯	SK 1900 1	「口」〔墨書〕・「X」《ヘラガキ》	底部外面	/		3097 D	5262
土師器皿	杯	SK 1900 1	「口」	底部外面	/		3098 D	5264
陶器皿	杯	SK 1900 2	「口」	底部外面	/		3099 D	5265
土師器皿	杯	SK 1900 1	「手」	底部外面	/		3100 D	5267
二輪器	杯	SK 1900 1	「口」〔脚力〕	底部外面	正位		3101 D	5269
土師器皿	杯	SK 1900 1	「口」〔脚力〕	体部外面	正位		3102 D	5271
陶器皿	杯	SK 1900 1	「一」《ヘラガキ》	底部外面	/		3103 D	5336
土師器皿	杯	SK 1900 1	「神」	底部外面	/		3104 D	5337

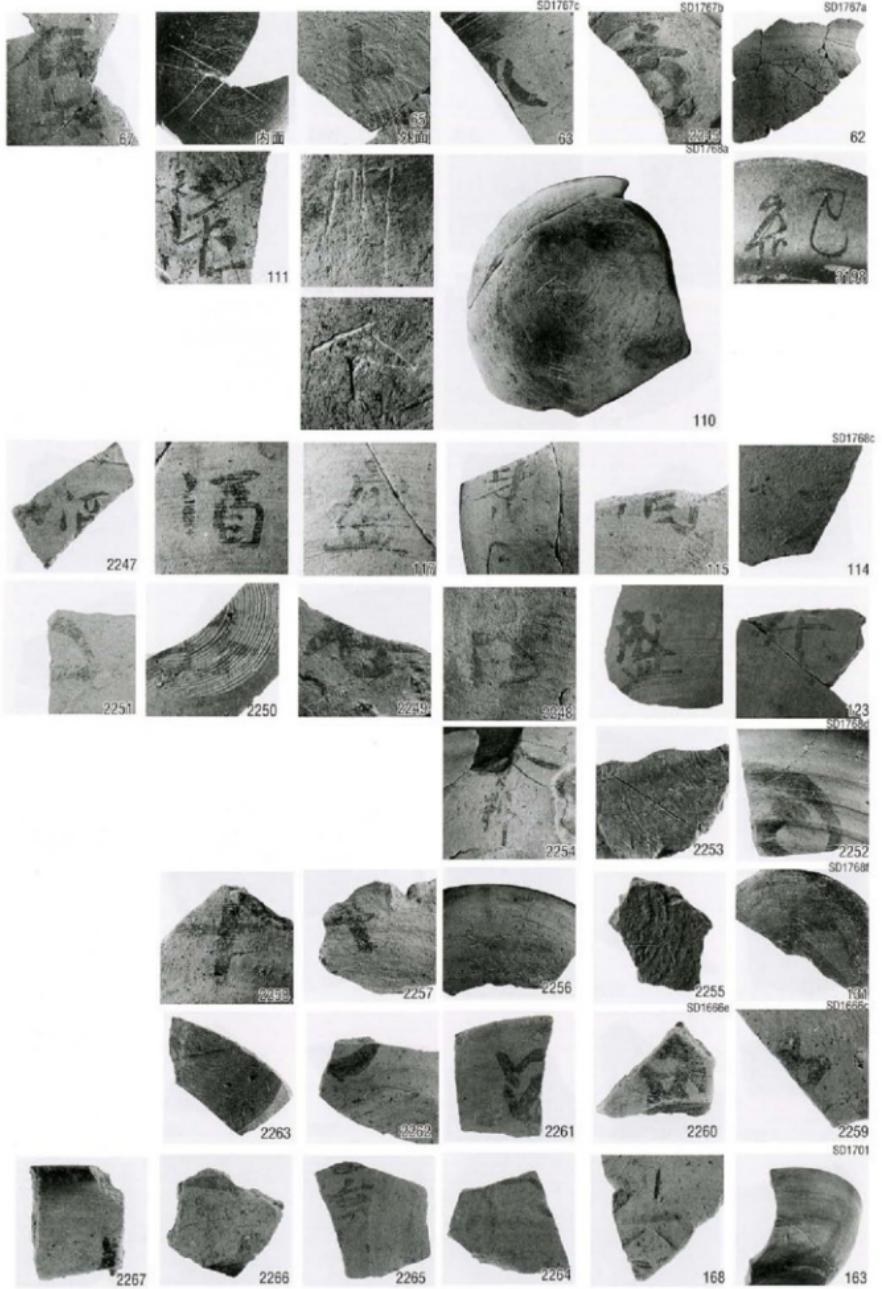
墨書・刻畫土器一覧

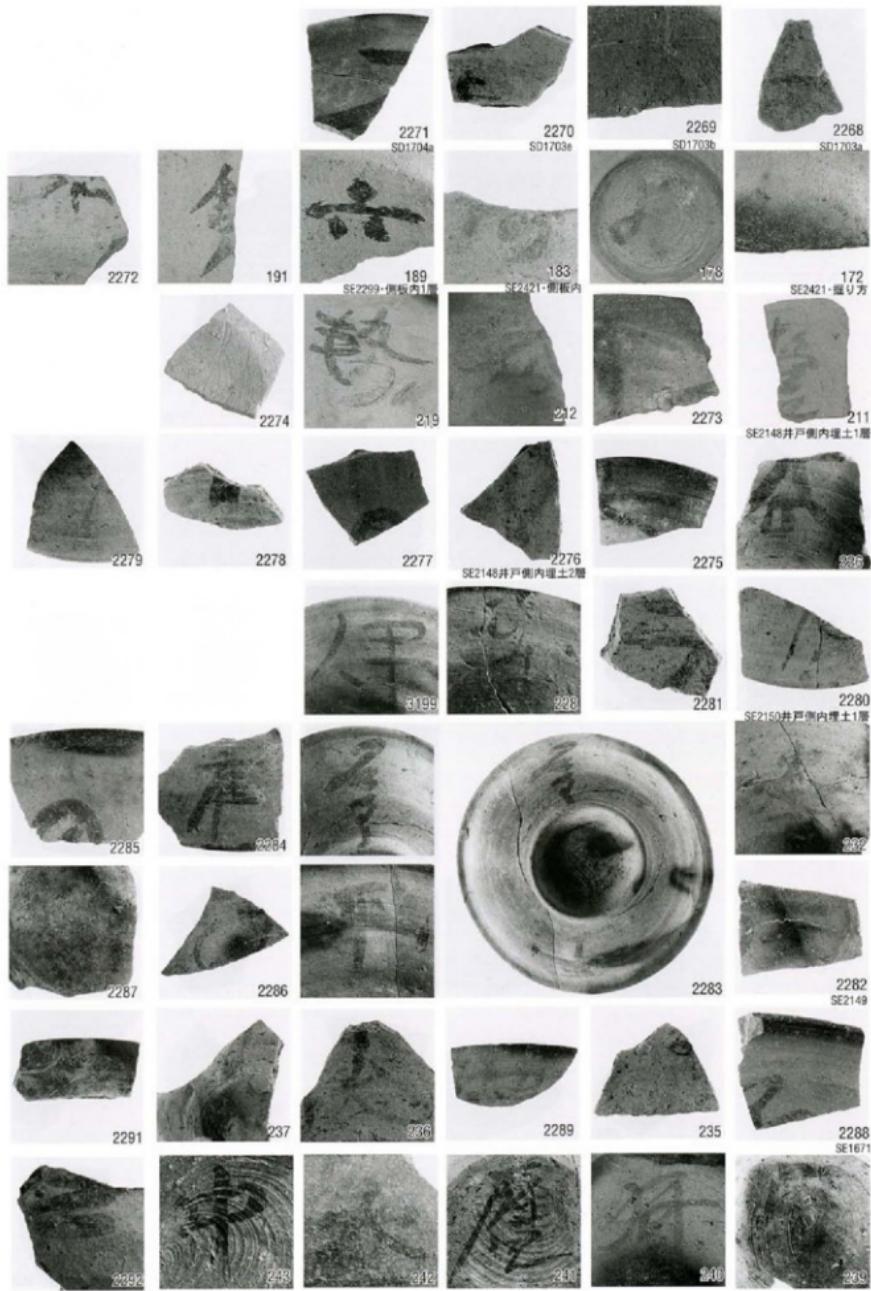
種類	器種	造構・層位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	図番	登録
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	底部外面	/		3106 D	5338
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	底部外面	/		3106 D	5339
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	体部外面	/		3107 D	5340
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	底部外面	/	「イ」偏か	3108 D	5341
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	底部外面	/		3109 D	5342
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	体部外面	/		3110 D	5344
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	底部外面	/	「示」偏、「神」か	3111 D	5346
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	体部外面	/		3112 D	5347
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	底部外面	/		3113 D	5348
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	体部外面	/		3114 D	5349
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	体部外面	正位		3115 D	5351
土師器	杯	SX 1900 1	「口□」	底部外面	/		3116 D	5352
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	体部外面	/		3117 D	5353
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	底部外面	/		3118 D	5354
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	底部外面	/	「神」の可能性あり	3119 D	5355
土師器	杯	SX 1900 1	「口 (本力)」	体部外面	正位		3120 D	5356
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	体部外面	/		3121 D	5357
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	底部外面	/		3122 D	5358
土師器	杯	SX 1900 1	「丸」	体部外面	横位		3123 D	5359
土師器	杯	SX 1900 1	「口」	体部外面	/		3124 D	5360
土師器	杯	SX 1900 2	「口」	底部外面	/		3125 D	5369
土師器	杯	30 区第Ⅰ層	「口 (能力)」	体部外面	横位		1460 D	5398
土師器	杯	30 区第Ⅱ層	「口 (上力)」	底部外面	/		1461 D	5400
土師器	杯	30 区第Ⅲ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3126 D	5407
土師器	杯	30 区第Ⅳ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3127 D	5412
土師器	高台付杯	30 区第Ⅰ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3128 D	5414
土師器	杯	30 区第Ⅰ層	「十」	体部外面	正位		3129 D	2412
土師器	杯	30 区第Ⅱ層	「西」	体部外面	正位		1464 D	5416
土師器	杯	30 区第Ⅲ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3130 D	5418
土師器	杯	30 区第Ⅳ層	「口」	底部外面	/		3131 D	5419
土師器	杯	30 区第Ⅴ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3132 D	5421
土師器	杯	30 区第Ⅵ層	「三」(ヘラガキ)	底部外面	/		3133 D	5433
土師器	杯	30 区第Ⅶ層	「□(オカ)」	底部外面	/		3134 D	5438
土師器	杯	30 区第Ⅷ層	「二」	底部外面	/		3135 D	5443
土師器	杯	30 区第Ⅸ層	「口」	体部外面	/		3136 D	5444
土師器	高台付杯	30 区第Ⅲ層	「口」	底部外面	/		3137 D	5445
土師器	杯	30 区第Ⅹ層	「口」	底部外面	/		3138 D	5446
土師器	杯	103 区第Ⅳ層	「面」	体部外面	正位		1465 D	1503
土師器	杯	103 区第Ⅴ層	「口」	底部外面	/		3139 D	1512
土師器	杯	30 区第Ⅺ層	「口」	体部外面	正位力		3140 D	4241
土師器	杯	30 区第Ⅻ層	「十」(ヘラガキ)	底部外面	/		3141 D	5464
土師器	杯	30 区第Ⅼ層	「口」	底部外面	/		3142 D	5465
土師器	杯	30 区第Ⅽ層	「二」(ヘラガキ)	底部外面	/		3143 D	5466
土師器	杯	30 区第Ⅾ層	「×」	底部外面	/		3144 D	5468
土師器	杯	30 区第Ⅿ層	「山」	底部外面	/		3145 D	5469
土師器	杯	106 区第Ⅳ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3146 D	2393
土師器	杯	106 区第Ⅴ層	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		3147 D	2394
土師器	杯	106 区第Ⅵ層	「口」	底部外面	/		3148 D	2397
土師器	杯	106 区第Ⅶ層	「口 (十力)」	底部外面	/		3149 D	2398
土師器	杯	106 区第Ⅷ層	「×」(漆書)	底部外面	/		3150 D	2410
土師器	杯	SX 2486 3	「口井」	体部外面	正位		1468 D	9614
土師器	杯	SX 2486 3	「井」	底部外面	/		3151 D	9605
土師器	杯	SX 2486 3	「大口 (田力)」	底部外面	/		3152 D	9610
土師器	杯	SX 2486 3	「船」	体部外面	横位		3153 D	9613
土師器	杯	SX 2486 3	「舟」(藤原)	底部外面	/		3154 D	9622
土師器	杯	SX 2486 3	「計畫」(藤原)	底部外面	/		3155 D	9635
土師器	便	SX 1736 1	人物戲画	体部外面	/		1470 D	74
土師器	便	SX 1736 1	人面彌善	体部外面	/		3156 D	75
土師器	便	SX 1736 1	「口」	体部外面	正位		1466 D	79
土師器	便	SX 1736 1	「口」	体部外面	/		3157 D	71
土師器	便	SX 1736 1	「口」	体部外面	/		3159 D	72
土師器	便	SX 1736 1	「口」	底部外面	/		3160 D	73
土師器	便	SX 1736 1	「口」	底部外面	/		1506 D	69
土師器	便	SX 1736 1	「三」	体部外面	横位		1507 D	66
土師器	便	SX 1736 1	「口」	体部外面	/		1508 D	52
土師器	便	SX 1736 1	「大」	体部外面	横位		1509 D	60
土師器	便	SX 1736 1	人面彌善	体部外面	/		1510 D	66
土師器	便	SX 1736 1	人面彌善	体部外面	/		1511 D	57
土師器	便	SX 1736 1	人面彌善	体部外面	/		1512 D	51

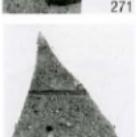
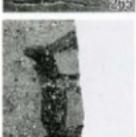
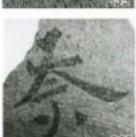
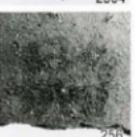
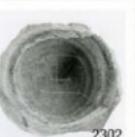
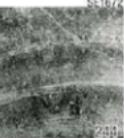
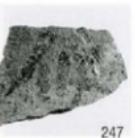
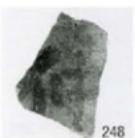
### 墨書・刻書土器一覧

種類	器種	造構・層位	文 字	記載部位	記載方向	備 考	回数	登録
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書き	体部外側	/		1513	D 63
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書き	体部外側	/		1514	D 64
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書き	体部外側	/		3161	D 55
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書き	体部外側	/		3162	D 56
土師器	高台付杯	SX 1736 1	「口」	体部外側	/		3163	D 59
酒器	杯	SX 1736 1	「口」	体部外側	/		3164	D 61
酒器	杯	SX 1736 1	「口」	底部外側	/		3165	D 62
酒器	杯	SX 1736 1	「口」	体部外側	/		3166	D 63
酒器	杯	SX 1735b 底面	「大」	瓶底外側	/		3167	D 2444
土師器	杯	SX 2487 墓土	「口」	体部外側	正位		1533	D 2784
土師器	杯	SX 2487 墓土	「口 (生力)」	体部外側	側位		1534	D 2769
土師器	杯	SX 2487 1	「口」	体部外側	正位		1535	D 2774
酒器	杯	SX 2487 1	「實」(墨書き)・「×」(ヘラガキ)	瓶底外側	/		1536	D 2782
酒器	皿	SX 2487 1	「口」	体部外側	正位勿		1537	D 2783
土師器	杯	SX 2487 1	「酒」	体部外側	正位		1538	D 2760
土師器	杯	SX 2487 墓土	「口」	体部外側	/		1539	D 2772
酒器	杯	SX 1917 2	「口」	瓶底外側	/	偏は「角」か	3168	D 5210
酒器	杯	SX 1917 2	「田口」	瓶底外側	/		3169	D 5211
酒器	杯	SX 1917 2	「口」	底部外側	/		3170	D 5212
酒器	杯	SX 1917 2	「口」	体部外側	正位		3171	D 5219
土師器	杯	SX 1899 1	「口」	瓶底外側	/		3172	D 5233
酒器	杯	SX 1899 1	「記号力」	体部外側	/		3173	D 5235
酒器	杯	SZD 2021 2	「山」	瓶底外側	/		3174	D 5971
酒器	杯	SZD 2021 2	「神祝」	瓶底外側	/		3175	D 5972
酒器	杯	SZD 2021 2	「神祝」	瓶底外側	/		3176	D 5987
酒器	杯	SZD 2025 1	「×」(ヘラガキ)	底部外側	/		3177	D 6198
酒器	杯	SZD 2025 1	「口」	瓶底外側	/		3178	D 6200
酒器	杯	SZD 2025 1	「牛」	体部外側	正位		3179	D 6202
酒器	杯	SZ 2129 梱き穴	「利」	体部外側	正位		3180	D 7715
酒器	杯	SZ 2129 梱り方	「口・十カ」	体部外側	/		3181	D 7719
酒器	杯	SZ 2129 梱き穴	「口田」	体部外側	正位		3182	D 7781
酒器	杯	SZD 1941c 2	「廣」	体部外側	側位		3183	D 6171
土師器	杯	SZD 1941c 2	「口」	体部外側	正位勿		3184	D 6175
酒器	杯	SZD 1941c 2	「×」	底部外側	/		3185	D 6192
土師器	杯	SZD 1941c 2	「升」	体部外側	正位		3186	D 6193
酒器	杯	SZD 2492 2	「客人口」	底部外側	/		3187	D 2121
土師器	杯	SZD 2492 2	「口」	体部外側	/		3188	D 2148
土師器	杯	93 区第III層	「大」	体部外側	側位		3189	D 2127
酒器	杯	93 区第III層	「王」	底部外側	/		3190	D 2129
酒器	杯	93 区第III層	「口」	体部外側	側位		3191	D 2131
土師器	杯	93 区第III層	「口」	体部外側	側位		3192	D 2132
酒器	杯	93 区第III層	「口」	底部外側	/		3193	D 2141
酒器	杯	94 区第IV層	「多賀」	底部外側	/			2138
土師器	杯	SZ 1898 1	「升」(縦刷)	底部内側	/		3194	D 4290
土師器	杯	SX 2531	「万」(墨書き) / 「口」(縦刷)	底部外側	/		3195	D 2496
土師器	杯	SZD 2532 1	「九」	体部外側	側位		3196	D 2603
酒器	杯	SZ 2530 1	「十」・「口」	底部外側	/		3197	D 2291
酒器	杯	SZ 1976 1	「口」	底部外側	/		2566	D 2345
土師器	杯	SZ 1976 1	「右」	体部外側	側位		2626	D 2352
土師器	杯	108 区p100 墓土	「口」	体部外側	正位		2878	D 1815
土師器	杯	111 区第1層	「木」(縦刷)	体部外側	正位		2938	D 5516
酒器	杯	111 区第1層	「木」(縦刷)	底部外側	/		2939	D 5519
酒器	杯	SX 2051	「口部」(ヘラガキ)	底部外側	/		D 5067	
土師器	杯	105 区	「真」/「万」(縦刷)	底部外側/底部内側			D 8023	
酒器	杯	SZ 2120	「神口」	体部外側	横位		D 9920	

## 墨書・刻書土器一覧







2308

2307

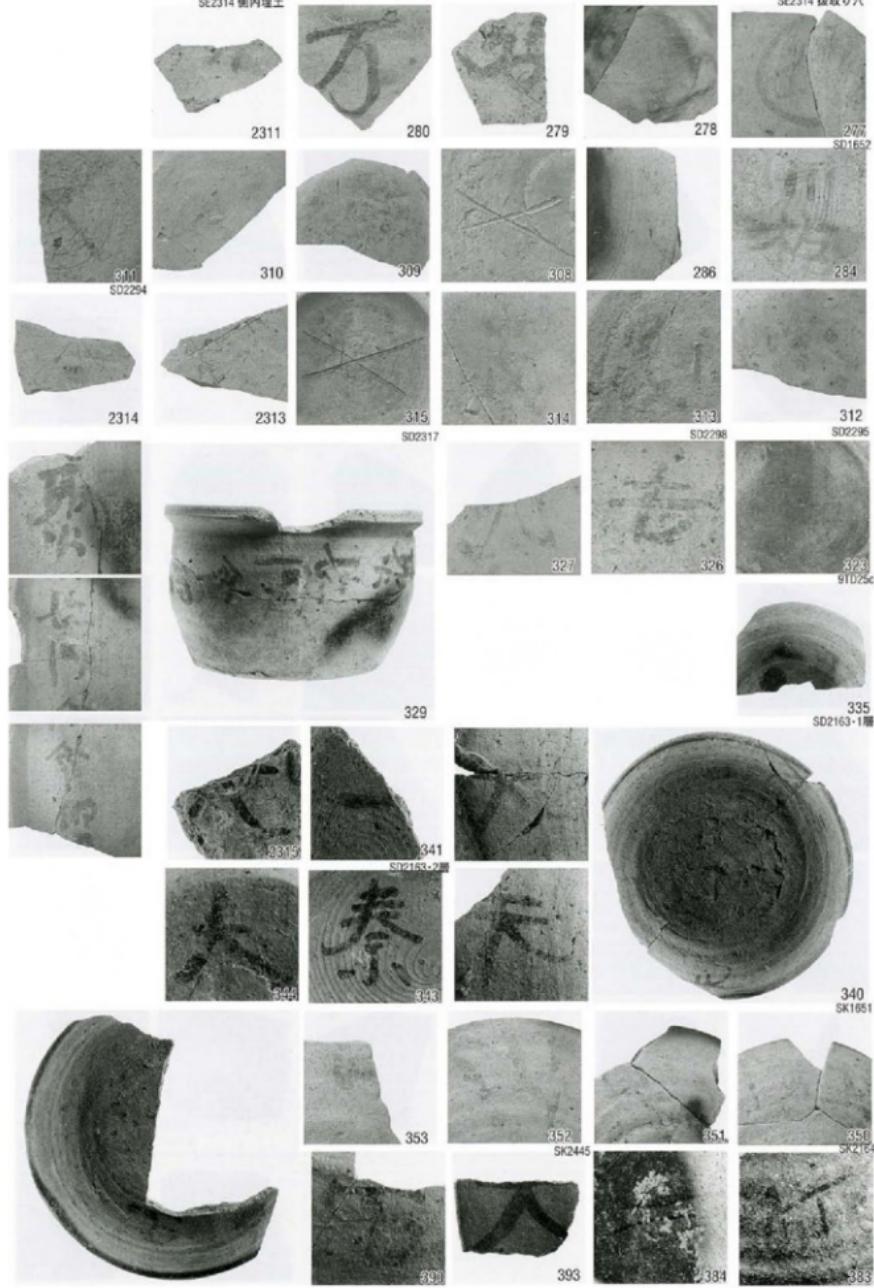
2306  
SE1692

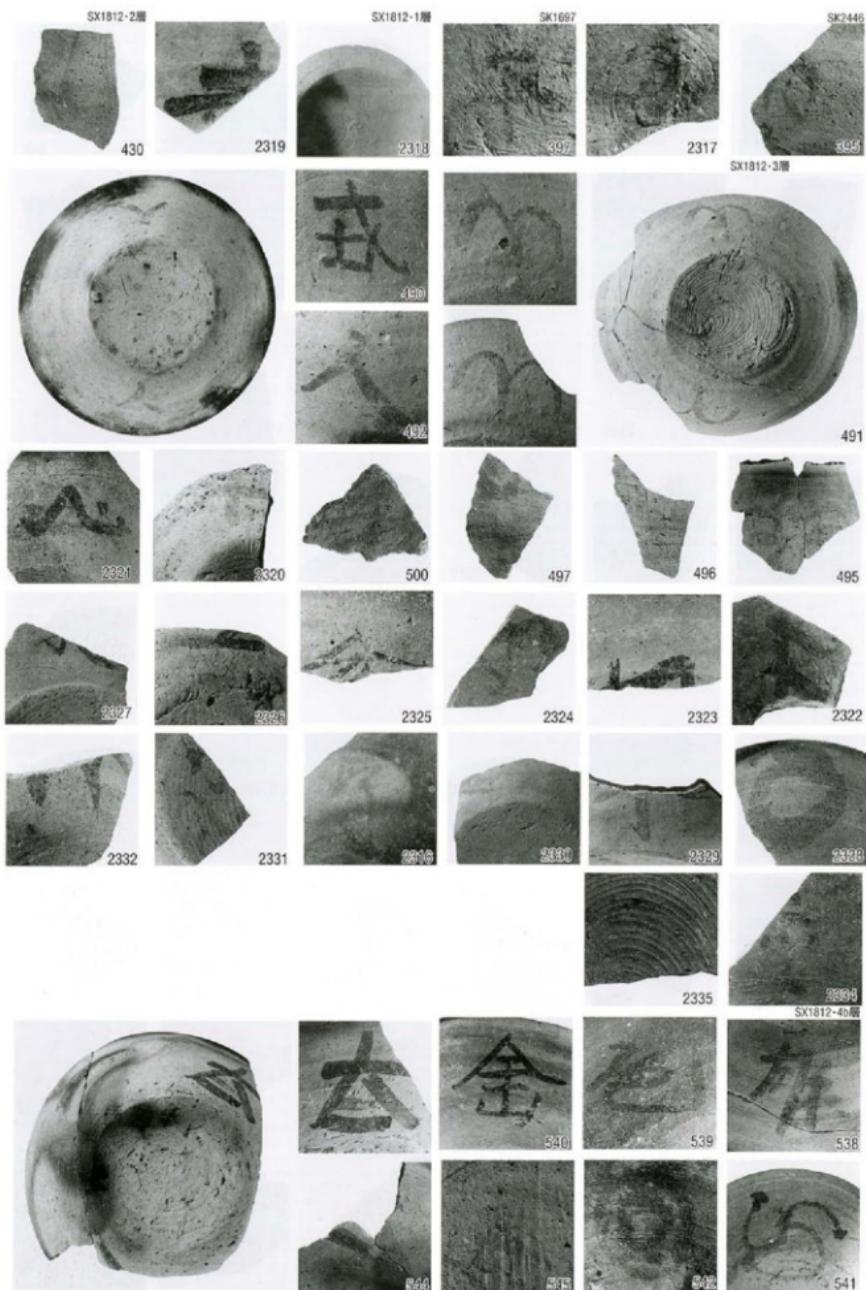
272  
SE1673 4面

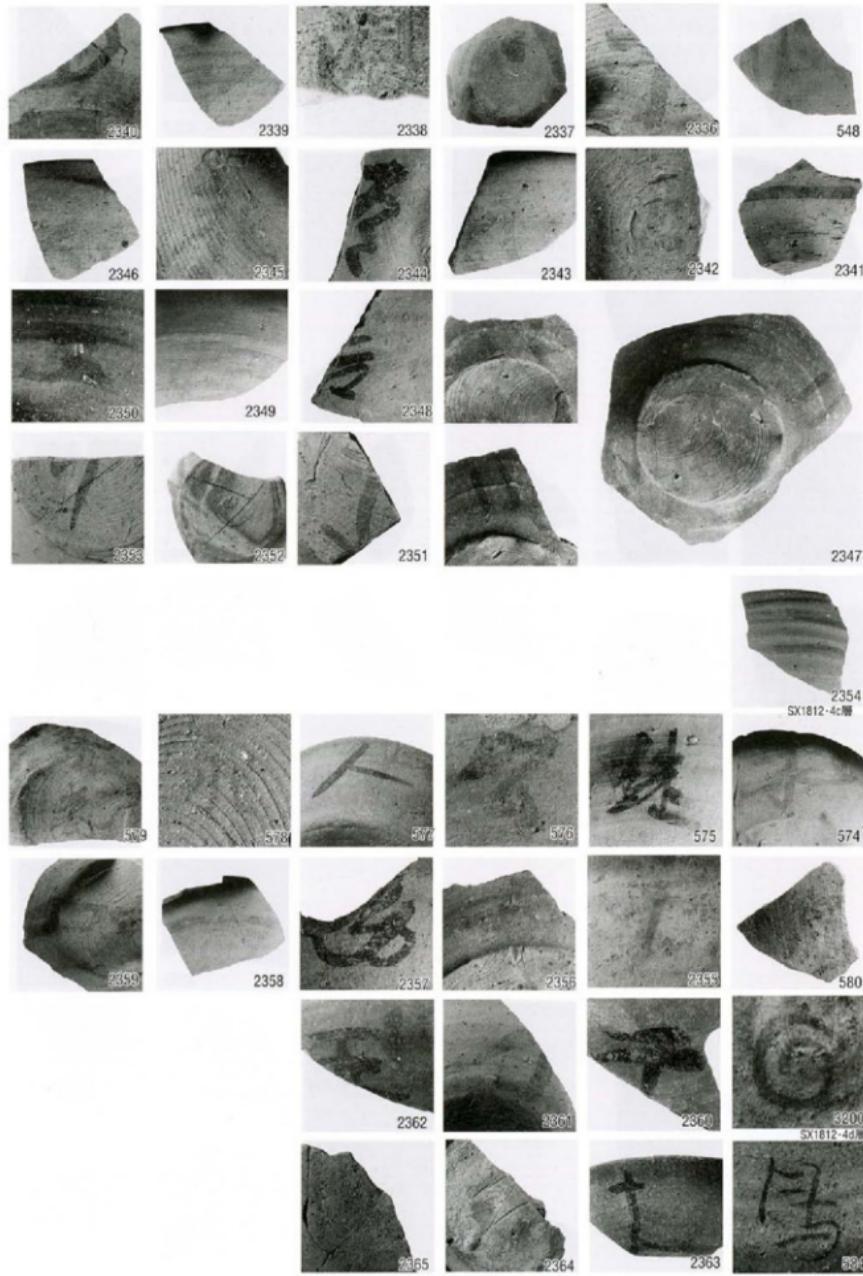
275

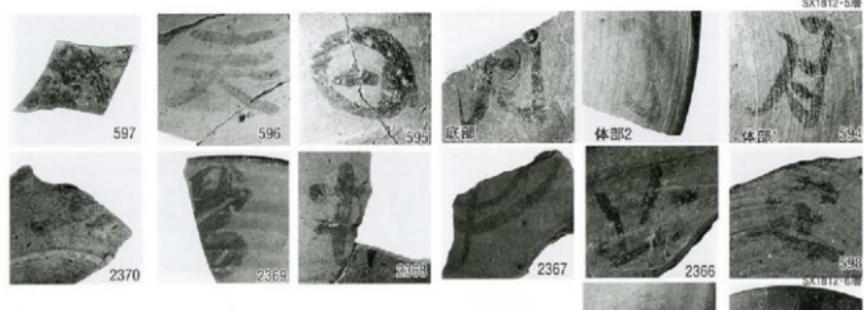
274

SE2314 例内地土

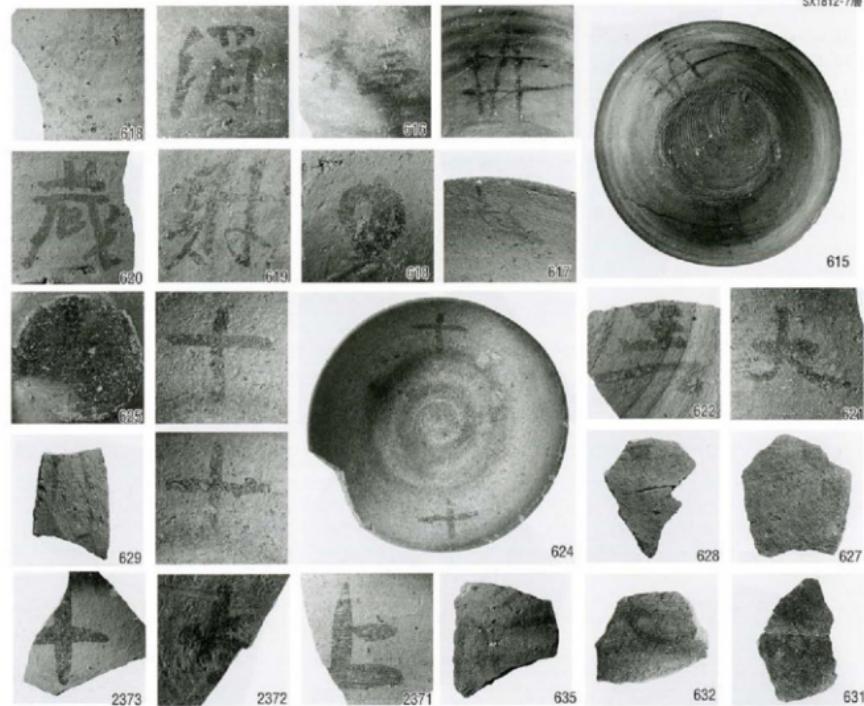






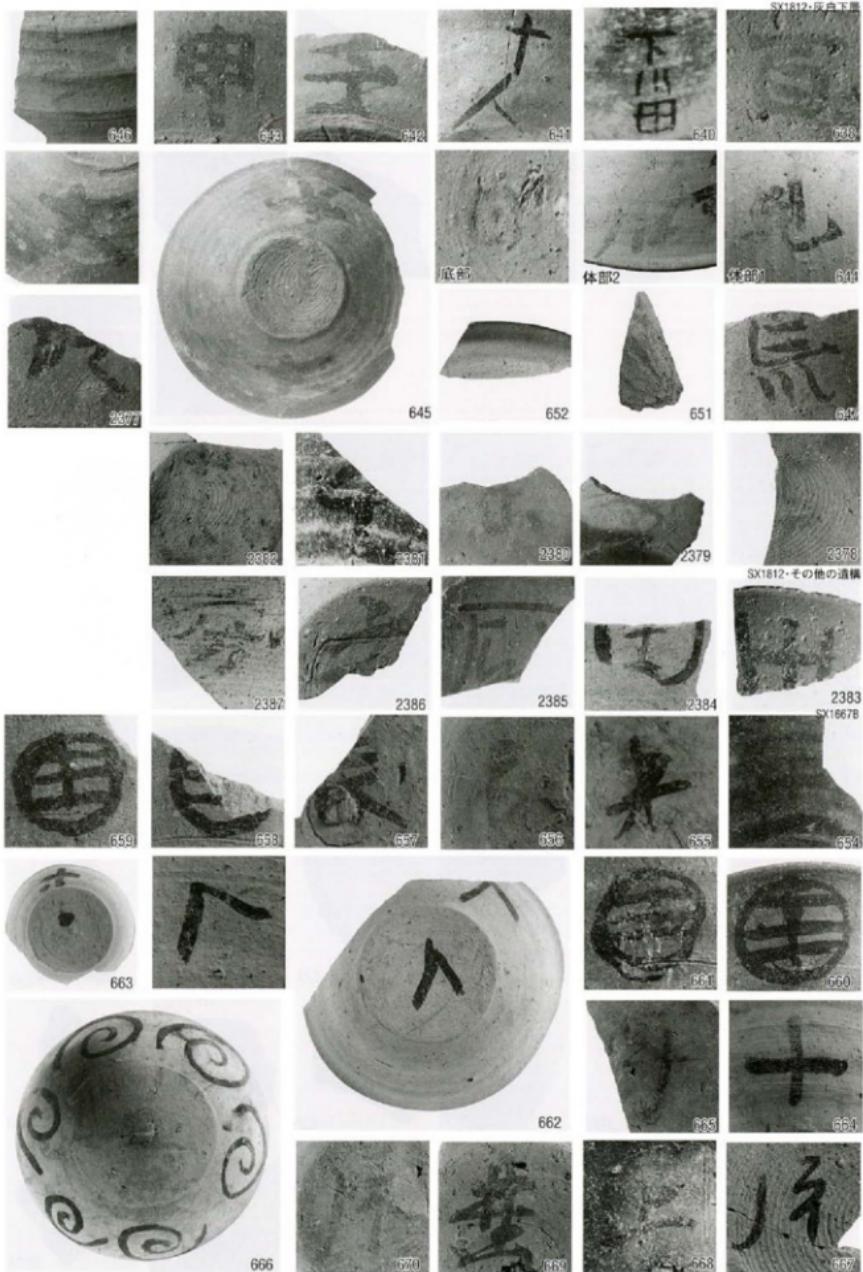


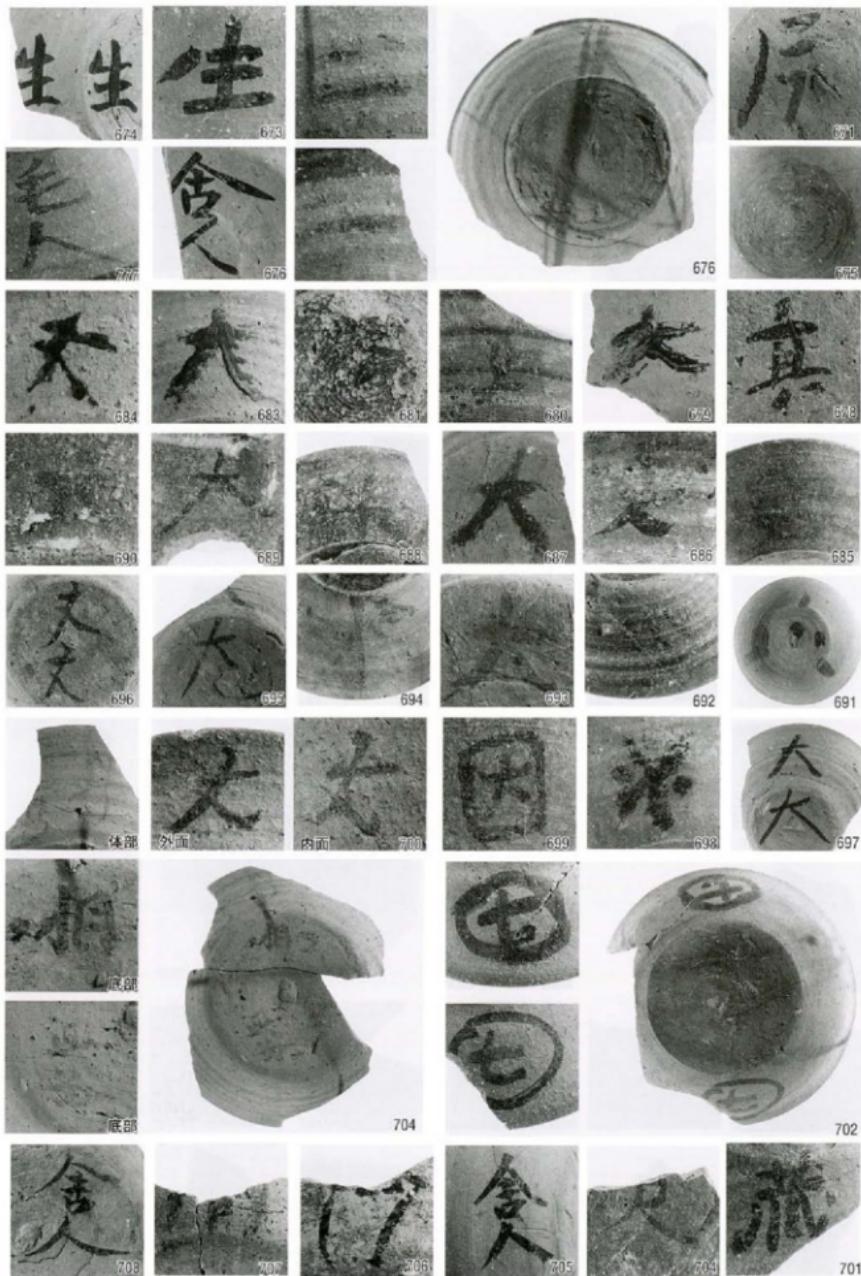
58

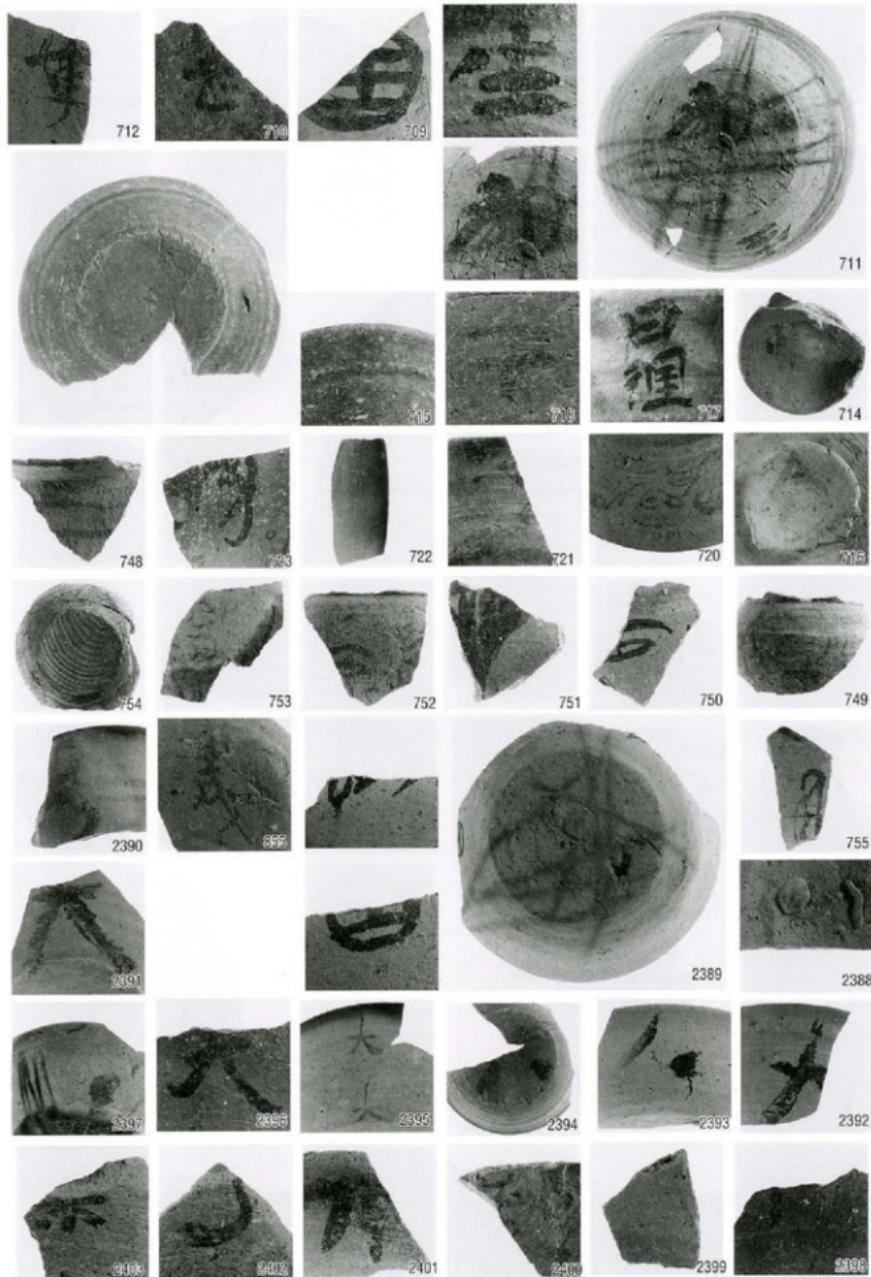


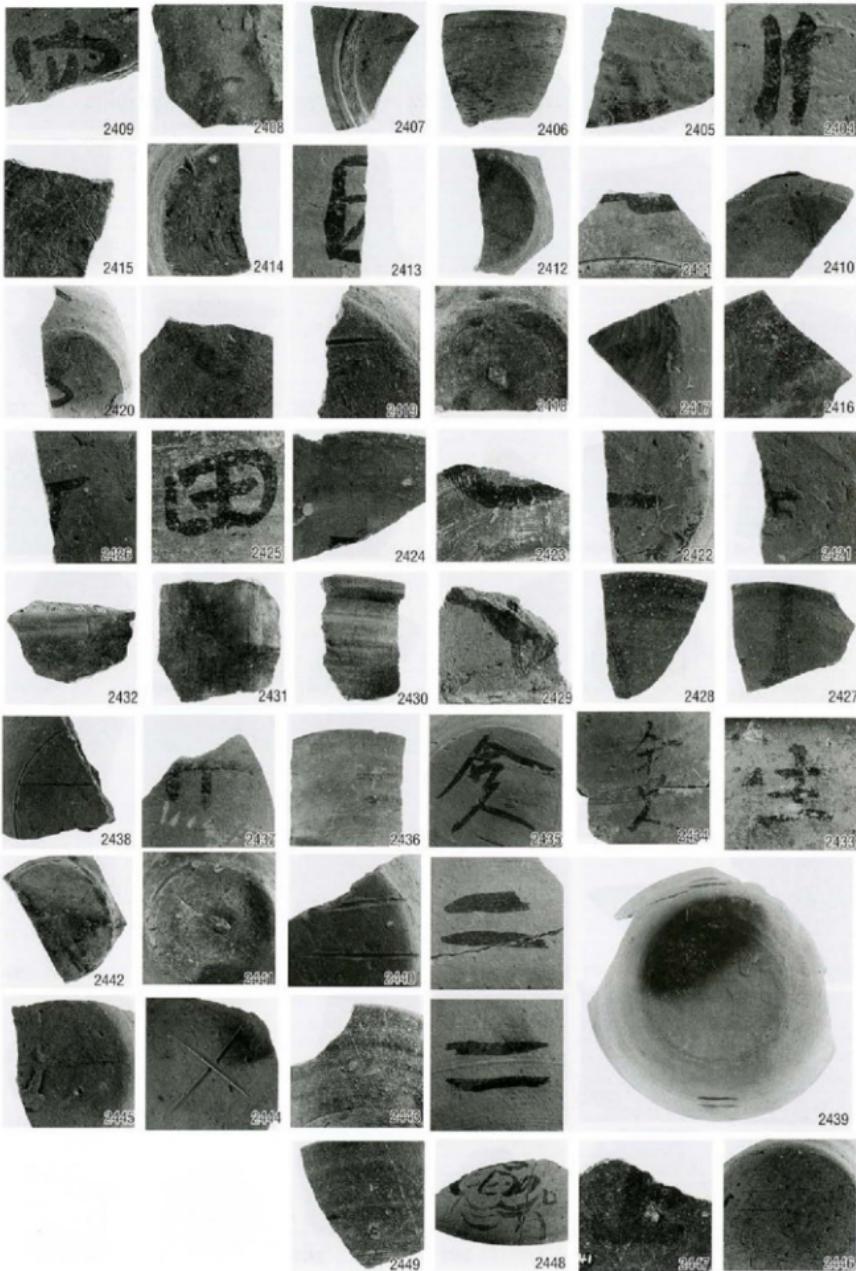
615

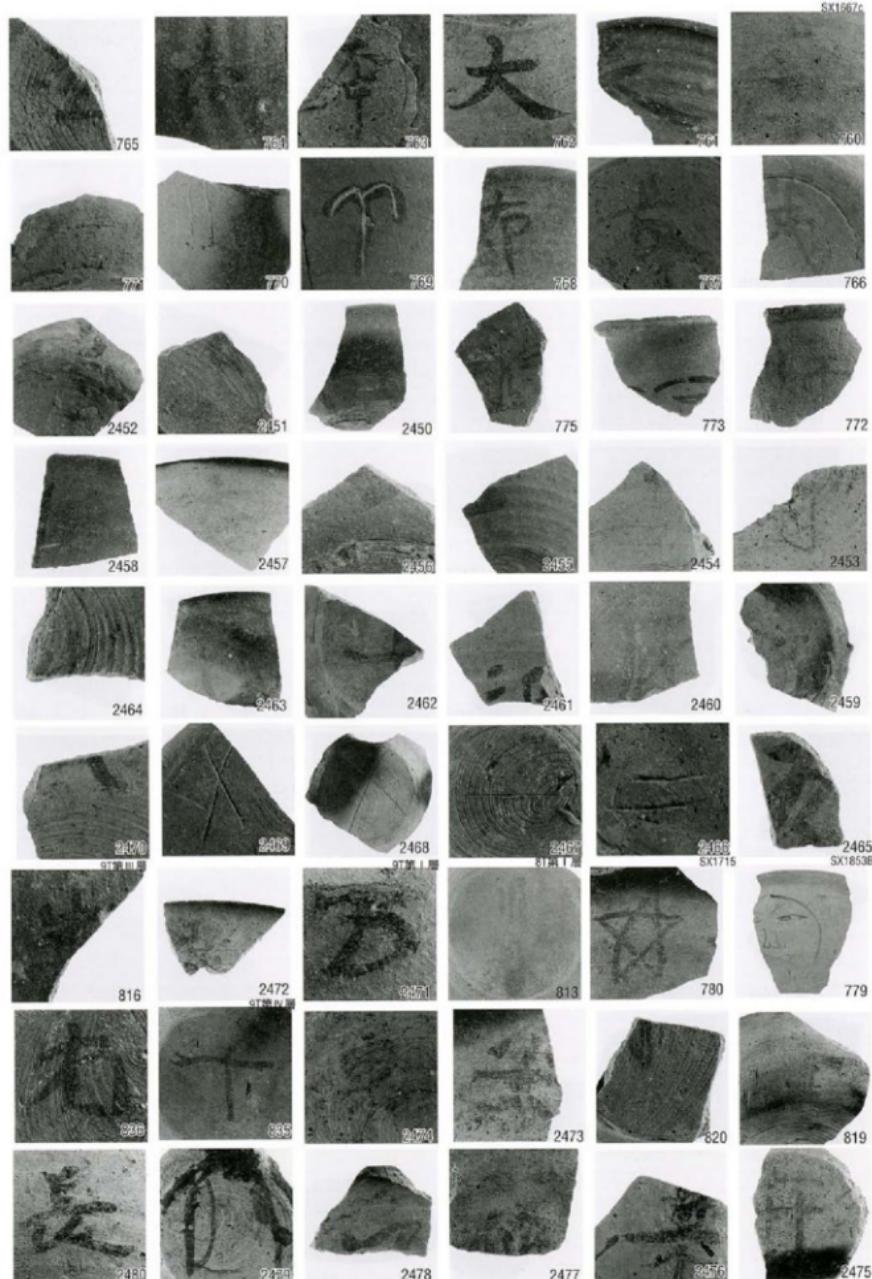


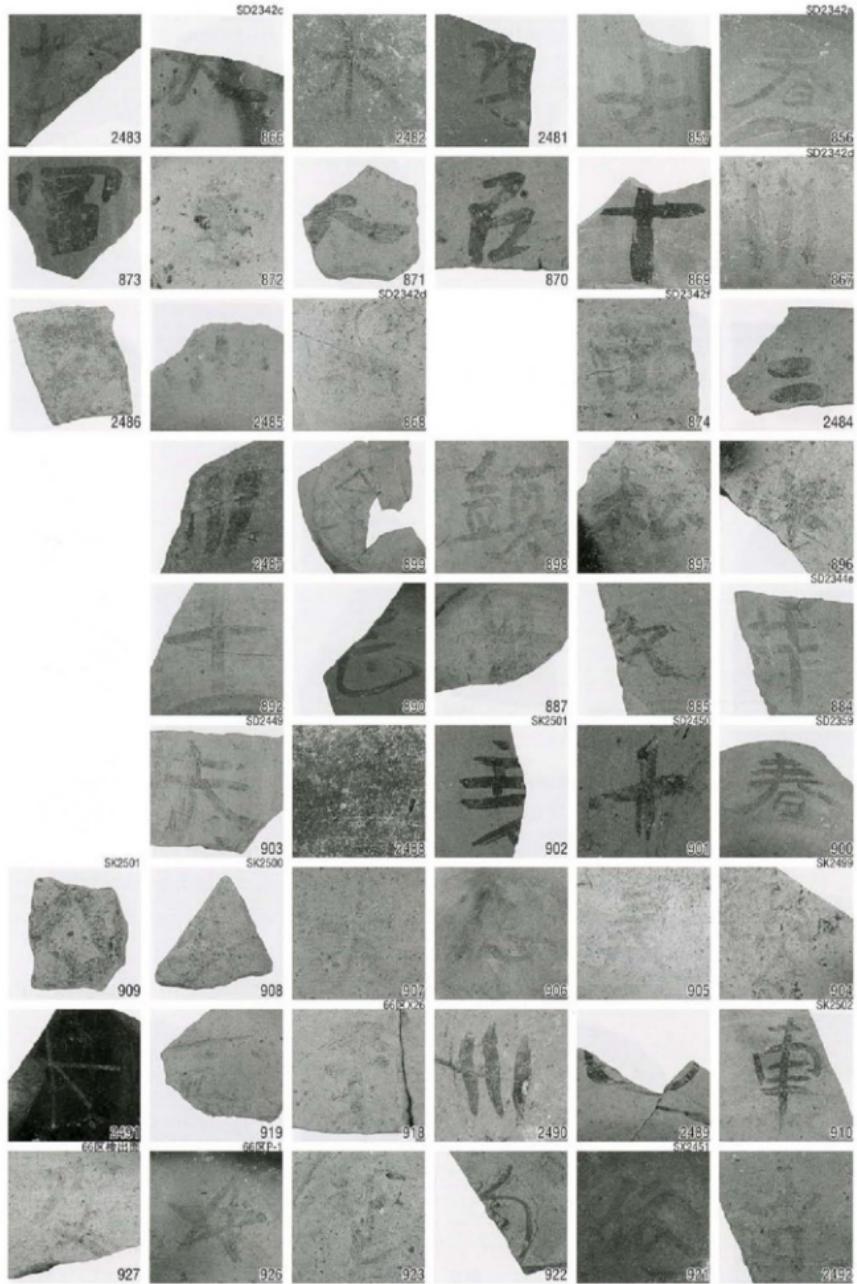


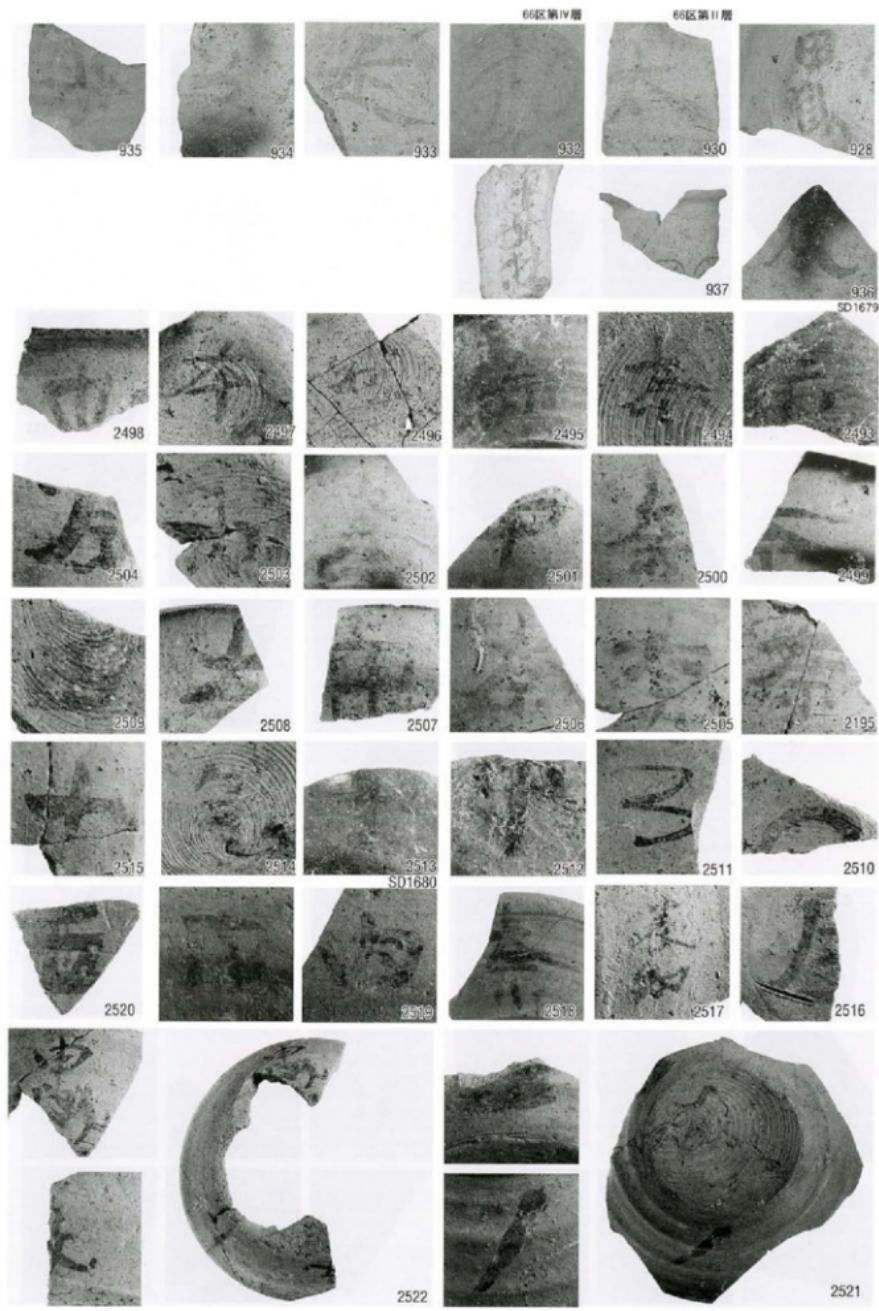


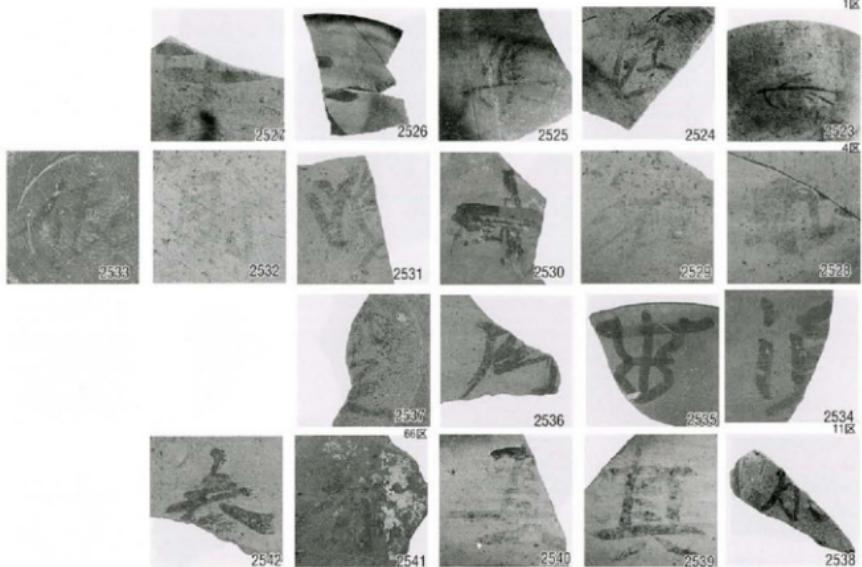


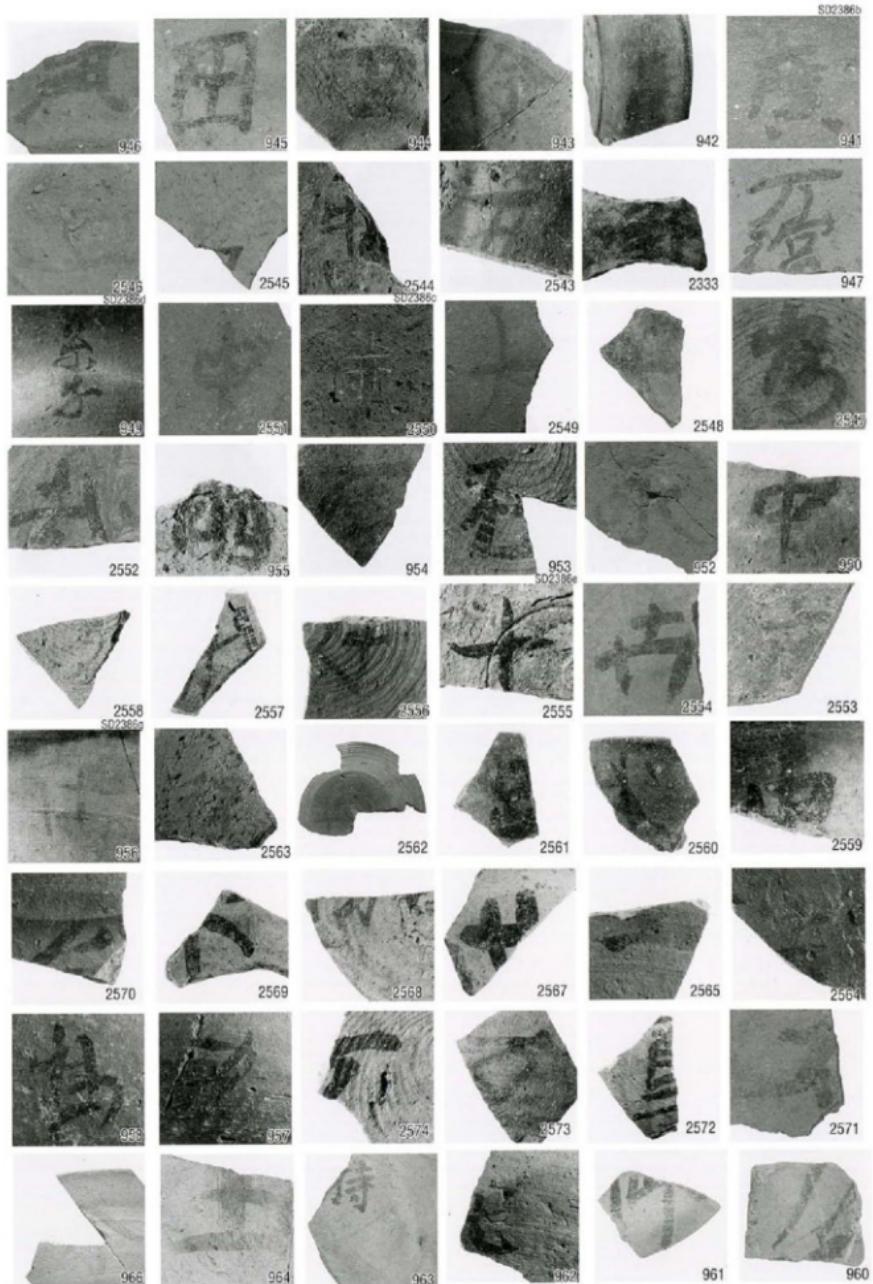


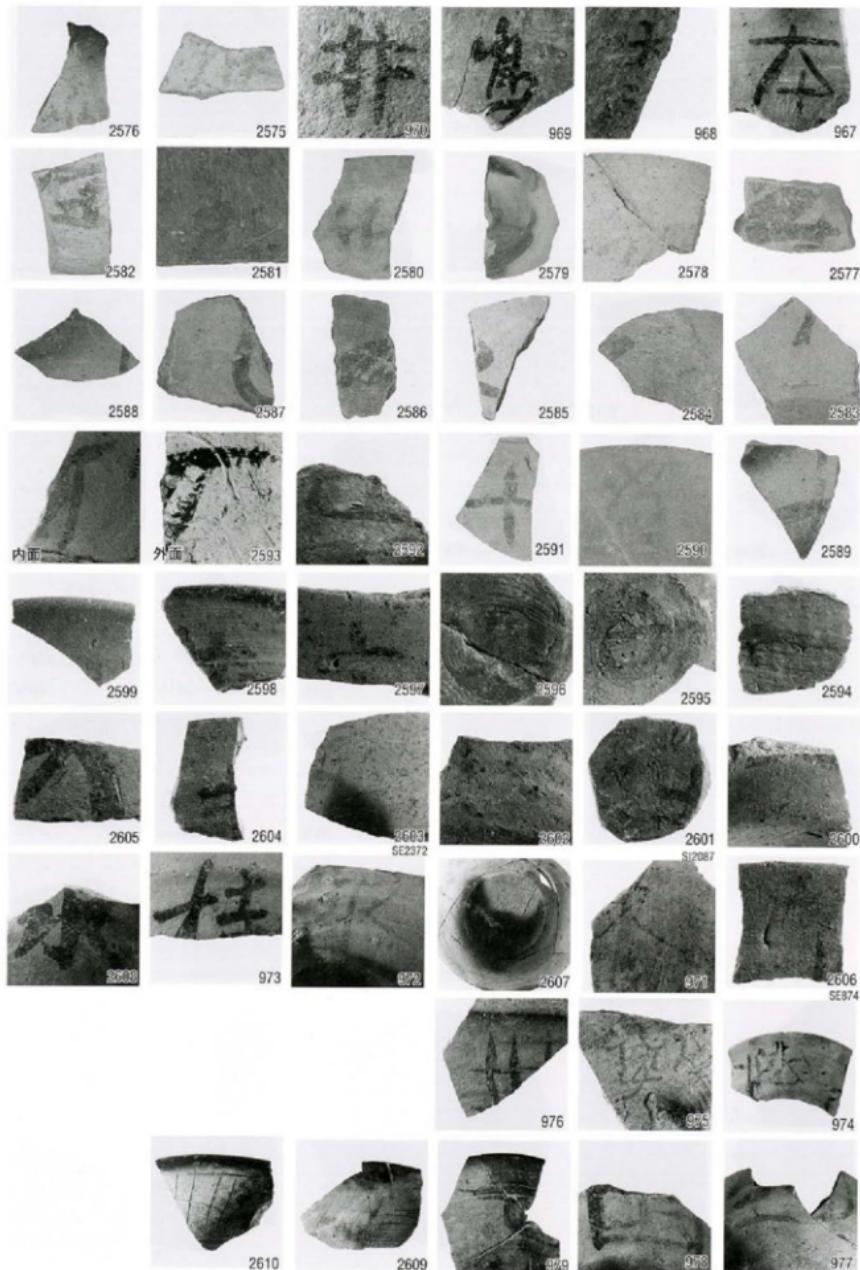


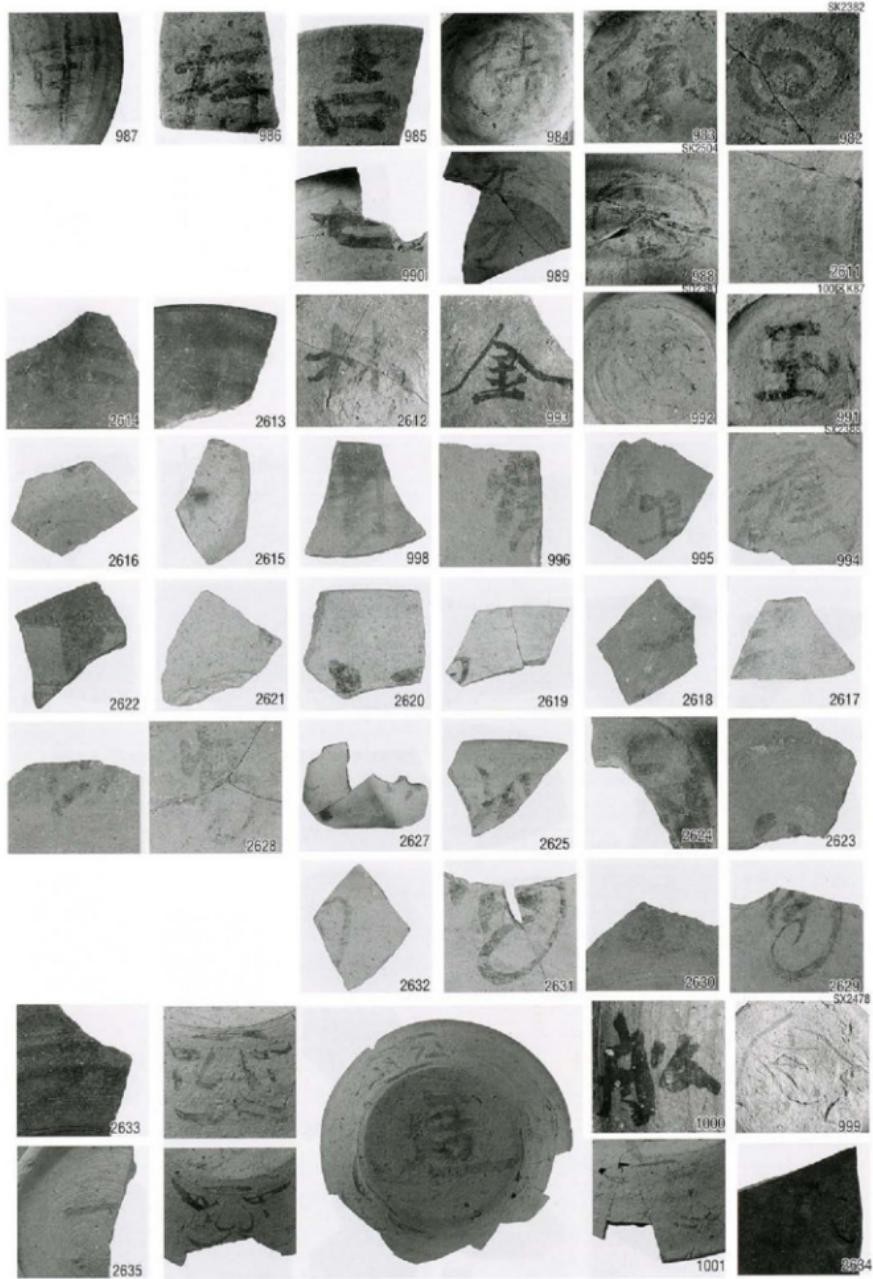


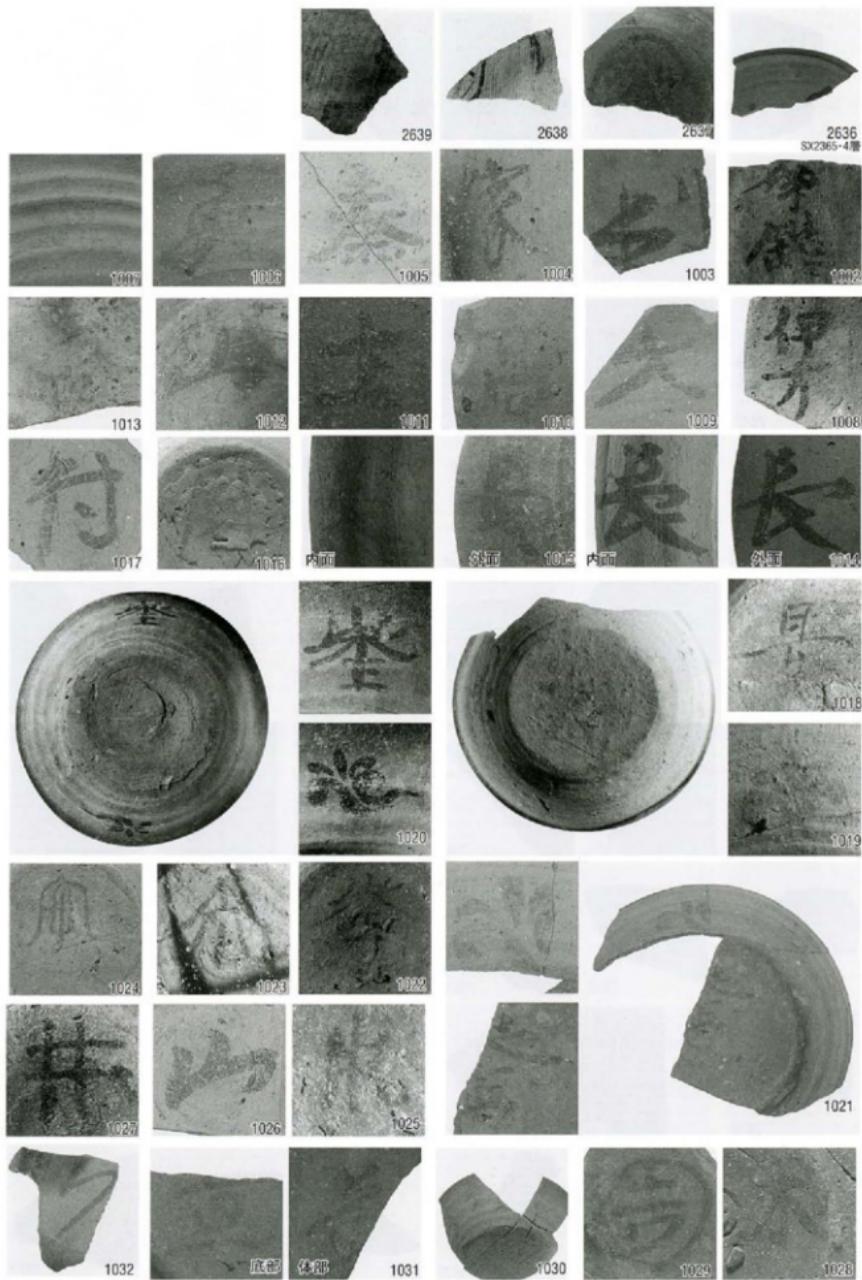


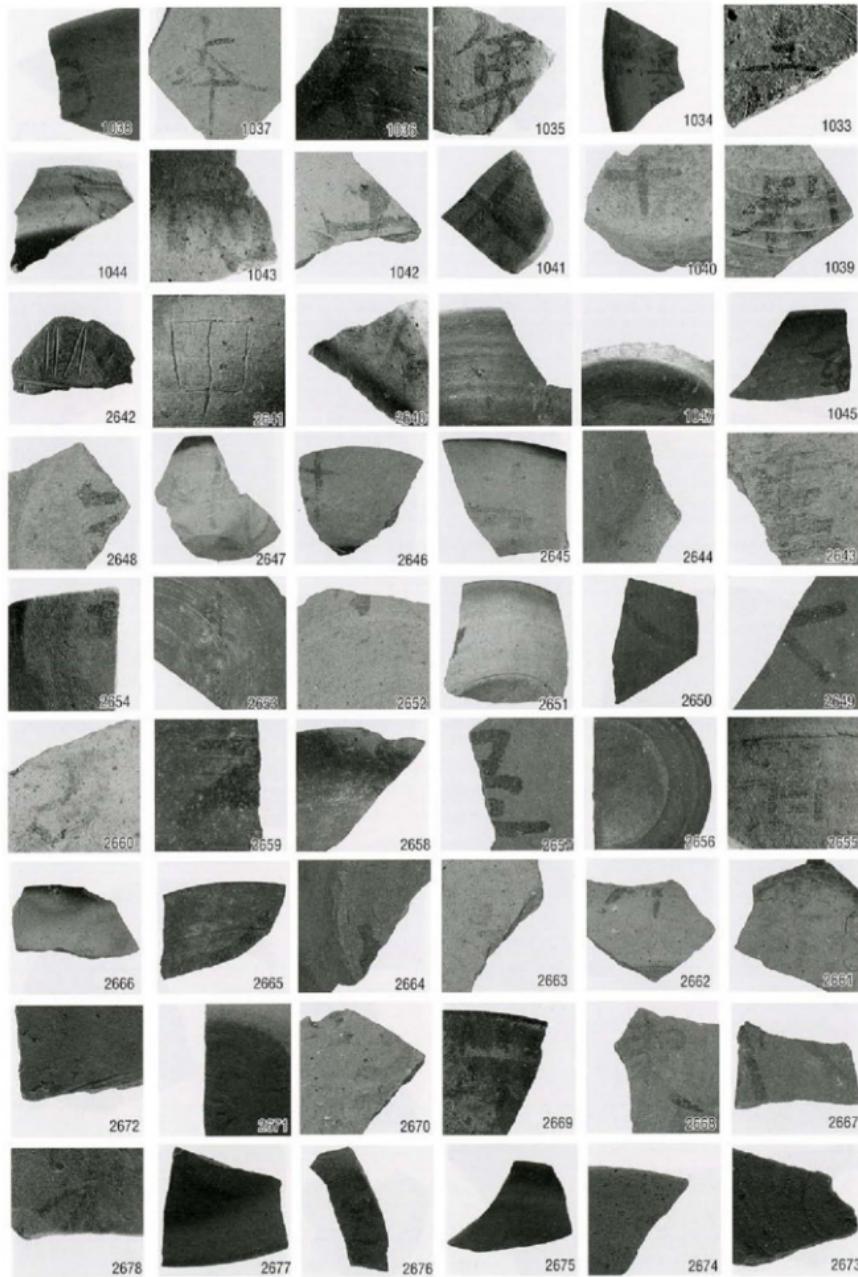












1033

1037

1036

1035

1034

1033

1044

1043

1042

1041

1040

1039

2642

2643

2641

2640

2645

1045

2648

2647

2642

2645

2644

2643

2654

2653

2652

2651

2650

2649

2660

2659

2658

2657

2656

2655

2666

2665

2664

2663

2662

2661

2672

2670

2670

2669

2668

2667

2678

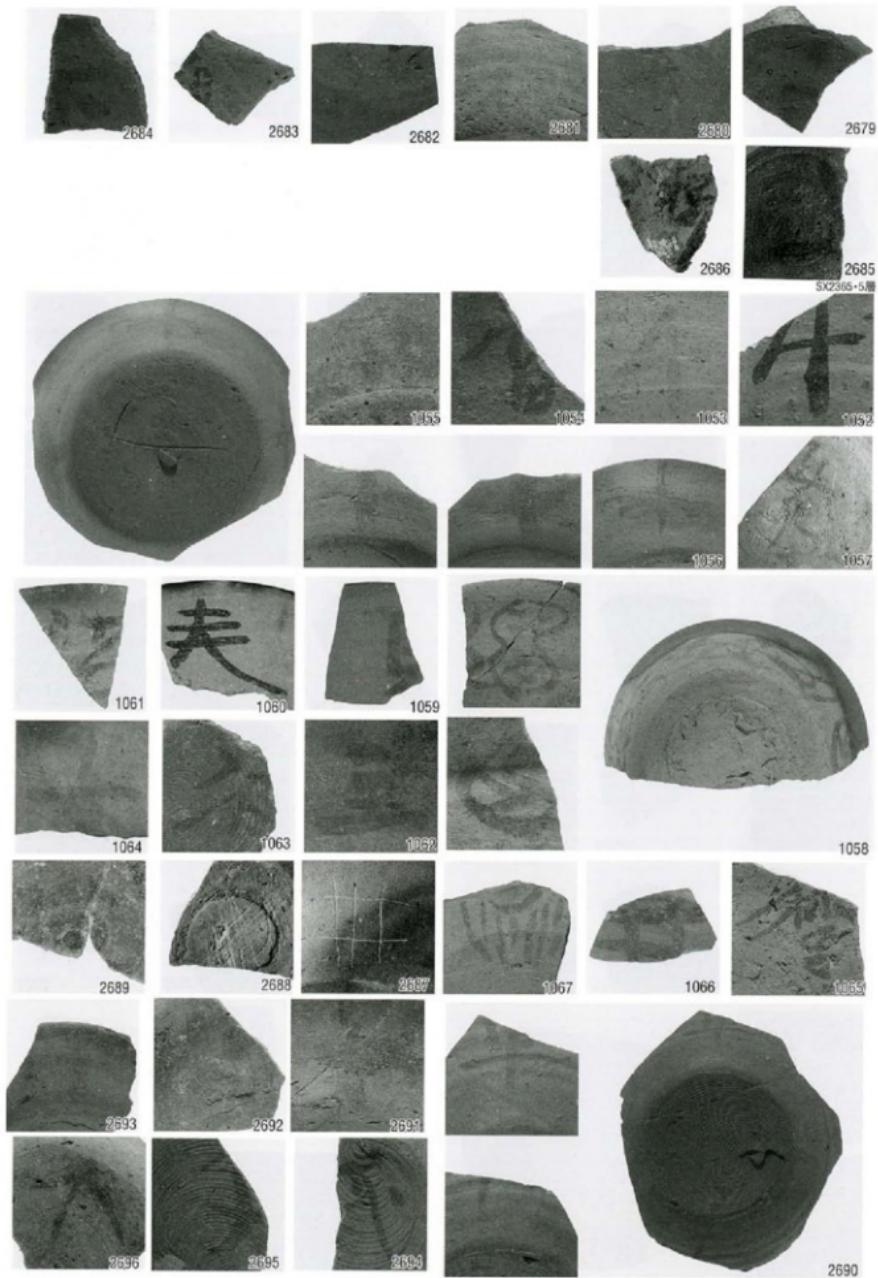
2677

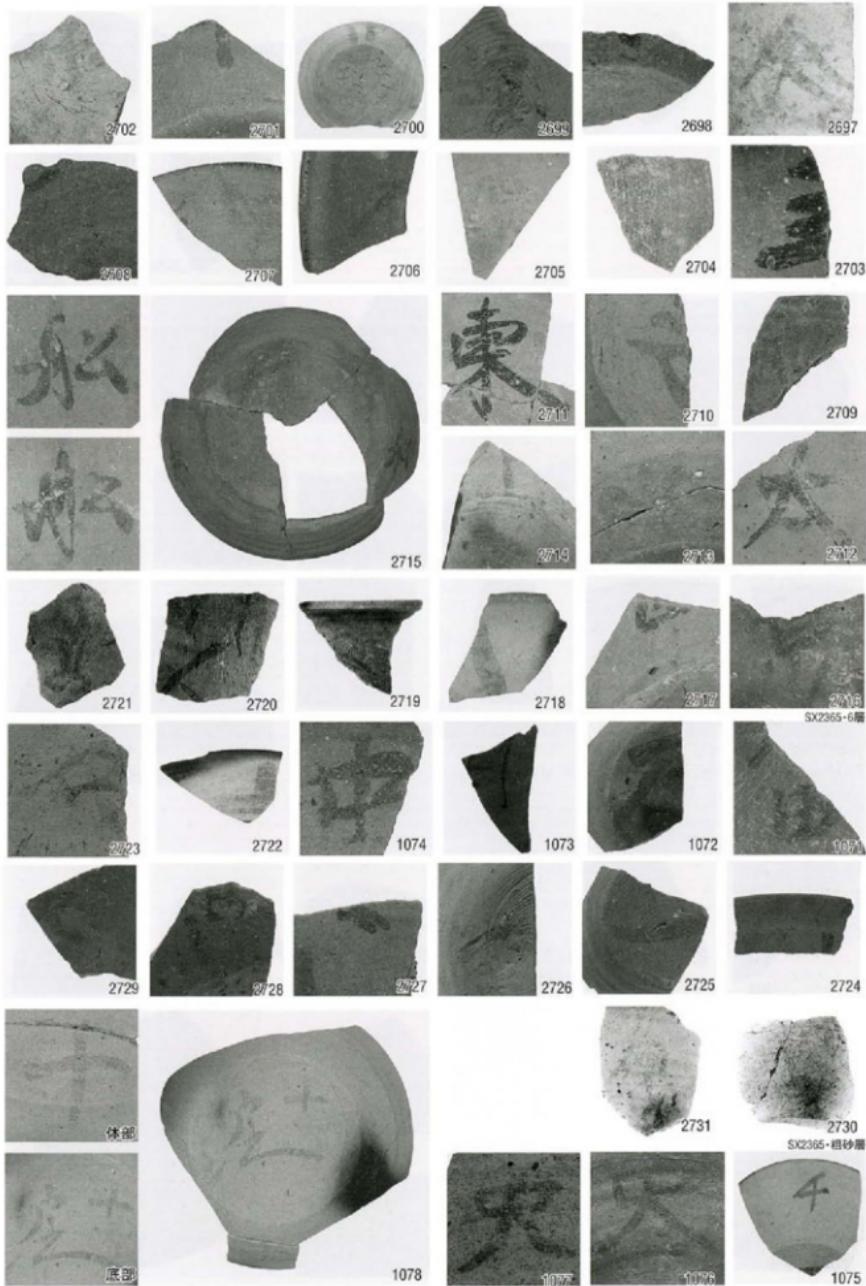
2676

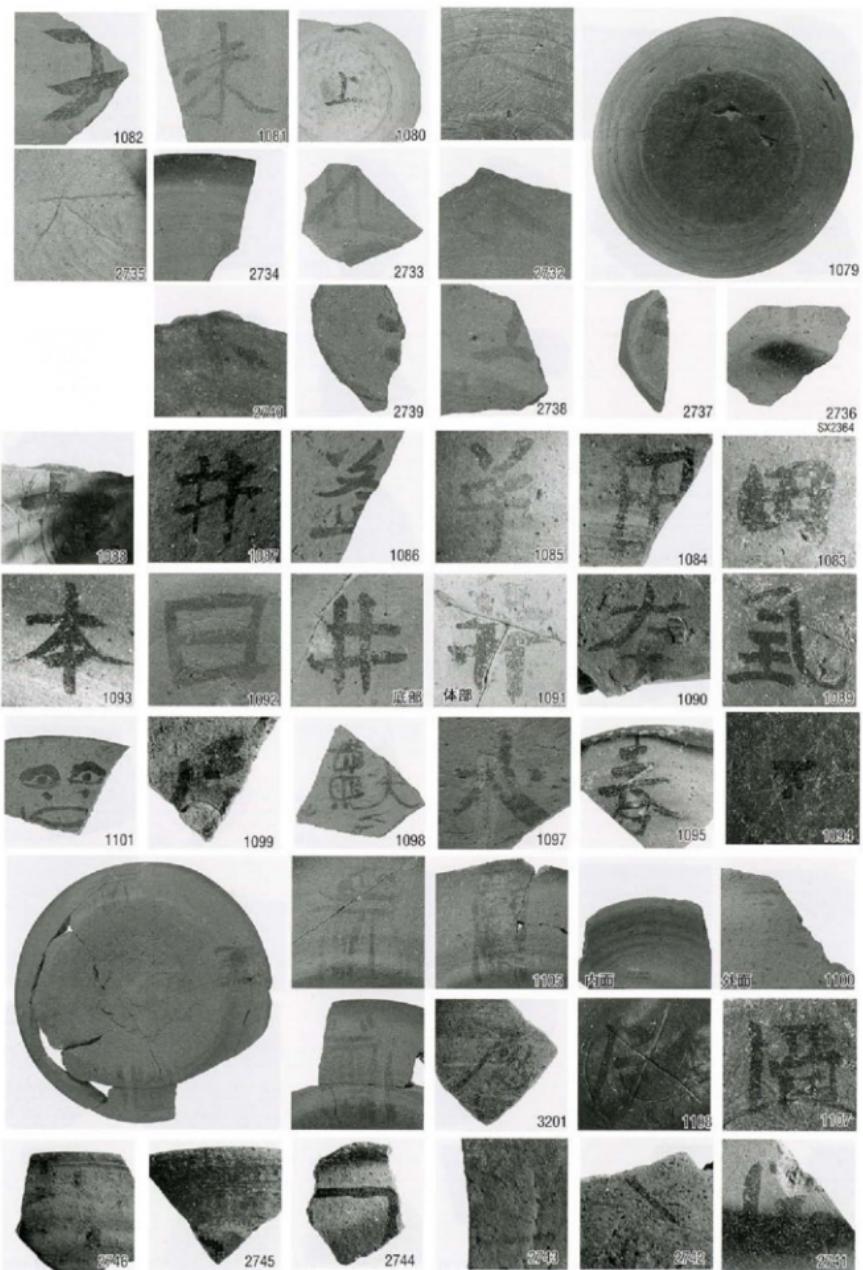
2675

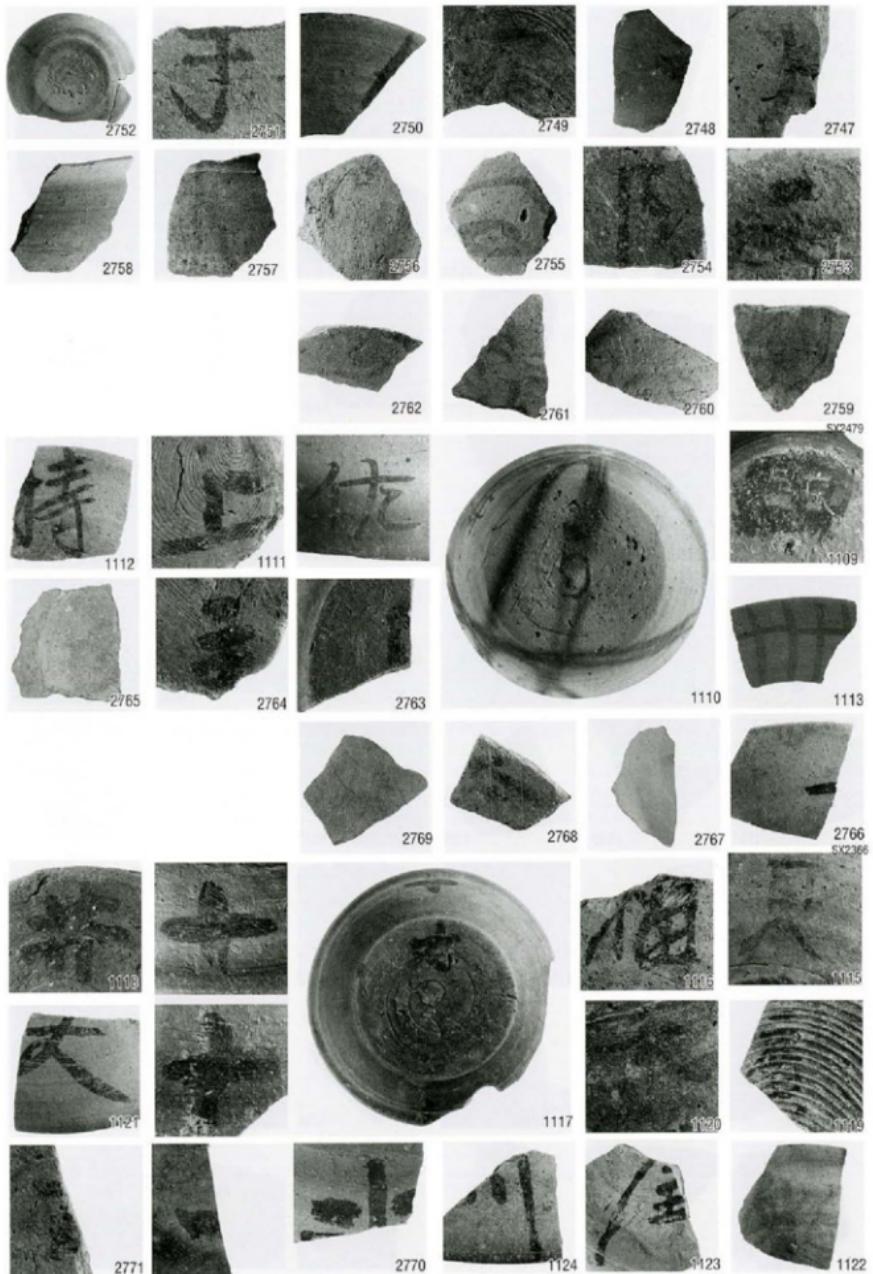
2674

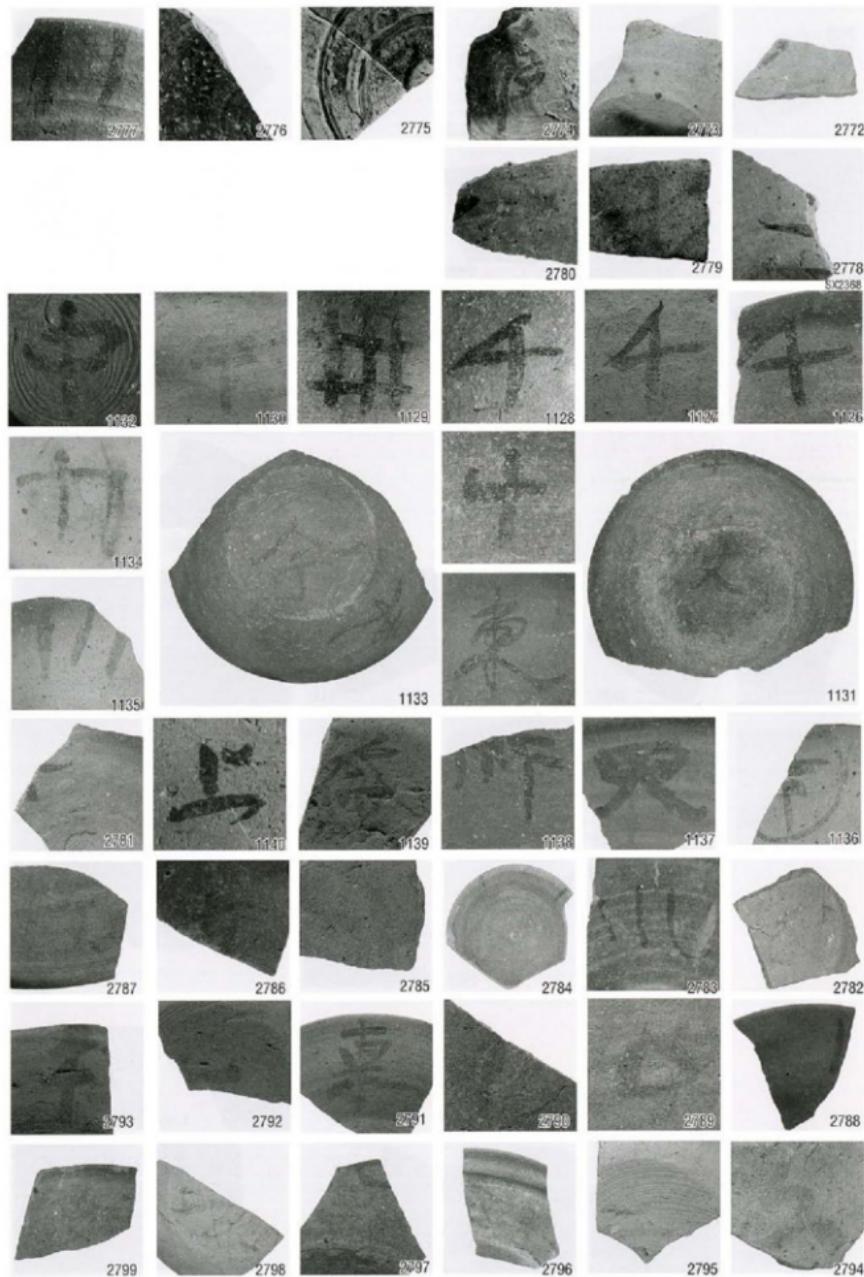
2673

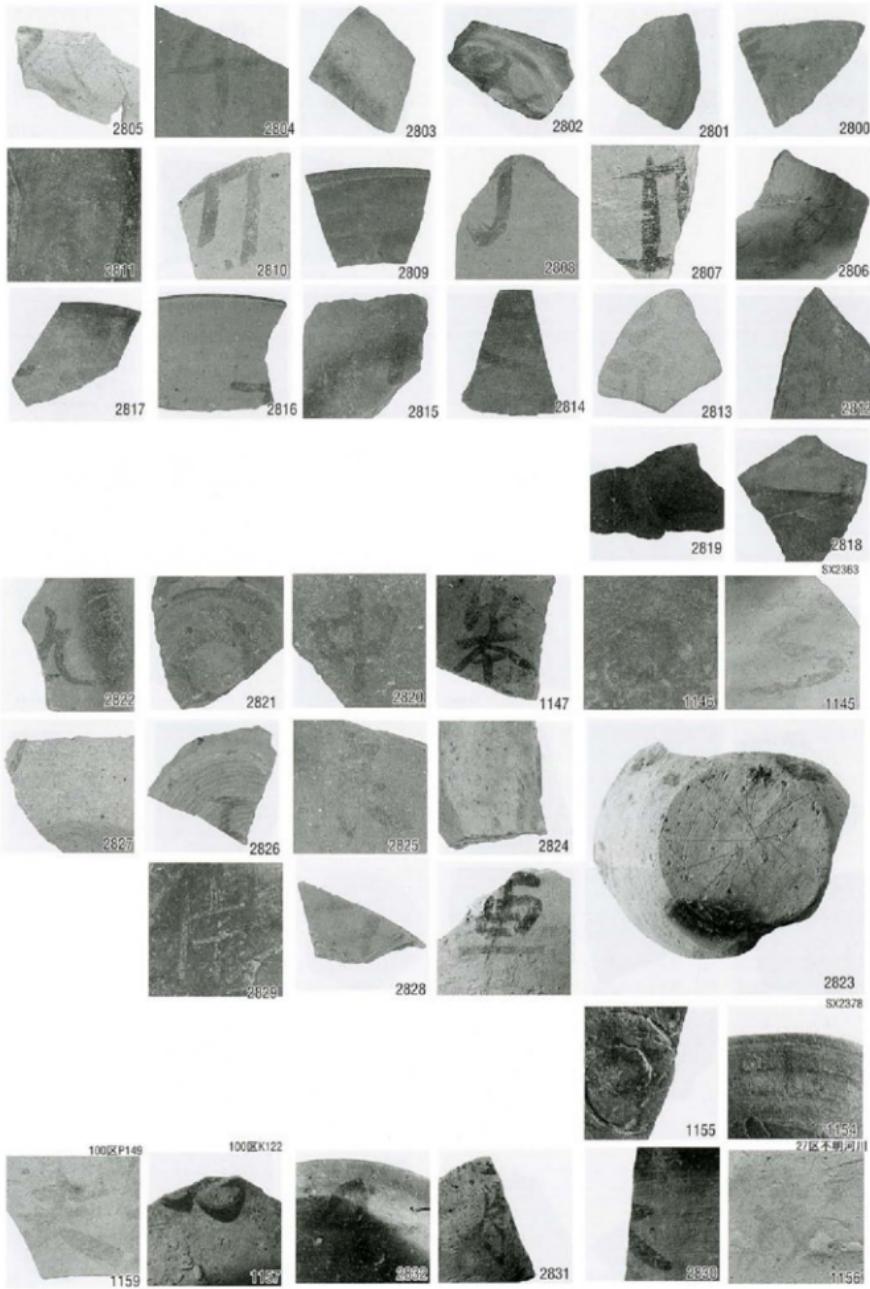


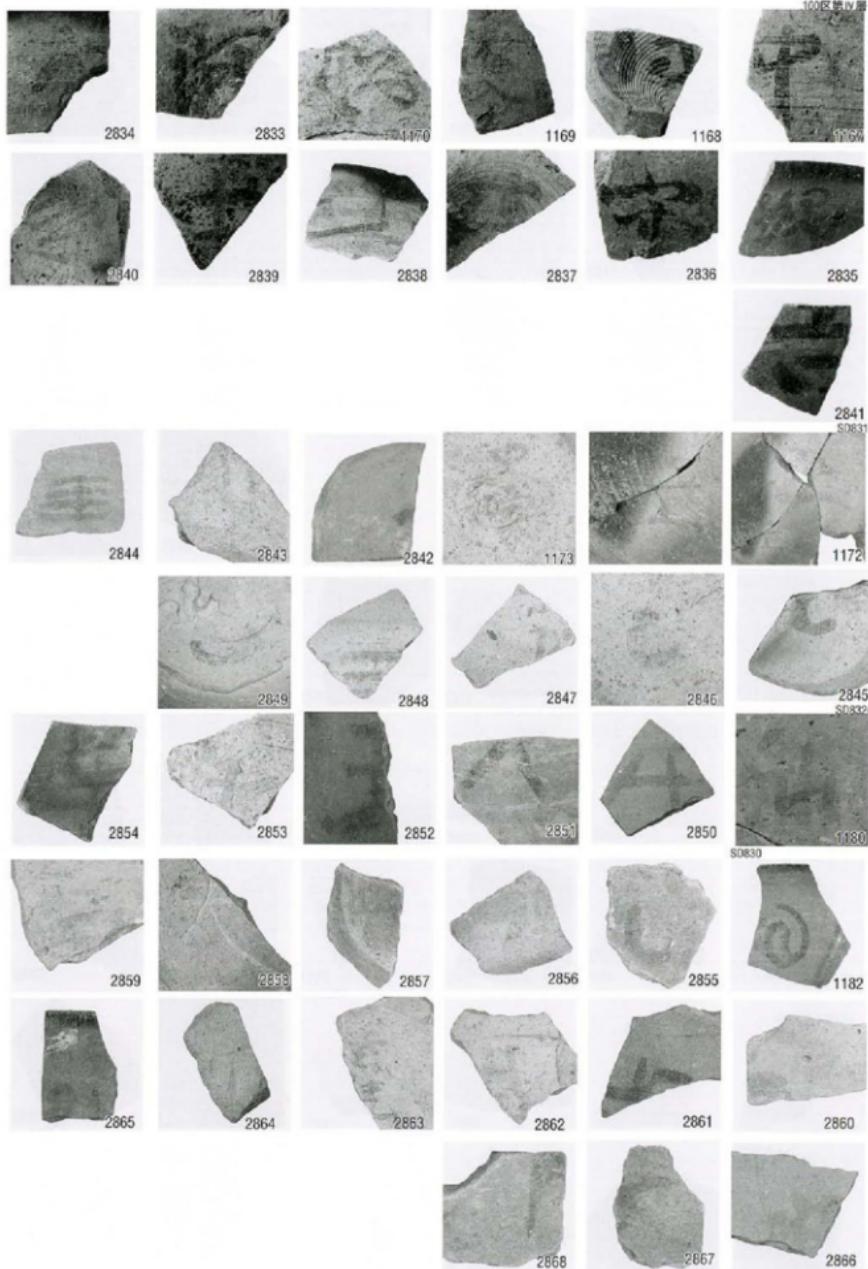


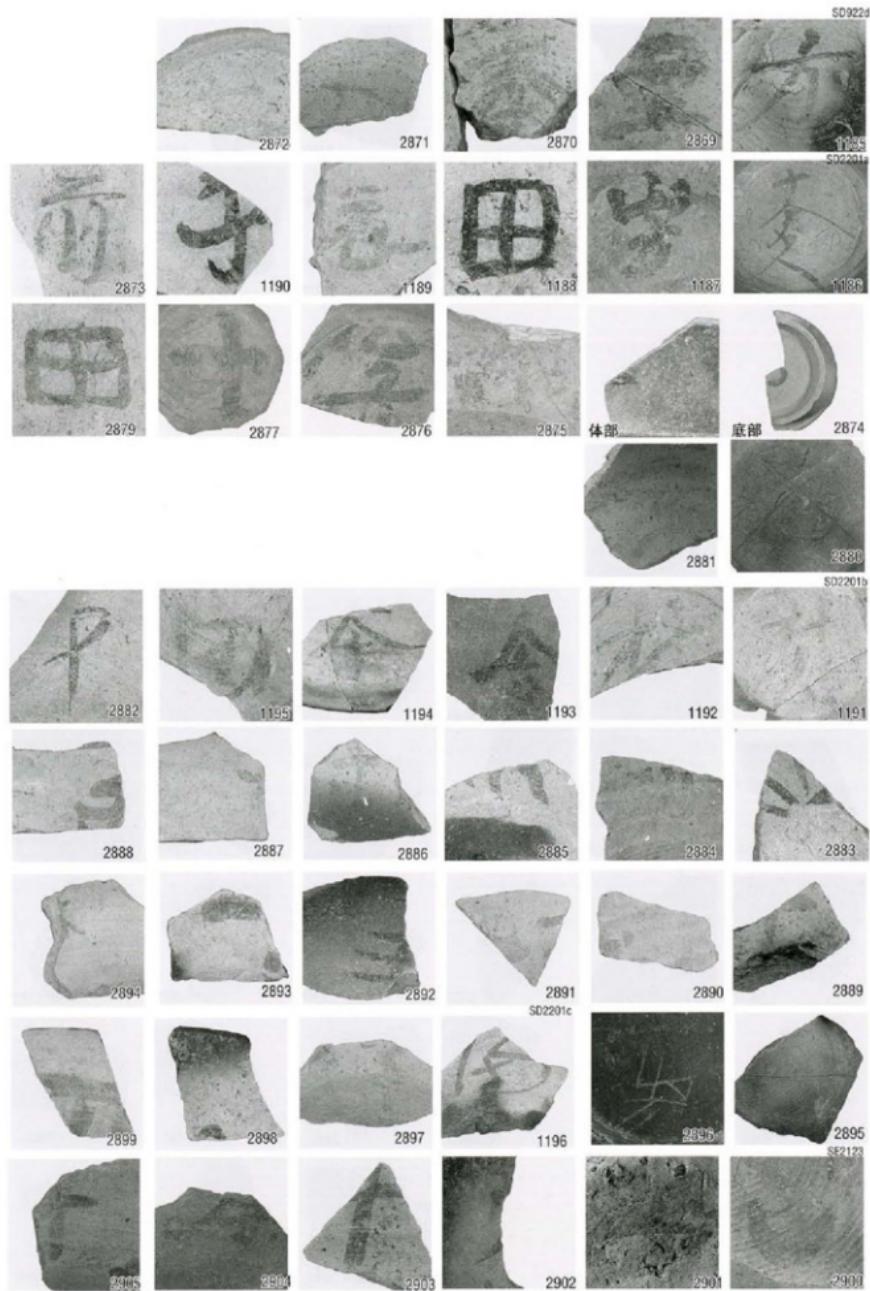


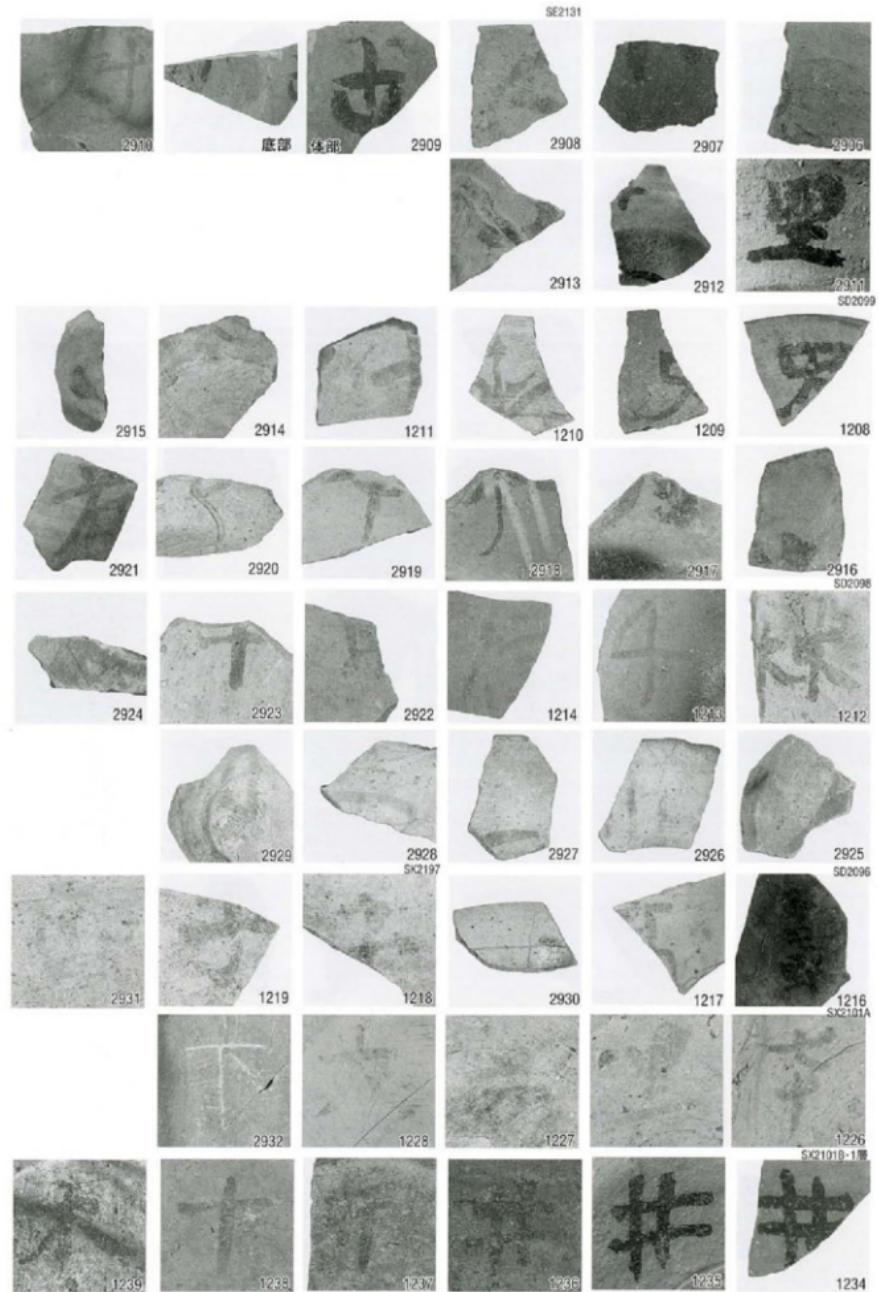


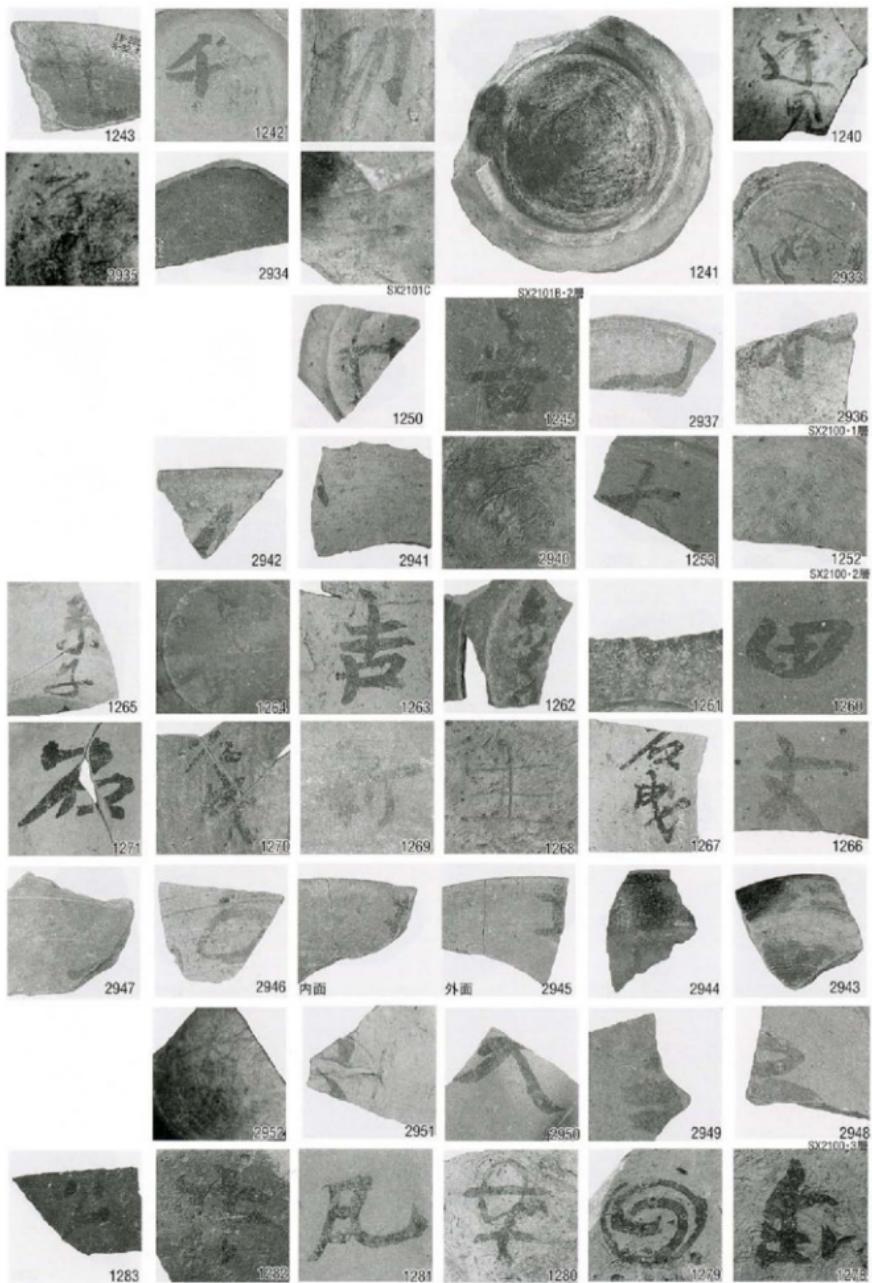


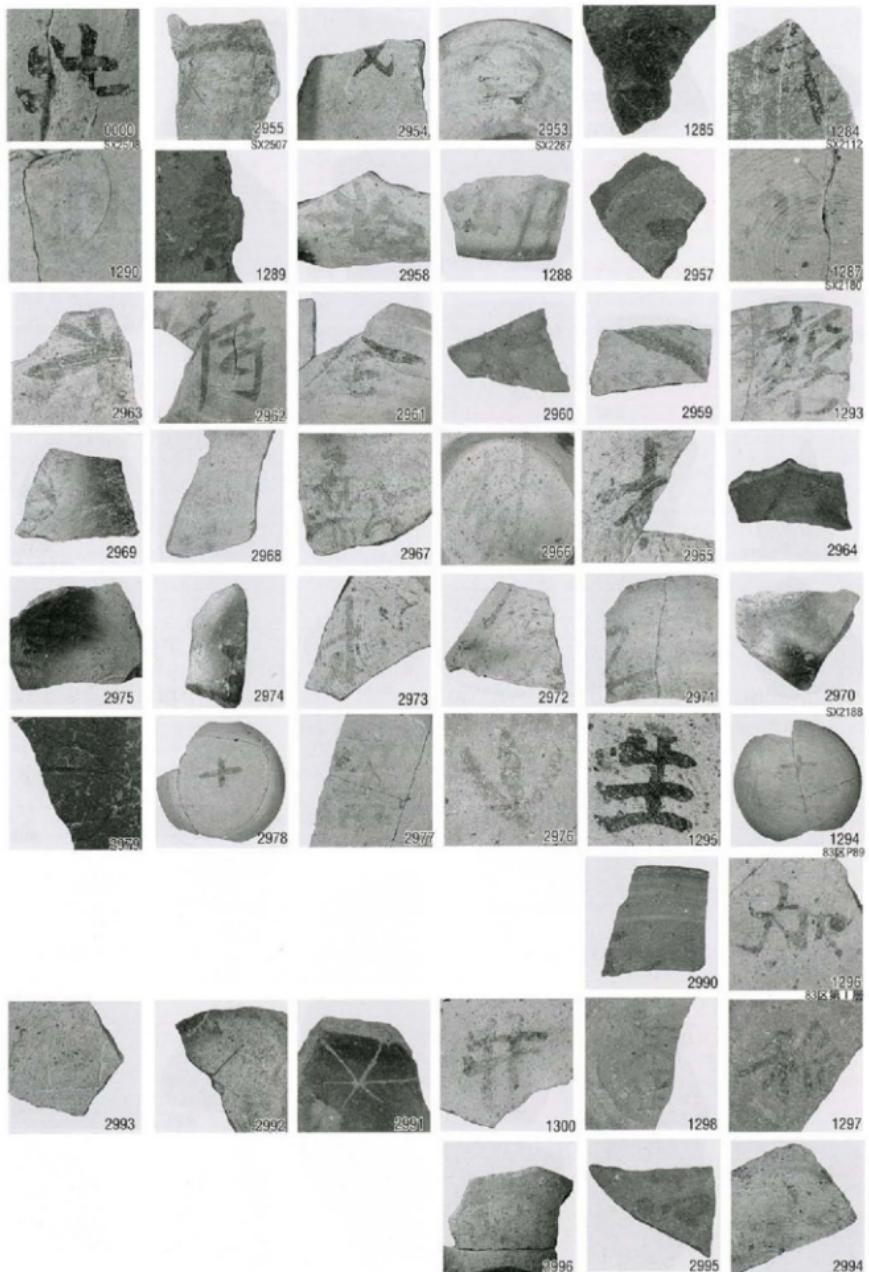


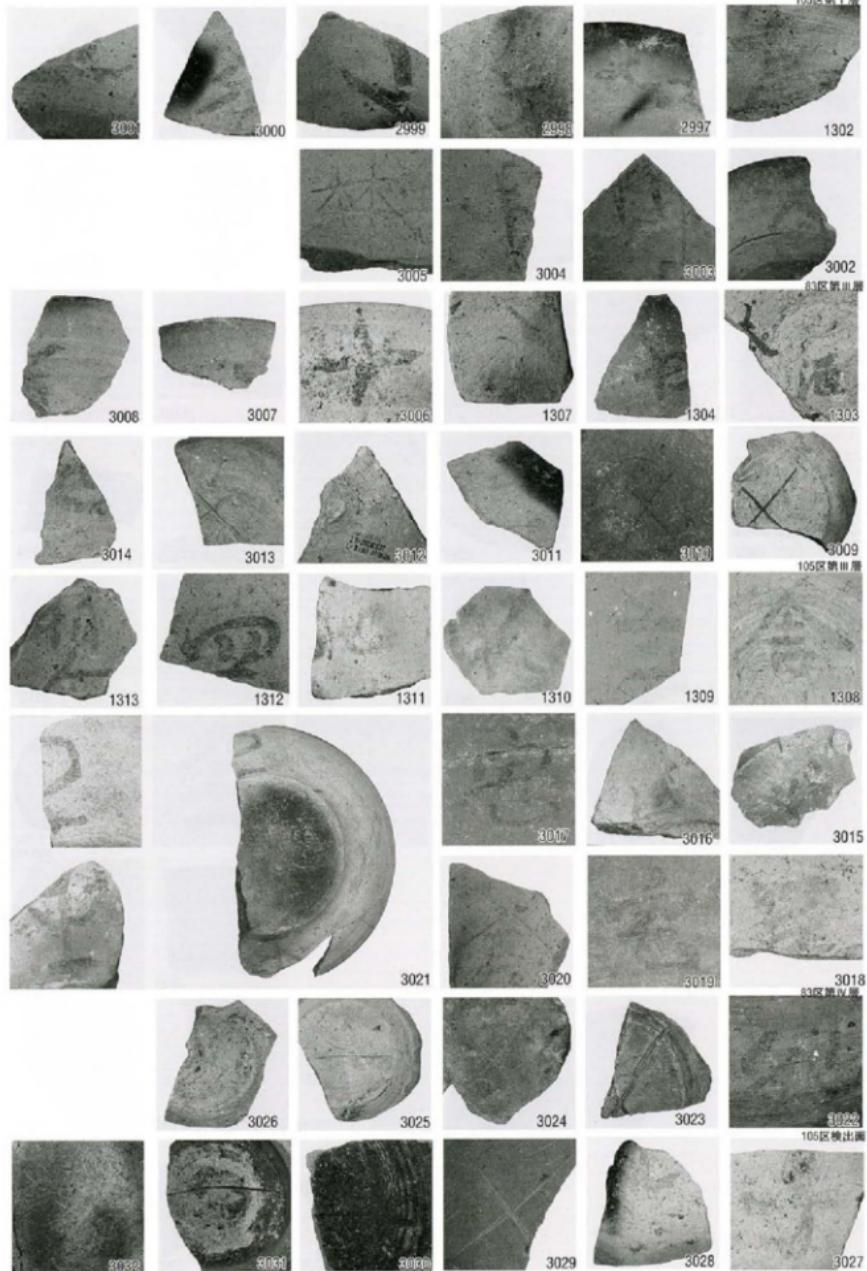


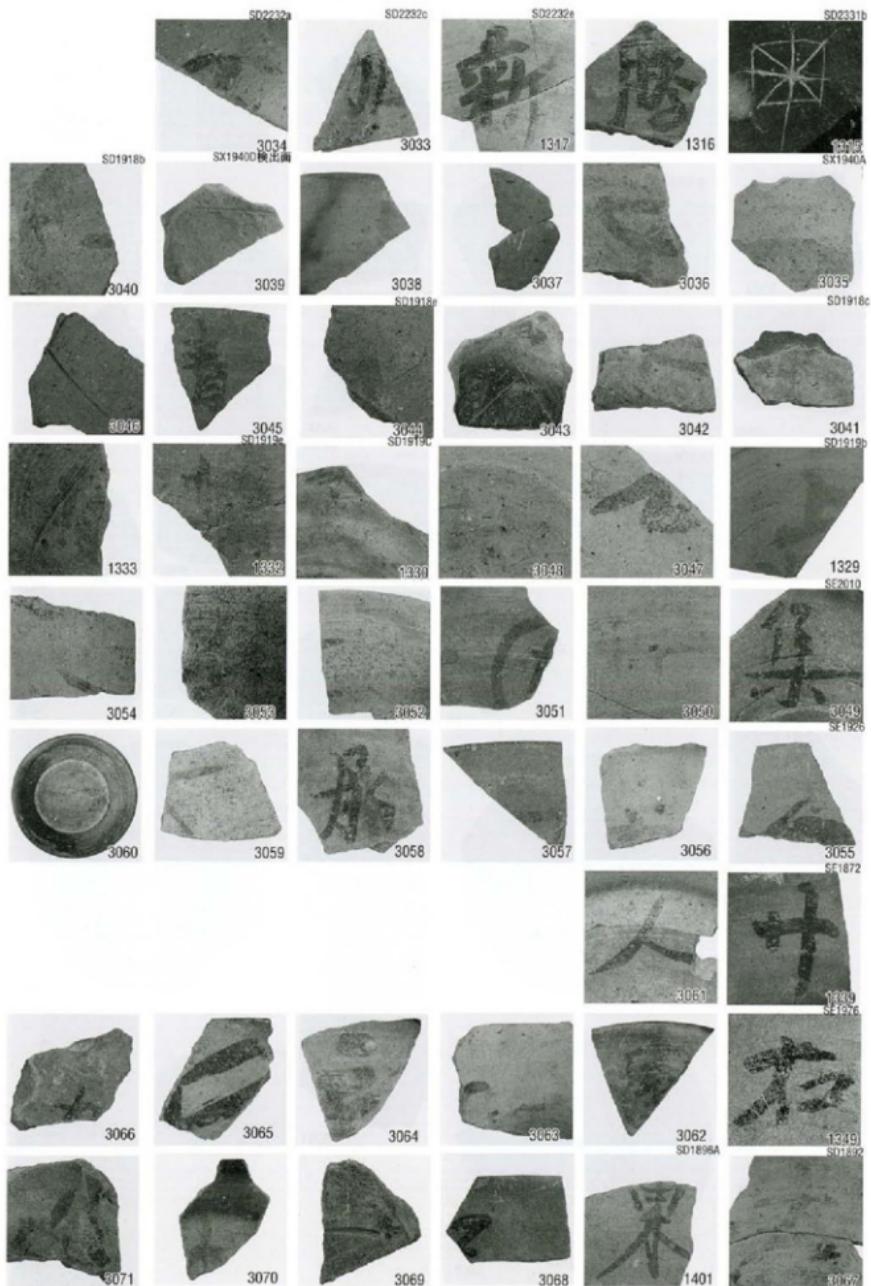


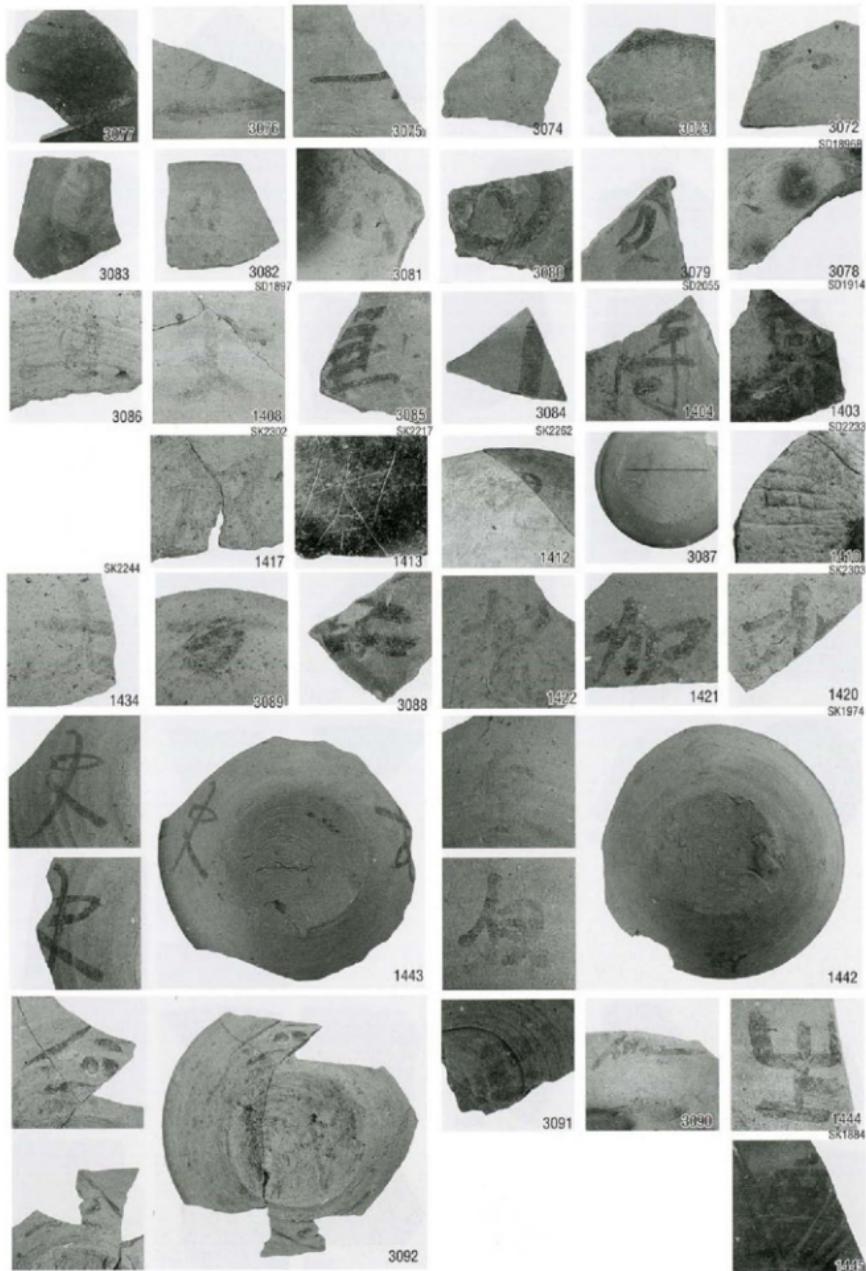


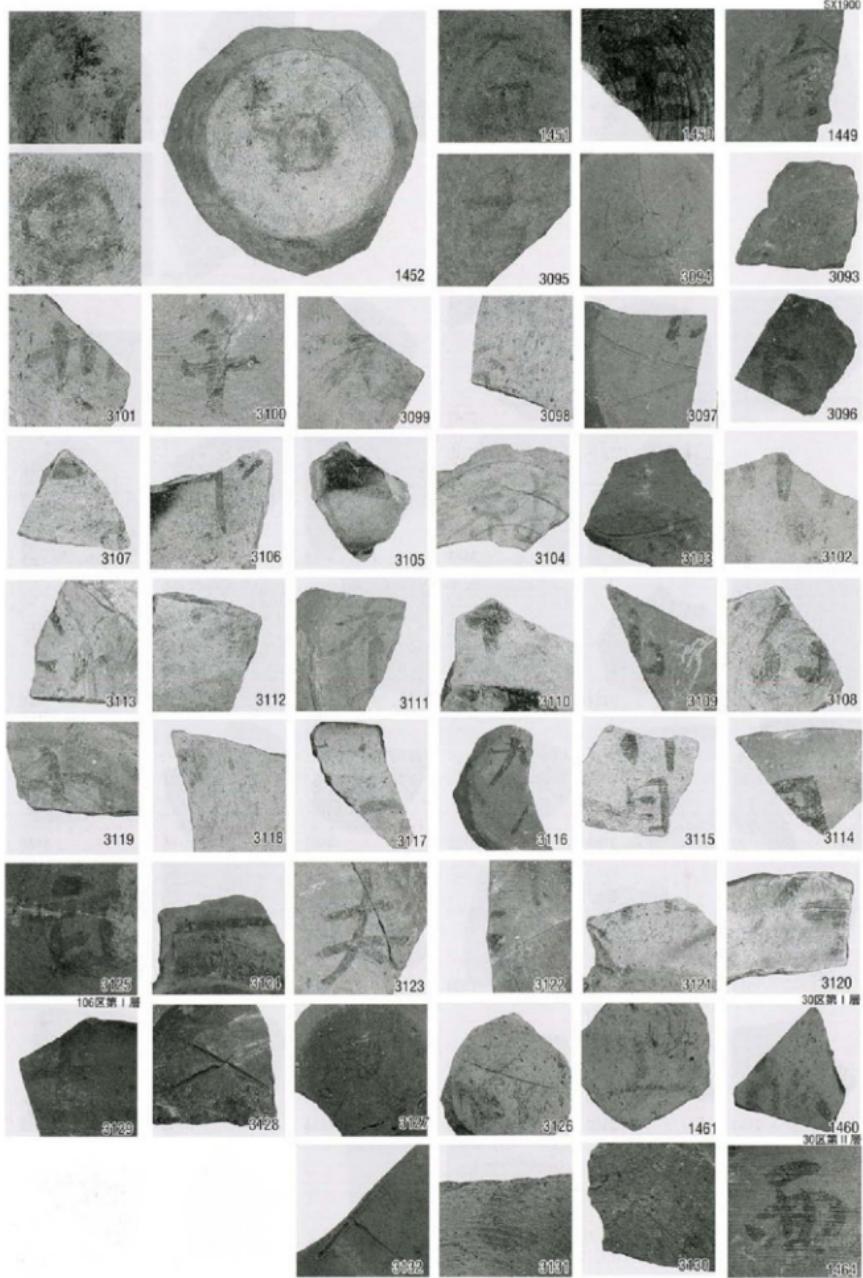


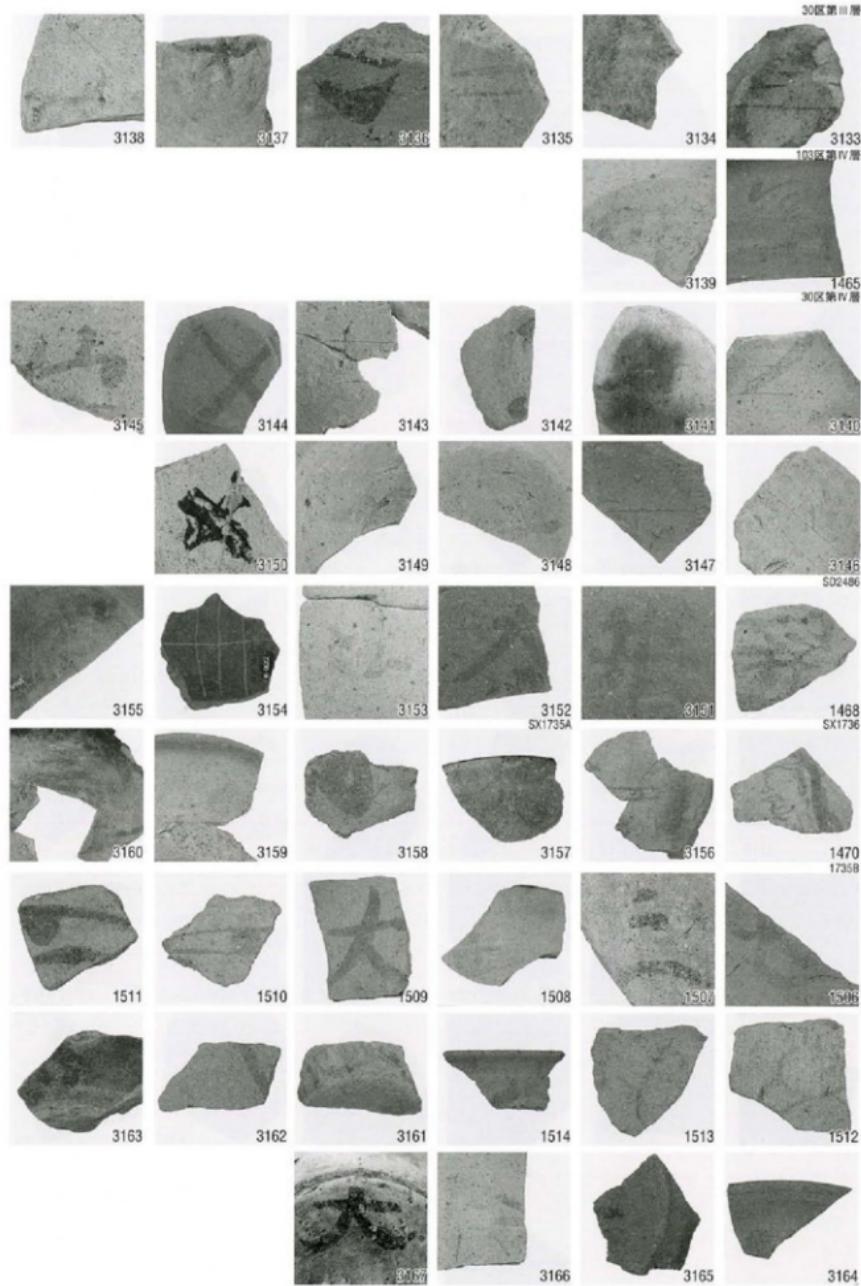


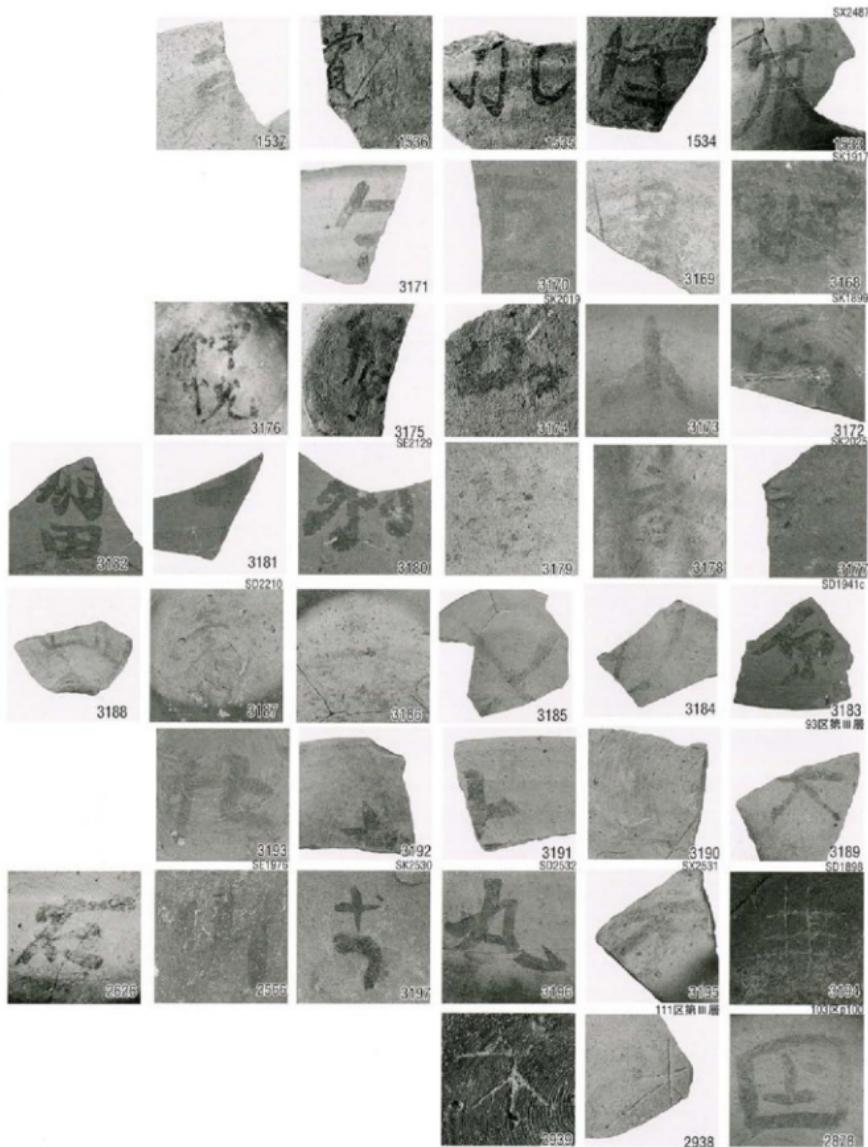












---

多賀城市文化財調査報告書第75集（第三分冊）  
**市川橋遺跡**  
—城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅲ—

平成16年3月26日 発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター

多賀城市中央二丁目27番1号

電話（022）368-0134

発行 多賀城市教育委員会

多賀城市中央二丁目1番1号

電話（022）368-1141

印刷 株式会社ホクトコーポレーション

仙台市青葉区上愛子字堀切1番13号

電話（022）391-5661